

茨木市保健福祉に関するアンケート調査

〔高齢者・在宅介護者・介護保険事業者〕

報 告 書

令和2年（2020年）3月



目 次

I	調査の概要	1
1	調査目的	1
2	調査項目	1
3	調査設計及び回収結果	4
4	報告書の見方	4
II	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果	5
1	回答者の属性	5
	(1) アンケートの記入者	5
	(2) 性別	5
	(3) 年齢	6
	(4) 家族構成	7
	(5) 圏域	8
2	介護・介助の状況について	9
	(1) 介護・介助の必要性	9
	(2) 主な介護・介助者	11
	(3) 経済的な現在の暮らしの状況	13
	(4) 住宅形態	15
3	運動・閉じこもりについて	16
	(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇ること	16
	(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がる	16
	(3) 15分位続けて歩くこと	17
	(4) 過去1年間に転んだ経験	17
	(5) 転倒に対する不安	20
	(6) 週あたりの外出頻度	23
	(7) 昨年と比べた外出の回数	25
	(8) 外出を控えていること	25
	(9) 外出を控える理由	27
	(10) 外出時の移動手段	29
	(11) 外出する際の目的	31
4	口腔・栄養について	32
	(1) 身長と体重 (BMI指数)	32
	(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか	33
	(3) 歯の数と入れ歯の利用状況	34
	(4) 誰かと食事をとる機会	35

5	日常生活について	36
	(1) 物忘れが多いと感じるか	36
	(2) バスや電車を利用した一人での外出	36
	(3) 自分で食品・日用品の買物	37
	(4) 自分で食事の用意	37
	(5) 食事の確保	38
	(6) 自分で請求書の支払い	38
	(7) 自分で預貯金の出し入れ	39
	(8) 新聞、本、雑誌を読んでいるか	42
	(9) 趣味・生きがいの有無	42
	(10) 日常生活で使用している情報通信機器	44
6	地域活動について	46
	(1) 地域活動の参加頻度	46
	(2) いきいきとした地域活動に参加者としての参加意向	49
	(3) いきいきとした地域活動に企画・運営としての参加意向	51
	(4) 地域活動に企画・運営（お世話役）として参加する際の報酬の必要性について	53
	(5) 落ち着ける・安心できる場所	55
	(6) 利用したいと思う居場所	57
7	たすけあいについて	59
	(1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人	59
	(2) 心配事や愚痴を聞いてあげる人	61
	(3) 看病や世話をしてくれる人	63
	(4) 看病や世話をしてあげる人	65
	(5) 相談相手（家族・友人・知人以外）	67
	(6) 近隣者との付き合いの程度	69
	(7) 近所や地域の人に手伝ってもらいやすいこと	71
8	健康について	75
	(1) 主観的健康観	75
	(2) 現在の幸福度	76
	(3) 1か月間にゆううつな気持ちになったりすることがあったか	77
	(4) 1か月間に物事に対して心から楽しめない感じがよくあったか	77
	(5) 飲酒習慣	78
	(6) 喫煙習慣	79
	(7) 現在治療中または後遺症のある病気	80
	(8) かかりつけの医療提供者	82
9	認知症について	83
	(1) 自身や家族の認知症の症状の有無	83
	(2) 自身や家族が認知症になったら不安なこと	84
	(3) 認知症に関する相談窓口の認知度	86

(4) 認知症予防に対する考え	87
(5) 認知症について知っていること	90
(6) 認知症の人との関わり方	92
(7) 認知症に関する市の事業の認知度	93
10 人生の最終段階における医療・療養について	98
(1) 人生の最終段階における医療・療養について考えたことがあるか	98
(2) 人生の最終段階における医療・療養について話し合ったことがあるか	99
(3) 自宅で療養生活を送るために必要な条件	100
11 高齢者施策全般について	102
(1) 重点を置くべき施策	102
(2) 成年後見制度の認知度	104
(3) 成年後見制度の関心度	105
(4) 虐待を受けたと思われる高齢者を発見した場合の相談先	106
(5) 高齢者虐待を防止するための地域における取組み	107
(6) はつらつパスポート（みんなで連携編）の認知度	108
Ⅲ 在宅介護実態調査の結果	109
1 回答者の属性	109
(1) アンケートの記入者	109
(2) 主な介護者が介護をしている方の要介護度	109
(3) 世帯類型	110
(4) 施設等への入所・入居の検討状況	111
(5) 家族等による介護の頻度	112
2 主な介護者について	113
(1) 介護のための離職の有無	113
(2) 主な介護者の年齢	114
(3) 主な介護者の本人との関係	115
(4) 主な介護者の性別	115
(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護	116
(6) 主な介護者の勤務形態	119
(7) 主な介護者の方の働き方の調整の状況	120
(8) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識	121
Ⅳ 介護保険事業者調査の結果	123
1 法人の概要	123
(1) 法人種別	123
(2) 現在提供しているサービス	124
2 サービス提供に対する自己評価と質向上のための支援について	126
(1) サービス提供に対する自己評価	126

(2) 介護保険サービス外の事業の実施状況	127
(3) 運営やサービス向上のために必要な情報や支援	128
3 医療との連携について	129
(1) 医療機関との連携について取り組んでいること	129
(2) 医療機関との連携について困難に感じること	130
(3) 医療ニーズの高い利用者の受入状況	131
(4) 看取りの体制の整備状況	132
(5) 施設（事業所）での看取りに係わった実人数	132
4 職員の処遇改善に向けた取り組みについて	133
(1) 平成30年度における介護職員の採用人数	133
(2) 平成30年度における介護職員の離職人数	134
(3) 外国人介護職員の採用状況	135
(4) 外国人介護職員の採用にあたって困難に感じていること	136
(5) 職員の処遇向上のために取り組んでいること	137
(6) 職員のキャリアアップを促すために取り組んでいること	138
(7) 自由意見	139
資料（調査票）	
1 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	141
2 在宅介護実態調査	148
3 介護保険事業者調査	150

I 調査の概要

1 調査目的

本調査は、「茨木市高齢者保健福祉計画（第9次）・介護保険事業計画（第8期）」を策定するため、高齢者の生活状況を把握し、今後充実の必要なサービスに対するニーズを分析するとともに、高齢者福祉施策を検討するのに必要な資料を得ることを目的として実施した。

2 調査項目

【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査】

区分	質問項目	ニーズ調査	
1. 回答者の属性	アンケートの記入者	○	
	性別	問 1	Q 1
	年齢		Q 2
	家族構成		Q 3
介護・介助の状況について	Q 4		
2. 介護・介助の状況について	介護・介助の必要性	問 1	Q 4
	主な介護・介助者		Q 4-1
	経済的な現在の暮らしの状況		Q 5
	住宅形態		Q 6
3. 運動・閉じこもりについて	階段を手すりや壁をつたわずに昇ること	問 2	Q 1
	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がること		Q 2
	15分位続けて歩くこと		Q 3
	過去1年間に転んだ経験		Q 4
	転倒に対する不安		Q 5
	週あたりの外出頻度		Q 6
	昨年と比べた外出の回数		Q 7
	外出を控えていること		Q 8
	外出を控える理由		Q 8-1
	外出時の移動手段		Q 9
	外出する際の目的		Q 10
4. 口腔・栄養について	身長と体重	問 3	Q 1
	半年前に比べて固いものが食べにくくなったか		Q 2
	歯の数と入れ歯の利用状況		Q 3
	誰かと食事をともにする機会		Q 4
5. 日常生活について	物忘れが多いと感じるか	問 4	Q 1
	バスや電車を利用した一人での外出		Q 2
	自分で食品・日用品の買物		Q 3
	自分で食事の用意		Q 4
	食事の確保		Q 4-1
	自分で請求書の支払い		Q 5
	自分で預貯金の出し入れ		Q 6
	新聞、本、雑誌を読んでいるか		Q 7
	趣味・生きがいの有無		Q 8
	日常生活で使用している情報通信機器		Q 9
6. 地域活動について	地域活動の参加頻度	問 5	Q 1
	いきいきとした地域活動に参加者としての参加意向		Q 2
	いきいきとした地域活動に企画・運営としての参加意向		Q 3
	地域活動に企画・運営（お世話役）として参加する際の報酬の必要性について		Q 3-1
	落ち着ける・安心できる場所		Q 4
	利用したいと思う居場所		Q 5

区分	質問項目	ニーズ調査	
7. たすけあいについて	心配事や愚痴を聞いてくれる人	問6	Q 1
	心配事や愚痴を聞いてあげる人		Q 2
	看病や世話をしてくれる人		Q 3
	看病や世話をしてあげる人		Q 4
	相談相手（家族・友人・知人以外）		Q 5
	近隣者との付き合いの程度		Q 6
	近所や地域の人に手伝ってもらいやすいこと		Q 7
8. 健康について	主観的健康観	問7	Q 1
	現在の幸福度		Q 2
	1 か月間にゆううつな気持ちになったりすることがあったか		Q 3
	1 か月間に物事に対して心から楽しめない感じがよくあったか		Q 4
	飲酒習慣		Q 5
	喫煙習慣		Q 6
	現在治療中または後遺症のある病気 かかりつけの医療提供者		Q 7 Q 8
9. 認知症について	自身や家族の認知症の症状の有無	問8	Q 1
	自身や家族が認知症になったら不安なこと		Q 1 - 1
	認知症に関する相談窓口の認知度		Q 2
	認知症予防に対する考え		Q 3
	認知症について知っていること		Q 4
	認知症の人との関わり方 認知症に関する市の事業の認知度		Q 5 Q 6
10. 人生の最終段階における医療・療養について	人生の最終段階における医療・療養について考えたことがあるか	問9	Q 1
	人生の最終段階における医療・療養について話し合ったことがあるか		Q 1 - 1
	自宅で療養生活を送るために必要な条件		Q 2
11. 高齢者施策全般について	重点を置くべき施策	問10	Q 1
	成年後見制度の認知度		Q 2
	成年後見制度の関心度		Q 2 - 1
	虐待を受けたと思われる高齢者を発見した場合の相談先		Q 3
	高齢者虐待を防止するための地域における取組み		Q 4
	はつらつパスポート（みんなで連携編）の認知度		Q 5

【在宅介護実態調査】

区 分	質 問 項 目	在宅介護実態調査	
1. 回答者の属性	アンケートの記入者	A 票	問 1
	世帯類型		問 2
	施設等への入所・入居の検討状況		問 3
	家族等による介護の頻度		問 4
2. 主な介護者について	介護のための離職の有無	B 票	問 1
	主な介護者の年齢		問 2
	主な介護者の本人との関係		問 3
	主な介護者の性別		問 4
	今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護		問 5
	主な介護者の勤務形態		問 6
	主な介護者の方の働き方の調整の状況		問 7
	主な介護者の就労継続の可否に係る意識		問 8

【介護保険事業者調査】

区 分	質 問 項 目	介護保険事業者調査
1. 法人の概要	法人種別	問 1
	現在提供しているサービス	問 2
2. サービス提供に対する自己評価と質向上のための支援について	サービス提供に対する自己評価	問 3
	介護保険サービス外の事業の実施状況	問 4
	運営やサービス向上のために必要な情報や支援	問 5
3. 医療との連携について	医療機関との連携について取り組んでいること	問 6 (1)
	医療機関との連携について困難に感じる事	問 6 (2)
	医療ニーズの高い利用者の受入状況	問 6 (3)
	看取りの体制の整備状況	問 6 (4)
	施設（事業所）での看取りに係わった実人数	問 6 (5)
4. 職員の処遇改善に向けた取り組みについて	平成 30 年度における介護職員の採用人数	問 7 (1)
	平成 30 年度における介護職員の離職人数	問 7 (2)
	外国人介護職員の採用状況	問 7 (3)
	外国人介護職員の採用にあたって困難に感じていること	
	職員の処遇向上のために取り組んでいること	問 8
	職員のキャリアアップを促すために取り組んでいること	問 9
5. 自由意見		問10

3 調査設計及び回収結果

	ニーズ調査	在宅介護実態調査	介護保険事業者調査
調査対象	要介護認定を受けていない 高齢者及び要支援認定者	在宅で生活している 要支援・要介護認定者	市内で介護保険サービスを提供している事業者
調査方法	郵送配布・郵送回収	郵送及び認定調査員 による聴き取り	郵送配布・郵送回収
調査期間	令和元年 11月20日～12月13日	令和元年 11月20日～12月13日	令和元年 11月20日～12月13日
配布数	3,000人	2,000人	172事業者
有効回答数	2,314人	1,194人	128事業者
有効回答率	77.1%	59.7%	74.4%

4 報告書の見方

- (1) 図中の n (Number of case) は、設問に対する回答者数のことである。
- (2) 回答比率 (%) は回答者数 (n) を100%として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して表示した。四捨五入の結果、内訳の合計が計に一致しないことがある。また、一人の対象者に複数の回答を求める設問では、回答比率 (%) の計は100.0%を超える。
- (3) 回答者数 (n) が30人未満の場合、母数が少ないことから一概に適正な比率とは言えないため注意が必要である。

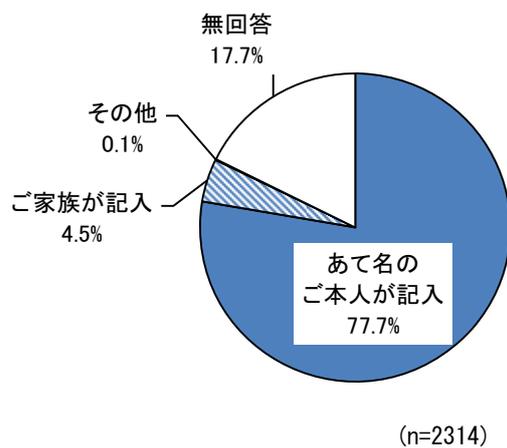
Ⅱ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 の結果

1 回答者の属性

(1) アンケートの記入者

アンケートの記入者は、「あて名のご本人が記入」が77.7%で最も高く、次いで「ご家族が記入」が4.5%となっている。

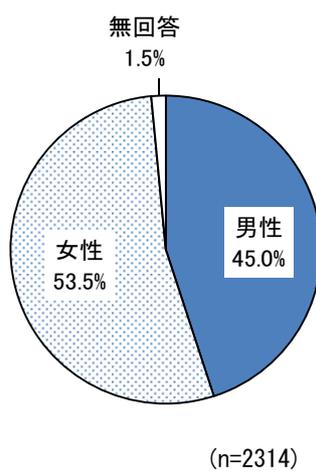
【図 アンケートの記入者】



(2) 性別

回答者の性別は、「女性」が53.5%に対し、「男性」が45.0%となっている。

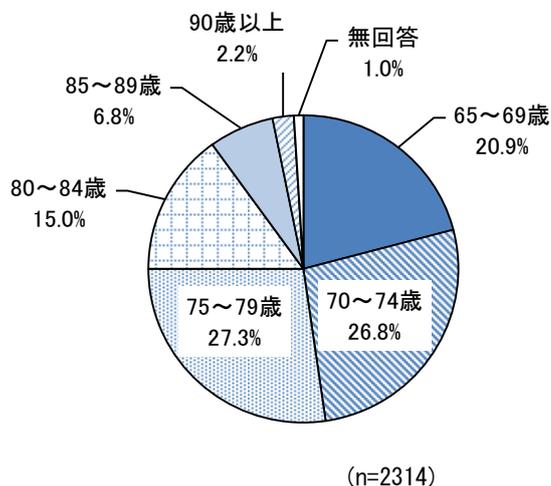
【図 性別】



(3) 年齢

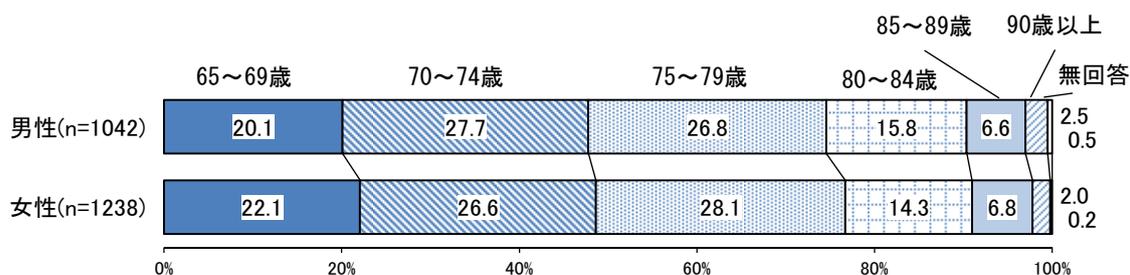
回答者の年齢は、「75～79歳」が27.3%で最も高く、次いで「70～74歳」が26.8%、「65～69歳」が20.9%となっており、75歳以上は51.3%となっている。

【図 年齢】



性別で見ると、男性は「70～74歳」が27.7%で最も高く、女性は「75～79歳」が28.1%で最も高くなっている。

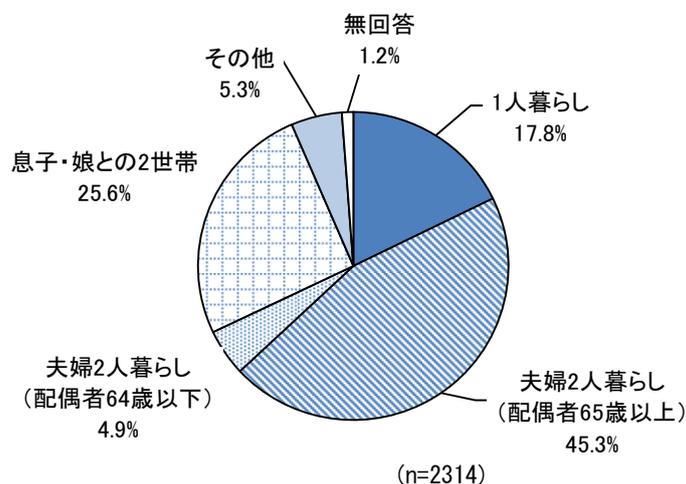
【図 性別 年齢】



(4) 家族構成

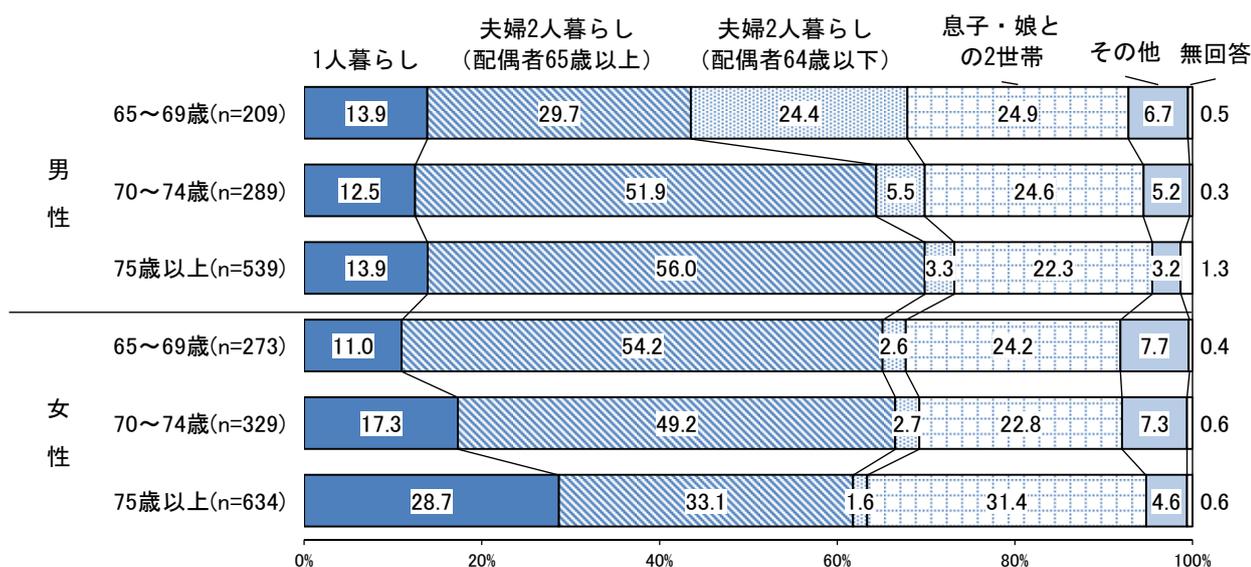
家族構成は、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が45.3%で最も高く、次いで「息子・娘との2世帯」が25.6%、「1人暮らし」が17.8%となっている。

【図 家族構成】



性・年齢別でみると、男性は「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が高齢になるほど割合が高くなっているが、「息子・娘との2世帯」は年齢が上がるにつれ低くなっている。女性は「1人暮らし」が高齢になるほど割合が高く、75歳以上が28.7%となっている。

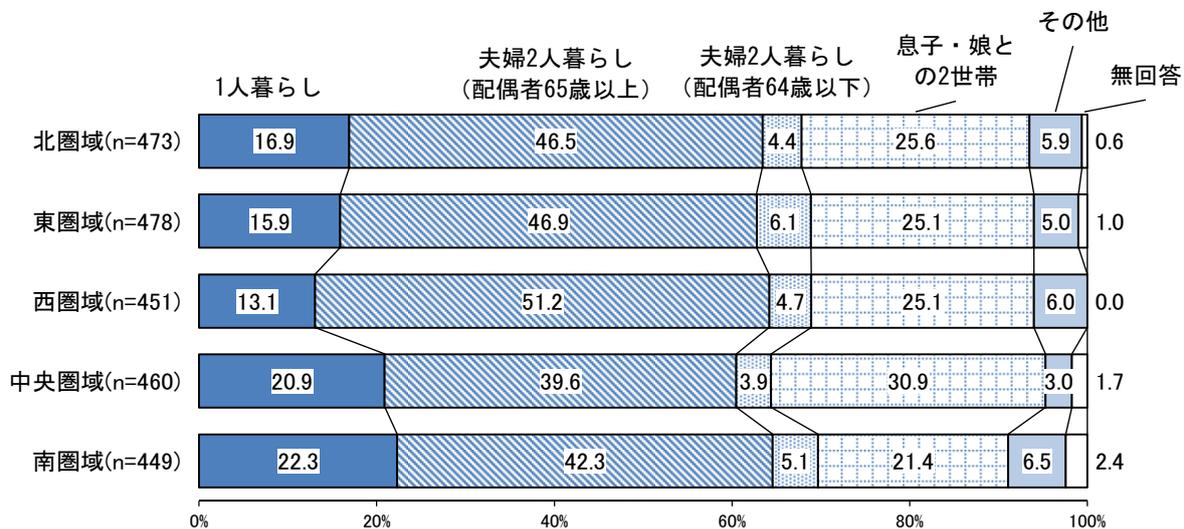
【図 性・年齢別 家族構成】



II 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査

圏域別でみると、「1人暮らし」は南圏域が22.3%で最も高く、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」は西圏域が51.2%で最も高く、「息子・娘との2世帯」は中央圏域が30.9%で最も高くなっている。

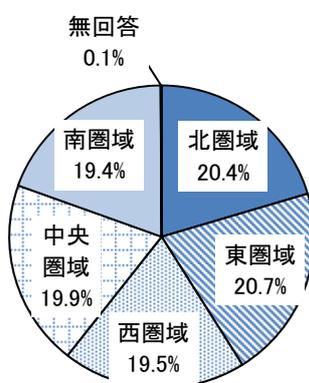
【図 圏域別 家族構成】



(5) 圏域

回答者の圏域は、「東圏域」が20.7%、「北圏域」が20.4%、「中央圏域」が19.9%、「西圏域」が19.5%、「南圏域」が19.4%となっている。

【図 圏域】



(n=2314)

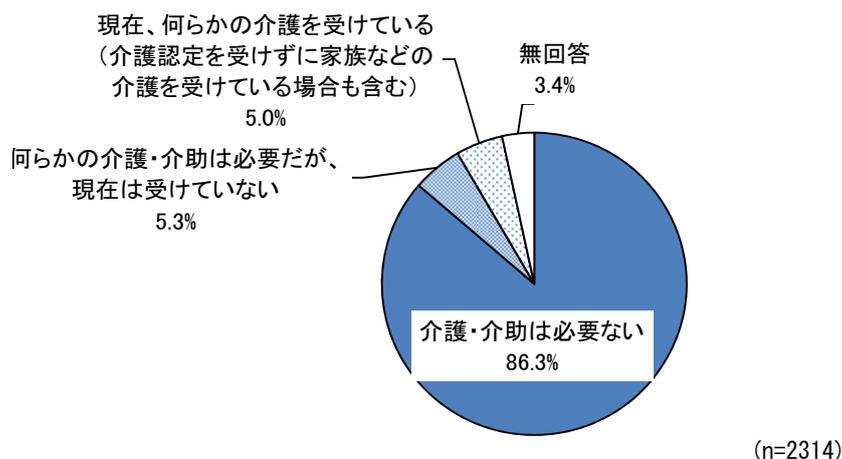
2 介護・介助の状況について

(1) 介護・介助の必要性

問1Q4 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。

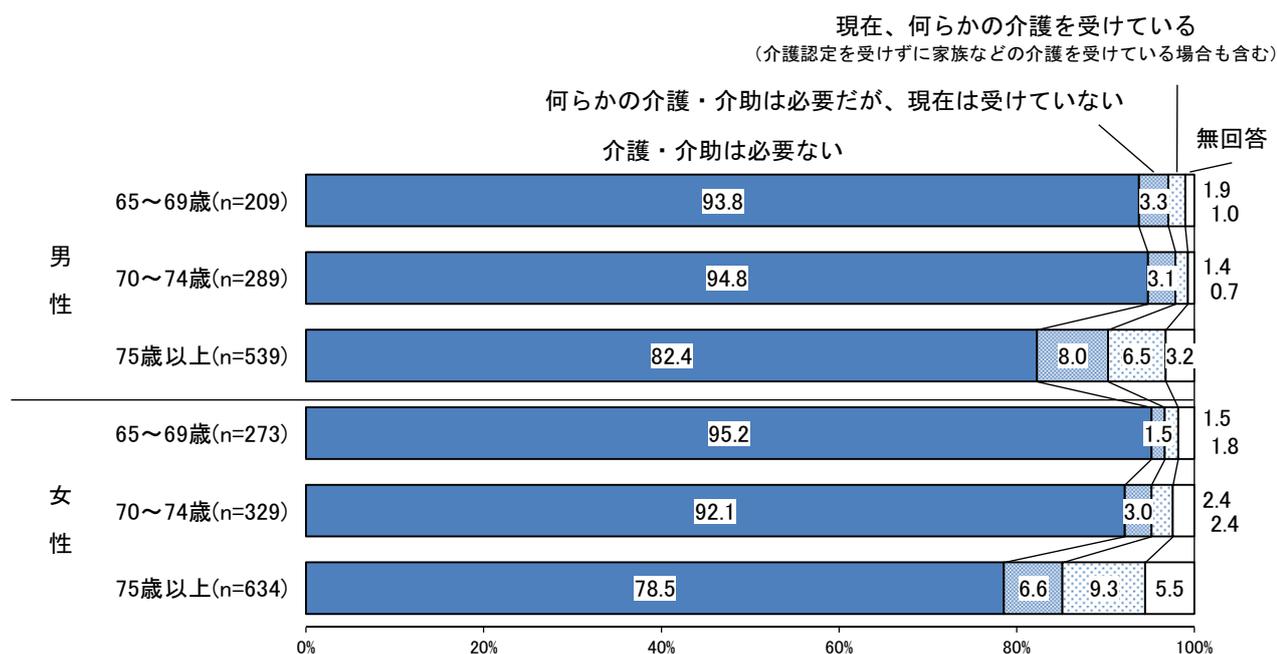
介護・介助の必要性については、「介護・介助は必要ない」が86.3%で最も高く、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が5.3%、「現在、何らかの介護を受けている」（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）が5.0%となっている。

【図 介護・介助の必要性】



性・年齢別でみると、「介護・介助は必要ない」は男性の75歳以上では82.4%に対し、女性の75歳以上では78.5%と、女性のほうが低い割合となっている。

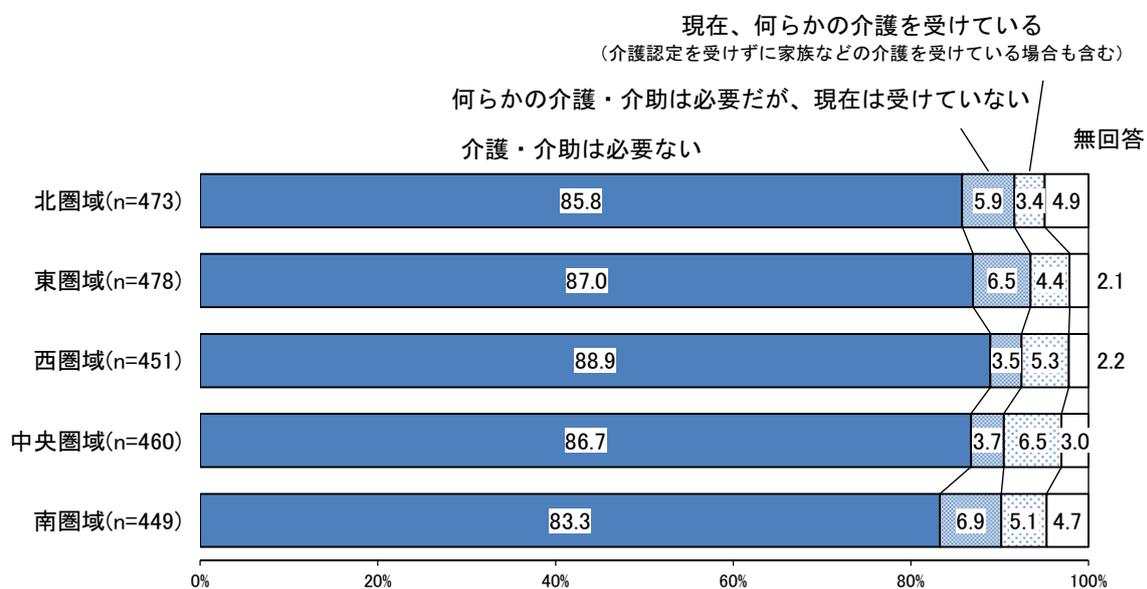
【図 性・年齢別 介護・介助の必要性】



Ⅱ 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査

圏域別でみると、「介護・介助は必要ない」はいずれの圏域も8割を超えており、西圏域が88.9%で最も高くなっている。

【図 圏域別 介護・介助の必要性】



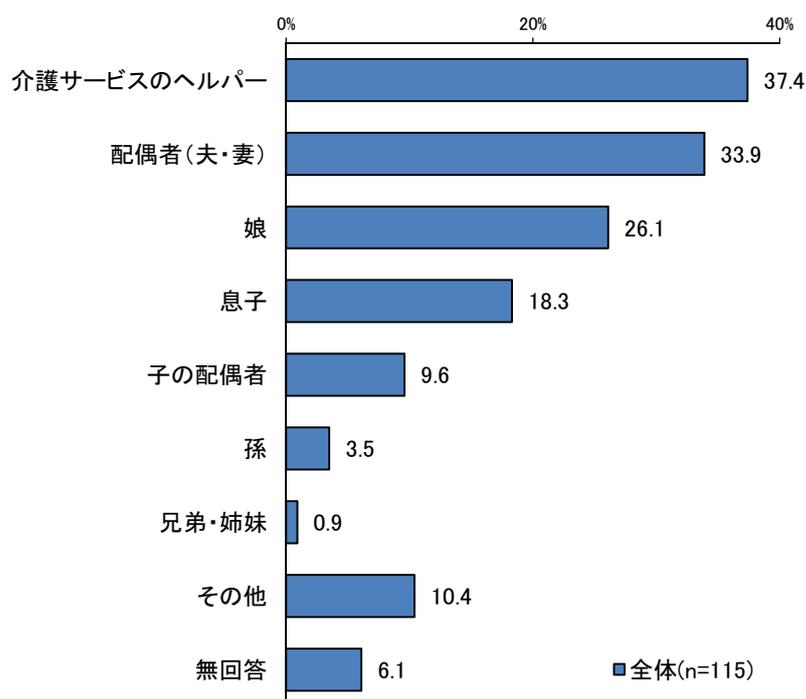
(2) 主な介護・介助者

問1 Q4-1 【Q4で「3. 現在、何らかの介護を受けている」の方のみ】

①主にどなたの介護、介助を受けていますか。(いくつでも)

介護・介助は必要ない以外を回答した人に、主な介護・介助者についてたずねると、「介護サービスのヘルパー」が37.4%で最も高く、次いで「配偶者(夫・妻)」が33.9%、「娘」が26.1%となっている。

【図 主な介護・介助者】



性別でみると、「配偶者(夫・妻)」は女性(28.2%)より男性(44.2%)のほうが16.0ポイント高く、「介護サービスのヘルパー」は男性(30.2%)より女性(40.8%)のほうが10.6ポイント高くなっている。

【表 性別 主な介護・介助者】

	回答者数(n)	介護サービスのヘルパー	配偶者(夫・妻)	娘	息子	子の配偶者	孫	兄弟・姉妹	その他	無回答
全体	115	37.4	33.9	26.1	18.3	9.6	3.5	0.9	10.4	6.1
男性	43	30.2	44.2	23.3	18.6	4.7	2.3	-	18.6	7.0
女性	71	40.8	28.2	28.2	16.9	11.3	4.2	1.4	5.6	5.6

Ⅱ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

家族構成別でみると、1人暮らしでは「介護サービスのヘルパー」(72.5%)が最も高くなっている。夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)では「配偶者(夫・妻)」が68.4%である。

【表 家族構成別 主な介護・介助者】

(%)

	回答者数 (n)	介護サービスのヘルパー	配偶者(夫・妻)	娘	息子	子の配偶者	孫	兄弟・姉妹	その他	無回答
全体	115	37.4	33.9	26.1	18.3	9.6	3.5	0.9	10.4	6.1
1人暮らし	40	72.5	2.5	20.0	20.0	10.0	-	2.5	5.0	10.0
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	38	15.8	68.4	21.1	15.8	7.9	2.6	-	10.5	5.3
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	5	40.0	80.0	20.0	-	-	20.0	-	-	-
息子・娘との2世帯	23	21.7	30.4	47.8	21.7	8.7	4.3	-	13.0	-
その他	5	20.0	20.0	20.0	40.0	20.0	20.0	-	40.0	-

週あたりの外出頻度別でみると、「週2~4回」では「介護サービスのヘルパー」が最も高くなっている。

【表 週あたりの外出頻度別 主な介護・介助者】

(%)

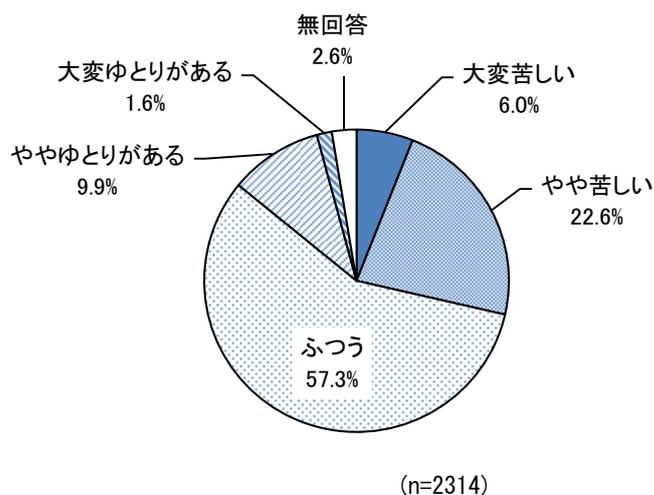
	回答者数 (n)	介護サービスのヘルパー	配偶者(夫・妻)	娘	息子	子の配偶者	孫	兄弟・姉妹	その他	無回答
全体	115	37.4	33.9	26.1	18.3	9.6	3.5	0.9	10.4	6.1
ほとんど外出しない	20	20.0	45.0	25.0	30.0	5.0	5.0	5.0	15.0	-
週1回	26	50.0	30.8	23.1	15.4	7.7	-	-	7.7	3.8
週2~4回	50	40.0	28.0	32.0	20.0	16.0	6.0	-	6.0	8.0
週5回以上	17	29.4	47.1	17.6	5.9	-	-	-	17.6	11.8

(3) 経済的な現在の暮らしの状況

問1Q5 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。

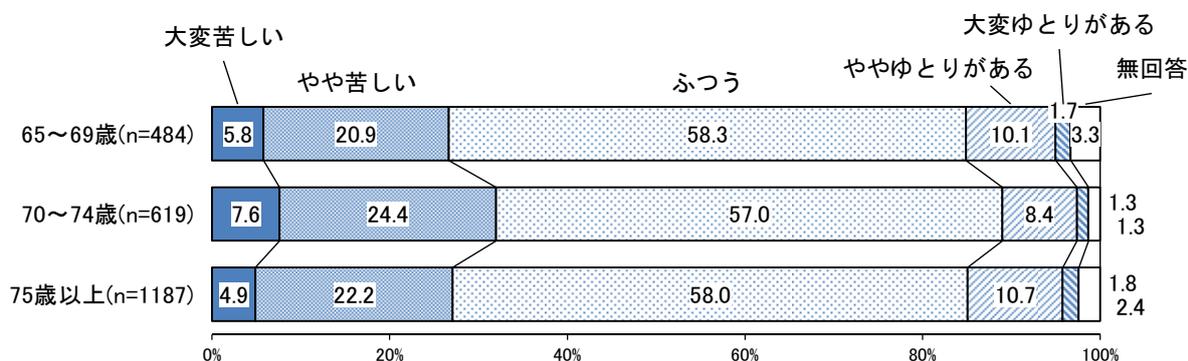
経済的な現在の暮らしの状況については、「ふつう」が57.3%で最も高く、次いで「やや苦しい」が22.6%、「ややゆとりがある」が9.9%で、「大変苦しい」(6.0%)と「やや苦しい」を合わせた『苦しい』は28.6%、「ややゆとりがある」と「大変ゆとりがある」(1.6%)を合わせた『ゆとりがある』は11.5%となっている。

【図 経済的な現在の暮らしの状況】



年齢別でみると、「ふつう」は年代による差はみられないが、『苦しい』は70～74歳が32.0%で最も高くなっている。

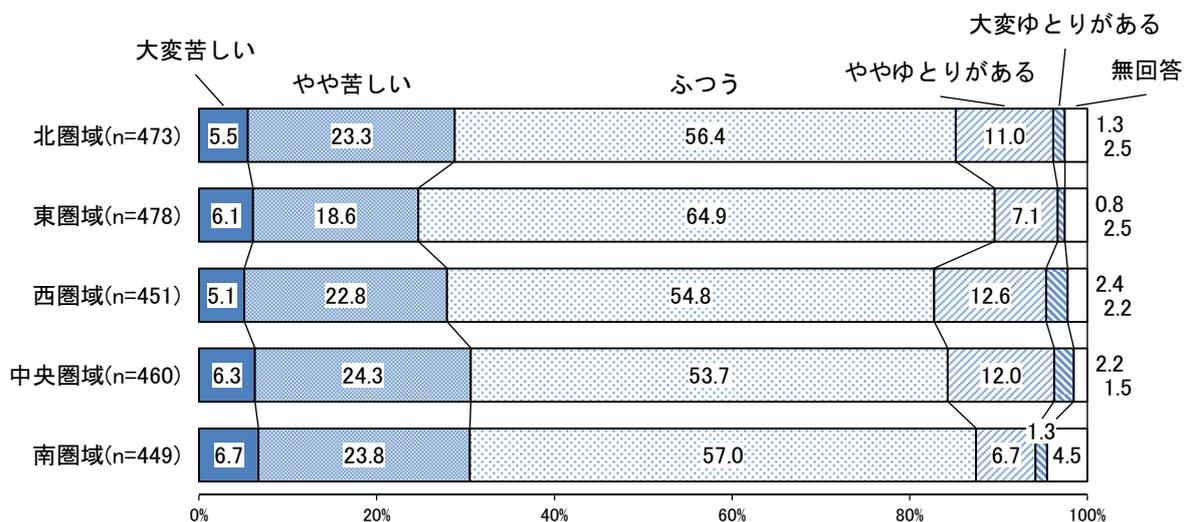
【図 年齢別 経済的な現在の暮らしの状況】



Ⅱ 介護予防・日常生活圏域二エズ調査

圏域別でみると、『苦しい』は中央圏域（30.6%）と南圏域（30.5%）で高く、『ゆとりがある』は西圏域が15.0%で他の圏域よりも高く、東圏域では「ふつう」が64.9%で他の圏域よりも高くなっている。

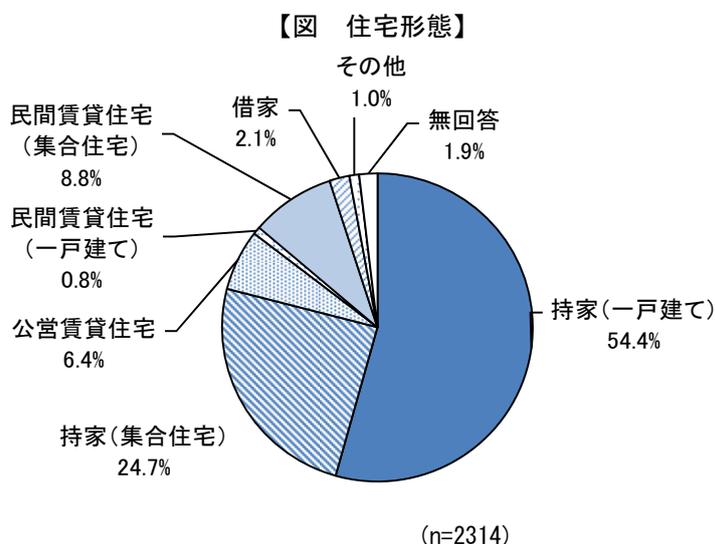
【図 圏域別 経済的な現在の暮らしの状況】



(4) 住宅形態

問1Q6 お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。

住宅形態については、「持家（一戸建て）」が54.4%で最も高く、次いで「持家（集合住宅）」が24.7%、「民間賃貸住宅（集合住宅）」が8.8%となっている。



圏域別でみると、いずれの圏域も「持家（一戸建て）」が最も高く、中央圏域が60.2%で最も高くなっている。

【表 圏域別 住宅形態】

	回答者数 (n)	持家 (一戸建て)	持家 (集合住宅)	公営賃貸住宅	民間賃貸住宅 (一戸建て)	民間賃貸住宅 (集合住宅)	借家	その他	無回答
全体	2314	54.4	24.7	6.4	0.8	8.8	2.1	1.0	1.9
北圏域	473	56.0	23.7	14.2	-	3.0	0.6	-	2.5
東圏域	478	57.1	23.2	6.7	0.4	7.1	2.3	1.5	1.7
西圏域	451	55.4	28.6	2.2	0.9	7.8	2.4	1.6	1.1
中央圏域	460	60.2	18.3	3.0	1.7	12.4	2.6	1.1	0.7
南圏域	449	43.2	30.1	5.1	0.9	13.8	2.7	0.9	3.3

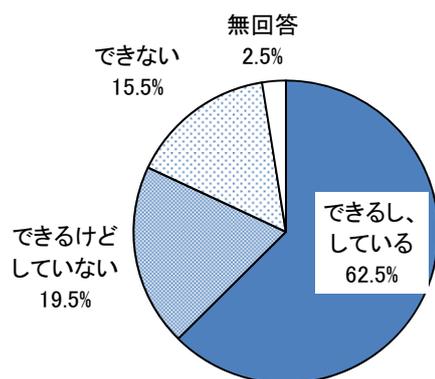
3 運動・閉じこもりについて

(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇ること

問2 Q1 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。

階段を手すりや壁をつたわずに昇ることについては、「できるし、している」が62.5%で最も高く、「できるけどしていない」が19.5%、「できない」が15.5%となっている。

【図 階段を手すりや壁をつたわずに昇ること】



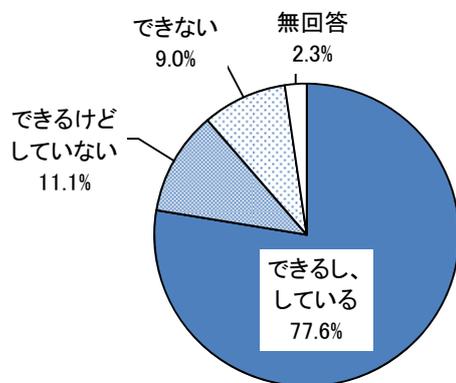
(n=2314)

(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がること

問2 Q2 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。

椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることについては、「できるし、している」が77.6%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が11.1%、「できない」が9.0%となっている。

【図 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がること】



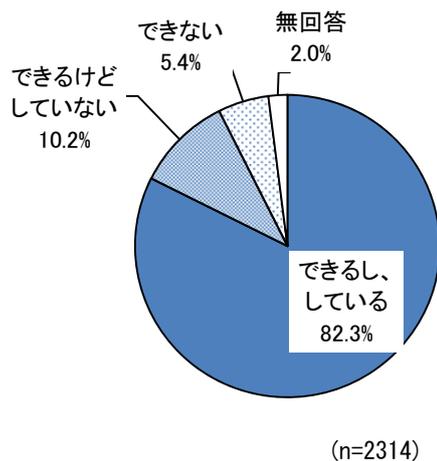
(n=2314)

(3) 15分位続けて歩くこと

問2Q3 15分位続けて歩いていますか。

15分位続けて歩くことについては、「できるし、している」が82.3%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が10.2%、「できない」が5.4%となっている。

【図 15分位続けて歩くこと】

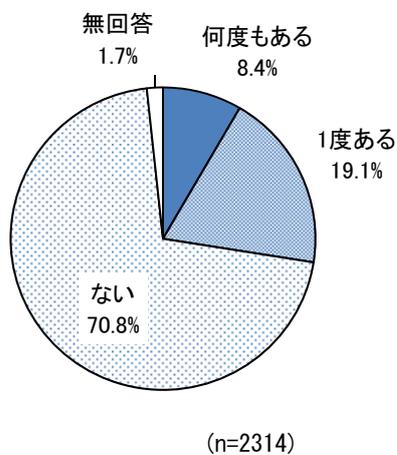


(4) 過去1年間に転んだ経験

問2Q4 過去1年間に転んだ経験がありますか。

過去1年間に転んだ経験については、「ない」が70.8%で最も高く、次いで「1度ある」が19.1%、「何度もある」が8.4%となっている。

【図 過去1年間に転んだ経験】



■転倒リスクのある高齢者

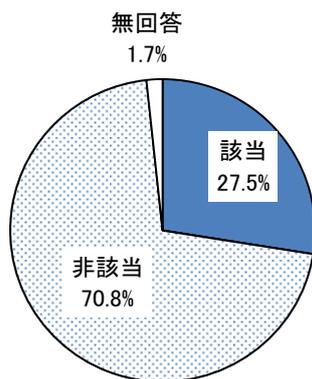
問2のQ4の設問は転倒リスクを問う設問で、「1. 何度もある」または「2. 1度ある」に該当する選択肢が回答された場合は、転倒リスクのある高齢者にあたる。

設問		選択肢
問2 Q4	過去1年間に転んだ経験がありますか。	1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない

注) 四捨五入の関係上、「1. 何度もある」と「2. 1度ある」の回答割合の合計と、転倒リスクの該当割合が一致しない場合があります。

転倒リスクのある高齢者については、「非該当」が70.8%に対し、「該当」が27.5%となっている。

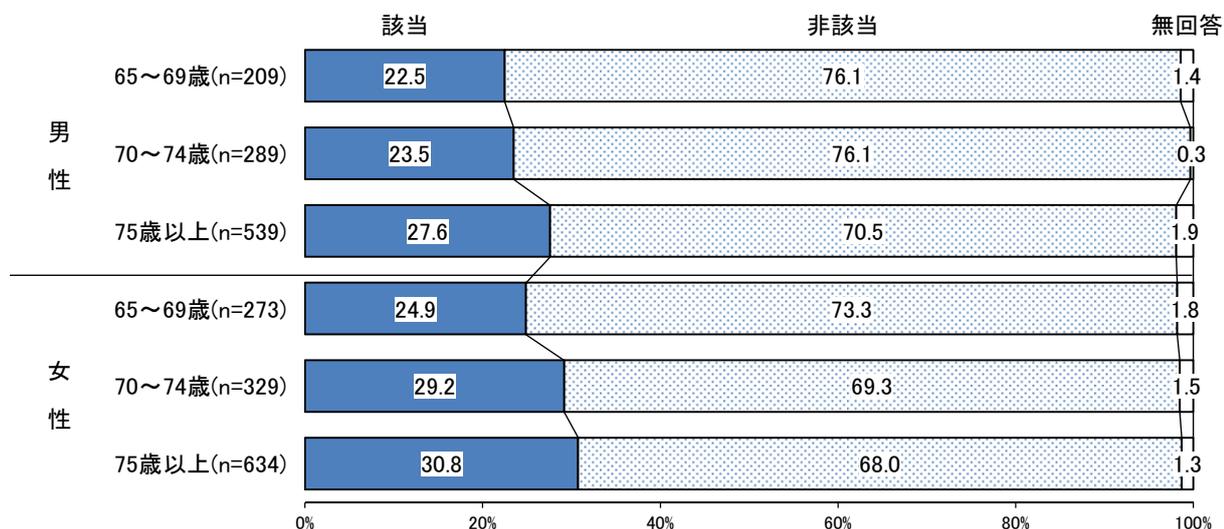
【図 転倒リスクのある高齢者】



(n=2314)

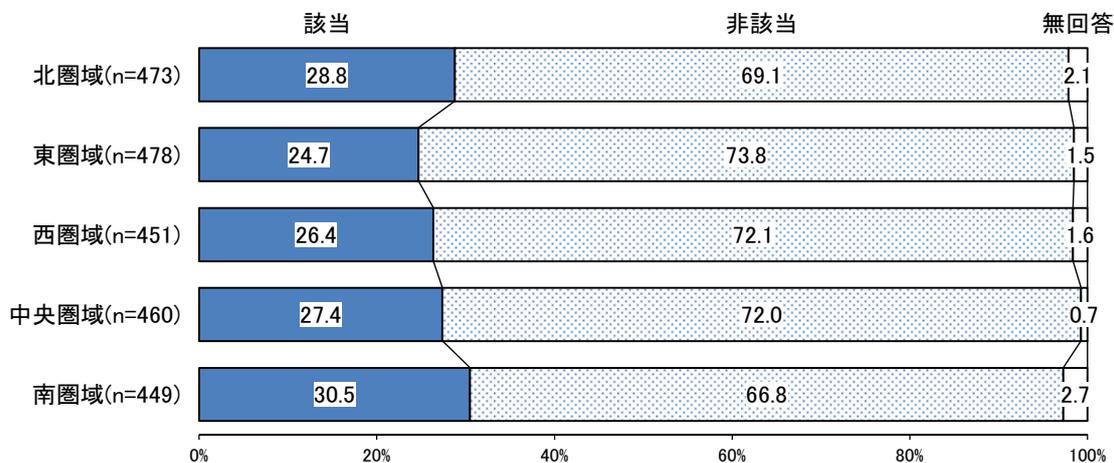
性・年齢別でみると、「該当」は男女とも高齢になるほど割合が高く、女性の75歳以上が30.8%で最も高くなっている。

【図 性・年齢別 転倒リスクのある高齢者】



圏域別でみると、いずれの圏域も「該当」は2割を超えており、南圏域（30.5%）が最も高い割合となっている。

【図 圏域別 転倒リスクのある高齢者】

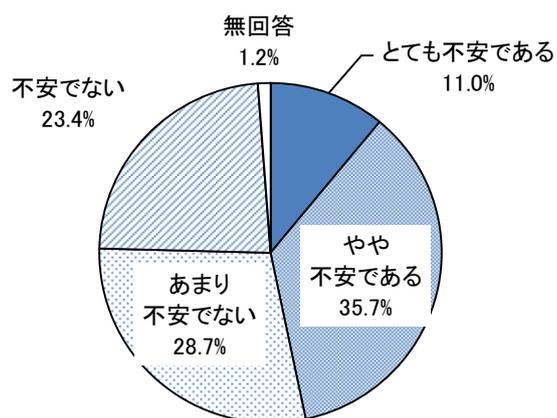


(5) 転倒に対する不安

問2Q5 転倒に対する不安は大きいですか。

転倒に対する不安については、「やや不安である」が35.7%で最も高く、次いで「あまり不安でない」が28.7%、「不安でない」が23.4%となっている。

【図 転倒に対する不安】



(n=2314)

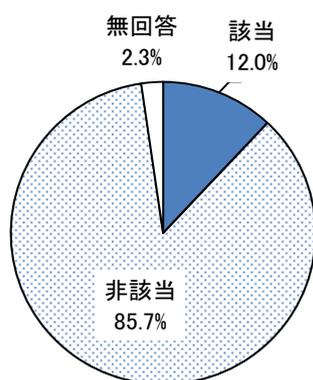
■運動器機能の低下している高齢者

問2のQ1～Q5の設問は、運動器の機能低下を問う設問で、この設問で3問以上該当する選択肢（下の表の網掛け箇所）が回答された場合は、運動器機能の低下している高齢者にあたる。

設問		選択肢
問2 Q 1	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
問2 Q 2	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
問2 Q 3	15分位続けて歩いていますか。	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
問2 Q 4	過去1年間に転んだ経験がありますか。	1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない
問2 Q 5	転倒に対する不安は大きいですか。	1. とても不安である 2. やや不安である 3. あまり不安でない 4. 不安でない

運動器機能の低下している高齢者については、「非該当」が85.7%に対し、「該当」が12.0%となっている。

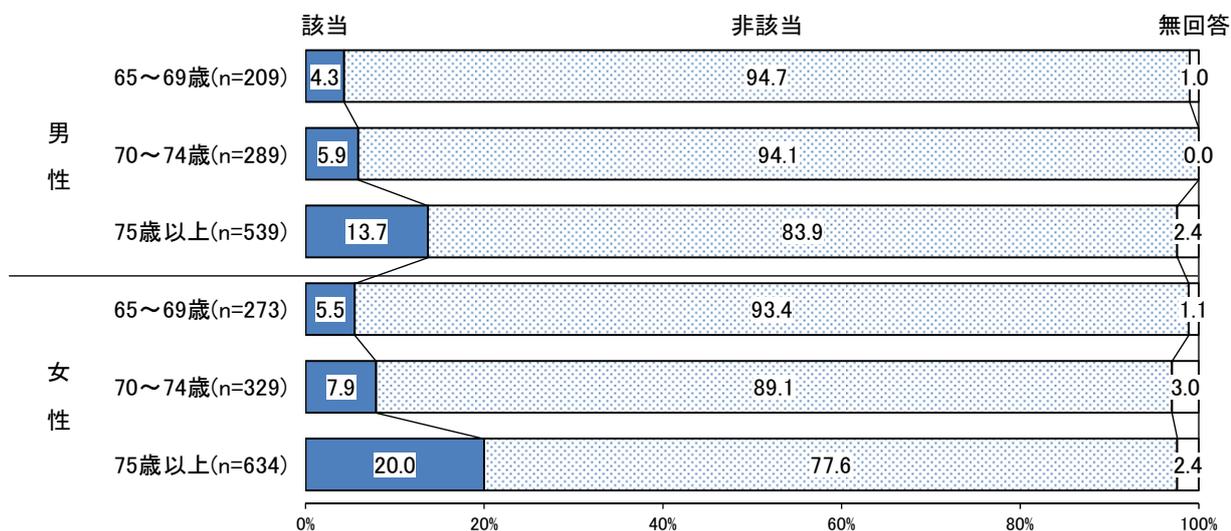
【図 運動器機能の低下している高齢者】



(n=2314)

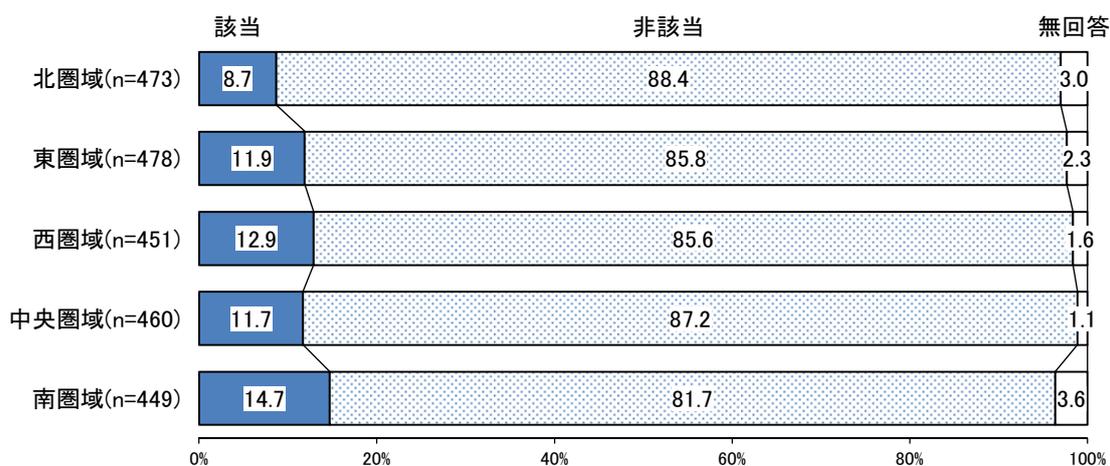
性・年齢別でみると、「該当」は男女とも高齢になるほど割合が高く、女性の75歳以上が20.0%で最も高くなっている。

【図 性・年齢別 運動器機能の低下している高齢者】



圏域別でみると、いずれの圏域も「非該当」が8割台となっており、「該当」は南圏域（14.7%）が最も高い割合となっている。

【図 圏域別 運動器機能の低下している高齢者】

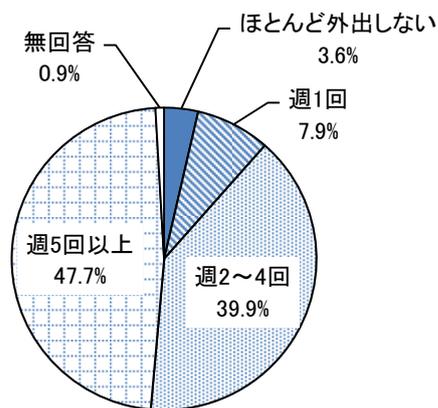


(6) 週あたりの外出頻度

問2 Q6 週に1回以上は外出していますか。

週あたりの外出頻度については、「週5回以上」が47.7%で最も高く、次いで「週2～4回」が39.9%、「週1回」が7.9%、「ほとんど外出しない」が3.6%となっている。

【図 週あたりの外出頻度】



(n=2314)

■閉じこもり傾向のある高齢者

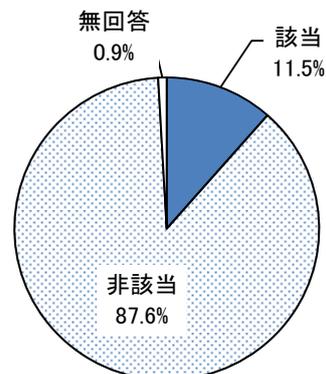
問2のQ6の設問は閉じこもり傾向を問う設問で、「1. ほとんど外出しない」または「2. 週1回」に該当する選択肢が回答された場合は、閉じこもり傾向のある高齢者にあたる。

設問		選択肢
問2 Q6	週に1回以上は外出していますか。	1. ほとんど外出しない 2. 週1回 3. 週2～4回 4. 週5回以上

注) 四捨五入の関係上、「1. ほとんど外出しない」と「2. 週1回」の回答割合の合計と、閉じこもりリスクの該当割合が一致しない場合があります。

【図 閉じこもり傾向のある高齢者】

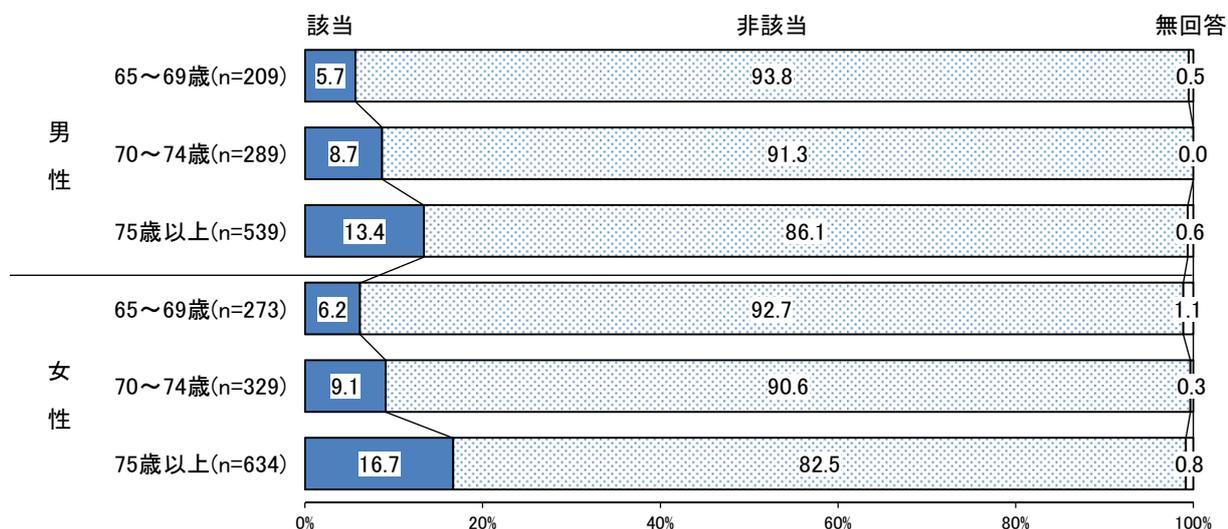
閉じこもり傾向のある高齢者については、「非該当」が87.6%に対し、「該当」が11.5%となっている。



(n=2314)

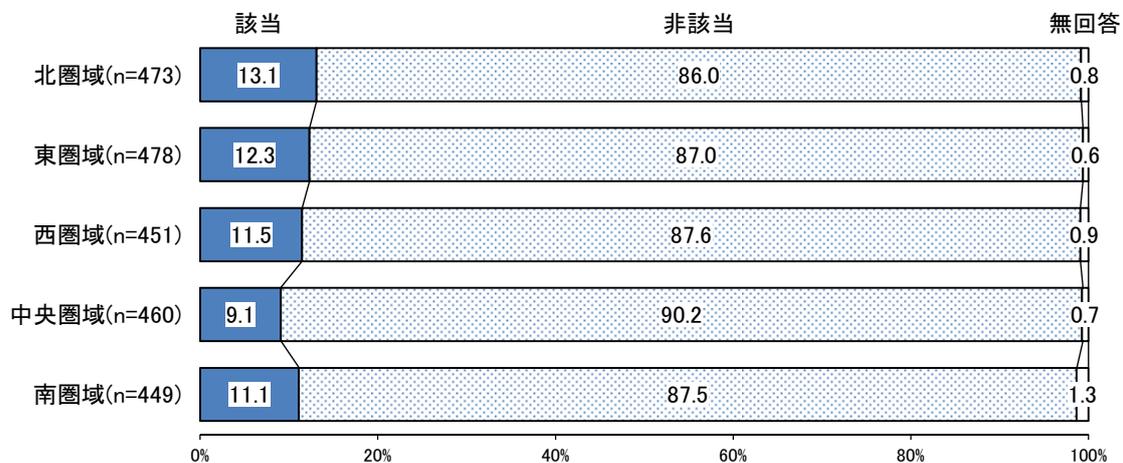
性・年齢別でみると、「該当」は男女とも高齢になるほど割合が高く、男女とも75歳以上では1割台となっている。

【図 性・年齢別 閉じこもり傾向のある高齢者】



圏域別でみると、中央圏域では「該当」が9.1%と最も低い割合となっている。

【図 圏域別 閉じこもり傾向のある高齢者】

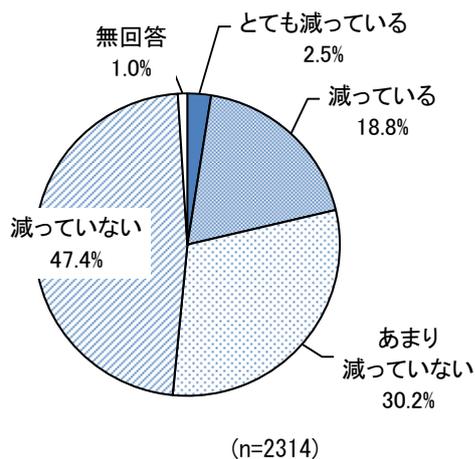


(7) 昨年と比べて外出の回数

問2Q7 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。

昨年と比べて外出の回数については、「減っていない」が47.4%で最も高く、次いで「あまり減っていない」が30.2%、「減っている」が18.8%となっている。

【図 昨年と比べて外出の回数】

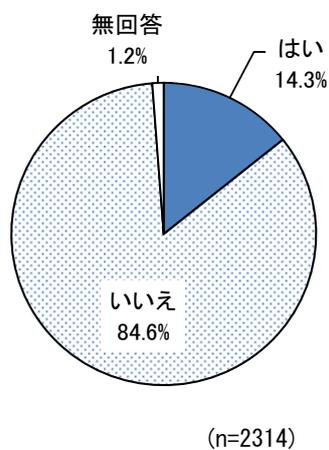


(8) 外出を控えていること

問2Q8 外出を控えていますか。

外出を控えているかについては、「いいえ」が84.6%に対し、「はい」が14.3%となっている。

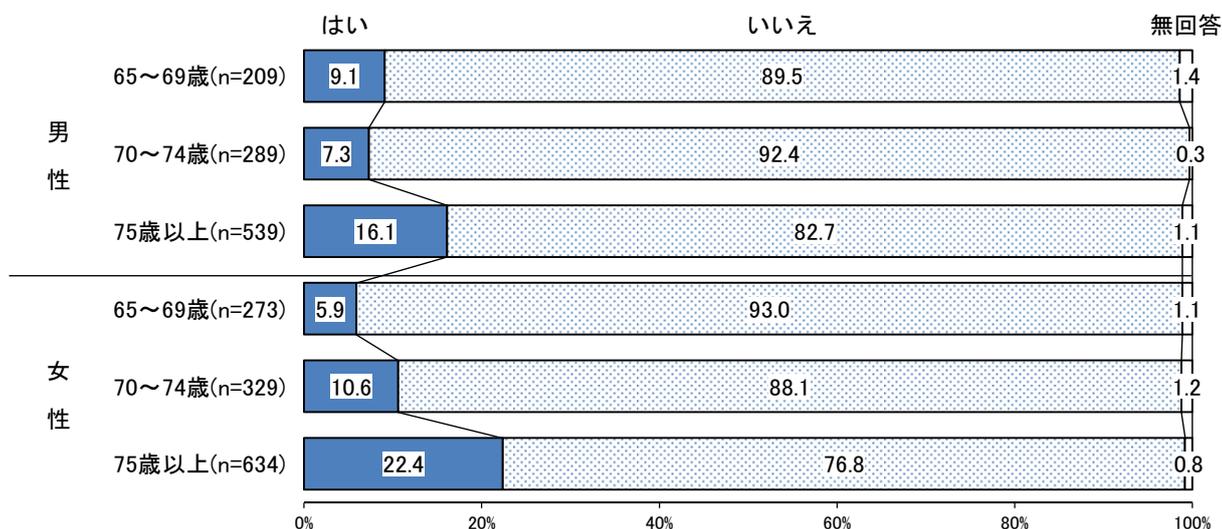
【図 外出を控えていること】



Ⅱ 介護予防・日常生活圏域二エズ調査

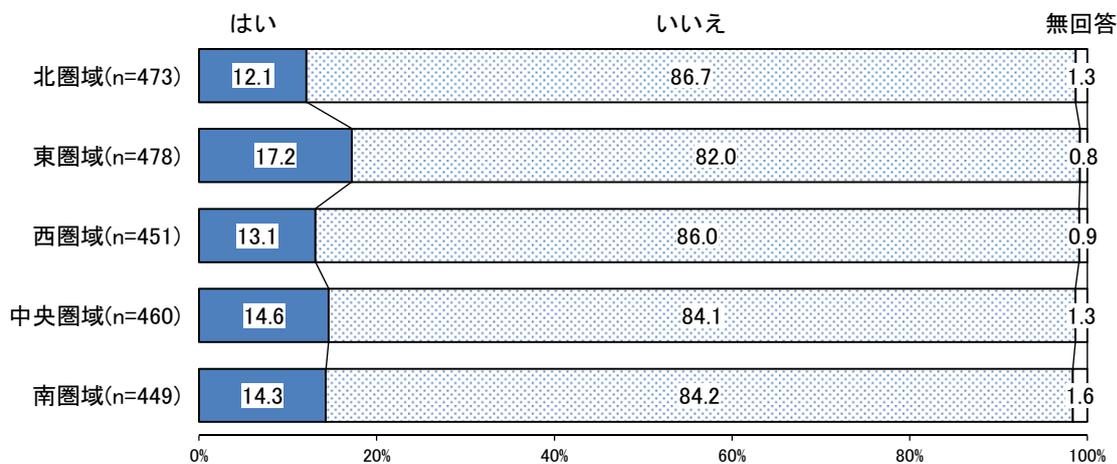
性・年齢別でみると、「控えている」は女性では高齢になるほど割合が高くなっており、75歳以上では22.4%と、男性（16.1%）より6.3ポイント高くなっている。

【図 性・年齢別 外出を控えていること】



圏域別でみると、「控えている」は東圏域が17.2%で最も高く、北圏域が12.1%で最も低くなっている。

【図 圏域別 外出を控えていること】



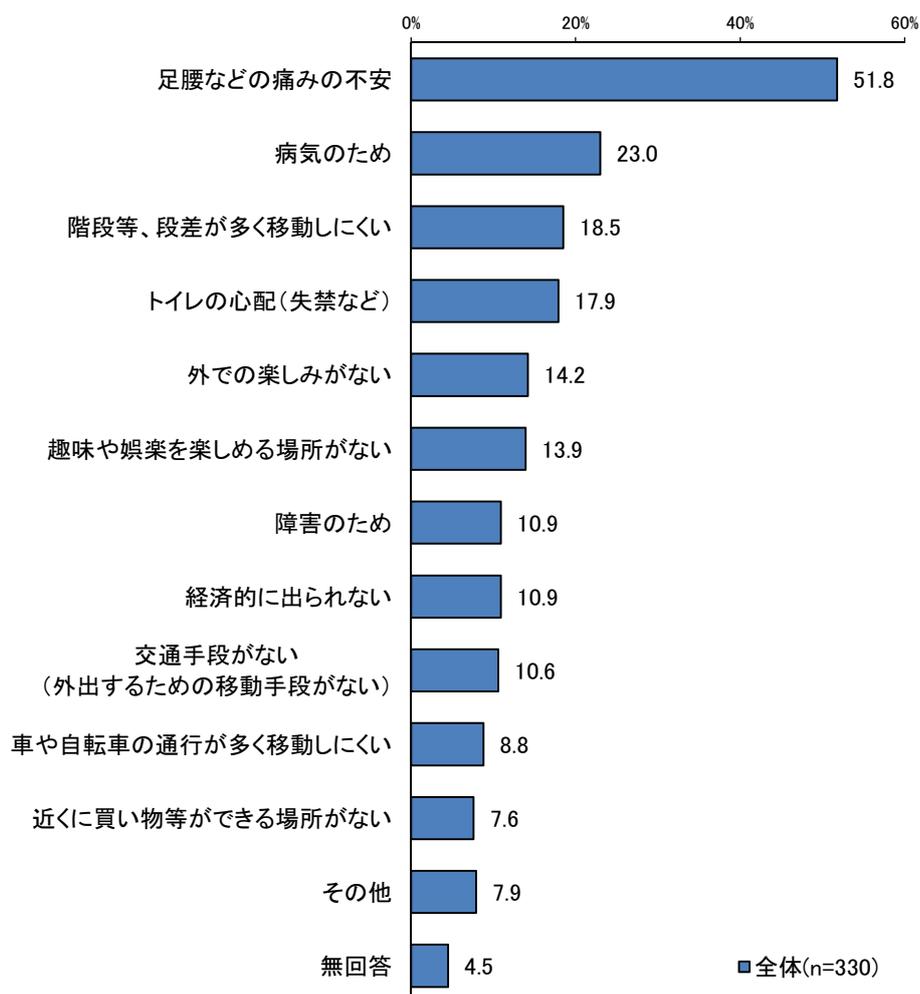
(9) 外出を控える理由

問2Q8-1 【Q8で「1. はい」(外出を控えている)の方のみ】

①外出を控えている理由は、次のどれですか。(いくつでも)

外出を控えていると回答した人に、その理由についてたずねると、「足腰などの痛みの不安」が51.8%で最も高く、次いで「病気のため」が23.0%、「階段等、段差が多く移動しにくい」が18.5%となっている。

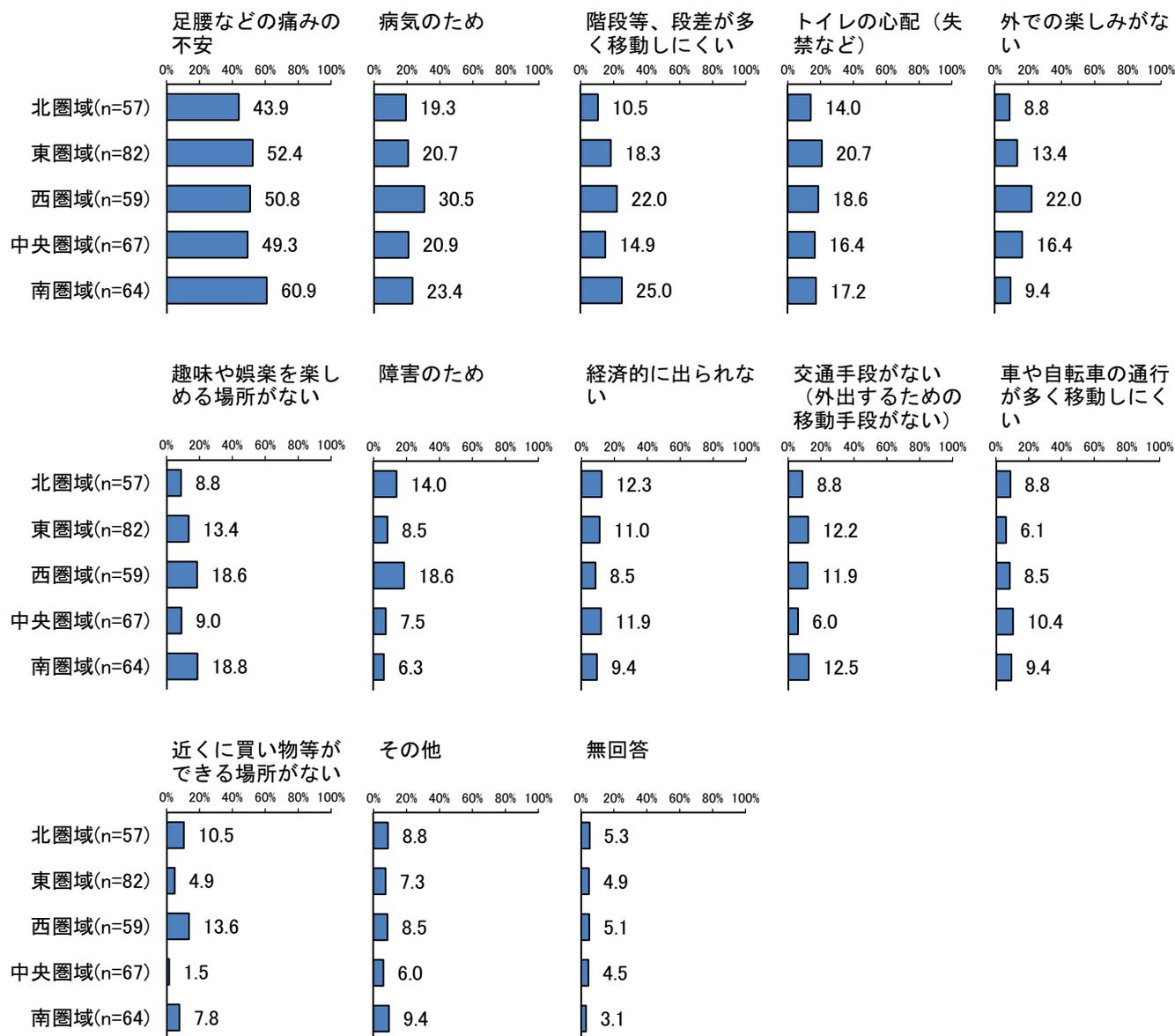
【図 外出を控える理由】



Ⅱ 介護予防・日常生活圏域二ーズ調査

圏域別でみると、いずれの圏域も「足腰などの痛みの不安」が最も高く、南圏域では60.9%と最も高くなっている。西圏域では「病気のため」(30.5%)と「外での楽しみがない」(22.0%)が他の日常生活圏域より高くなっている。

【図 圏域別 外出を控える理由】

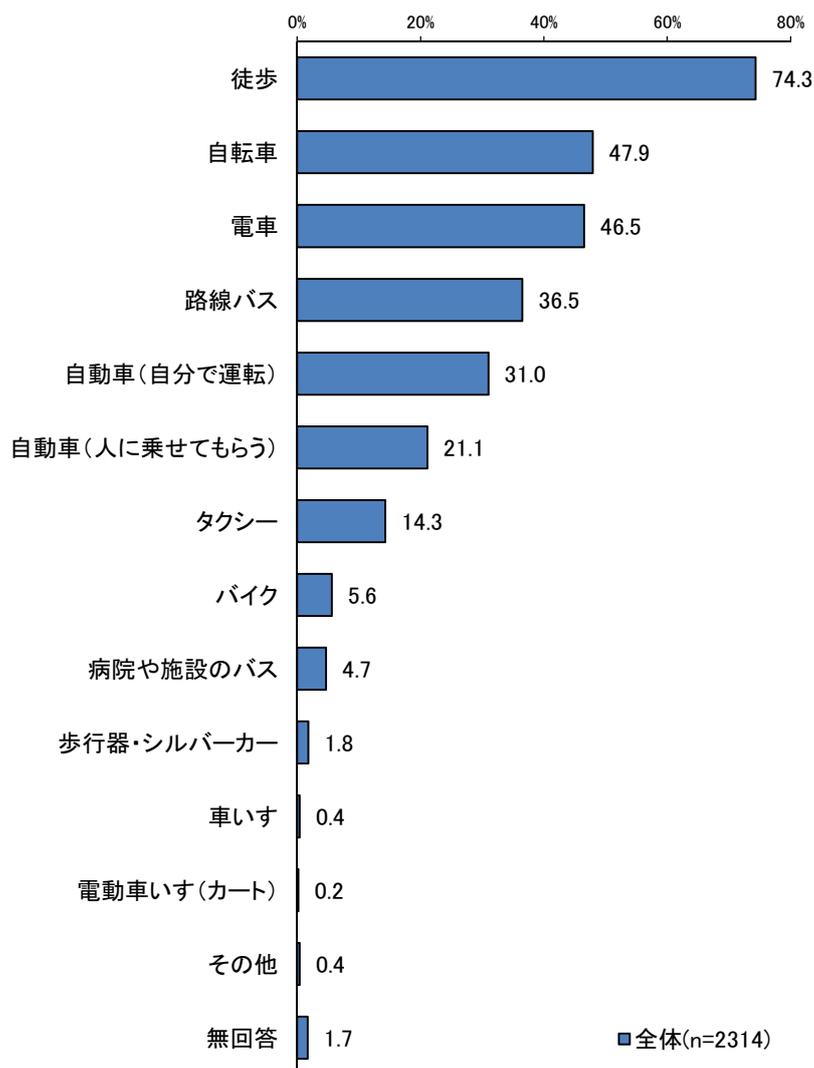


(10) 外出時の移動手段

問2Q9 外出する際の移動手段は何ですか。(いくつでも)

外出時の移動手段については、「徒歩」が74.3%で最も高く、次いで「自転車」が47.9%、「電車」が46.5%、「路線バス」が35.6%となっている。

【図 外出時の移動手段】



Ⅱ 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査

性・年齢別でみると、男女ともいずれの年齢も「徒歩」が最も高く、次いで男性の65～74歳は「自動車（自分で運転）」、女性の65～74歳は「自転車」が続いている。

【表 性・年齢別 外出時の移動手段（上位5項目）】

(%)

		回答者数 (n)	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体		2314	徒歩 74.3	自転車 47.9	電車 46.5	路線バス 36.5	自動車 （自分で運転） 31.0
男性	65～69歳	209	徒歩 75.6	自動車 （自分で運転） 65.1	自転車 52.2	電車 49.8	路線バス 27.3
	70～74歳	289	徒歩 77.2	自動車 （自分で運転） 56.7	自転車 51.9	電車 47.8	路線バス 35.6
	75歳以上	539	徒歩 75.0	自転車 47.1	電車 44.2	自動車 （自分で運転） 40.3	路線バス 34.0
女性	65～69歳	273	徒歩 77.7	自転車 61.9	電車 55.3	路線バス 35.2	自動車（人に乗 せてもらう） 32.6
	70～74歳	329	徒歩 73.6	自転車 57.8	電車 47.7	路線バス 39.2	自動車（人に乗 せてもらう） 31.3
	75歳以上	634	徒歩 72.4	電車 44.2	路線バス 41.2	自転車 34.9	自動車（人に乗 せてもらう） 29.5

圏域別でみると、いずれの圏域でも「徒歩」が最も高く、次いで北圏域では「路線バス」、それ以外の圏域では「自転車」が続いている。

【表 圏域別 外出時の移動手段（上位5項目）】

(%)

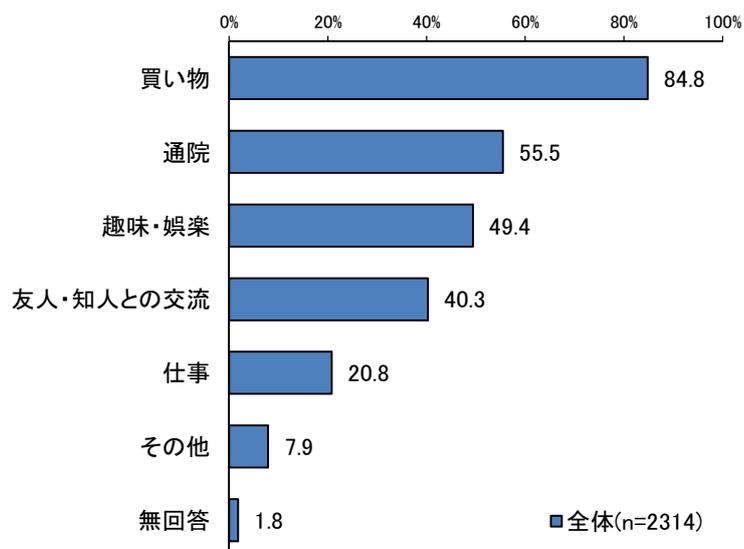
		回答者数 (n)	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体		2314	徒歩 74.3	自転車 47.9	電車 46.5	路線バス 36.5	自動車 （自分で運転） 31.0
北圏域		473	徒歩 61.3	路線バス 51.2	自動車 （自分で運転） 43.3	電車 34.9	自転車 25.8
東圏域		478	徒歩 77.8	自転車 54.8	電車 48.3	路線バス 33.9	自動車 （自分で運転） 27.8
西圏域		451	徒歩 76.5	自転車 49.4	電車 48.1	路線バス 38.8	自動車 （自分で運転） 34.1
中央圏域		460	徒歩 83.5	自転車 52.8	電車 51.5	路線バス 28.5	自動車 （自分で運転） 23.0
南圏域		449	徒歩 72.6	自転車 57.2	電車 50.1	路線バス 30.1	自動車 （自分で運転） 26.7

(11) 外出する際の目的

問2 Q10 外出する際の目的は何ですか。(いくつでも)

外出する際の目的をたずねると、「買い物」が84.8%で最も高く、次いで「通院」が55.5%、「趣味・娯楽」が49.4%、「友人・知人との交流」が40.3%となっている。

【図 外出する際の目的】



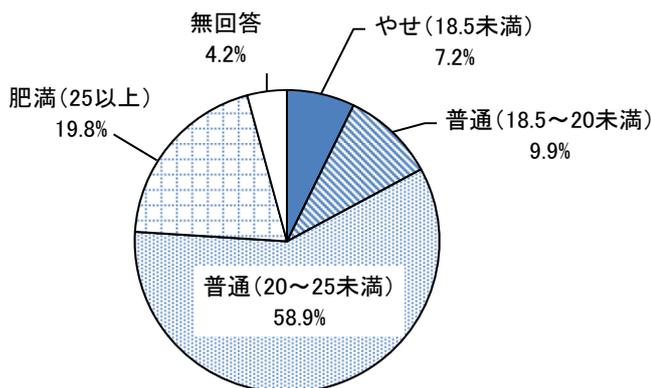
4 口腔・栄養について

(1) 身長と体重 (BMI指数)

問3Q1 身長・体重

回答された身長と体重から割り出したBMI指数は、平均で22.7となっている。「普通」(20～25未満)が58.9%で最も高く、次いで「肥満(25以上)」が19.8%となっている。

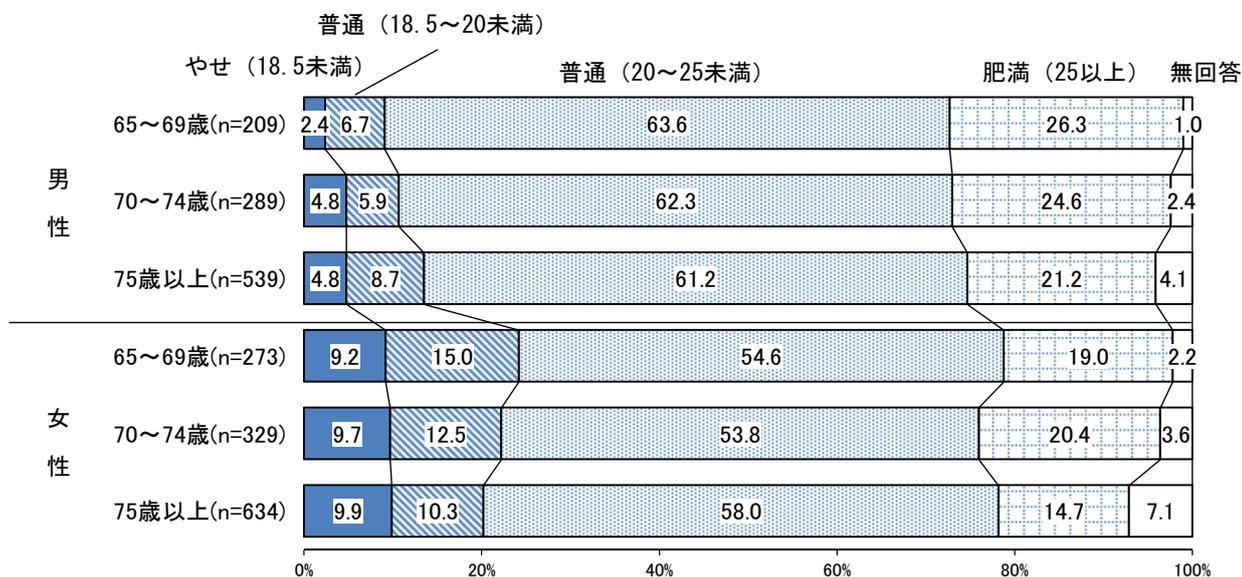
【図 BMI指数】



(n=2314)

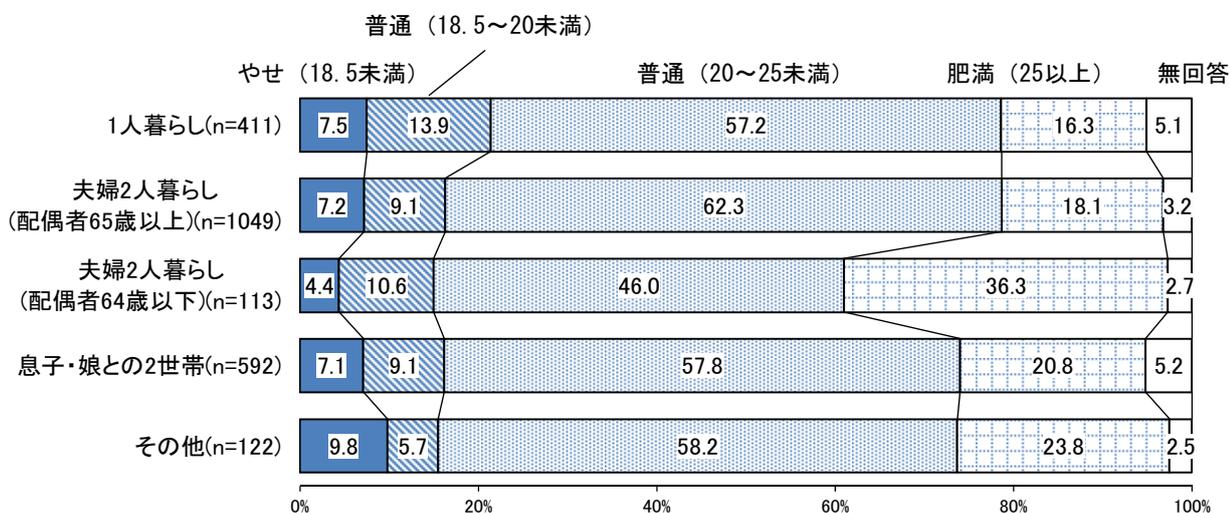
性・年齢別でみると、「やせ(18.5未満)」はいずれの年代も男性より女性のほうが高いが、「肥満(25以上)」はいずれの年代も女性より男性のほうが高くなっている。「やせ(18.5未満)」は男女とも年代による大きな差はみられないが、「肥満(25以上)」は男女とも75歳以上が最も低い割合となっている。

【図 性・年齢別 BMI指数】



家族構成別でみると、「やせ (18.5未満)」はその他が9.8%で最も高く、「肥満 (25以上)」は夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下) が36.3%で最も高くなっている。

【図 家族構成別 BMI指数】

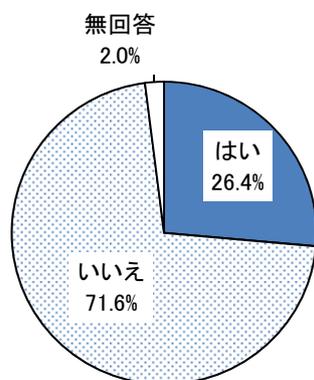


(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか

問3Q2 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。

半年前に比べて固いものが食べにくくなったかについては、「いいえ」が71.6%に対し、「はい」が26.4%となっている。

【図 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか】



(n=2314)

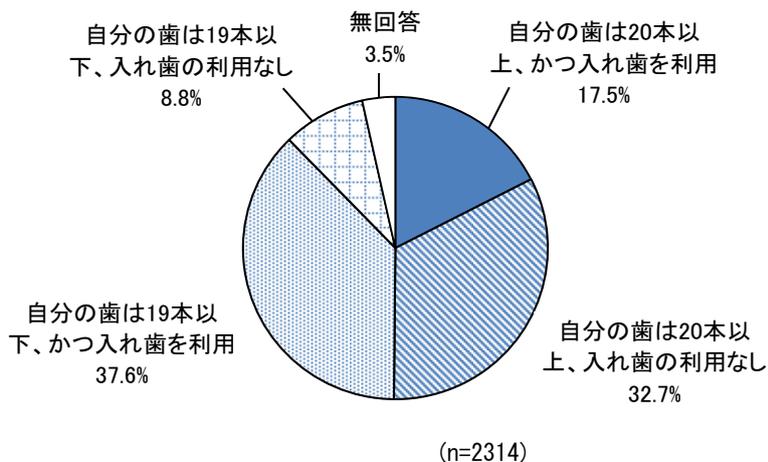
(3) 歯の数と入れ歯の利用状況

問3 Q3 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。

(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)。

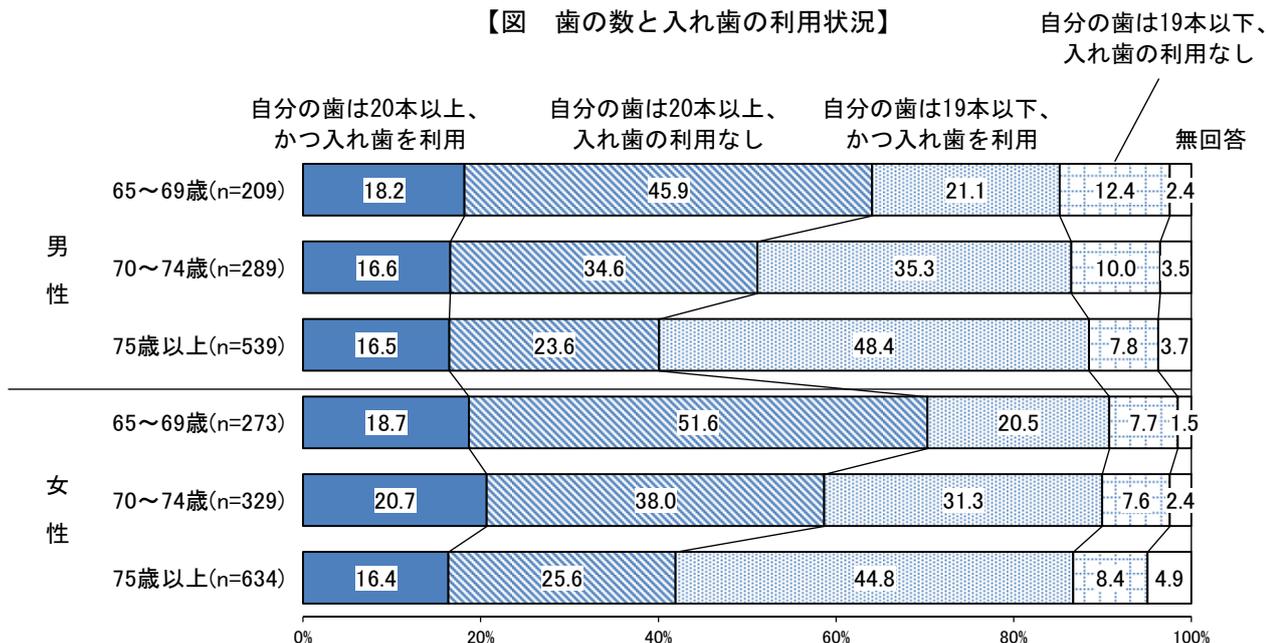
歯の数と入れ歯の利用状況については、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が37.6%で最も高く、次いで「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が32.7%、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」が17.5%、「自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし」が8.8%となっている。

【図 歯の数と入れ歯の利用状況】



性・年齢別でみると、男性の65～69歳、女性の65～69歳、70～74歳は「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が最も高いが、それ以上の年代は「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が最も高くなっている。

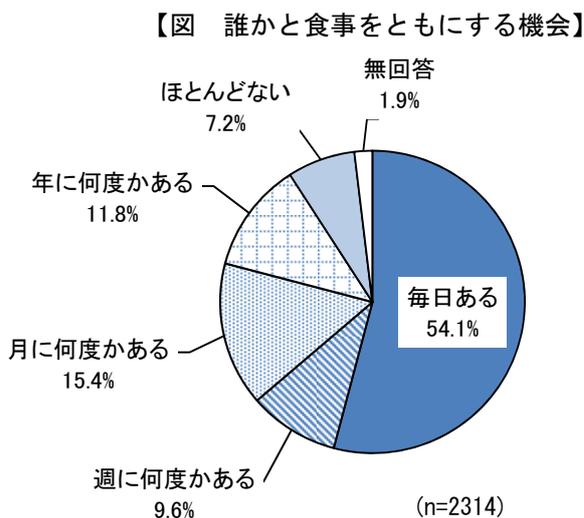
【図 歯の数と入れ歯の利用状況】



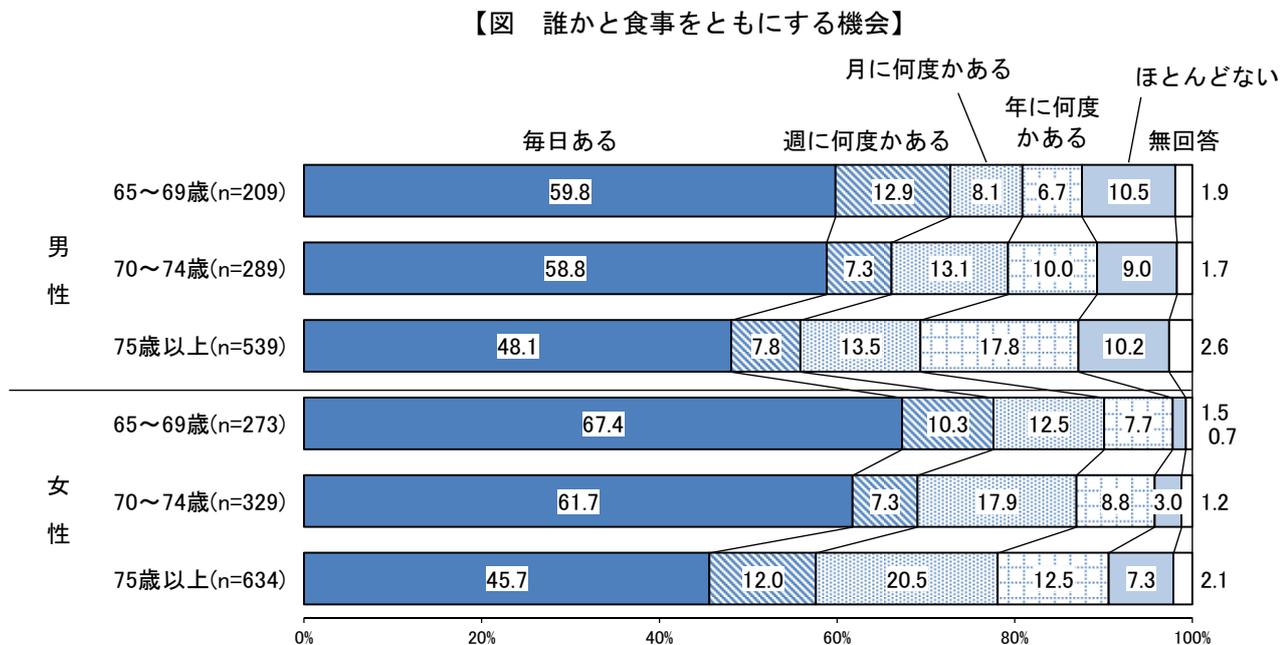
(4) 誰かと食事をとにもする機会

問3Q4 どなたかと食事をとにもする機会がありますか。

誰かと食事をとにもする機会の頻度は、「毎日ある」が54.1%で最も高く、次いで「月に何度かある」が15.4%、「年に何度かある」が11.8%となっており、一方で「ほとんどない」は7.2%となっている。



性・年齢別でみると、いずれの年代も「毎日ある」が最も高く、男女とも65～69歳が最も高く、高齢になるほど割合は低くなっている。



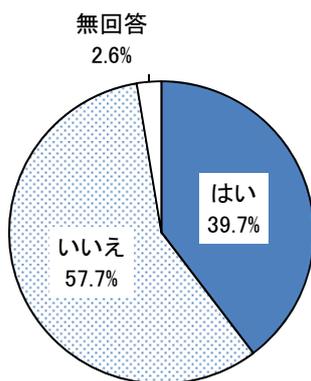
5 日常生活について

(1) 物忘れが多いと感じるか

問4Q1 物忘れが多いと感じますか。

物忘れが多いと感じるかについては、「いいえ」が57.7%に対し、「はい」が39.7%となっている。

【図 物忘れが多いと感じるか】



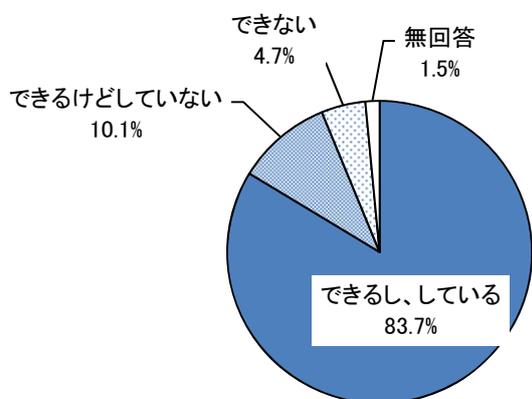
(n=2314)

(2) バスや電車を利用した一人での外出

問4Q2 バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）。

バスや電車を使った1人での外出(自家用車でも可)については、「できるし、している」が83.7%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が10.1%、「できない」が4.7%となっている。

【図 バスや電車を利用した一人での外出】



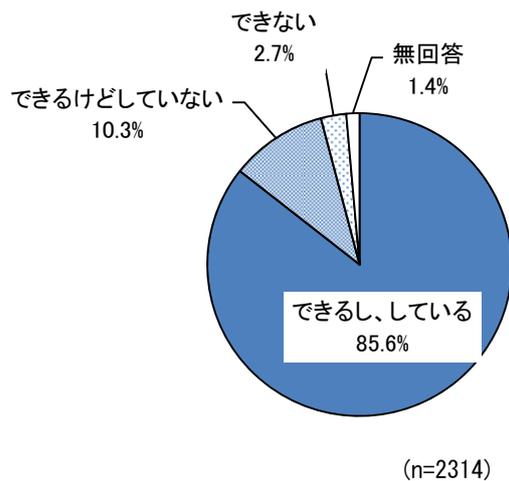
(n=2314)

(3) 自分で食品・日用品の買物

 問4Q3 自分で食品・日用品の買物をしていますか。

自分で食品・日用品の買物をするこトについては、「できるし、している」が85.6%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が10.3%、「できない」が2.7%となっている。

【図 自分で食品・日用品の買物】

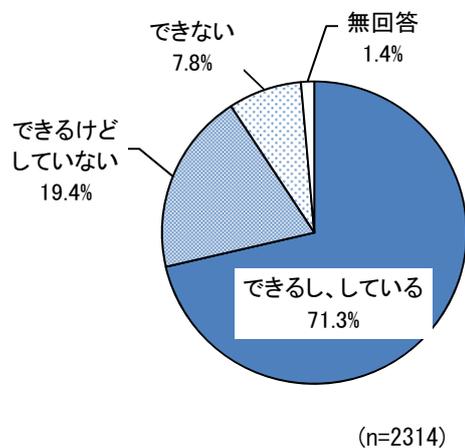


(4) 自分で食事の用意

 問4Q4 自分で食事の用意をしていますか。

自分で食事の用意をするこトについては、「できるし、している」が71.3%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が19.4%、「できない」が7.8%となっている。

【図 自分で食事の用意】



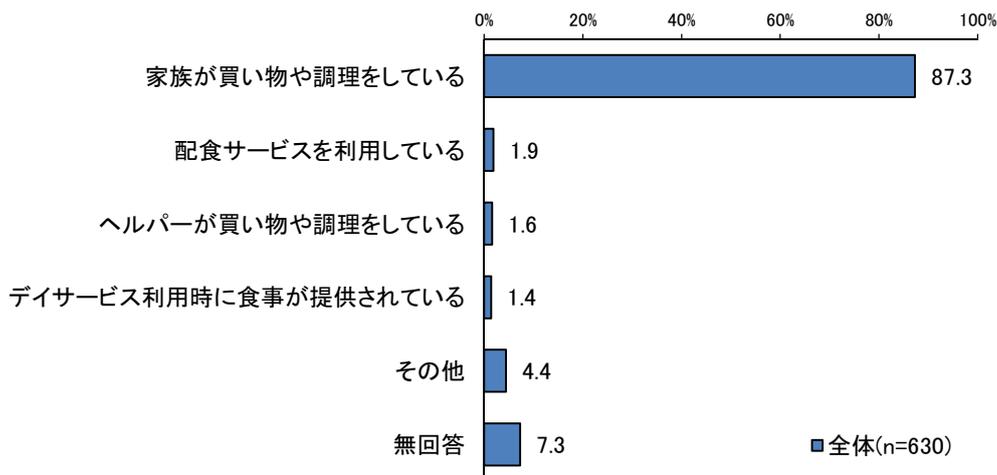
(5) 食事の確保

問4 Q4-1 【Q4で「2. できるけどしていない」「3. できない」の方のみ】

①食事の確保はどのようにしていますか。(いくつでも)

食事の確保については、「家族が買い物や調理をしている」が87.3%で最も高く、それ以外は1%程度となっている。

【図 食事の確保】

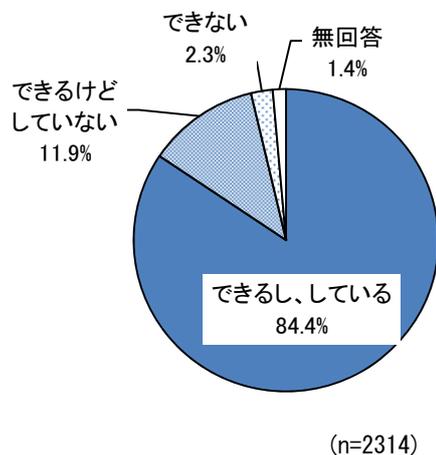


(6) 自分で請求書の支払い

問4 Q5 自分で請求書の支払いをしていますか。

自分で請求書の支払いをすることは、「できるし、している」が84.4%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が11.9%、「できない」が2.3%となっている。

【図 自分で請求書の支払い】

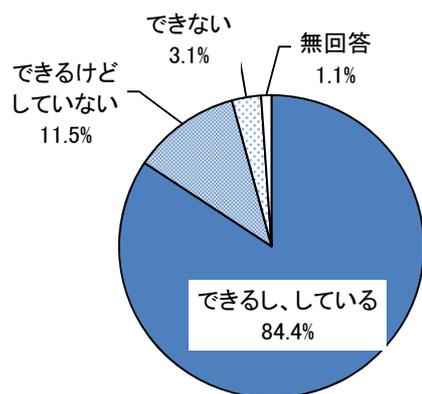


(7) 自分で預貯金の出し入れ

問4Q6 自分で預貯金の出し入れをしていますか。

自分で預貯金の出し入れをすることについては、「できるし、している」が84.4%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が11.5%、「できない」が3.1%となっている。

【図 自分で預貯金の出し入れ】



(n=2314)

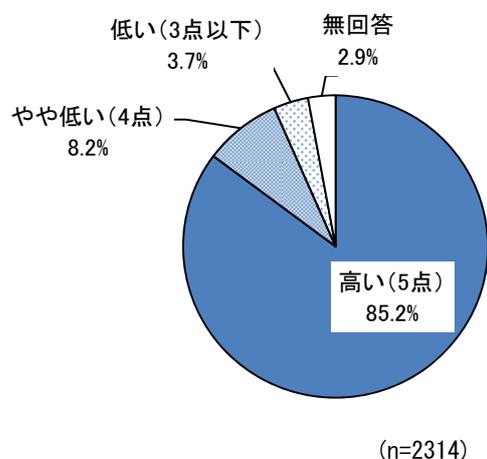
■手段的自立度（IADL）

問4のQ2～6の設問は、老研式活動能力指標のうち手段的自立度（IADL）についての設問となっており、各設問に「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した場合を1点として、5点満点の5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」として評価している。

設問		選択肢
問4 Q 2	バスや電車を使って1人で外出していますか (自家用車でも可)	1. できるし、している ⇒1点 2. できるけどしていない ⇒1点 3. できない ⇒0点
問4 Q 3	自分で食品・日用品の買物をしていますか	1. できるし、している ⇒1点 2. できるけどしていない ⇒1点 3. できない ⇒0点
問4 Q 4	自分で食事の用意をしていますか	1. できるし、している ⇒1点 2. できるけどしていない ⇒1点 3. できない ⇒0点
問4 Q 5	自分で請求書の支払いをしていますか	1. できるし、している ⇒1点 2. できるけどしていない ⇒1点 3. できない ⇒0点
問4 Q 6	自分で預貯金の出し入れをしていますか	1. できるし、している ⇒1点 2. できるけどしていない ⇒1点 3. できない ⇒0点

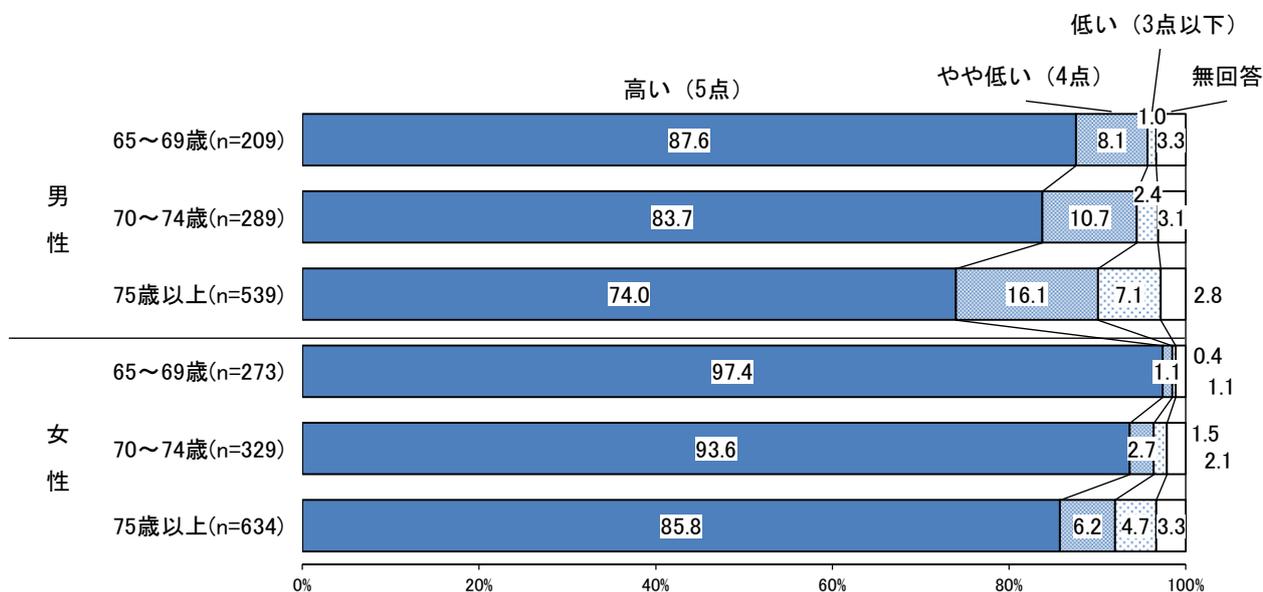
手段的自立度（IADL）の低下状況については、手段的自立度（IADL）に問題のない「高い（5点）」（85.2%）が大半を占めているが、「やや低い（4点）」（8.2%）と「低い（3点以下）」（3.7%）を合わせて、11.9%に低下傾向がみられている。

【図 IADLが低下している高齢者】



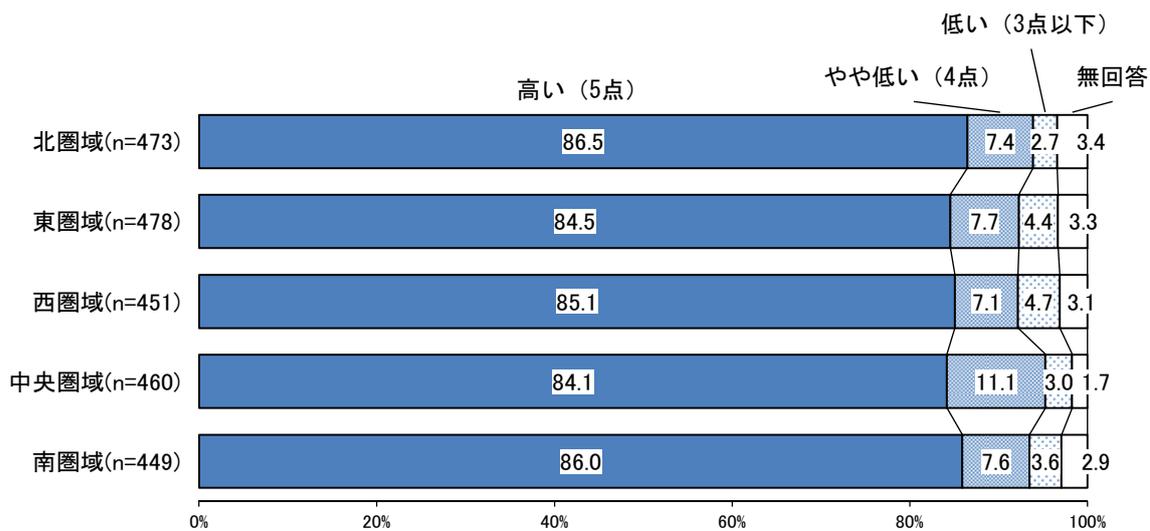
性・年齢別でみると、「高い (5点)」は男女とも年齢が高くなるほど割合が低くなっており、75歳以上は男性が74.0%に対し、女性が85.8%と、男性のほうが11.8ポイント低くなっている。

【図 性・年齢別 IADLが低下している高齢者】



圏域別でみると、いずれの圏域も「高い (5点)」は8割台となっており、北圏域 (86.5%) が最も高い割合となっている。

【図 圏域別 IADLが低下している高齢者】

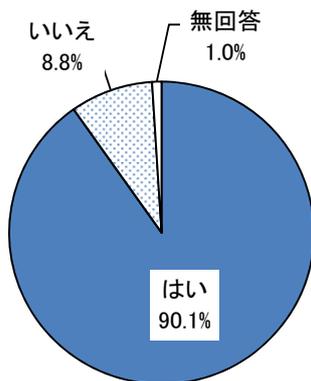


(8) 新聞、本、雑誌を読んでいるか

問4Q7 新聞、本、雑誌を読んでいますか。

新聞、本、雑誌を読んでいるかについては、「はい」が90.1%に対し、「いいえ」が8.8%となっている。

【図 新聞、本、雑誌を読んでいるか】



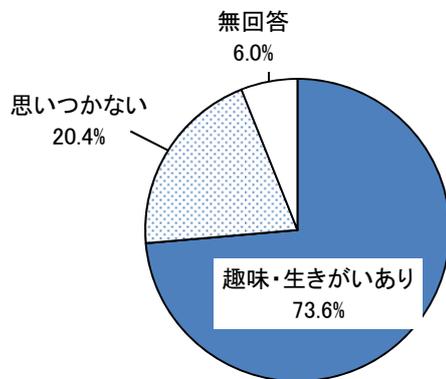
(n=2314)

(9) 趣味・生きがいの有無

問4Q8 趣味・生きがいはありますか。

趣味の有無については、「趣味・生きがいあり」が73.6%に対し、「思いつかない」が20.4%となっている。

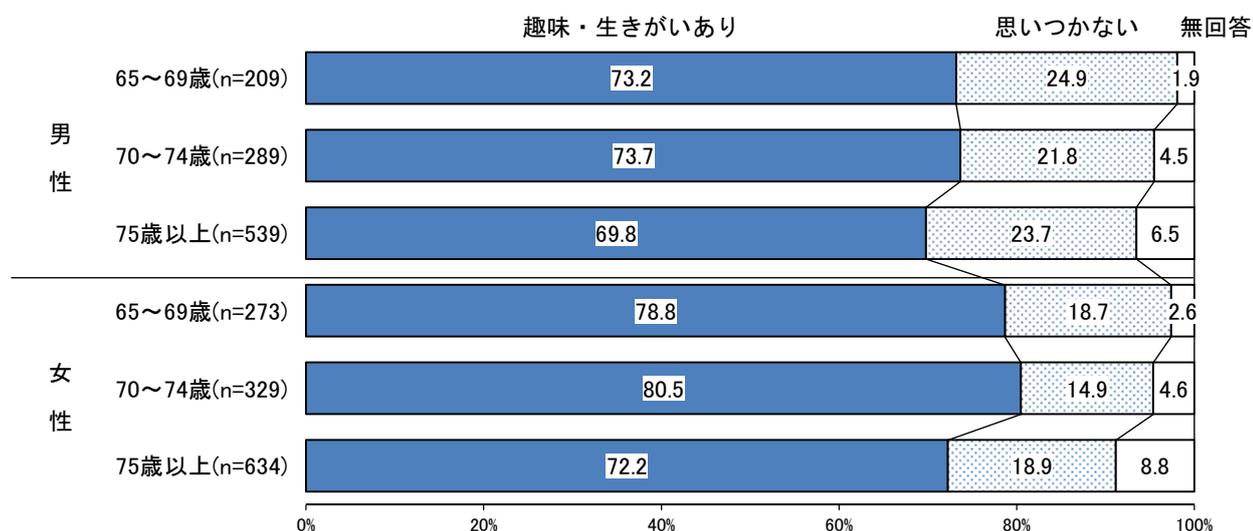
【図 趣味・生きがいの有無】



(n=2314)

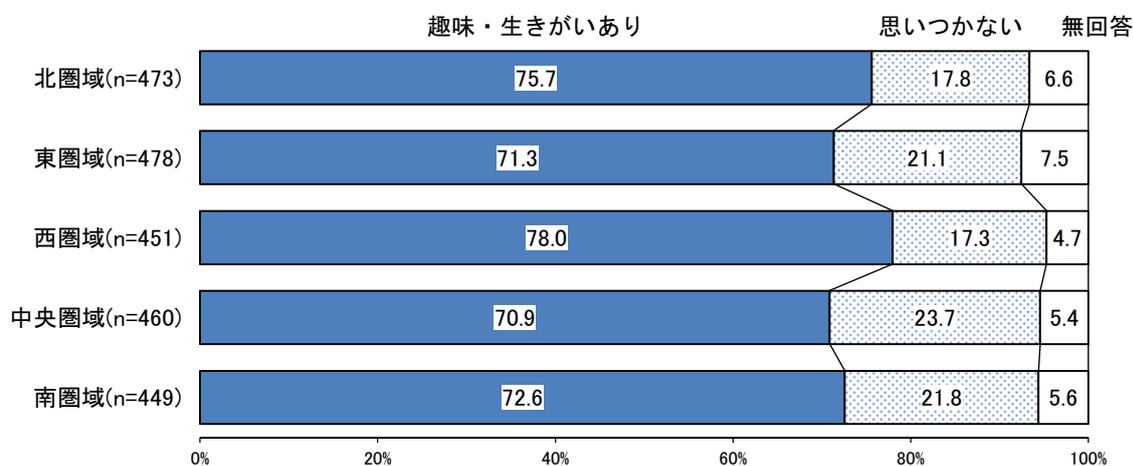
性・年齢別で見ると、「趣味・生きがいあり」は男女とも70～74歳が最も高く、特に女性の70～74歳（80.5%）で最も高くなっている。

【図 性・年齢別 趣味・生きがいの有無】



圏域別で見ると、「趣味・生きがいあり」は西圏域が78.0%で最も高く、次いで北圏域（75.7%）となっている。

【図 圏域別 趣味・生きがいの有無】

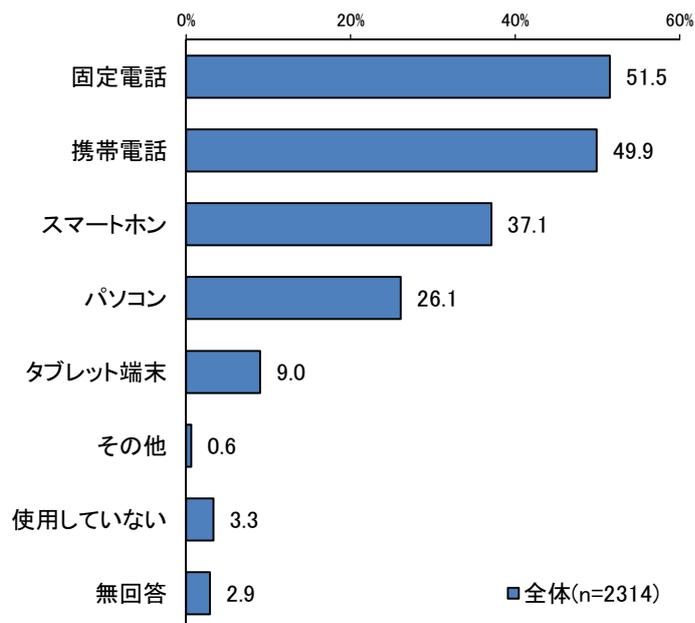


(10) 日常生活で使用している情報通信機器

問4Q9 次の情報通信機器のうち日常生活でよく使用しているものはありますか。(いくつでも)

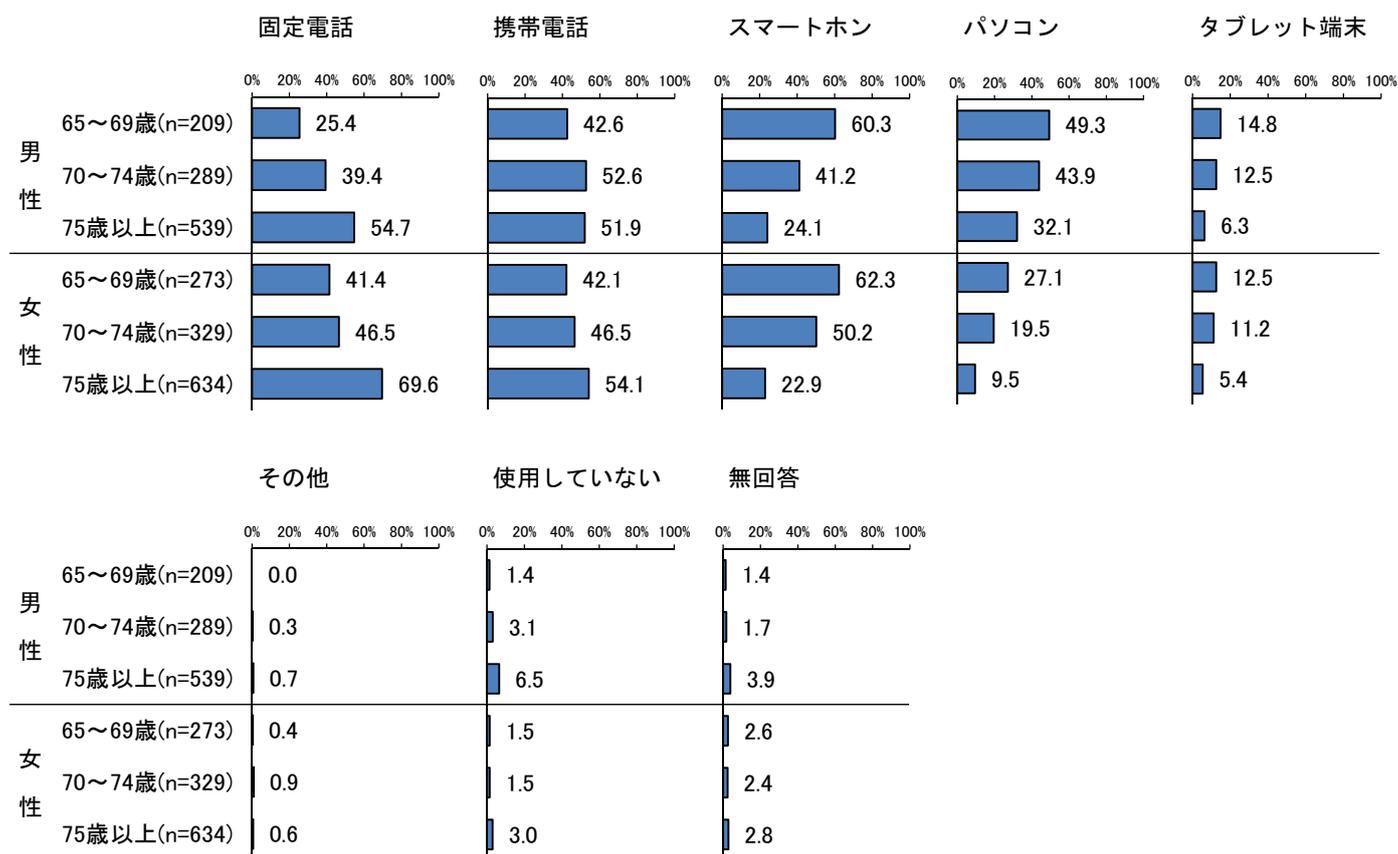
日常生活で使用している情報通信機器については、「固定電話」が51.5%で最も高く、次いで「携帯電話」が49.9%、「スマートフォン」が37.1%、「パソコン」が26.1%となっている。

【図 日常生活で使用している情報通信機器】



性・年齢別でみると、75歳以上の男女では「固定電話」が最も高いが、65～69歳の男女では「スマートフォン」が最も高く、70～74歳の男女では「スマートフォン」が最も高くなっている。一方、男性の70～74歳では「携帯電話」が最も高くなっている。男女とも、「スマートフォン」、「パソコン」、「タブレット端末」は高齢になるほど低くなっている。

【図 性・年齢別 日常生活で使用している情報通信機器】



6 地域活動について

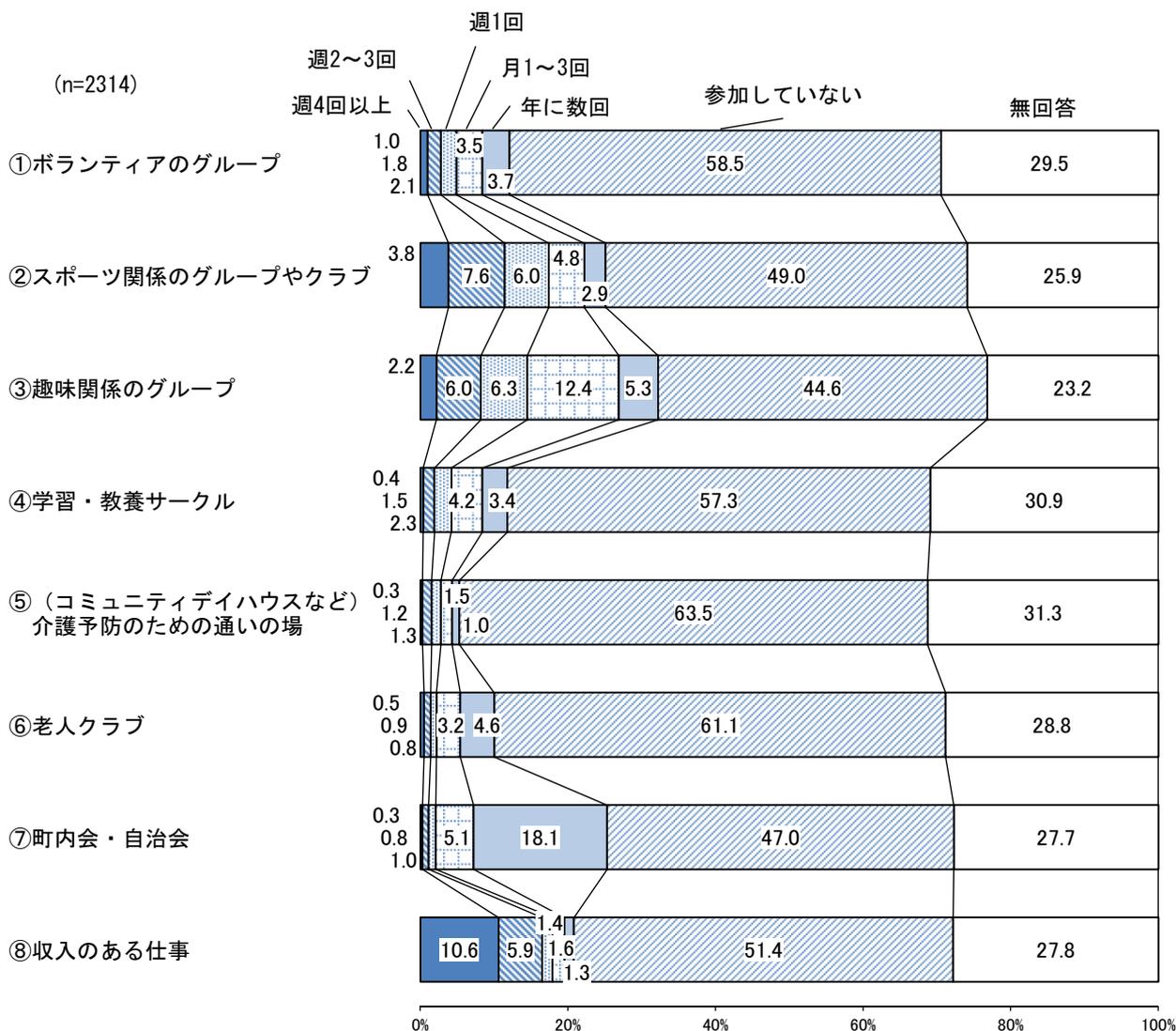
(1) 地域活動の参加頻度

問5 Q1 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。

※①～⑧それぞれに回答してください。

地域活動の参加頻度については、いずれの活動も「参加していない」が最も高く、“⑤（コミュニティデイハウスなど）介護予防のための通いの場”（63.5%）、“⑥老人クラブ”（61.1%）は6割を超えている。“①ボランティアのグループ”（58.5%）、“④学習・教養サークル”（57.3%）は5割を超えている。『週1回以上』（「週4回以上」と「週2～3回」、「週1回」を合わせた割合）は“⑦収入のある仕事”が17.9%で最も高く、次いで“②スポーツ関係のグループやクラブ”が17.4%、“③趣味関係のグループ”が14.5%となっている。

【図 地域活動の参加頻度】



性・年齢別でみると、「⑧収入のある仕事」の男女、「④学習・教養サークル」の男性を除くすべての項目で、「参加していない」が男女とも65～69歳で最も高い割合となっている。「週4回以上」は「⑧収入のある仕事」の男性65～69歳が30.1%で最も高くなっている。

【表 性・年齢別 地域活動の参加頻度】

(%)

		(n)	週 4 回 以上	週 2 ～ 3 回	週 1 回	月 1 ～ 3 回	年 に 数 回	い 参 加 し て い な い	無 回 答	
①ボランティア のグループ	男性	65～69歳	209	0.5	1.4	1.9	2.9	1.9	76.6	14.8
		70～74歳	289	0.7	1.7	2.4	3.1	5.9	70.2	15.9
		75歳以上	539	2.0	2.4	2.2	3.7	4.3	55.8	29.5
	女性	65～69歳	273	-	0.7	2.6	3.7	6.6	67.4	19.0
		70～74歳	329	1.2	2.4	1.8	4.9	3.3	60.5	25.8
		75歳以上	634	0.9	1.4	1.9	3.0	1.4	46.2	45.1
②スポーツ関係 のグループや クラブ	男性	65～69歳	209	1.9	4.8	3.8	3.8	5.3	65.1	15.3
		70～74歳	289	4.8	6.2	4.2	6.6	4.2	60.2	13.8
		75歳以上	539	2.8	5.6	3.7	6.5	4.6	49.7	27.1
	女性	65～69歳	273	4.4	15.0	11.7	2.9	1.1	50.9	13.9
		70～74歳	329	5.2	10.6	12.2	2.4	2.4	44.7	22.5
		75歳以上	634	3.8	6.6	4.3	5.2	0.8	40.4	39.0
③趣味関係の グループ	男性	65～69歳	209	-	1.4	5.3	6.2	9.1	61.7	16.3
		70～74歳	289	2.4	3.1	5.9	10.0	9.7	55.0	13.8
		75歳以上	539	2.4	5.9	5.2	10.8	8.7	43.6	23.4
	女性	65～69歳	273	1.5	7.7	5.5	16.5	3.3	49.8	15.8
		70～74歳	329	1.8	5.8	10.6	14.9	2.7	44.1	20.1
		75歳以上	634	3.5	8.0	6.2	14.5	1.4	33.9	32.5
④学習・ 教養サークル	男性	65～69歳	209	-	1.9	1.4	3.8	2.9	72.2	17.7
		70～74歳	289	0.7	1.0	1.4	3.1	2.4	73.4	18.0
		75歳以上	539	0.6	0.9	2.2	2.6	5.0	56.0	32.7
	女性	65～69歳	273	0.4	2.2	4.0	7.7	2.6	65.6	17.6
		70～74歳	329	-	2.4	3.6	7.3	4.3	57.4	24.9
		75歳以上	634	0.5	1.4	1.6	3.3	2.5	43.8	46.8
⑤介護予防 のための 通いの場	男性	65～69歳	209	0.5	-	1.0	-	-	81.3	17.2
		70～74歳	289	-	0.3	-	0.3	1.0	79.2	19.0
		75歳以上	539	0.4	0.9	0.9	1.5	1.7	62.5	32.1
	女性	65～69歳	273	-	1.1	0.4	0.7	1.1	76.2	20.5
		70～74歳	329	0.3	1.2	1.8	1.2	0.3	68.1	27.1
		75歳以上	634	0.5	2.2	2.4	2.8	1.1	44.8	46.2
⑥老人クラブ	男性	65～69歳	209	-	0.5	-	1.4	1.0	79.9	17.2
		70～74歳	289	-	0.3	1.0	1.0	3.5	76.8	17.3
		75歳以上	539	0.7	1.5	1.5	4.5	6.1	58.3	27.5
	女性	65～69歳	273	-	-	0.4	1.1	1.5	77.3	19.8
		70～74歳	329	0.3	-	0.3	2.4	4.3	65.7	27.1
		75歳以上	634	1.1	1.4	0.8	5.0	6.5	42.6	42.6
⑦町内会・ 自治会	男性	65～69歳	209	0.5	-	0.5	7.2	8.6	67.5	15.8
		70～74歳	289	0.7	0.7	1.4	5.9	20.8	55.0	15.6
		75歳以上	539	0.4	1.3	1.7	6.1	16.3	47.5	26.7
	女性	65～69歳	273	-	0.4	0.7	4.8	22.3	54.2	17.6
		70～74歳	329	0.6	0.6	-	4.3	24.0	45.3	25.2
		75歳以上	634	-	0.9	0.9	3.6	16.7	35.2	42.6
⑧収入のある 仕事	男性	65～69歳	209	30.1	11.5	1.0	1.4	1.9	45.0	9.1
		70～74歳	289	14.5	9.0	1.0	2.1	2.8	55.0	15.6
		75歳以上	539	6.5	3.3	2.4	1.9	1.3	55.5	29.1
	女性	65～69歳	273	17.9	10.6	0.7	2.9	0.7	52.4	14.7
		70～74歳	329	10.3	9.4	2.1	0.9	1.8	54.4	21.0
		75歳以上	634	3.2	1.4	0.6	0.9	0.3	47.6	45.9

Ⅱ 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査

圏域別でみると、「参加していない」は中央圏域で“⑤介護予防のための通いの場”と“⑥老人クラブ”以外は最も高くなっている。また、『週1回以上』は“②スポーツ関係のグループやクラブ”と“⑧収入のある仕事”で西圏域が最も高くなっている。

【表 圏域別 地域活動の参加頻度】

(%)

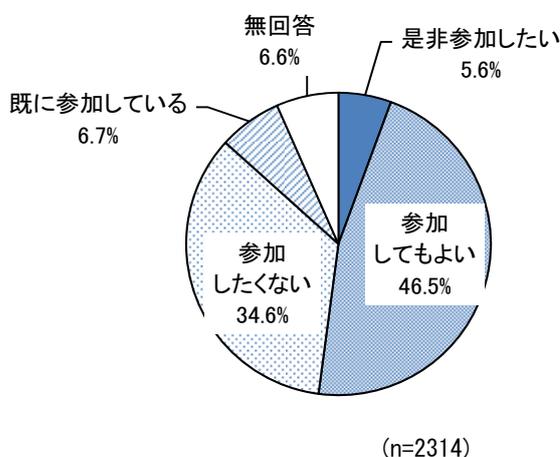
		回答者数 (n)	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
①ボランティアのグループ	北圏域	473	0.6	1.9	2.3	4.2	4.9	55.6	30.4
	東圏域	478	1.0	0.6	2.7	2.7	2.7	58.6	31.6
	西圏域	451	0.9	2.7	1.6	3.5	4.2	60.3	26.8
	中央圏域	460	1.1	1.7	2.8	2.2	3.5	62.4	26.3
	南圏域	449	1.6	2.2	0.9	4.7	3.1	55.2	32.3
②スポーツ関係のグループやクラブ	北圏域	473	3.2	8.9	6.1	5.1	4.0	47.6	25.2
	東圏域	478	3.3	6.7	6.3	5.0	2.3	49.4	27.0
	西圏域	451	4.2	8.6	6.4	6.0	2.2	49.4	23.1
	中央圏域	460	3.5	6.3	7.6	4.6	3.9	50.0	24.1
	南圏域	449	4.7	7.8	3.6	3.6	1.8	48.1	30.5
③趣味関係のグループ	北圏域	473	2.1	6.8	7.6	15.0	6.6	41.4	20.5
	東圏域	478	1.9	6.5	5.2	15.5	4.2	43.7	23.0
	西圏域	451	2.2	6.2	7.3	8.6	6.0	46.3	23.3
	中央圏域	460	2.0	5.0	5.9	13.3	4.6	47.2	22.2
	南圏域	449	3.1	5.3	5.3	9.4	5.3	44.1	27.4
④学習・教養サークル	北圏域	473	0.6	1.9	2.5	3.8	5.5	53.9	31.7
	東圏域	478	0.8	1.3	1.5	5.0	1.5	57.9	32.0
	西圏域	451	0.2	1.1	2.9	5.3	2.9	59.2	28.4
	中央圏域	460	0.2	1.3	2.2	3.0	2.6	60.9	29.8
	南圏域	449	0.2	2.0	2.7	3.8	4.7	54.1	32.5
⑤介護予防のための通いの場	北圏域	473	0.2	1.1	0.8	0.8	2.1	62.2	32.8
	東圏域	478	0.6	0.8	1.0	1.3	0.4	63.0	32.8
	西圏域	451	-	1.1	1.3	2.0	0.4	65.9	29.3
	中央圏域	460	0.2	1.1	1.5	2.0	1.1	65.4	28.7
	南圏域	449	0.4	1.8	1.6	1.3	1.1	60.8	33.0
⑥老人クラブ	北圏域	473	0.6	1.3	1.5	5.5	8.5	55.0	27.7
	東圏域	478	0.4	0.8	0.4	2.9	2.7	61.9	30.8
	西圏域	451	0.4	0.9	0.4	1.8	2.9	65.9	27.7
	中央圏域	460	0.4	0.9	0.9	3.0	4.3	64.1	26.3
	南圏域	449	0.7	0.7	0.9	2.7	4.5	58.8	31.8
⑦町内会・自治会	北圏域	473	0.4	1.1	1.1	8.9	22.0	41.4	25.2
	東圏域	478	0.2	1.0	0.8	5.4	16.5	47.1	28.9
	西圏域	451	0.2	-	0.9	3.5	19.1	49.0	27.3
	中央圏域	460	0.7	0.4	1.1	3.3	15.2	52.6	26.7
	南圏域	449	-	1.6	1.1	4.0	17.4	45.0	31.0
⑧収入のある仕事	北圏域	473	7.8	7.2	1.5	1.9	1.5	51.8	28.3
	東圏域	478	10.7	5.9	1.0	1.5	1.3	50.8	28.9
	西圏域	451	11.3	6.2	1.8	2.2	0.9	51.9	25.7
	中央圏域	460	12.8	4.1	2.0	1.3	1.5	53.3	25.0
	南圏域	449	10.7	6.2	0.7	0.9	1.3	49.0	31.2

(2) いきいきとした地域活動に参加者としての参加意向

問5 Q2 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。

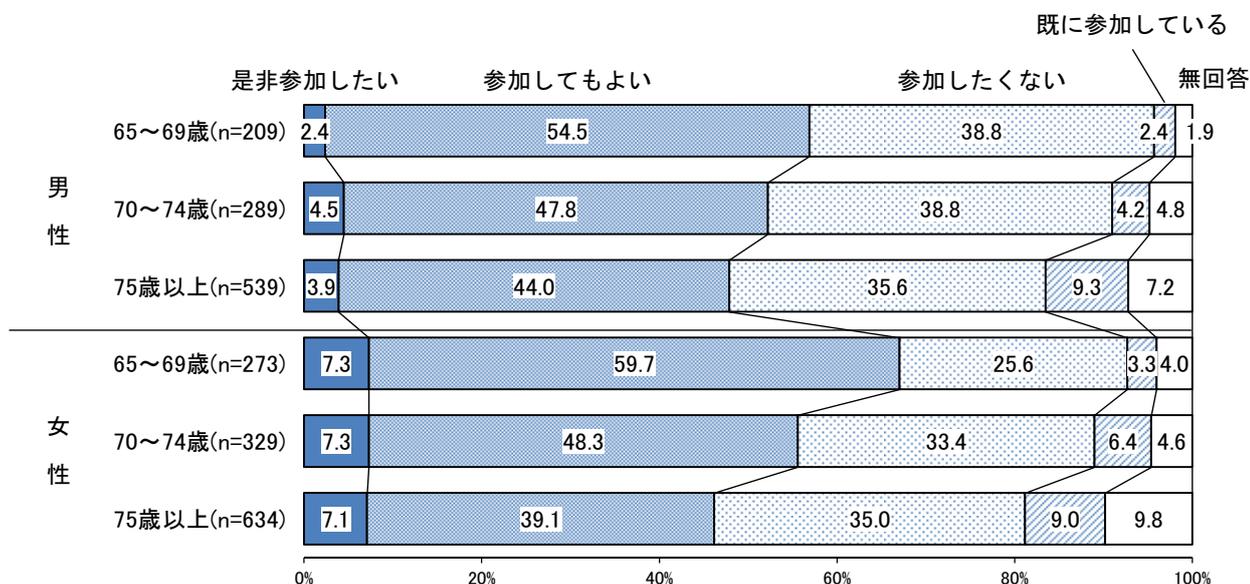
いきいきとした地域活動に参加者としての参加意向については、「参加してもよい」が46.5%で最も高く、次いで「参加したくない」が34.6%、「是非参加したい」が5.6%となっている。「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた『参加意向がある』は52.1%となっている。

【図 いきいきとした地域活動に参加者としての参加意向】



性・年齢別でみると、男女ともいずれも「参加してもよい」が最も高く、『参加意向がある』人は女性では65～69歳が67.0%で最も高く、男女とも高齢になるほど低くなっている。

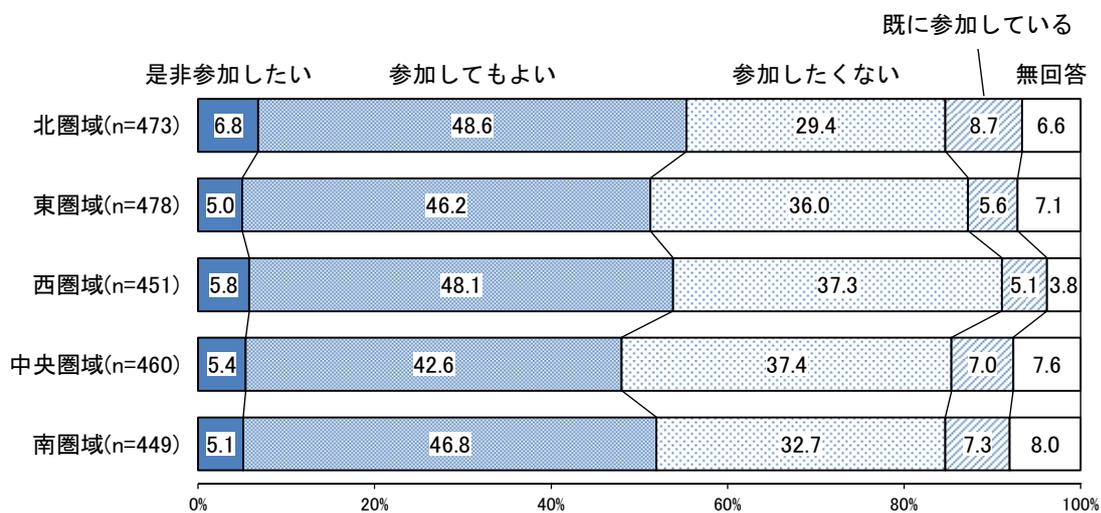
【図 性・年齢別 いきいきとした地域活動に参加者としての参加意向】



Ⅱ 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査

圏域別でみると、『参加意向がある』人は北圏域（55.4%）で最も高く、次いで西圏域（53.9%）となっている。

【図 圏域別 いきいきとした地域活動に参加者としての参加意向】

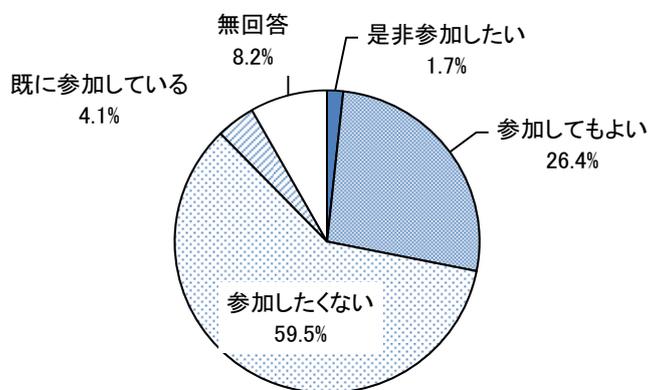


(3) いきいきとした地域活動に企画・運営としての参加意向

問5Q3 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。

いきいきとした地域活動に企画・運営（お世話役）としての参加意向については、「参加したくない」が59.5%で最も高く、次いで「参加してもよい」が26.4%、「是非参加したい」が1.7%となっている。「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた『参加意向がある』は28.1%となっている。

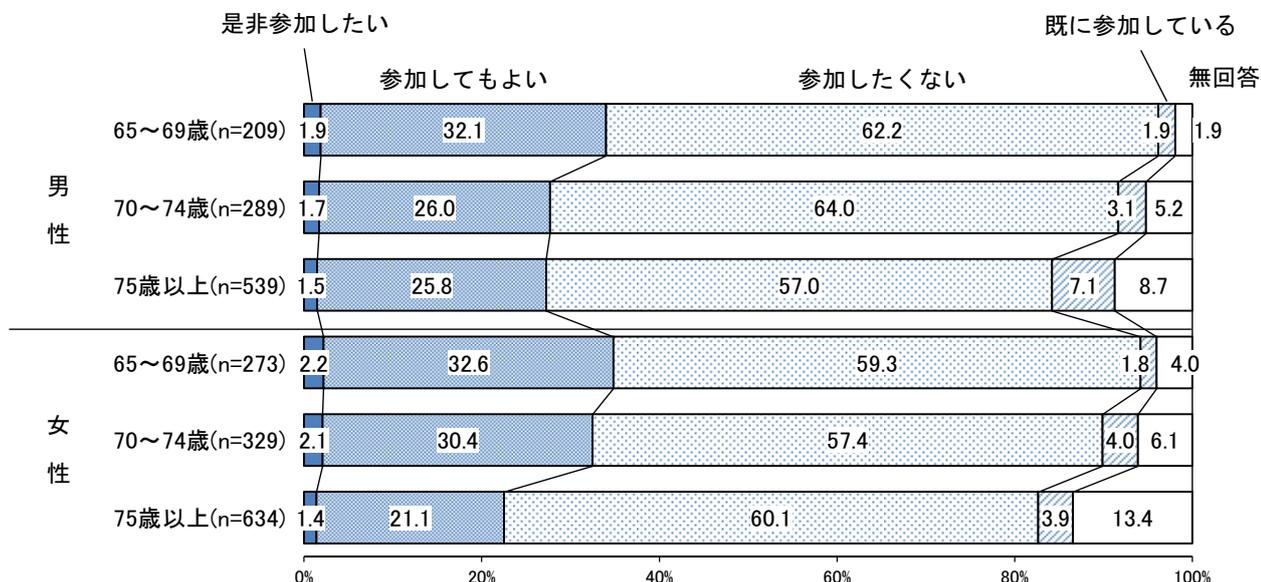
【図 いきいきとした地域活動に企画・運営としての参加意向】



(n=2314)

性・年齢別でみると、『参加意向がある』人は、男女とも65～69歳が最も高く、女性が34.8%、男性が34.0%となっており、高齢になるほど割合は低くなっている。

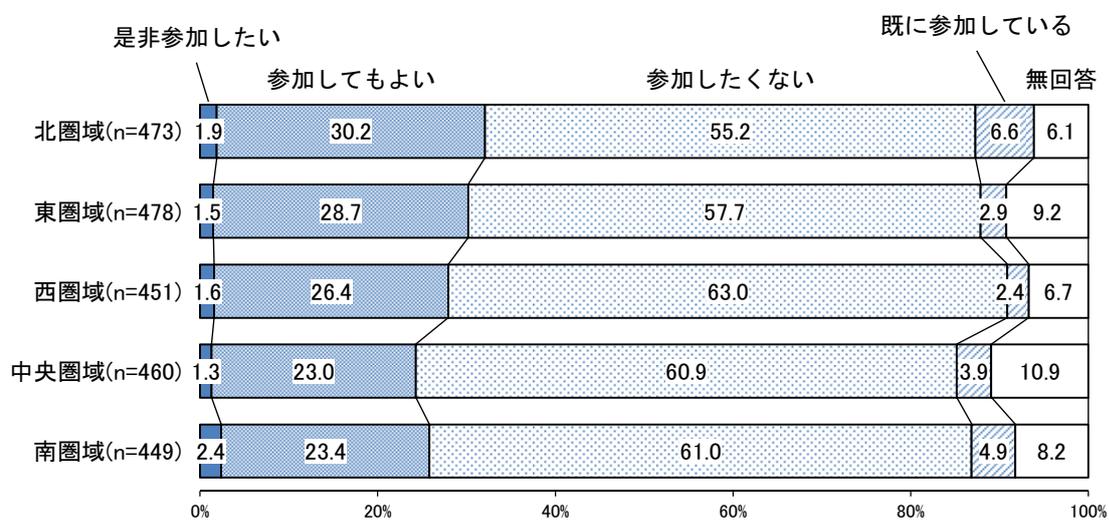
【図 性・年齢別 いきいきとした地域活動に企画・運営としての参加意向】



II 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査

圏域別でみると、『参加意向がある』人は北圏域が32.1%で最も高く、次いで東圏域（30.2%）となっている。

【図 圏域別 いきいきとした地域活動に企画・運営としての参加意向】



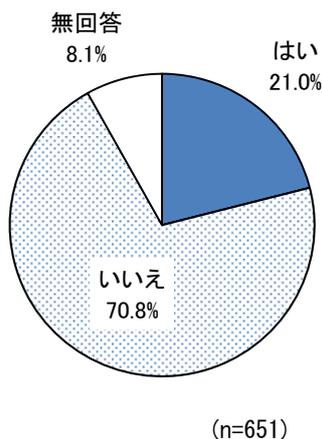
(4) 地域活動に企画・運営（お世話役）として参加する際の報酬の必要性について

問5 Q3-1 【Q3で「1. 是非参加したい」「2. 参加してもよい」の方のみ】

①地域づくりの活動に参加した際、報酬は必要だと思いますか。

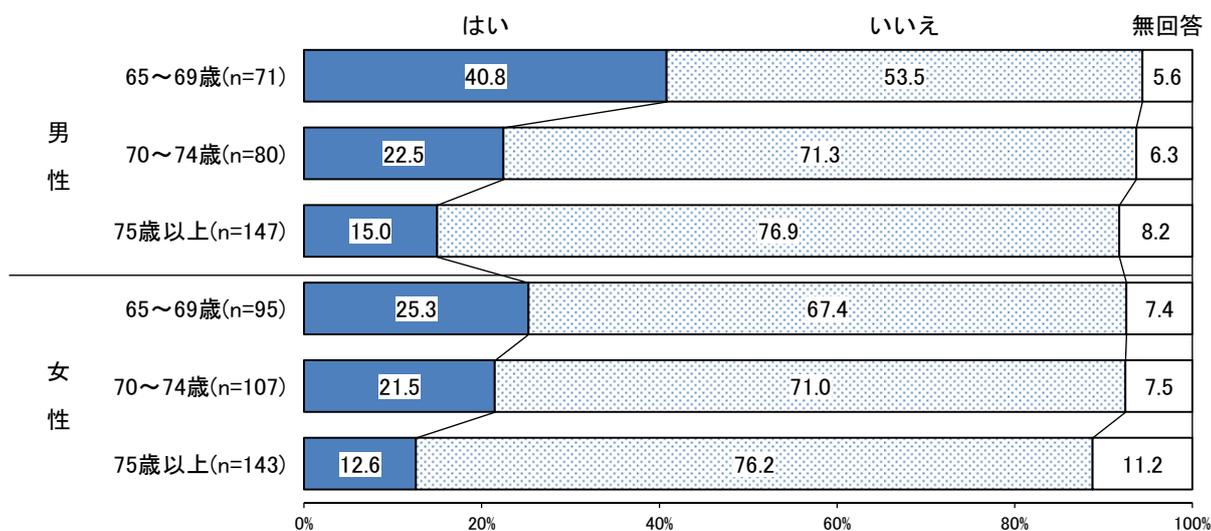
地域活動に企画・運営（お世話役）として『参加意向がある』人に、参加する際の報酬についてたずねると、「いいえ」が70.8%に対して、「はい」が21.0%となっている。

【図 地域活動に企画・運営（お世話役）として参加する際の報酬について】



性・年齢別でみると、男女とも「いいえ」は高齢になるほど高くなっている。「はい」は男性の65～69歳で40.8%と、女性の65～69歳（25.3%）より15.5ポイント高くなっている。

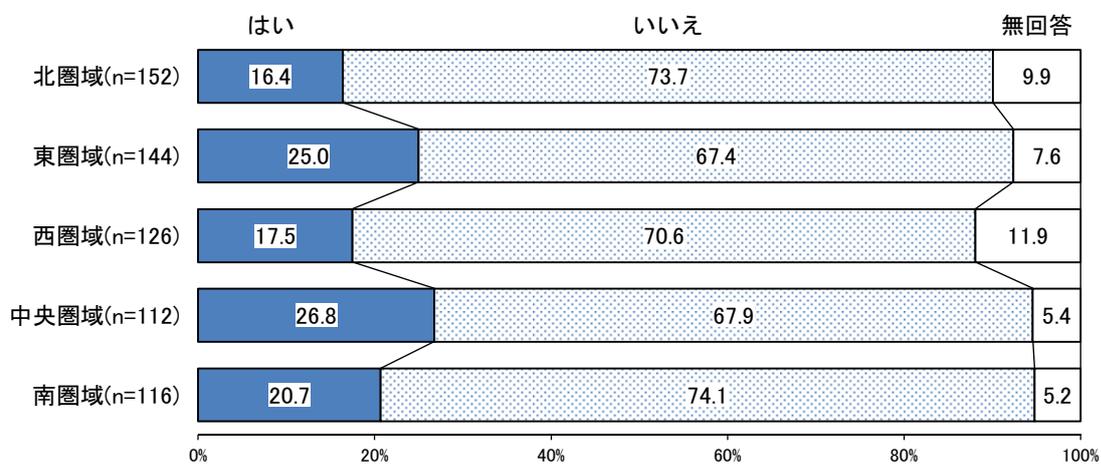
【図 性・年齢別 地域活動に企画・運営（お世話役）として参加する際の報酬について】



Ⅱ 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査

圏域別でみると、「はい」は中央圏域が26.8%で最も高く、次いで東圏域（25.0%）となっている。一方、「いいえ」は南圏域が74.1%で最も高く、次いで北圏域（73.7%）となっている。

【図 圏域別 地域活動に企画・運営（お世話役）として参加する際の報酬について】

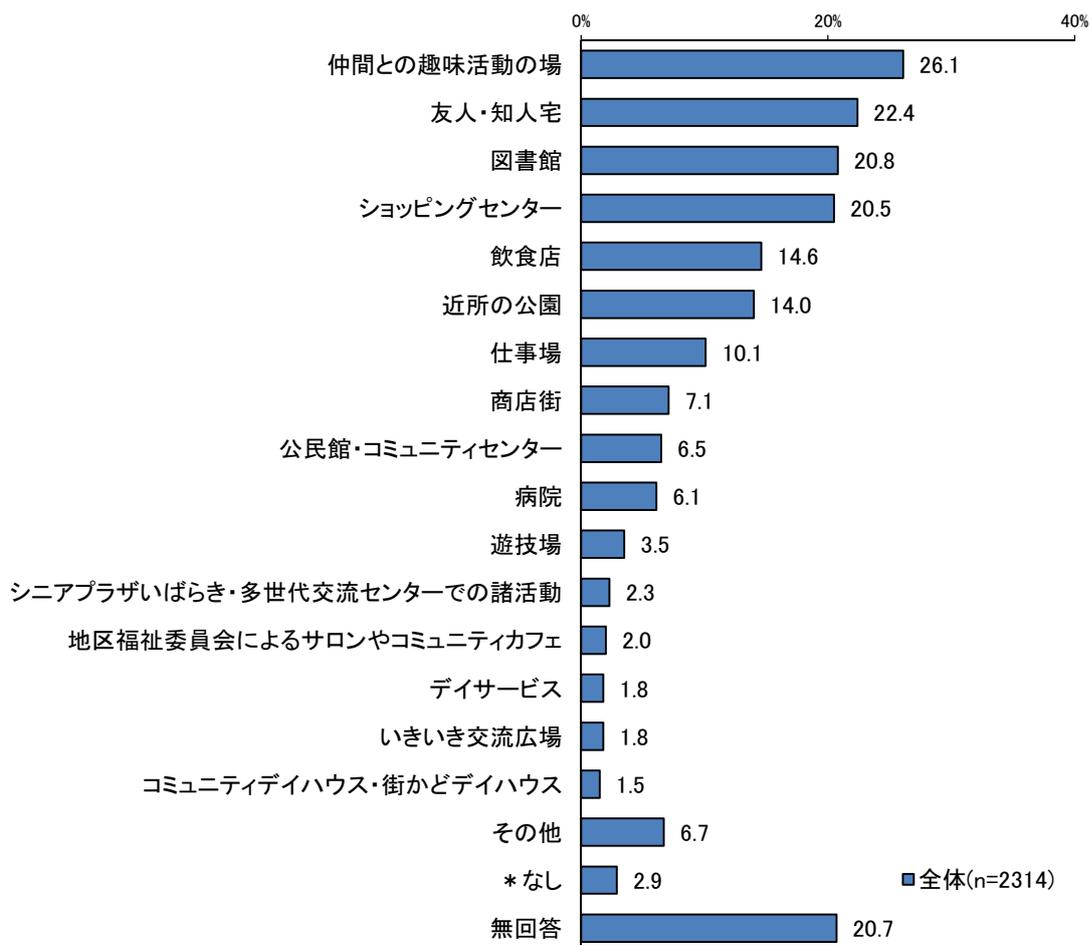


(5) 落ち着ける・安心できる場所

問5 Q4 自宅以外に落ち着ける・安心できる場所はありますか。(いくつでも)

落ち着ける・安心できる場所については、「仲間との趣味活動の場」が26.1%で最も高く、次いで「友人・知人宅」が22.4%、「図書館」が20.8%、「ショッピングセンター」が20.5%となっている。

【図 落ち着ける・安心できる場所】

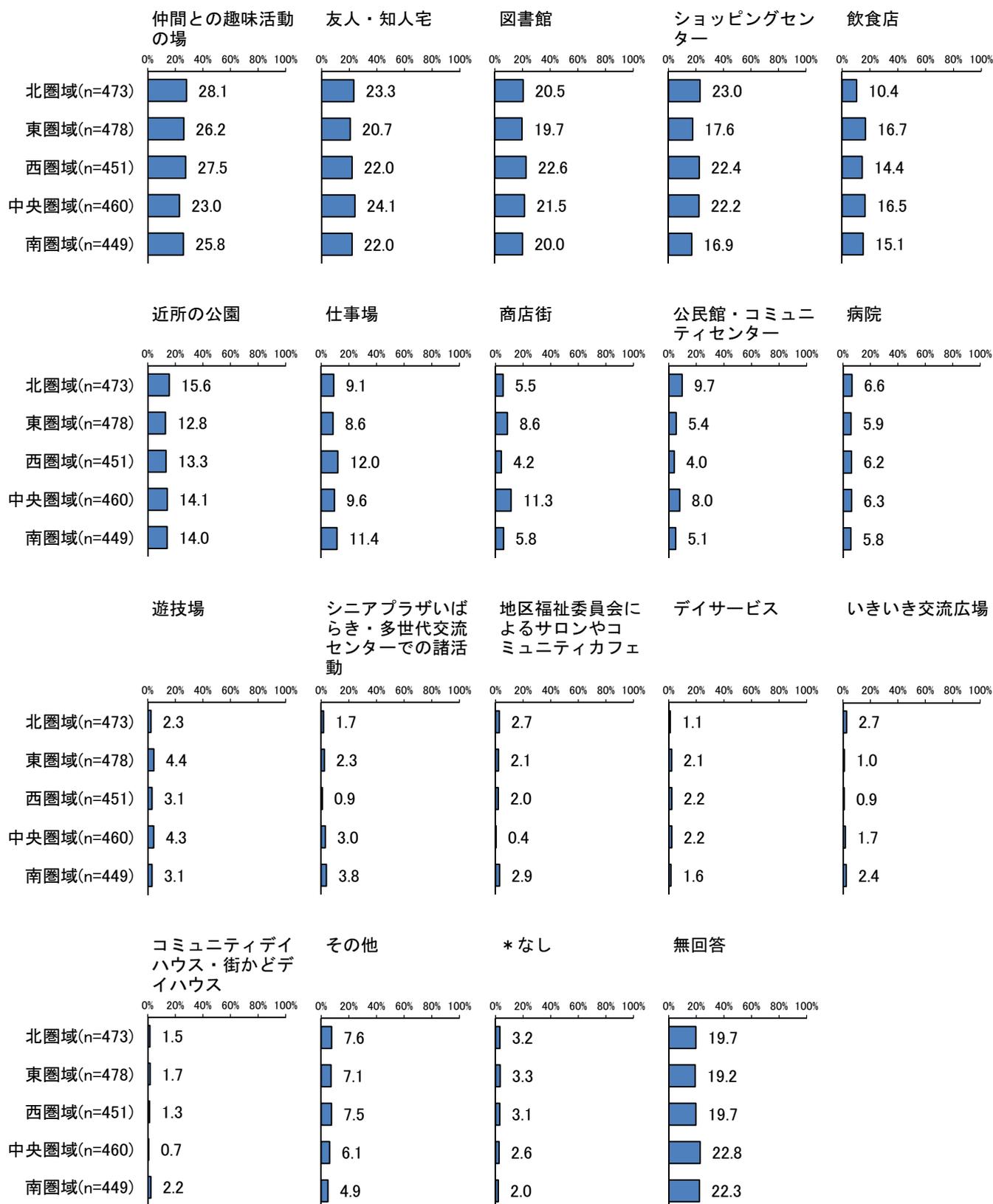


* 「なし」は「その他」の記入内容から抽出

Ⅱ 介護予防・日常生活圏域二ーズ調査

圏域別でみると、中央圏域以外は「仲間との趣味活動の場」が最も高いが、中央圏域では「友人・知人宅」が最も高くなっている。

【図 圏域別 落ち着ける・安心できる場所】

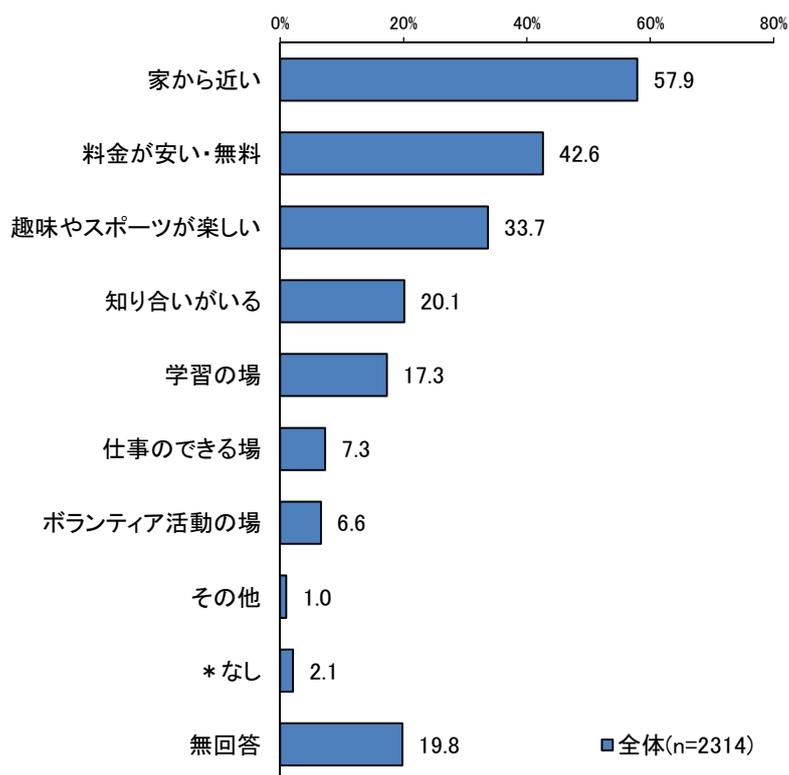


(6) 利用したいと思う居場所

問5Q5 どのような居場所があれば利用しようと思いますか。(いくつでも)

利用したいと思う居場所については、「家から近い」が57.9%で最も高く、次いで「料金が安い・無料」が42.6%、「趣味やスポーツが楽しい」が33.7%となっている。

【図 利用したいと思う居場所】

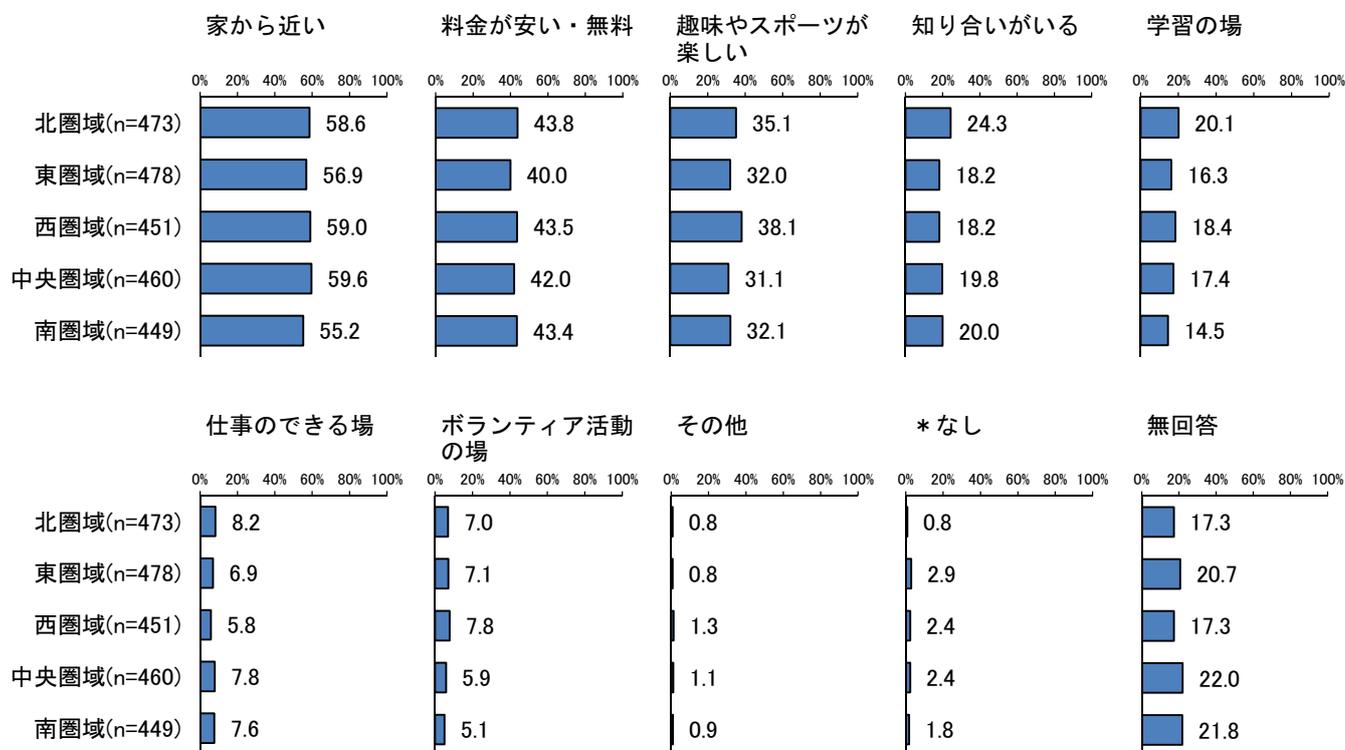


*「なし」は「その他」の記入内容から抽出

Ⅱ 介護予防・日常生活圏域二ーズ調査

圏域別でみると、いずれの圏域も「家から近い」が最も高く、5割台となっている。「趣味やスポーツが楽しい」では西圏域が最も高くなっている。

【図 圏域別 利用したいと思う居場所】



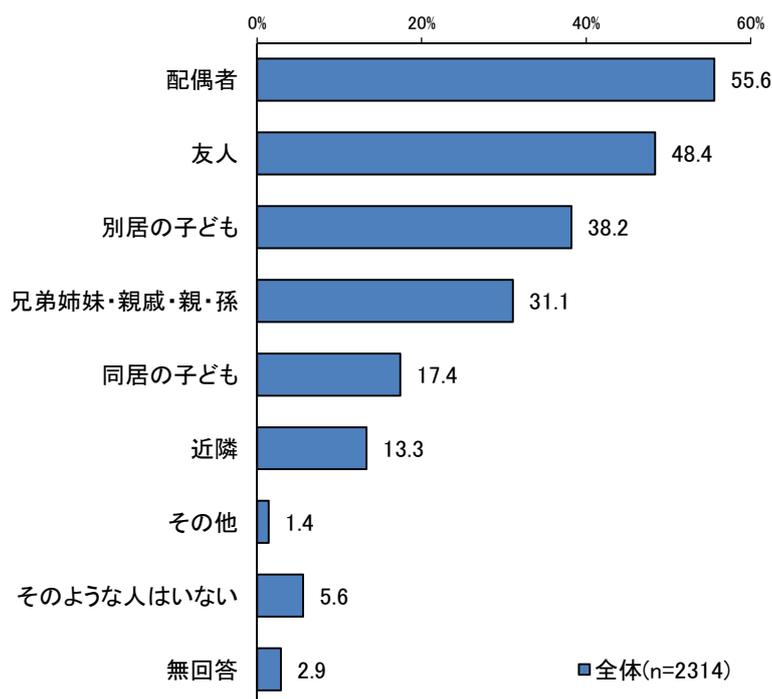
7 たすけあいについて

(1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人

問6Q1 あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人(いくつでも)

心配事や愚痴を聞いてくれる人については、「配偶者」が55.6%で最も高く、次いで「友人」が48.4%、「別居の子ども」が38.2%となっている。

【図 心配事や愚痴を聞いてくれる人】



年齢別でみると、「配偶者」、「友人」、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」は高齢になるほど割合が低くなっており、「近隣」は高齢になるほど割合が高くなっている。

【表 年齢別 心配事や愚痴を聞いてくれる人】

	回答者数 (n)	配偶者	友人	別居の子ども	親兄弟姉妹・親戚・孫	同居の子ども	近隣	その他	ない	そのような人はいない	無回答
全体	2314	55.6	48.4	38.2	31.1	17.4	13.3	1.4	5.6	2.9	
65～69歳	484	64.0	55.8	40.1	35.1	15.9	9.5	1.9	3.7	1.2	
70～74歳	619	62.0	54.8	36.8	31.5	14.5	12.8	1.0	6.6	2.4	
75歳以上	1187	49.1	42.7	38.2	29.6	19.5	15.0	1.3	5.6	3.8	

Ⅱ 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査

家族構成別でみると、1人暮らしは「友人」が54.3%で最も高く、夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）と夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）では「配偶者」が、息子・娘との2世帯は「同居の子ども」が最も高くなっている。

【表 家族構成別 心配事や愚痴を聞いてくれる人】

(%)

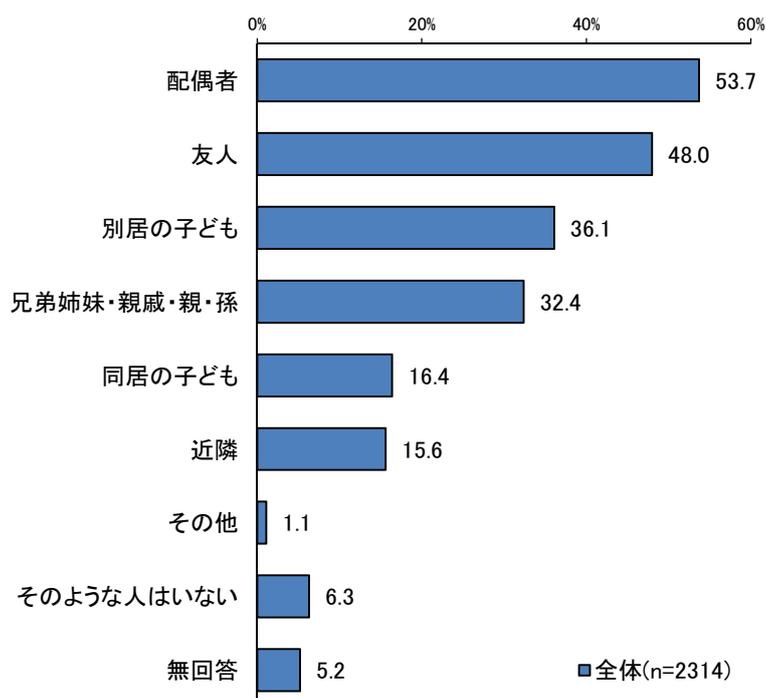
	回答者数 (n)	配偶者	友人	別居の子ども	親兄弟・孫・姉妹・親戚・	同居の子ども	近隣	その他	ない そのような人は い	無回答
全体	2314	55.6	48.4	38.2	31.1	17.4	13.3	1.4	5.6	2.9
1人暮らし	411	1.5	54.3	45.3	37.5	0.7	17.8	1.2	12.4	4.1
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	1049	80.0	48.9	47.1	29.2	2.1	13.0	0.9	3.5	2.1
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	113	81.4	33.6	23.0	22.1	5.3	6.2	0.9	6.2	6.2
息子・娘との2世帯	592	49.2	46.3	23.1	28.0	55.6	13.0	1.9	4.4	2.9
その他	122	36.9	54.1	29.5	49.2	29.5	10.7	4.9	4.1	1.6

(2) 心配事や愚痴を聞いてあげる人

問6Q2 反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人(いくつでも)

心配事や愚痴を聞いてあげる人については、「配偶者」が53.7%で最も高く、次いで「友人」が48.0%、「別居の子ども」が36.1%となっている。

【図 心配事や愚痴を聞いてあげる人】



年齢別でみると、いずれの年代も「配偶者」が最も高く、「同居の子ども」と「近隣」以外は高齢になるほど割合が低くなっている。

【表 年齢別 心配事や愚痴を聞いてあげる人】

	回答者数 (n)	配偶者	友人	別居の子ども	親・兄弟姉妹・親戚・孫	同居の子ども	近隣	その他	ない	そのような人はいない	無回答
全体	2314	53.7	48.0	36.1	32.4	16.4	15.6	1.1	6.3	5.2	
65～69歳	484	63.4	55.4	40.7	36.8	15.9	10.7	2.3	4.8	2.3	
70～74歳	619	59.1	51.4	38.6	34.1	14.5	16.5	0.8	7.1	3.6	
75歳以上	1187	47.2	43.3	33.1	30.2	17.5	17.3	0.8	6.5	7.1	

Ⅱ 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査

家族構成別でみると、1人暮らしは「友人」が54.3%で最も高く、夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）と夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）では「配偶者」が、息子・娘との2世帯は「同居の子ども」が最も高くなっている。

【表 家族構成別 心配事や愚痴を聞いてあげる人】

(%)

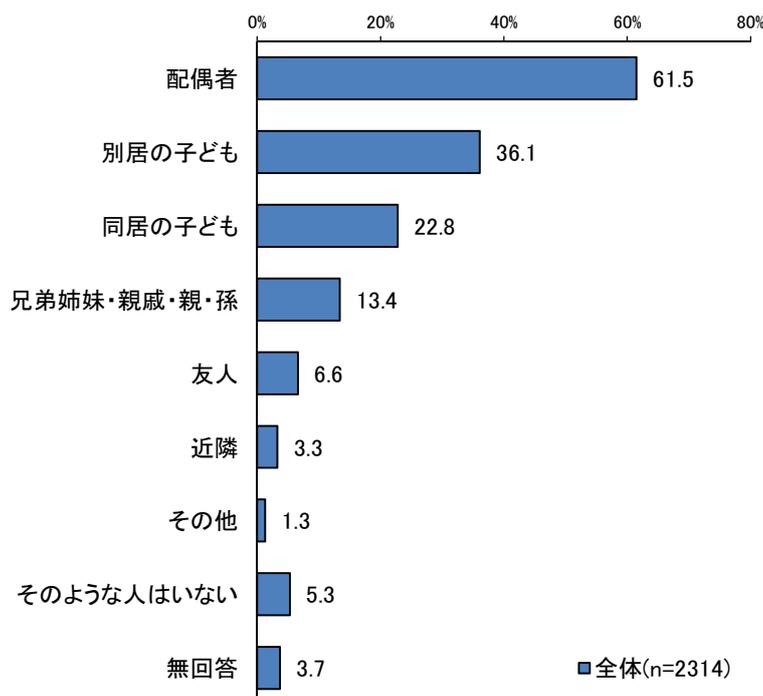
	回答者数 (n)	配偶者	友人	別居の子ども	親兄弟・孫・姉妹・親戚・	同居の子ども	近隣	その他	ない そのような人は い	無回答
全体	2314	53.7	48.0	36.1	32.4	16.4	15.6	1.1	6.3	5.2
1人暮らし	411	1.5	54.3	34.5	34.5	0.5	18.2	1.7	15.3	6.3
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	1049	75.0	48.0	45.9	32.7	1.9	16.3	0.9	3.5	4.6
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	113	80.5	35.4	27.4	22.1	4.4	8.0	-	7.1	5.3
息子・娘との2世帯	592	51.0	45.9	23.5	30.2	52.4	14.5	0.8	4.9	5.1
その他	122	37.7	51.6	29.5	44.3	29.5	16.4	3.3	5.7	4.9

(3) 看病や世話をしてくれる人

問6Q3 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人(いくつでも)

病気で寝込んだときに看病や世話をしてくれる人については、「配偶者」が61.5%で最も高く、次いで「別居の子ども」が36.1%、「同居の子ども」が22.8%となっている。

【図 看病や世話をしてくれる人】



年齢別でみると、いずれの年代も「配偶者」が最も高いが、「配偶者」は高齢になるほど割合が低くなっており、「別居の子ども」と「同居の子ども」「友人」は高齢になるほど割合が高くなっている。

【表 年齢別 看病や世話をしてくれる人】

	回答者数 (n)	配偶者	別居の子ども	同居の子ども	親・兄弟姉妹・親戚・孫	友人	近隣	その他	ない その ような 人はい	無回答
全体	2314	61.5	36.1	22.8	13.4	6.6	3.3	1.3	5.3	3.7
65～69歳	484	72.9	33.7	19.4	14.5	5.4	2.5	1.2	4.5	3.1
70～74歳	619	70.0	33.8	21.0	12.0	6.5	2.3	1.1	4.0	2.9
75歳以上	1187	52.7	38.6	25.0	14.1	7.3	4.2	1.2	6.2	4.3

Ⅱ 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査

家族構成別でみると、1人暮らしは「別居の子ども」が50.6%で最も高く、夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）と夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）では「配偶者」が、息子・娘との2世帯は「同居の子ども」が最も高くなっている。

【表 家族構成別 看病や世話をしてくれる人】

(%)

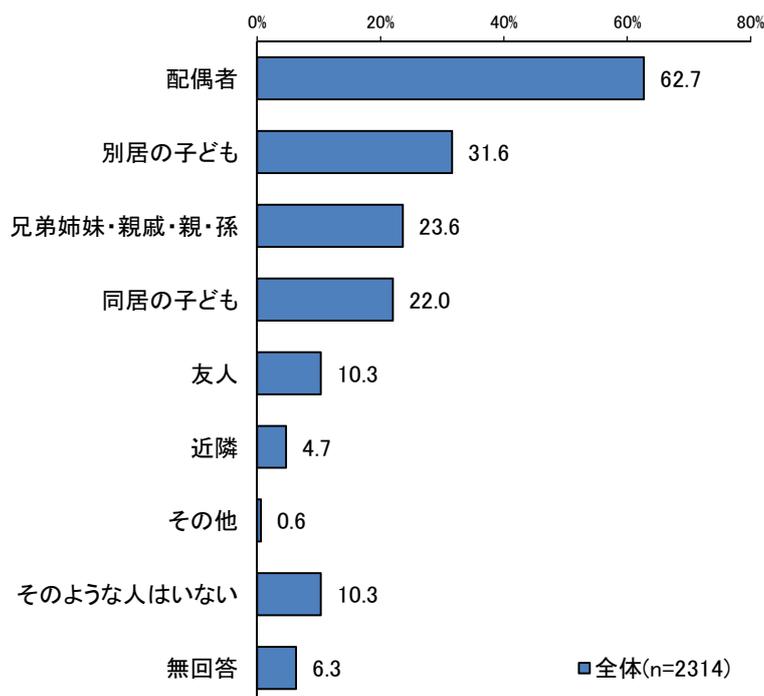
	回答者数 (n)	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	親兄弟・孫・姉妹・親戚・	近隣	友人	その他	ない そのような人は ない	無回答
全体	2314	61.5	22.8	36.1	13.4	3.3	6.6	1.3	5.3	3.7
1人暮らし	411	1.2	0.7	50.6	21.7	6.3	15.8	2.4	21.2	4.9
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	1049	88.2	2.5	40.8	10.8	3.0	5.0	0.4	1.5	3.8
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	113	93.8	6.2	28.3	8.8	0.9	1.8	-	1.8	1.8
息子・娘との2世帯	592	54.9	73.1	21.6	9.6	2.0	4.1	0.8	2.2	2.9
その他	122	39.3	42.6	27.0	32.0	4.9	7.4	6.6	3.3	3.3

(4) 看病や世話をしあける人

問6Q4 反対に、看病や世話をしあける人(いくつでも)

看病や世話をしあける人については、「配偶者」が62.7%で最も高く、次いで「別居の子ども」が31.6%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が23.6%となっている。

【図 看病や世話をしあける人】



年齢別でみると、いずれの年代も「配偶者」が最も高く、「配偶者」、「別居の子ども」、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」、「同居の子ども」は高齢になるほど割合が低くなっている。

【表 年齢別 看病や世話をしあける人】

	回答者数 (n)	配偶者	別居の子ども	親・兄弟姉妹・親戚・孫	同居の子ども	友人	近隣	その他	ないそのような人はい	無回答
全体	2314	62.7	31.6	23.6	22.0	10.3	4.7	0.6	10.3	6.3
65～69歳	484	72.3	40.1	34.3	23.8	10.5	3.5	0.8	7.4	2.7
70～74歳	619	71.2	35.4	24.4	22.6	11.3	4.7	0.8	6.9	3.6
75歳以上	1187	54.7	26.5	19.3	20.9	9.8	5.2	0.4	13.1	8.9

Ⅱ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

家族構成別でみると、1人暮らしは「別居の子ども」が31.9%で最も高く、夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）と夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）では「配偶者」が、息子・娘との2世帯は「同居の子ども」が最も高くなっている。

【表 家族構成別 看病や世話をしている人】

(%)

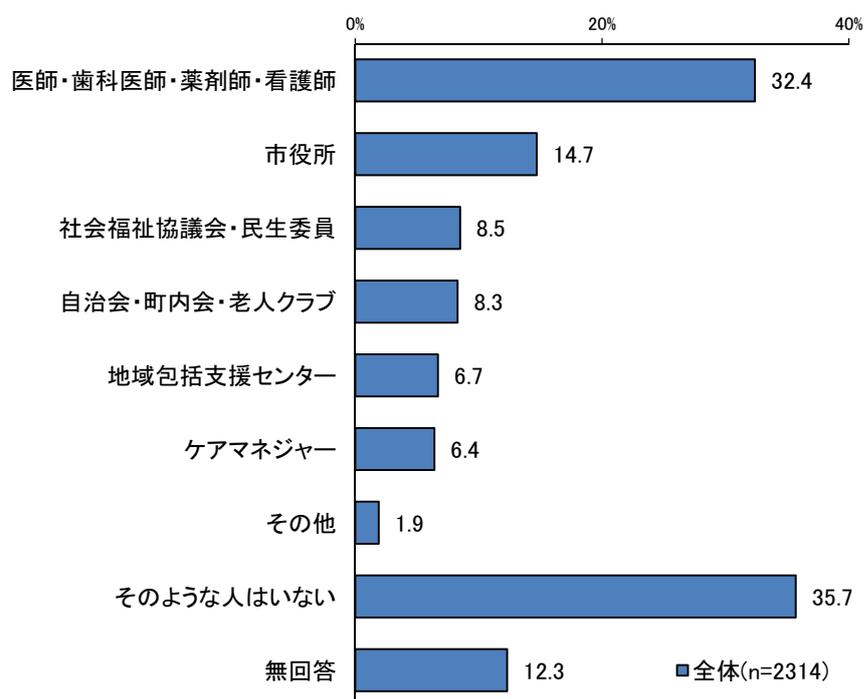
	回答者数 (n)	配偶者	別居の子ども	親・兄弟・孫・姉妹・親戚・	同居の子ども	友人	近隣	その他	ない そのような人は	無回答
全体	2314	62.7	31.6	23.6	22.0	10.3	4.7	0.6	10.3	6.3
1人暮らし	411	2.2	31.9	28.0	1.7	15.6	6.3	0.2	35.5	8.3
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	1049	89.3	38.8	21.4	2.6	9.3	4.8	-	3.1	5.6
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	113	84.1	25.7	23.0	11.5	4.4	3.5	-	7.1	5.3
息子・娘との2世帯	592	58.4	22.1	21.3	69.4	10.1	3.7	0.8	6.1	5.1
その他	122	40.2	25.4	42.6	33.6	7.4	4.1	6.6	11.5	8.2

(5) 相談相手 (家族・友人・知人以外)

問6Q5 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。(いくつでも)

家族や友人・知人以外で相談する相手については、「そのような人はいない」が35.7%で最も高く、相談相手では「医師・歯科医師・薬剤師・看護師」が32.4%、「市役所」が14.7%、「社会福祉協議会・民生委員」が8.5%、「自治会・町内会・老人クラブ」が8.3%となっている。

【図 相談相手 (家族・友人・知人以外)】



Ⅱ 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査

年齢別でみると、65～74歳では「そのような人はいない」が最も高く、75歳以上では「医師・歯科医師・薬剤師・看護師」が最も高くなっている。「市役所」以外は高齢になるほど割合が高くなっている。

【表 年齢別 相談相手（家族・友人・知人以外）】

	回答者数 (n)	薬剤師・ 医師・ 歯科 医師・ 看護師	市役所	民生委 社会福 祉協 議会	老人自 治会 クラブ ・町 内会	タ ー 地 域 包 括 支 援 セ ン	ケ ア マ ネ ジ ャ ー	その他	ない そ の よ う な 人 は い	無 回 答
全体	2314	32.4	14.7	8.5	8.3	6.7	6.4	1.9	35.7	12.3
65～69歳	484	27.3	14.5	4.5	5.2	3.3	2.9	1.9	49.4	9.9
70～74歳	619	30.4	13.2	7.1	7.9	4.4	4.5	1.8	40.7	12.0
75歳以上	1187	35.6	15.5	10.9	10.0	9.4	8.7	2.1	27.9	13.2

圏域別でみると、北圏域は「医師・歯科医師・薬剤師・看護師」が最も高いが、それ以外の圏域では「そのような人はいない」が最も高くなっている。

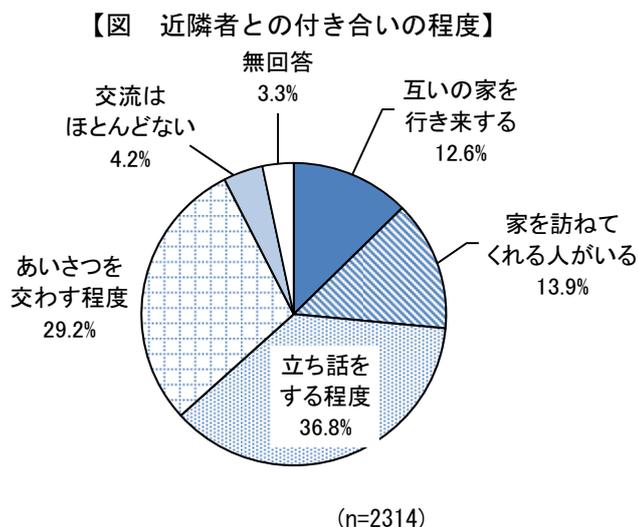
【表 圏域別 相談相手（家族・友人・知人以外）】

	回答者数 (n)	薬剤師・ 医師・ 歯科 医師・ 看護師	市役所	民生委 社会福 祉協 議会	老人自 治会 クラブ ・町 内会	タ ー 地 域 包 括 支 援 セ ン	ケ ア マ ネ ジ ャ ー	その他	ない そ の よ う な 人 は い	無 回 答
全体	2314	32.4	14.7	8.5	8.3	6.7	6.4	1.9	35.7	12.3
北圏域	473	32.8	15.2	10.1	10.4	6.6	5.7	1.7	31.7	14.2
東圏域	478	30.5	12.3	7.9	6.1	6.1	6.7	2.5	36.4	13.6
西圏域	451	33.7	11.5	5.3	7.3	4.7	5.3	1.8	37.7	13.3
中央圏域	460	32.0	17.2	10.7	7.4	7.6	7.0	2.4	38.0	9.3
南圏域	449	33.0	17.4	8.2	10.7	8.5	6.9	1.3	34.7	11.1

(6) 近隣者との付き合いの程度

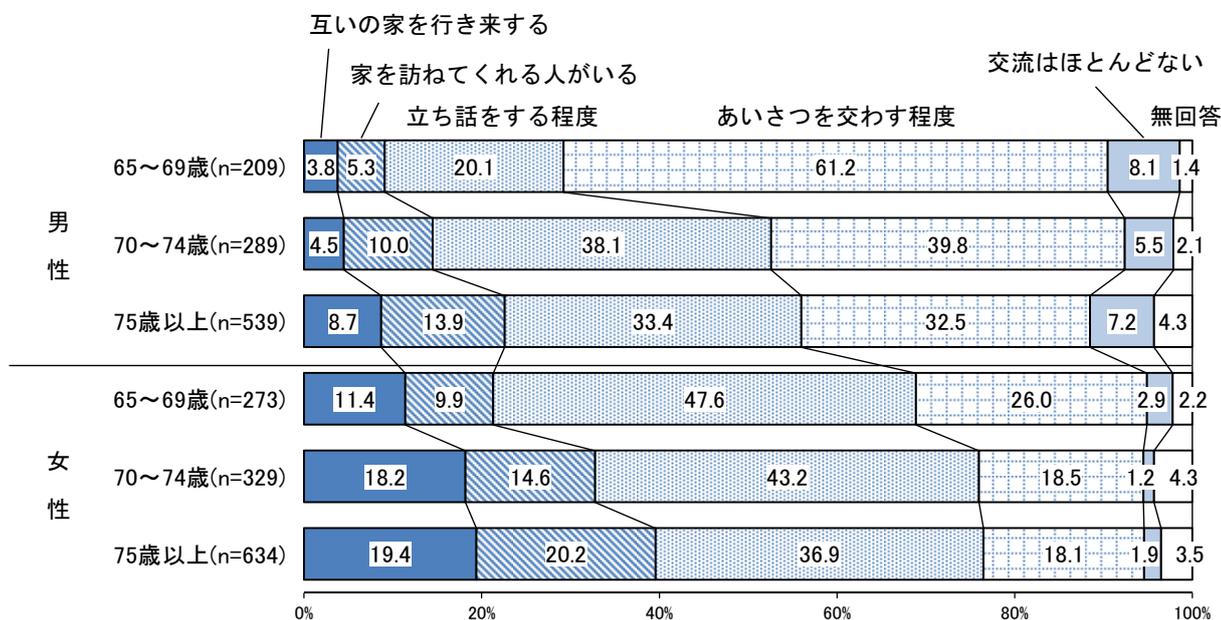
問6Q6 近隣者との付き合いは、どの程度ありますか。

近隣者との付き合いの程度については、「立ち話をする程度」が36.8%で最も高く、次いで「あいさつを交わす程度」が29.2%、「家を訪ねてくれる人がある」が13.9%、「互いの家を行き来する」が12.6%、「交流はほとんどない」が4.2%となっている。



性・年齢別でみると、女性はいずれの年代も「立ち話をする程度」が最も高く、年代が低くなるほど割合が高くなっている。男性は65～69歳では「あいさつを交わす程度」が61.2%で最も高いが、年代が高くなるほど「あいさつを交わす程度」の割合は低くなり、75歳以上では「立ち話をする程度」が最も高くなっている。また、男女とも、年代が高くなるほど「互いの家を行き来する」と「家を訪ねてくれる人がある」の割合は高くなっている。

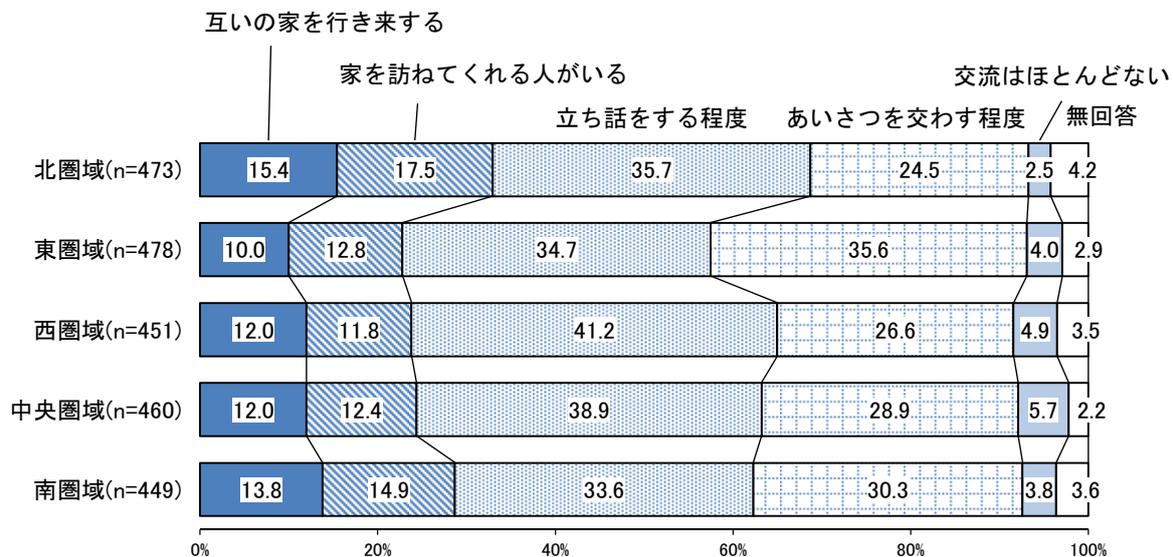
【図 性・年齢別 近隣者との付き合いの程度】



Ⅱ 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査

圏域別でみると、東圏域以外は「立ち話をする程度」が最も高くなっており、西圏域が最も高くなっている。北圏域では「互いの家を行き来する」、「家を訪ねてくれる人がいる」が他の圏域より高くなっている。

【図 圏域別 近隣者との付き合いの程度】

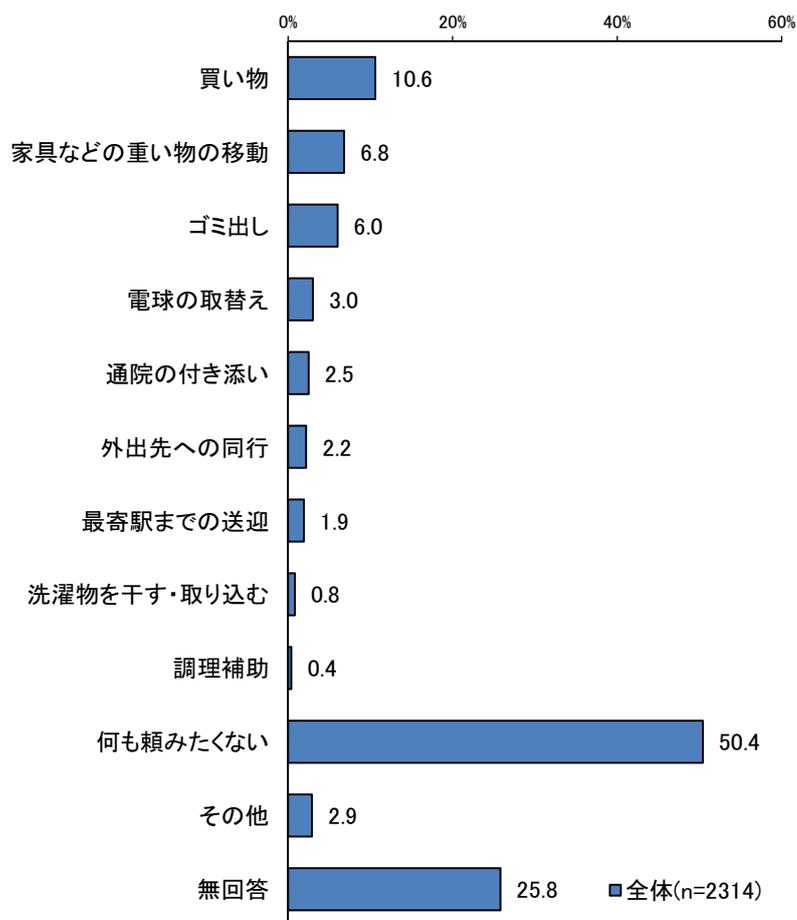


(7) 近所や地域の人に手伝ってもらいやすいこと

問6Q7 近所や地域の人に、手伝ってもらいやすいことは何ですか。(いくつでも)

近所や地域の人に手伝ってもらいやすいことについては、「買い物」が10.6%で最も高く、次いで「家具などの重い物の移動」が6.8%、「ゴミ出し」が6.0%となっている。一方、「何も頼みたくない」は50.4%となっている。

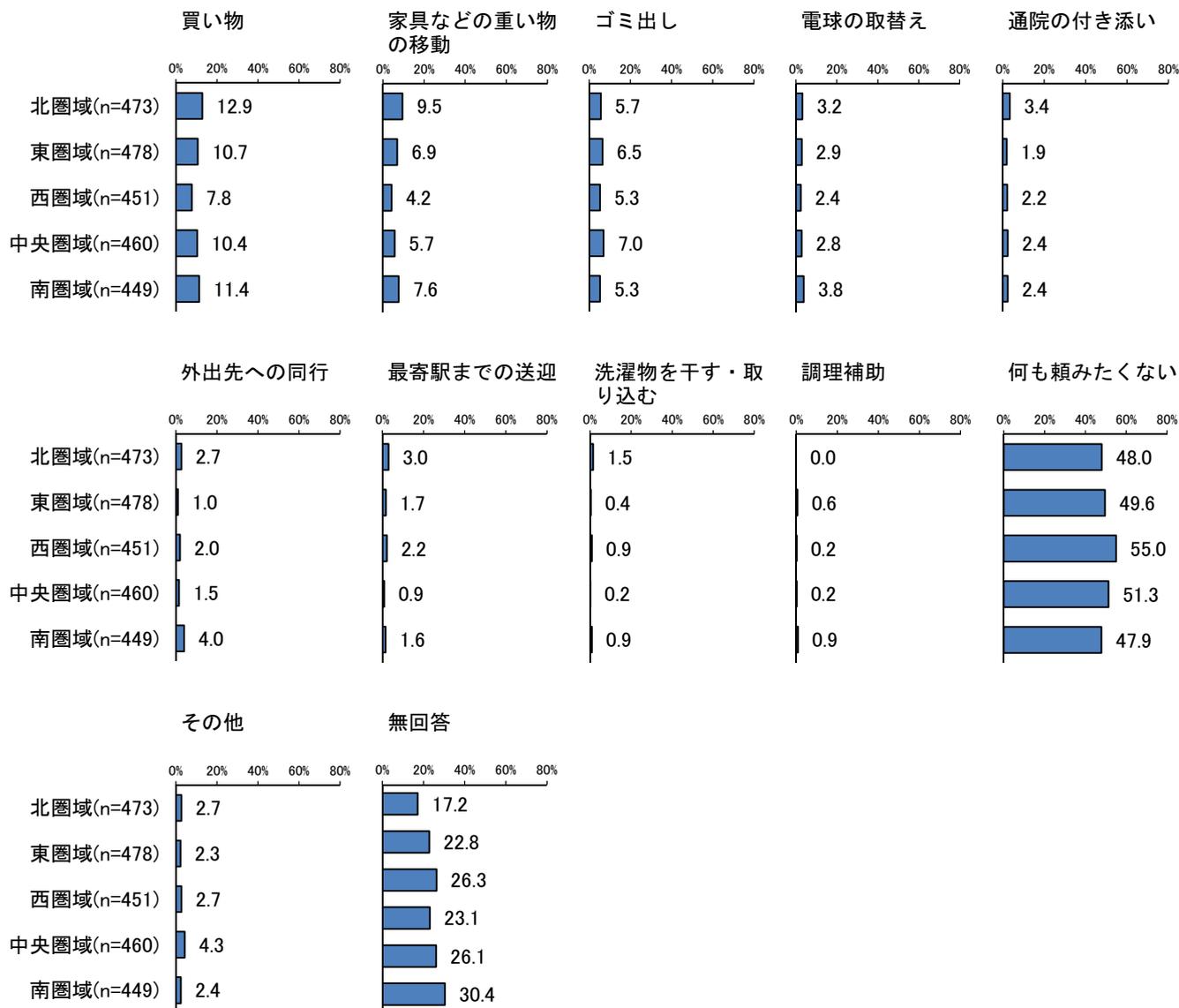
【図 近所や地域の人に手伝ってもらいやすいこと】



Ⅱ 介護予防・日常生活圏域二ーズ調査

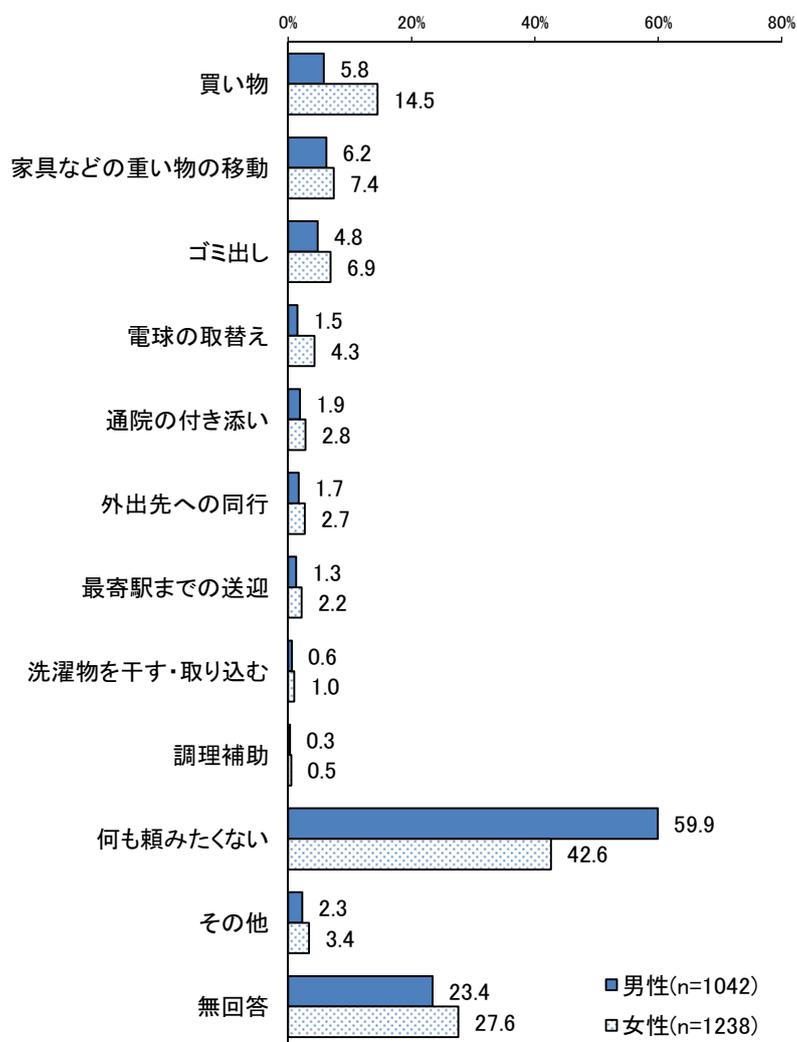
圏域別で見ると、いずれの圏域でも「何も頼みたくない」が約5割となっており、特に西圏域で55.0%と高くなっている。

【図 圏域別 近所や地域の人に手伝ってもらいやすいこと】



性別で見ると、男性は「何も頼みたくない」が59.9%と、女性の42.6%より17.3ポイント高くなっており、具体的に手伝ってもらいやすいことについては、いずれも女性の方が割合が高くなっている。

【図 性別 近所や地域の人に手伝ってもらいやすいこと】

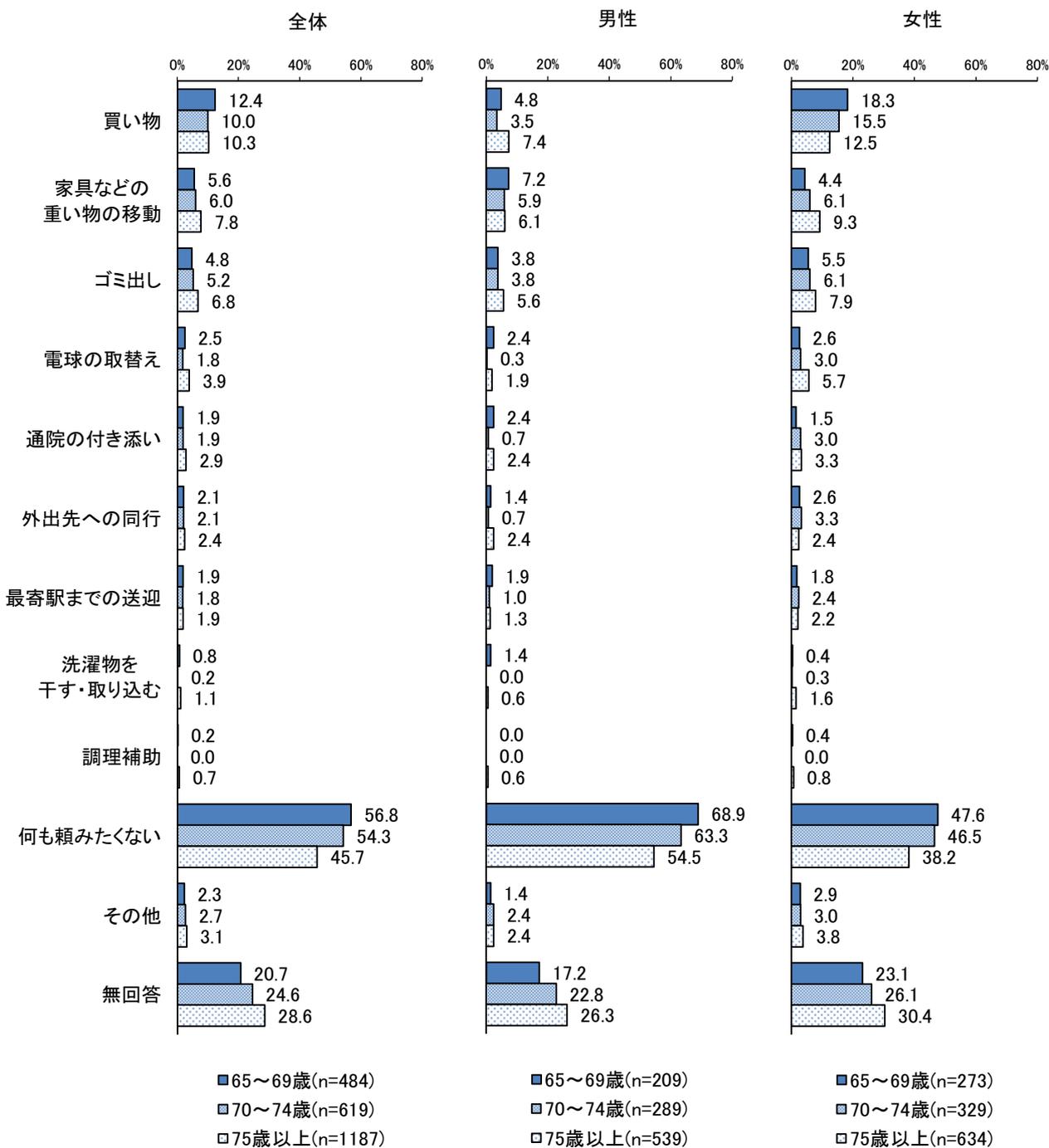


Ⅱ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

年齢別で見ると、年齢が高いほど「何も頼みたくない」の割合が低くなり、「家具などの重い物の移動」「ゴミ出し」「電球の取替え」の割合がやや高くなる傾向がみられる。

性年齢別で見ると、女性では年齢が高い方が「買い物」の割合が低く、「家具などの重い物の移動」「ゴミ出し」「電球の取替え」の割合が高くなっている。

【図 性年齢別 近所や地域の人に手伝ってもらいやすいこと】



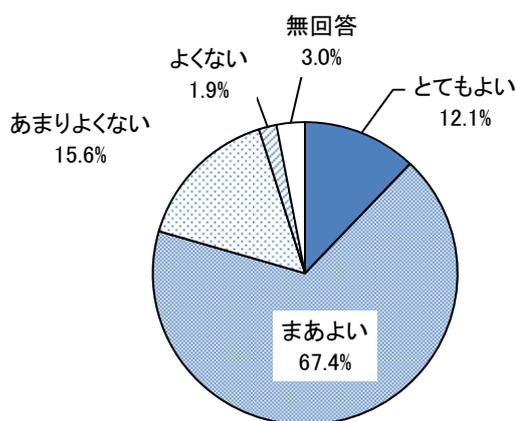
8 健康について

(1) 主観的健康観

問7Q1 現在のあなたの健康状態はいかがですか。

主観的健康観については、「まあよい」が67.4%で最も高く、次いで「あまりよくない」が15.6%、「とてもよい」が12.1%となっており、「とてもよい」と「まあよい」を合わせた『よい』は79.5%、「あまりよくない」と「よくない」を合わせた『よくない』は17.5%となっている。

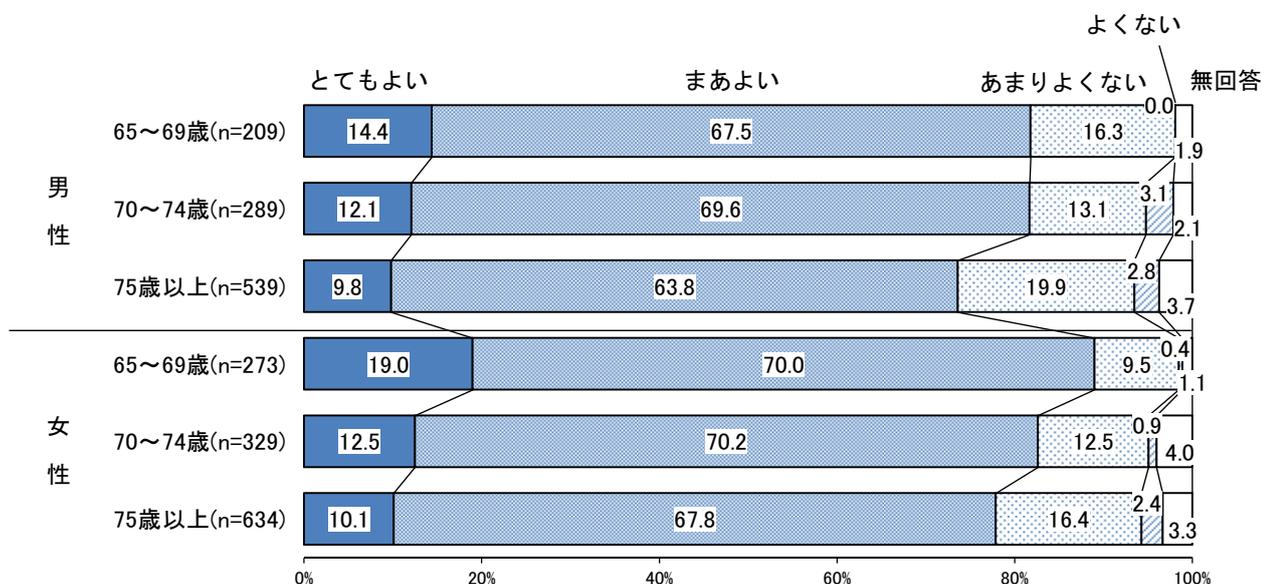
【図 主観的健康観】



(n=2314)

性・年齢別でみると、『よい』は男女とも65～69歳が最も高く、男性は81.9%、女性は89.0%となっている。

【図 性・年齢別 主観的健康観】



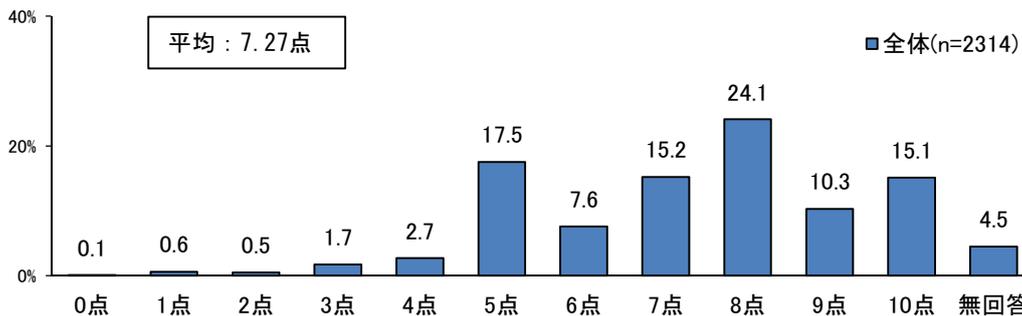
(2) 現在の幸福度

問7Q2 あなたは、現在どの程度幸せですか。

(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください。)

“とても不幸”を0点、“とても幸せ”を10点として採点した現在の幸福度は、「8点」が24.1%で最も高く、次いで「5点」が17.5%、「7点」が15.2%、「10点」が15.1%で、平均は7.27点となっている。

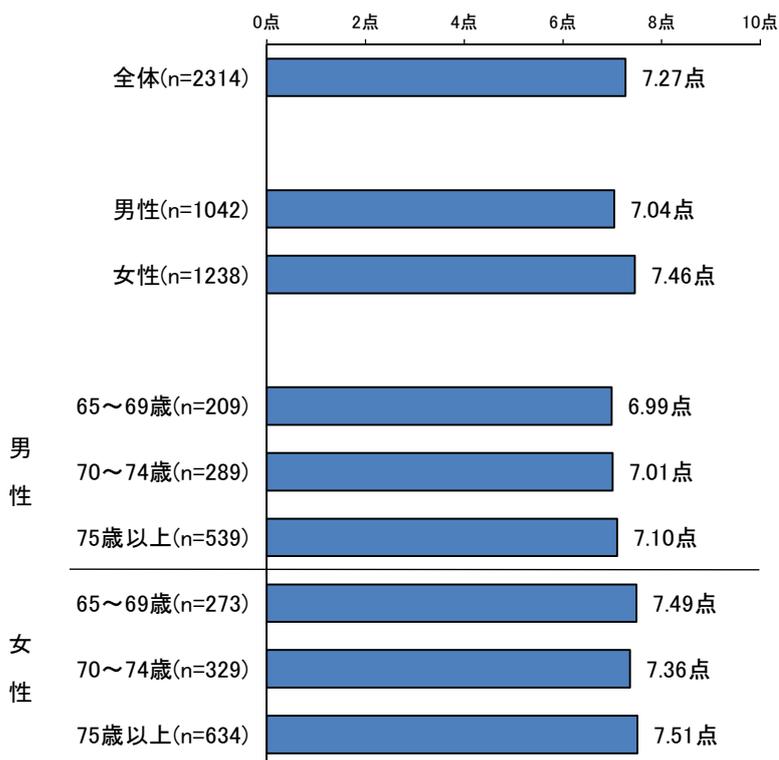
【図 現在の幸福度】



性別でみると、男性が7.04点、女性が7.46点で、女性のほうが高くなっている。

性・年齢別でみると、男女とも75歳以上で最も高くなっており、男性は高齢になるほど平均が高くなっている。

【図 性別、性・年齢別 現在の幸福度】

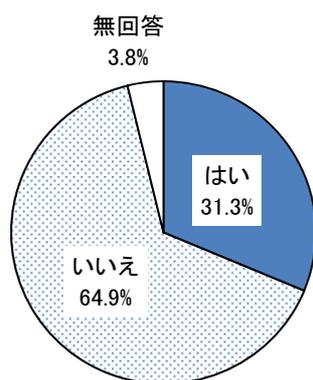


(3) 1か月間にゆううつな気持ちになったりすることがあったか

問7Q3 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。

この1か月間、ゆううつな気持ちになったりすることがあったかについては、「いいえ」が64.9%に対し、「はい」が31.3%となっている。

【図 1か月間にゆううつな気持ちになったりすることがあったか】



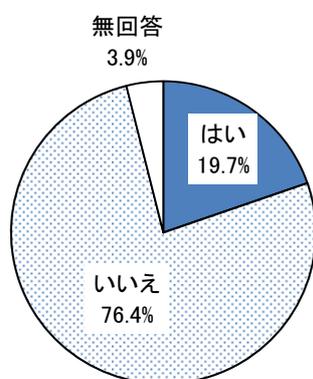
(n=2314)

(4) 1か月間に物事に対して心から楽しめない感じがよくあったか

問7Q4 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。

この1か月間に物事に対して心から楽しめない感じがよくあったかについては、「いいえ」が76.4%に対し、「はい」が19.7%となっている。

【図 1か月間に物事に対して心から楽しめない感じがよくあったか】



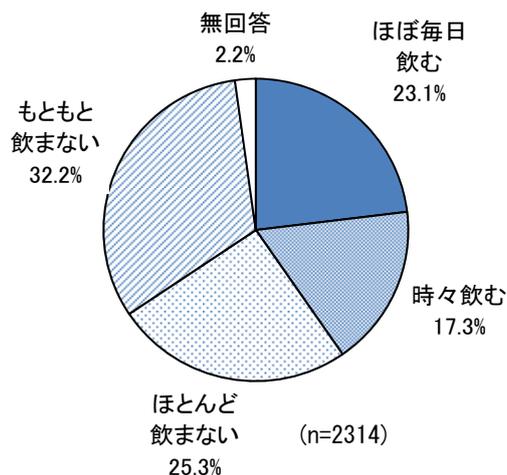
(n=2314)

(5) 飲酒習慣

問7Q5 お酒は飲みますか。

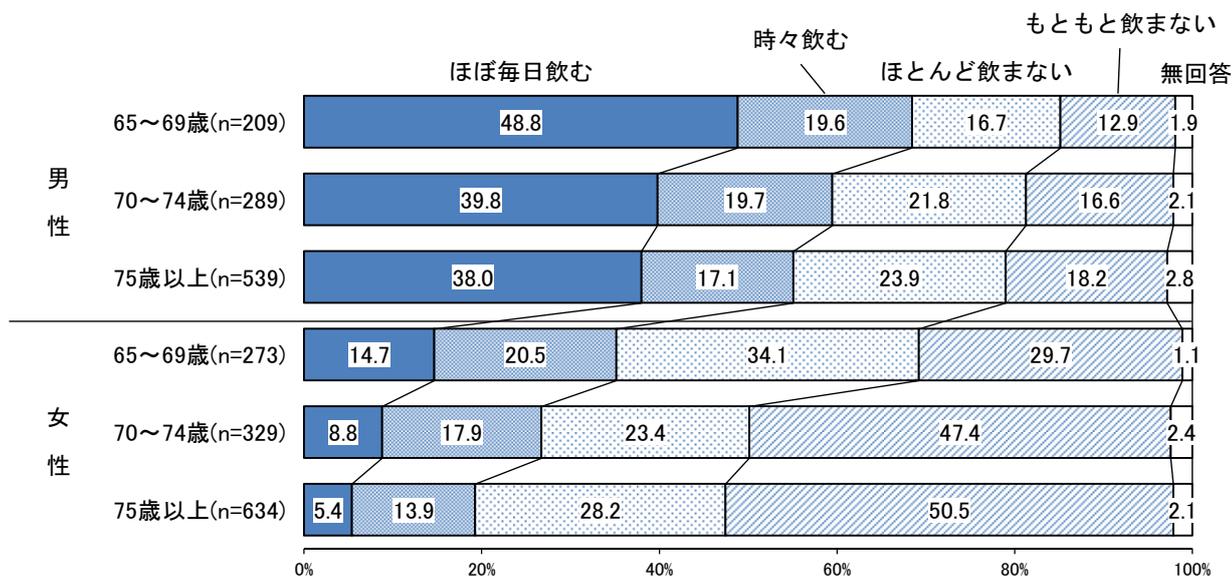
飲酒習慣については、「もともと飲まない」が32.2%で最も高く、次いで「ほとんど飲まない」が25.3%、「ほぼ毎日飲む」が23.1%となっている。

【図 飲酒習慣】



性・年齢別でみると、「ほぼ毎日飲む」は男性の65～69歳（48.8%）で最も高く、高齢になるほど低くなっている。「もともと飲まない」は男女とも高齢になるほど高い割合となっている。

【図 性・年齢別 飲酒習慣】

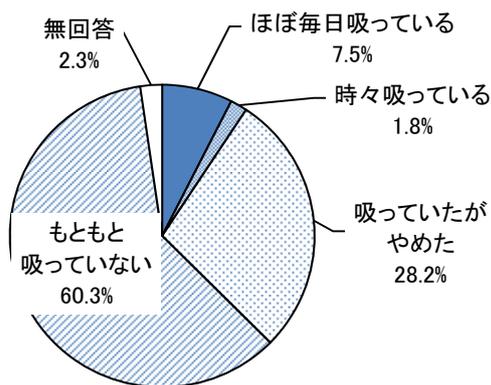


(6) 喫煙習慣

問7Q6 タバコは吸っていますか。

喫煙習慣については、「もともと吸っていない」が60.3%で最も高く、次いで「吸っていたがやめた」が28.2%、「ほぼ毎日吸っている」が7.5%となっている。

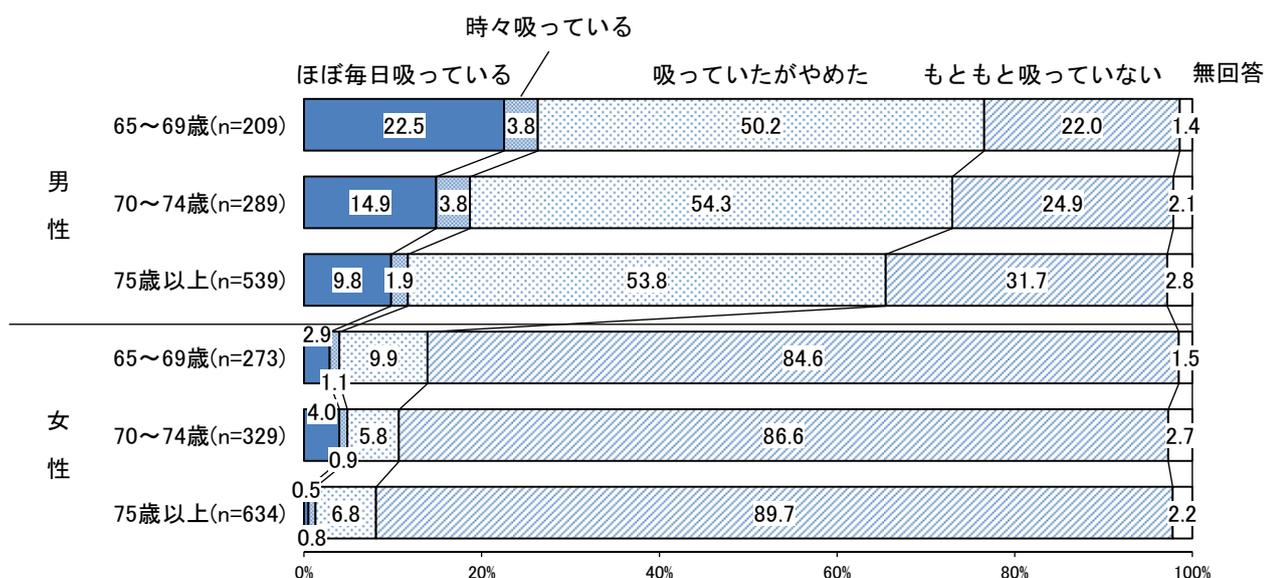
【図 喫煙習慣】



(n=2314)

性・年齢別でみると、女性はいずれの年代も「もともと吸っていない」が8割以上を占めている。「ほぼ毎日吸っている」は男性の65～69歳（22.5%）で最も高く、高齢になるほど割合は低くなり、「吸っていたがやめた」は70～74歳（54.3%）で最も高い割合となっている。

【図 性・年齢別 喫煙習慣】

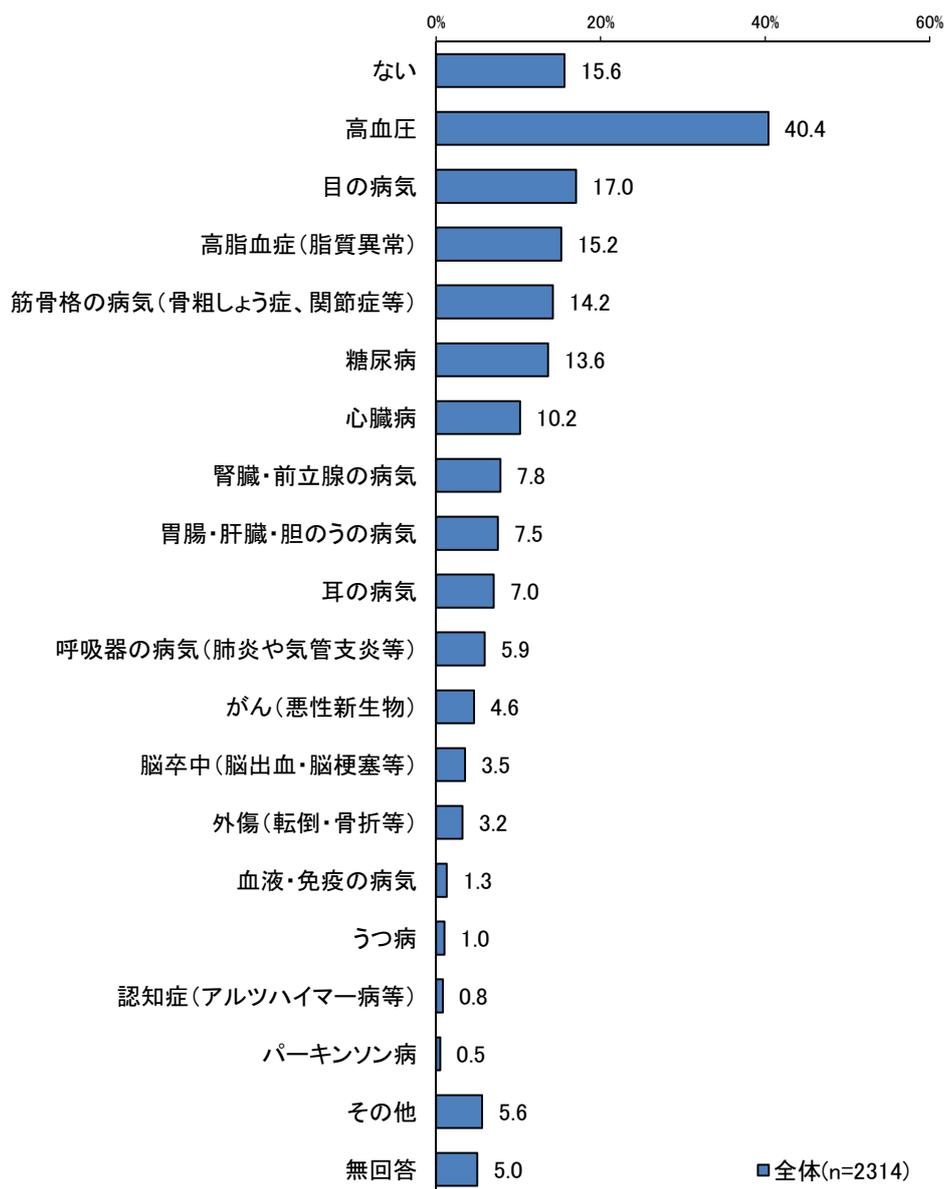


(7) 現在治療中または後遺症のある病気

問7Q7 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(いくつでも)

現在治療中、または後遺症のある病気については、「高血圧」が40.4%で最も高く、次いで「目の病気」が17.0%、「ない」が15.6%、「高脂血症(脂質異常)」が15.2%となっている。

【図 現在治療中または後遺症のある病気】



性・年齢別でみると、第1位は男女ともいづれの年代も「高血圧」となっており、第2位は男女とも65～69歳は「高脂血症（脂質異常）」となっている。

【表 現在治療中または後遺症のある病気（上位5項目）】

(%)

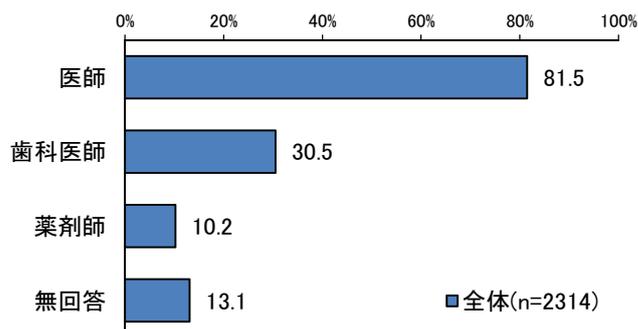
		回答者数 (n)	ない	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体		2314	15.6	高血圧 40.4	目の病気 17.0	高脂血症 （脂質異常） 15.2	筋骨格の病気 （骨粗しょう症、関節 症等） 14.2	糖尿病 13.6
男性	65～69歳	209	26.8	高血圧 32.5	高脂血症 （脂質異常） 16.7	糖尿病 15.3	目の病気 10.5	心臓病 10.0
	70～74歳	289	11.4	高血圧 44.6	高脂血症 （脂質異常） 18.0	目の病気 17.3	糖尿病 16.3	心臓病 12.5
	75歳以上	539	11.1	高血圧 48.6	腎臓・前立腺 の病気 21.0	糖尿病 19.7	心臓病 17.8	目の病気 16.1
女性	65～69歳	273	26.4	高血圧 22.7	高脂血症 （脂質異常） 18.7	筋骨格の病気 （骨粗しょう症、関節 症等） 14.7	目の病気 11.4	糖尿病 7.0
	70～74歳	329	17.3	高血圧 36.5	目の病気 20.1	高脂血症 （脂質異常） 18.5	筋骨格の病気 （骨粗しょう症、関節 症等） 17.9	糖尿病 11.2
	75歳以上	634	12.5	高血圧 43.5	筋骨格の病気 （骨粗しょう症、関節 症等） 24.9	目の病気 20.2	高脂血症 （脂質異常） 14.7	糖尿病 10.6

(8) かかりつけの医療提供者

問7Q8 健康や病気のことについて気軽に相談できる「かかりつけの医療提供者」をお持ちですか。(いくつでも)

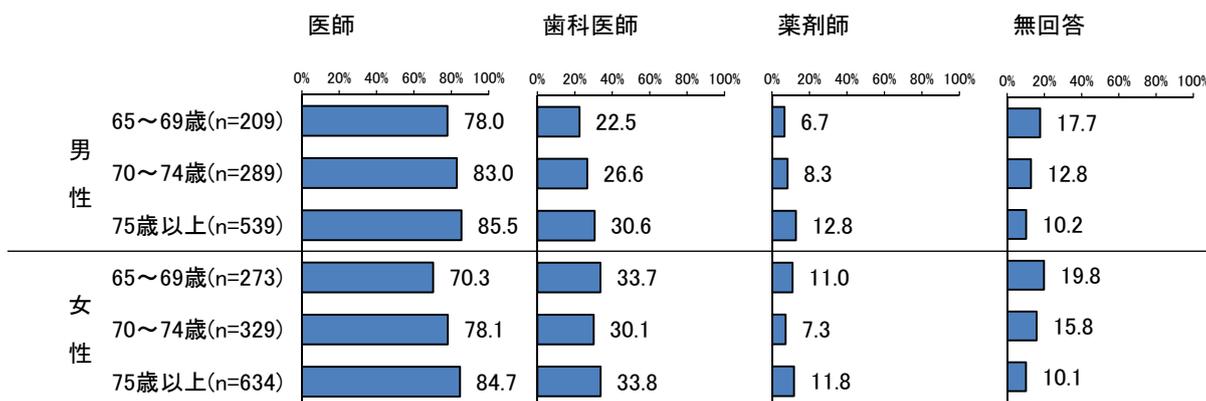
かかりつけの医療提供者については、「医師」が81.5%で最も高く、次いで「歯科医師」が30.5%、「薬剤師」が10.2%となっている。

【図 かかりつけの医療提供者】



性・年齢別で見ると、男女ともいずれの年代も「医師」が最も高く、男女とも高齢になるほど高い割合となっている。

【図 性・年齢別 かかりつけの医療提供者】



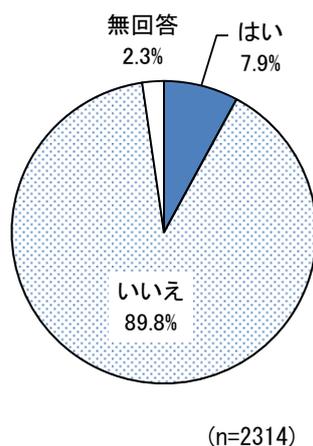
9 認知症について

(1) 自身や家族の認知症の症状の有無

問8Q1 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか。

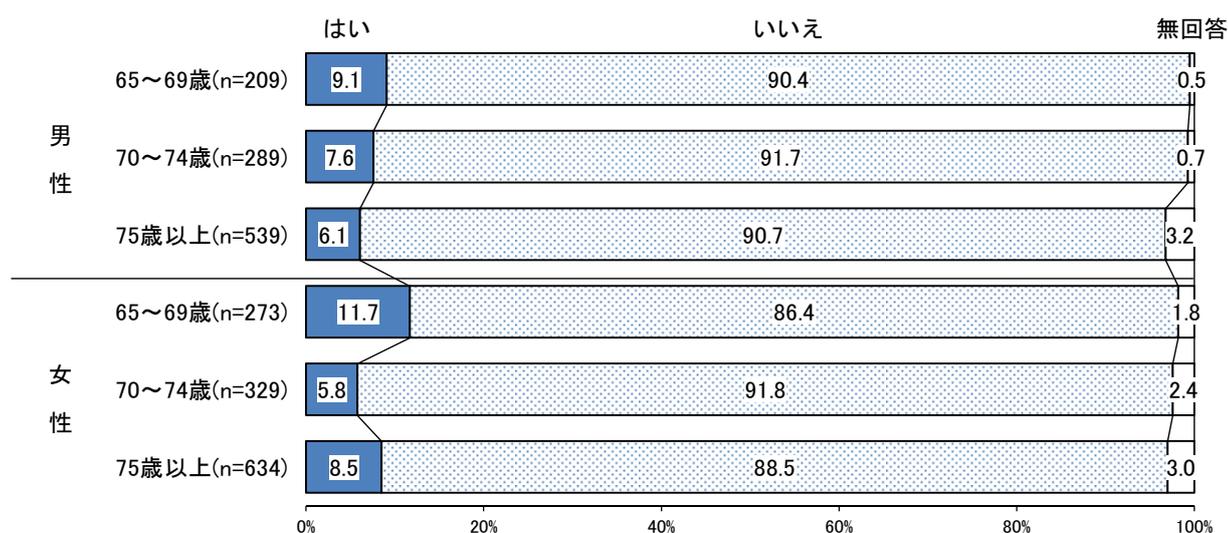
自身や家族の認知症の症状の有無については、「いいえ」が89.8%に対し、「はい」が7.9%となっている。

【図 自身や家族の認知症の症状の有無】



性・年齢別でみると、男女とも65～69歳で「はい」の割合が最も高くなっている。

【図 性・年齢別 自身や家族の認知症の症状の有無】



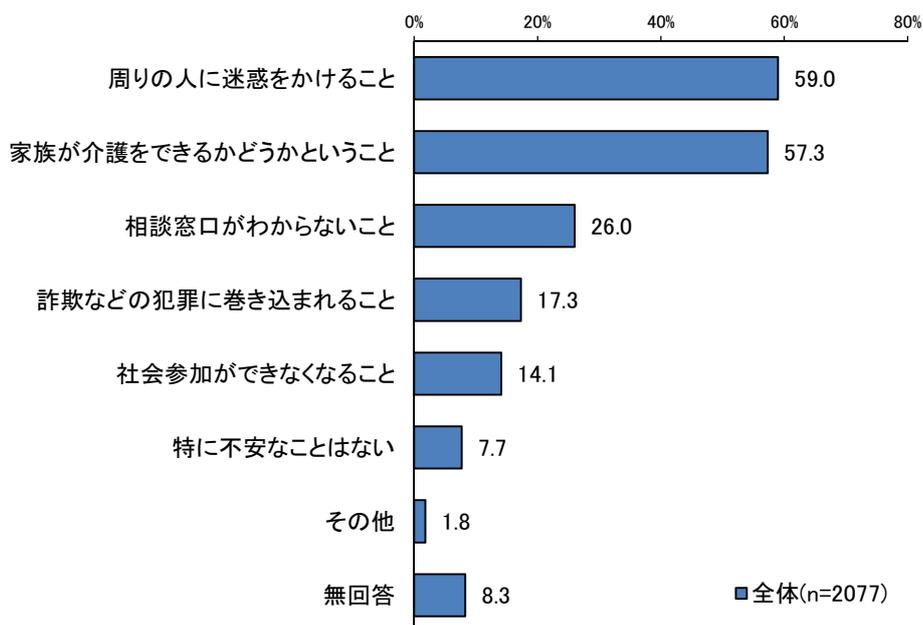
(2) 自身や家族が認知症になったら不安なこと

問8 Q1-1 【Q1で「2. いいえ」の方のみ】

①あなたやあなたの家族が認知症になったら不安なことは何ですか。(いくつでも)

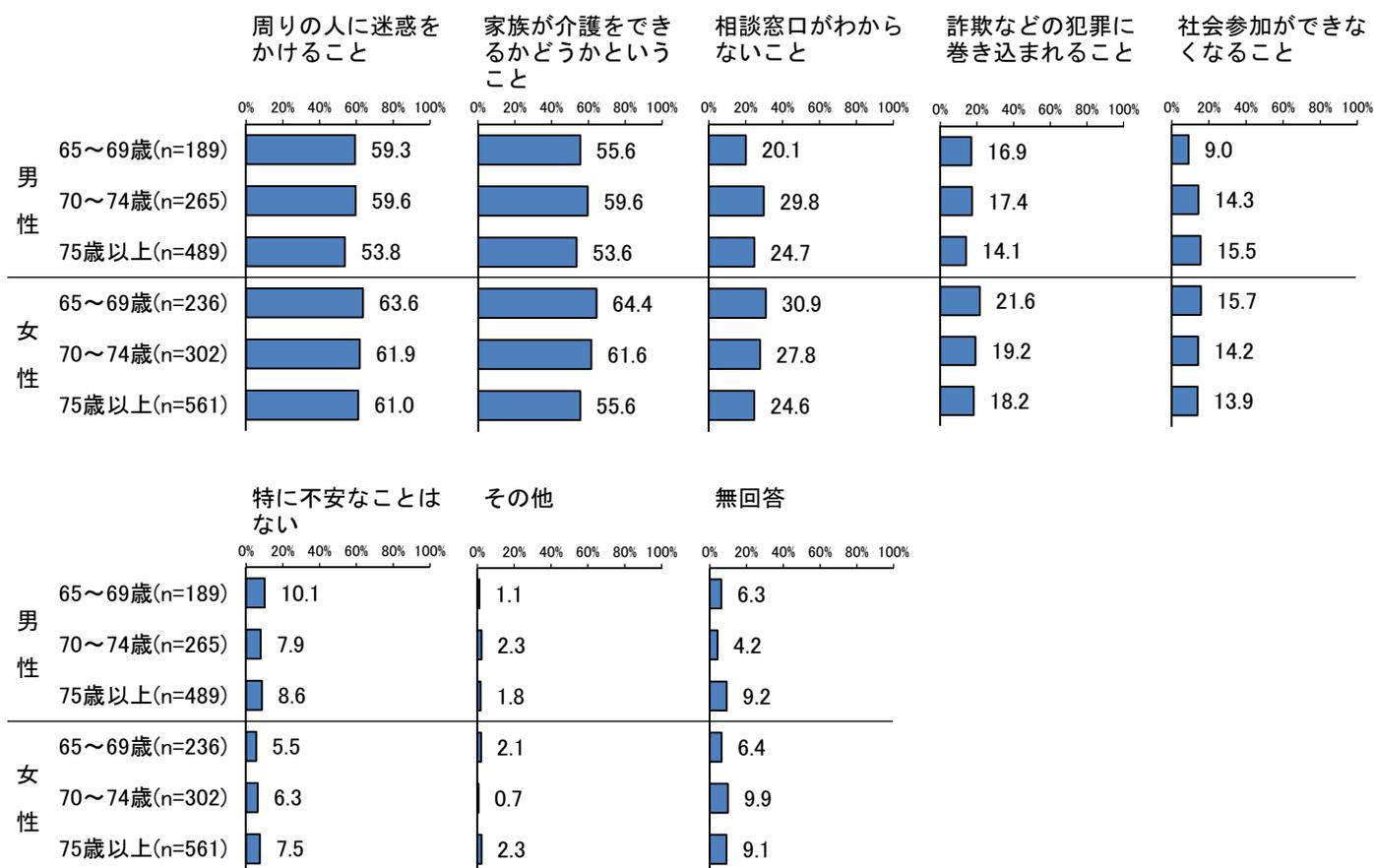
自身や家族が認知症になったら不安なことについては、「周りの人に迷惑をかけること」が59.0%で最も高く、次いで「家族が介護をできるかどうかということ」が57.3%、「相談窓口がわからないこと」が26.0%となっている。

【図 自身や家族が認知症になったら不安なこと】



性・年齢別でみると、男性はいずれの年代も「周りの人に迷惑をかけること」が最も高く、女性は70歳以上では「周りの人に迷惑をかけること」、65歳～69歳では「家族が介護をできるかどうかということ」が最も高くなっている。

【図 性・年齢別 自身や家族が認知症になったら不安なこと】

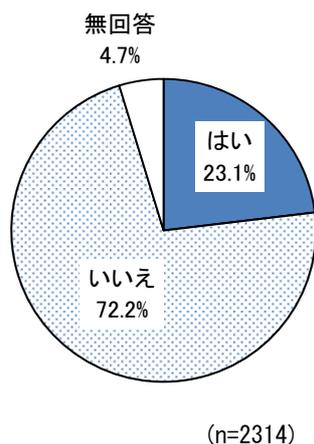


(3) 認知症に関する相談窓口の認知度

問8 Q2 認知症に関する相談窓口を知っていますか

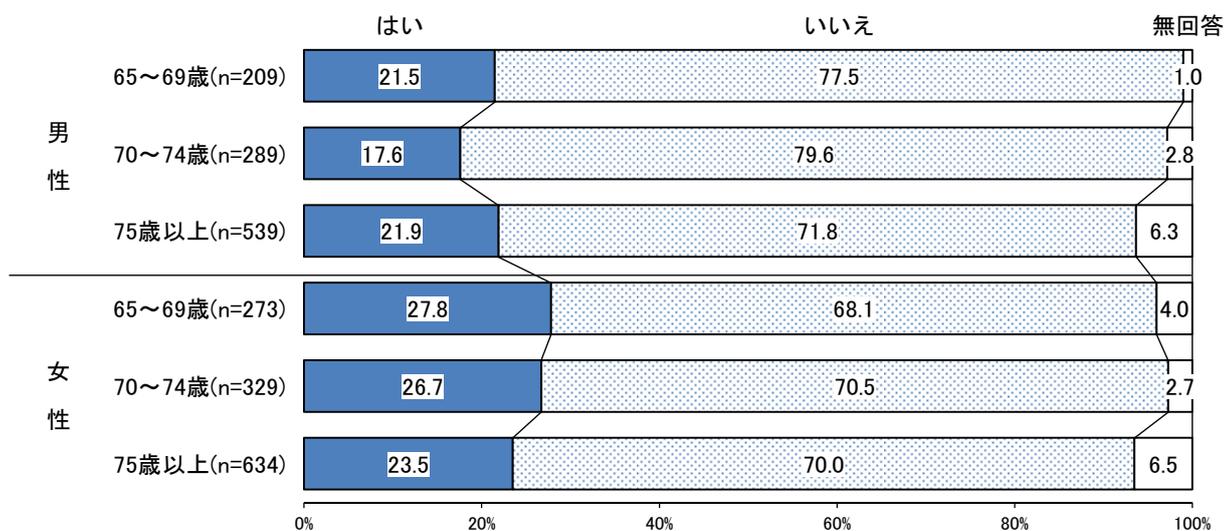
認知症に関する相談窓口の認知度については、「いいえ」が72.2%に対し、「はい」が23.1%となっている。

【図 認知症に関する相談窓口の認知度】



性・年齢別でみると、男女とも70～74歳で「いいえ」の割合が最も高くなっている。

【図 性・年代別 認知症に関する相談窓口の認知度】

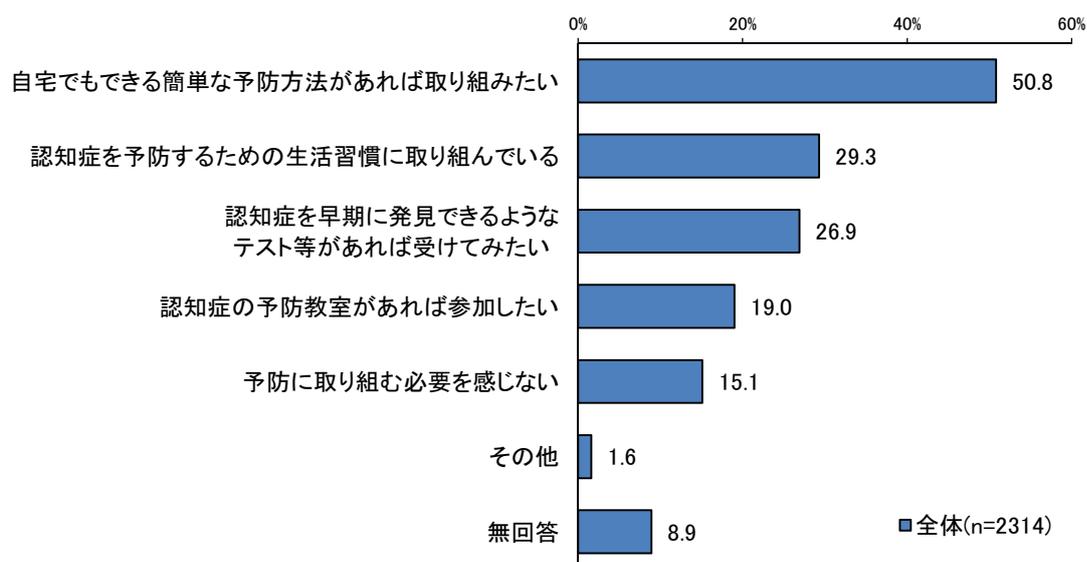


(4) 認知症予防に対する考え

問8Q3 認知症の予防についてどのように考えていますか。(いくつでも)

認知症予防に対する考えについては、「自宅でもできる簡単な予防があれば取り組みたい」が50.8%で最も高く、次いで「認知症を予防するための生活習慣に取り組んでいる」が29.3%、「認知症を早期に発見できるようなテスト等があれば受けてみたい」が26.9%、「認知症の予防教室があれば参加したい」が19.0%となっている。

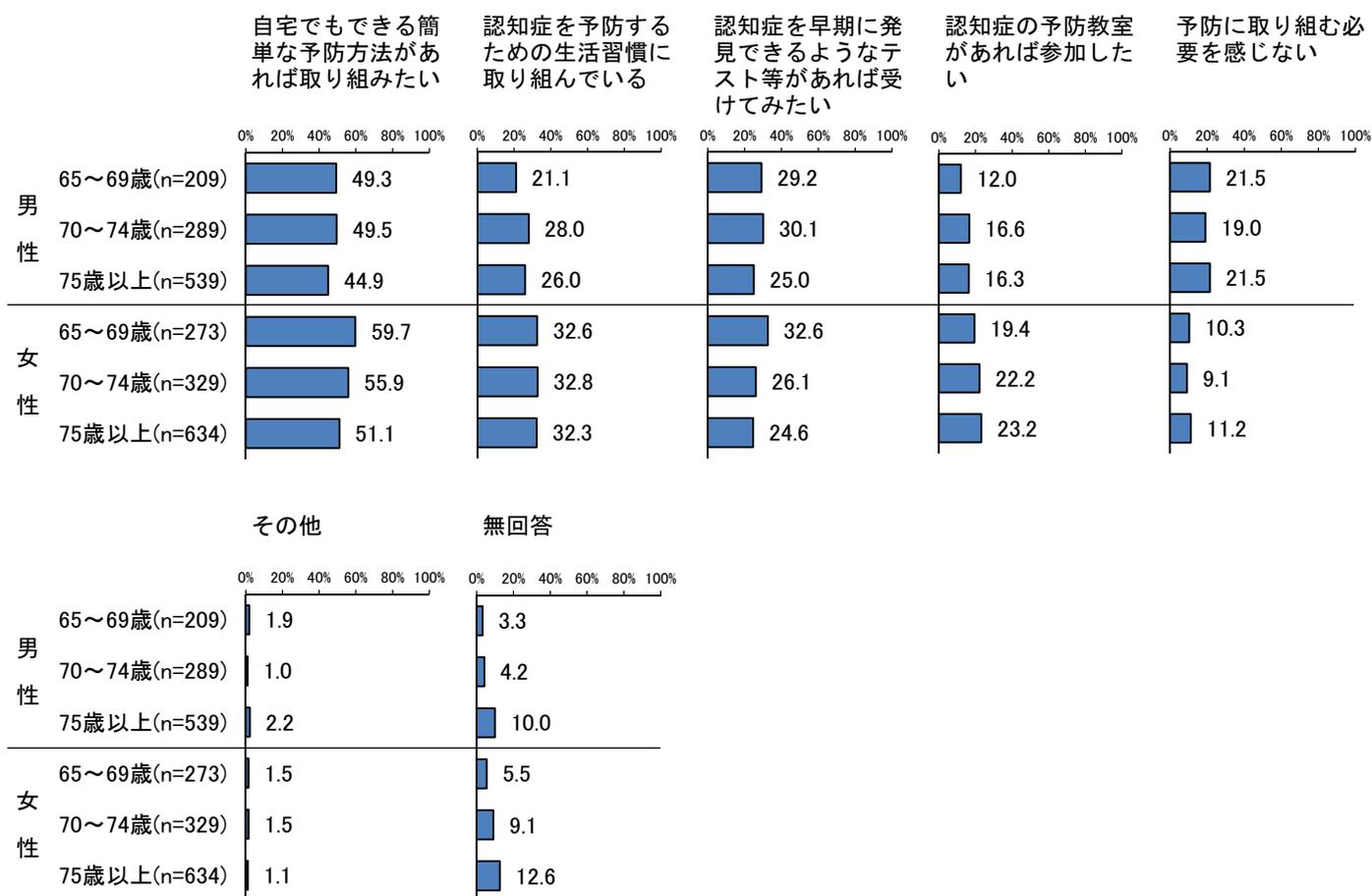
【図 認知症予防に対する考え】



Ⅱ 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査

性・年齢別でみると、「自宅でもできる簡単な予防方法があれば取り組みたい」はいずれの年代も男性より女性のほうが高く、女性の65～69歳が59.7%で最も高くなっている。

【図 性・年齢別 認知症予防に対する考え】



地域活動の参加頻度別でみると、社会参加や地域活動を行っている人は認知症の予防に関心が高い傾向がみられる。

【表 地域活動の参加頻度別 認知症予防に対する考え】

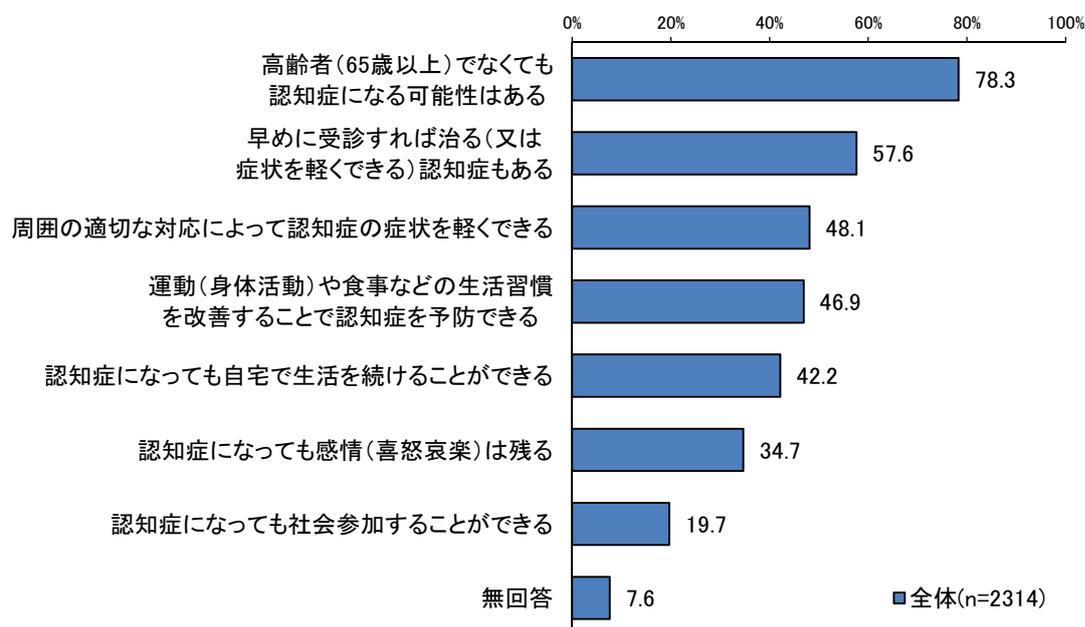
		回答者数 (n)	組 み 防 み た 方 法 で あ る ば 簡 単 な	自 宅 で あ る ば 簡 単 な	で の 認 知 症 予 防 に 関 心 が あ る か	あ き る ば よ う な テ キ ス ト 等 が あ る か	認 知 症 予 防 に 関 心 が あ る か	れ ば 認 知 症 予 防 の た め に 教 室 が あ る か	感 じ な い に 取 り 組 む 必 要 が あ る か	そ の 他	無 回 答
全体		2314	50.8	29.3	26.9	19.0	15.1	1.6	8.9		
①ボランティア のグループ	週4回以上	24	50.0	41.7	25.0	29.2	12.5	4.2	-		
	週2~3回	42	47.6	45.2	33.3	33.3	11.9	4.8	4.8		
	週1回	48	47.9	47.9	31.3	27.1	4.2	2.1	8.3		
	月1~3回	80	53.8	45.0	31.3	28.8	11.3	-	1.3		
	年に数回	85	65.9	27.1	31.8	28.2	14.1	-	4.7		
	参加していない	1353	51.7	27.6	25.9	17.0	17.4	1.8	6.6		
②スポーツ関係 のグループや クラブ	週4回以上	87	50.6	35.6	33.3	24.1	16.1	2.3	8.0		
	週2~3回	177	57.6	35.6	37.3	27.1	8.5	0.6	6.2		
	週1回	139	58.3	32.4	32.4	25.2	10.1	1.4	4.3		
	月1~3回	112	58.9	40.2	26.8	23.2	8.0	-	5.4		
	年に数回	66	50.0	39.4	27.3	18.2	13.6	6.1	1.5		
	参加していない	1133	50.9	26.7	24.6	15.6	18.6	1.8	7.1		
③趣味関係の グループ	週4回以上	52	51.9	40.4	28.8	15.4	13.5	3.8	7.7		
	週2~3回	138	54.3	38.4	32.6	24.6	13.0	0.7	6.5		
	週1回	145	55.2	35.9	32.4	24.8	9.7	0.7	8.3		
	月1~3回	287	59.9	32.8	27.9	28.9	9.4	1.4	6.3		
	年に数回	123	55.3	37.4	26.0	23.6	15.4	2.4	-		
	参加していない	1032	50.2	26.2	24.7	14.4	18.6	1.8	7.1		
④学習・ 教養サークル	週4回以上	10	60.0	60.0	10.0	30.0	-	-	-		
	週2~3回	35	51.4	40.0	22.9	25.7	8.6	5.7	11.4		
	週1回	54	55.6	37.0	25.9	29.6	11.1	3.7	3.7		
	月1~3回	97	58.8	47.4	29.9	30.9	13.4	-	3.1		
	年に数回	79	62.0	45.6	35.4	35.4	6.3	3.8	2.5		
	参加していない	1325	51.5	26.8	25.5	16.4	17.8	1.6	6.4		
⑤介護予防 のための 通いの場	週4回以上	7	42.9	42.9	28.6	57.1	-	14.3	-		
	週2~3回	27	55.6	37.0	29.6	33.3	7.4	3.7	3.7		
	週1回	29	51.7	37.9	31.0	24.1	10.3	3.4	13.8		
	月1~3回	34	67.6	41.2	29.4	44.1	-	-	8.8		
	年に数回	24	75.0	41.7	25.0	33.3	4.2	8.3	4.2		
	参加していない	1469	51.5	28.8	25.9	17.4	17.4	1.6	6.3		
⑥老人クラブ	週4回以上	12	50.0	58.3	33.3	25.0	16.7	-	-		
	週2~3回	21	57.1	28.6	38.1	28.6	9.5	-	14.3		
	週1回	19	36.8	31.6	31.6	26.3	21.1	5.3	10.5		
	月1~3回	74	67.6	35.1	50.0	39.2	5.4	-	5.4		
	年に数回	106	54.7	33.0	25.5	38.7	10.4	0.9	3.8		
	参加していない	1415	51.4	29.1	25.1	16.3	17.5	1.8	6.4		
⑦町内会・ 自治会	週4回以上	7	57.1	28.6	28.6	28.6	14.3	14.3	-		
	週2~3回	19	47.4	15.8	15.8	26.3	26.3	-	10.5		
	週1回	23	43.5	43.5	30.4	17.4	8.7	4.3	13.0		
	月1~3回	117	51.3	30.8	29.1	29.1	12.0	1.7	6.8		
	年に数回	418	57.2	34.4	28.9	28.5	11.2	1.4	3.6		
	参加していない	1088	49.8	27.9	25.3	14.7	18.8	1.7	7.3		
⑧収入のある 仕事	週4回以上	246	46.7	27.2	28.0	13.0	17.5	1.2	6.5		
	週2~3回	137	59.1	30.7	35.8	29.2	11.7	1.5	4.4		
	週1回	32	56.3	37.5	25.0	15.6	18.8	-	-		
	月1~3回	36	44.4	36.1	22.2	25.0	13.9	2.8	8.3		
	年に数回	30	56.7	33.3	13.3	26.7	16.7	3.3	-		
	参加していない	1190	52.0	29.1	25.0	18.2	17.2	1.9	6.6		

(5) 認知症について知っていること

問8Q4 認知症についてあなたの知っていることを次の中から選んでください。(いくつでも)

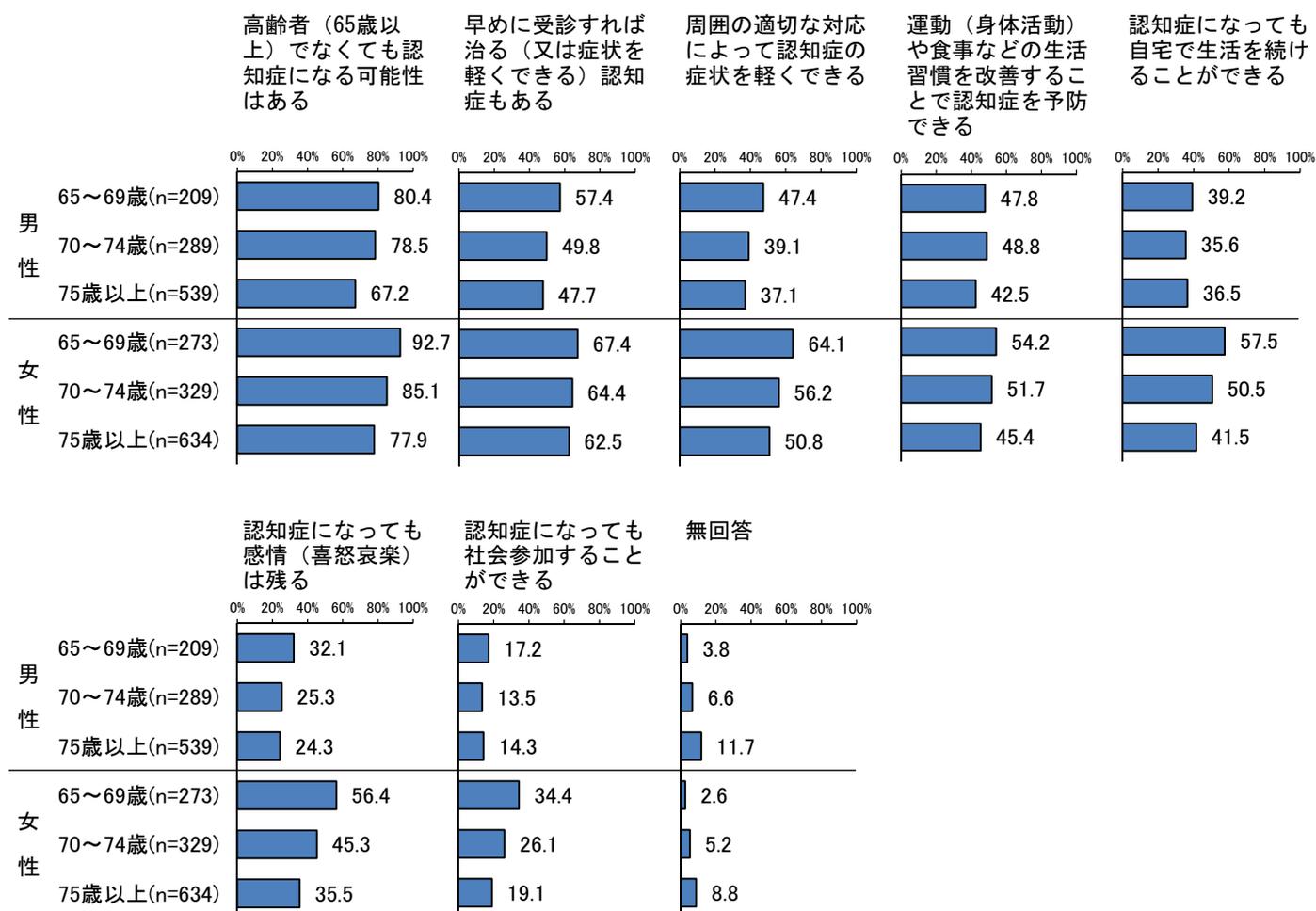
認知症について知っていることについては、「高齢者(65歳以上)でなくても認知症になる可能性はある」が78.3%で最も高く、次いで「早めに受診すれば治る(又は症状を軽くできる)認知症もある」が57.6%、「周囲の適切な対応によって認知症の症状を軽くできる」が48.1%、「運動(身体活動)や食事などの生活習慣を改善することで認知症を予防できる」が46.9%、「認知症になっても自宅で生活を続けることができる」が42.2%となっている。

【図 認知症について知っていること】



性・年齢別でみると、男女とも「高齢者（65歳以上）でなくても認知症になる可能性はある」が最も高く、女性の65～69歳（92.7%）で最も高い割合となっている。

【図 性・年齢別 認知症について知っていること】

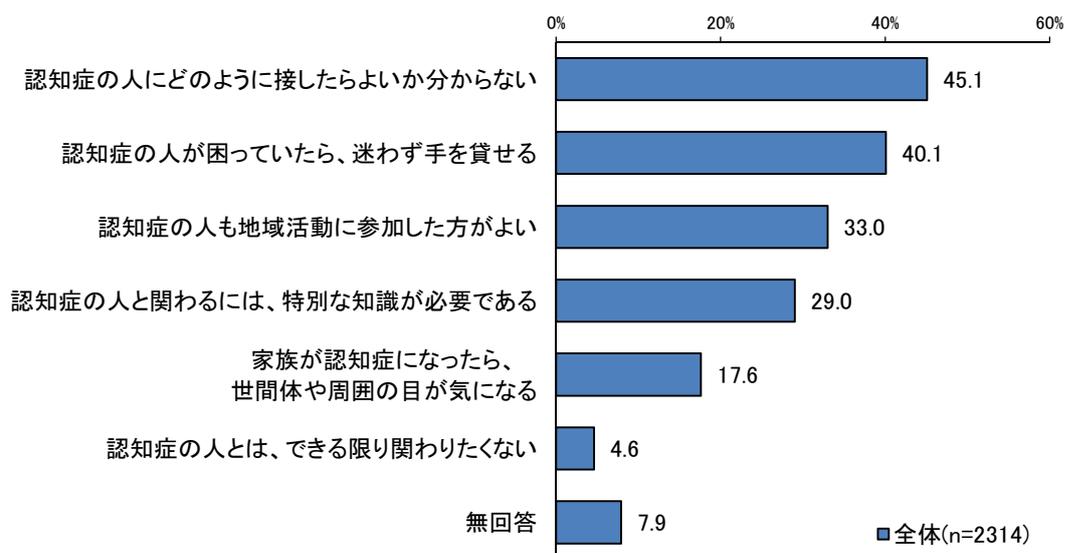


(6) 認知症の人との関わり方

問8Q5 認知症についての次の意見に対して、あなたの考えに近いものを選んでください。(いくつかでも)

認知症の人との関わり方については、「認知症の人に、どのように接したらよいか分からない」が45.1%で最も高く、次いで「認知症の人が困っていたら、迷わず手を貸せる」が40.1%、「認知症の人でも地域活動に参加した方がよい」が33.0%となっている。

【図 認知症の人との関わり方】



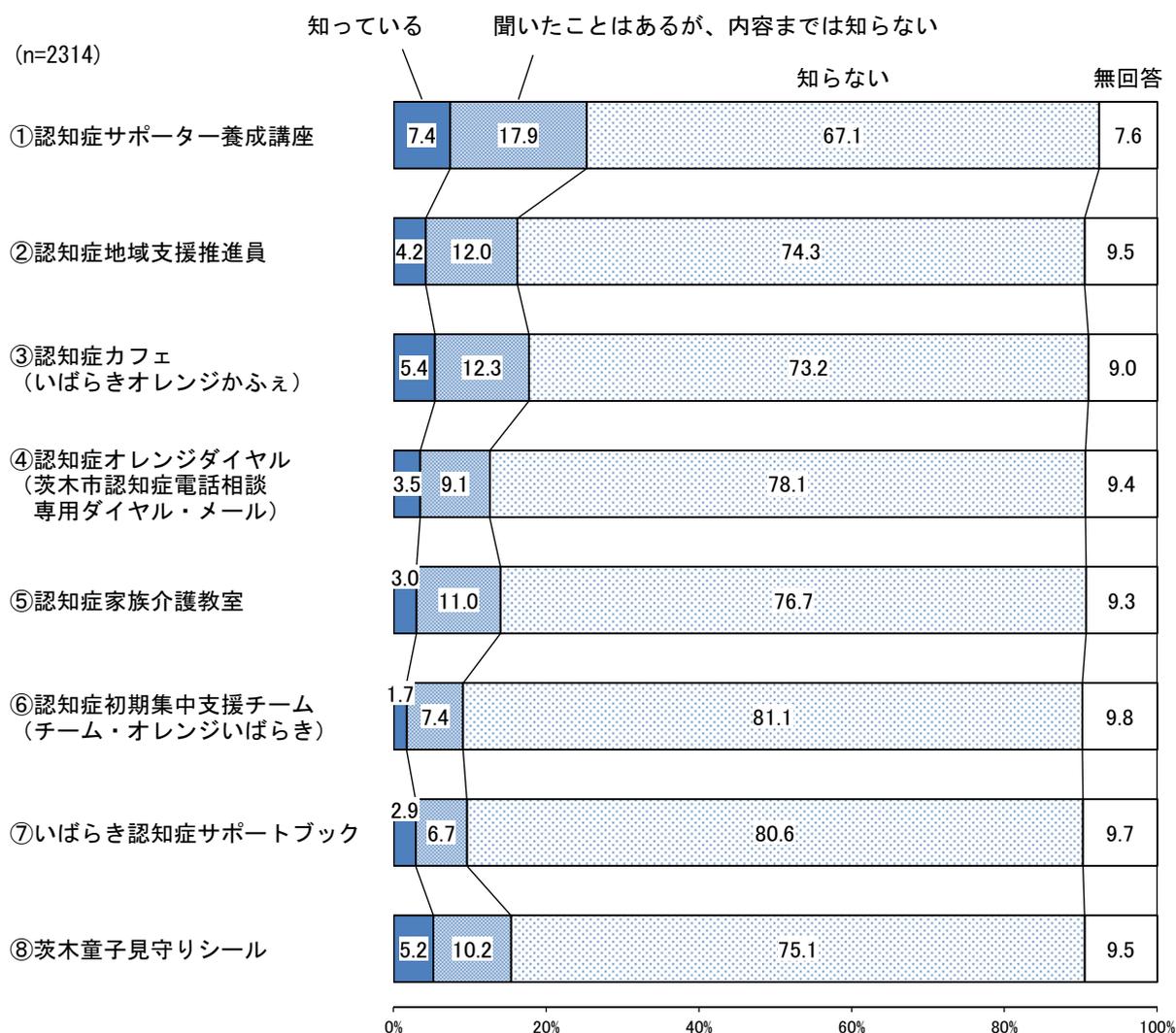
(7) 認知症に関する市の事業の認知度

問8Q6 市では認知症に関する以下の事業を実施していますが、ご存知ですか。

※①～⑧それぞれに回答してください。(〇はひとつ)

いずれの事業も「知らない」が6割以上となっている。「知っている」事業としては、①認知症サポーター養成講座が7.4%で最も高く、「聞いたことはあるが、内容までは知らない」(17.9%)を合わせると25.3%となっている。次いで、③認知症カフェ(いばらきオレンジかふえ)が17.7%となっている。

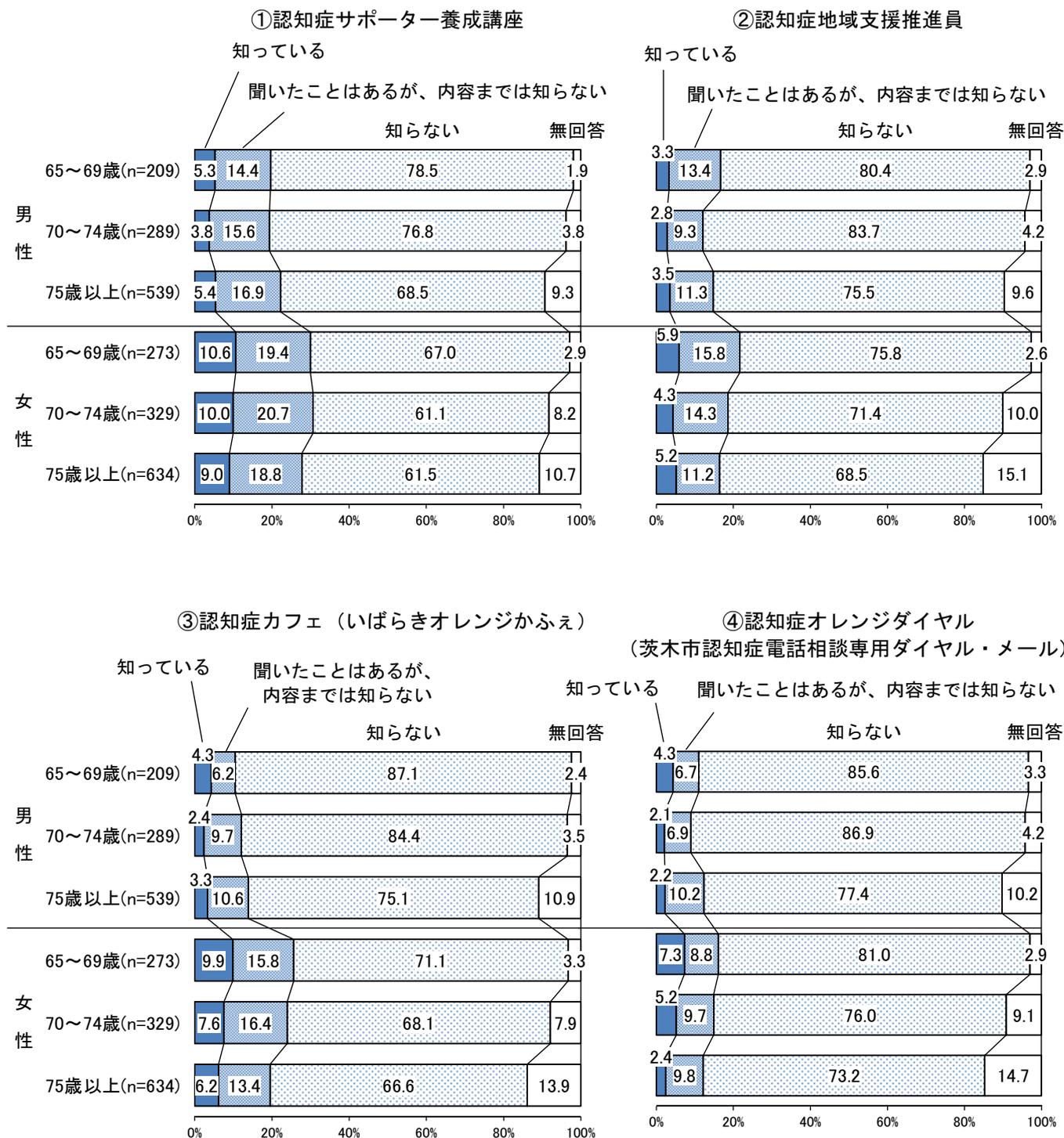
【図 認知症に関する市の事業の認知度】



Ⅱ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

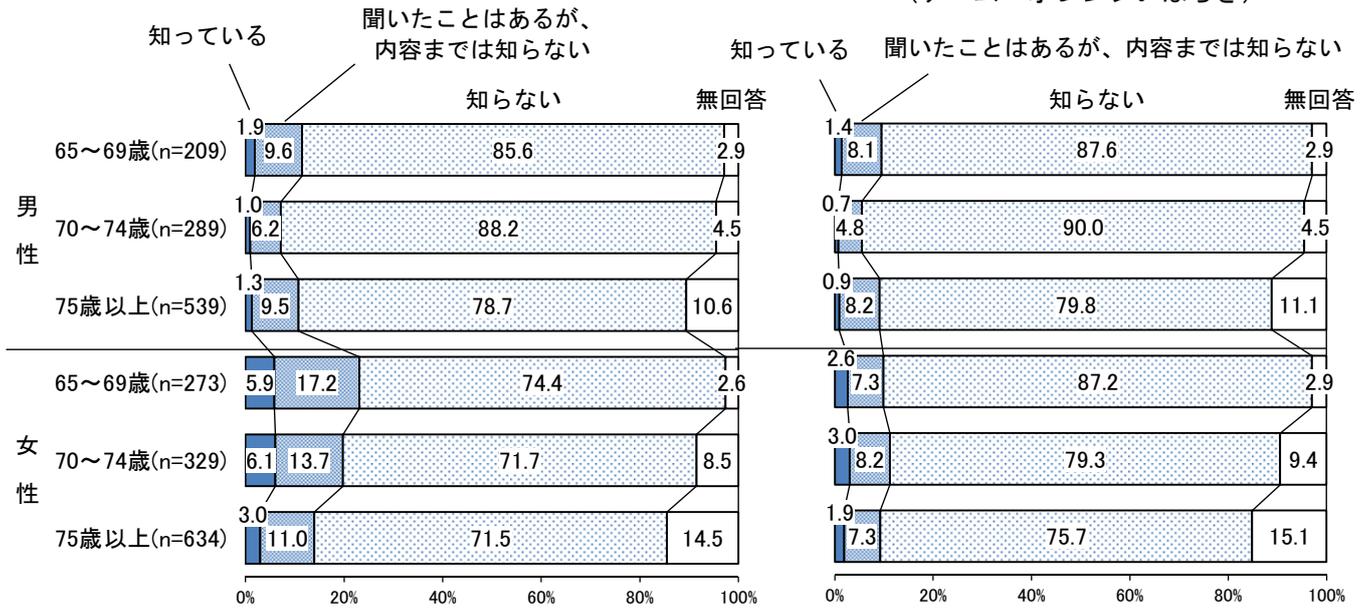
性・年代別でみると、各事業ともに全体的に男性よりも女性の認知度が高い傾向にある。①認知症サポーター養成講座の認知度は、「知っている」「聞いたことはあるが、内容までは知らない」を合わせると女性の74歳までの年代で3割台となっている。また、②認知症地域支援推進員、③認知症カフェ（いばらきオレンジかふえ）、⑤認知症家族介護教室、⑧茨木童子見守りシールの認知度は、女性の65～69歳ではいずれも2割を超えている。

【図 性・年代別 認知症に関する市の事業の認知度】



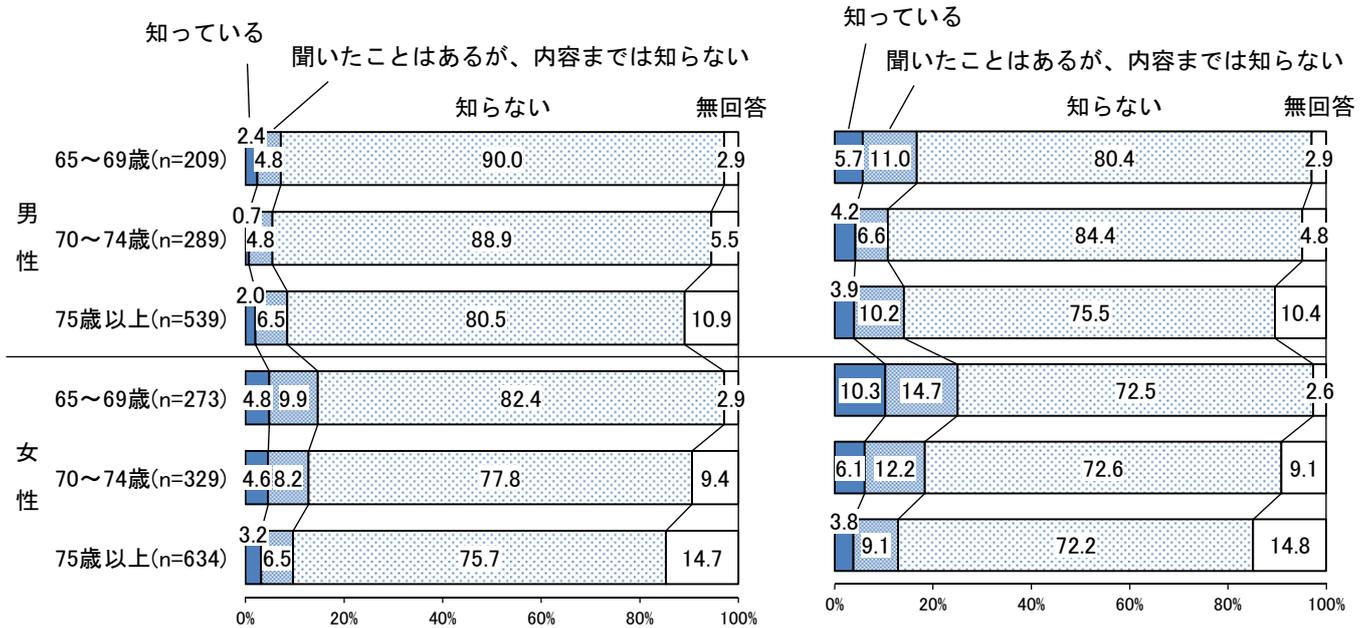
⑤ 認知症家族介護教室

⑥ 認知症初期集中支援チーム
(チーム・オレンジいばらき)



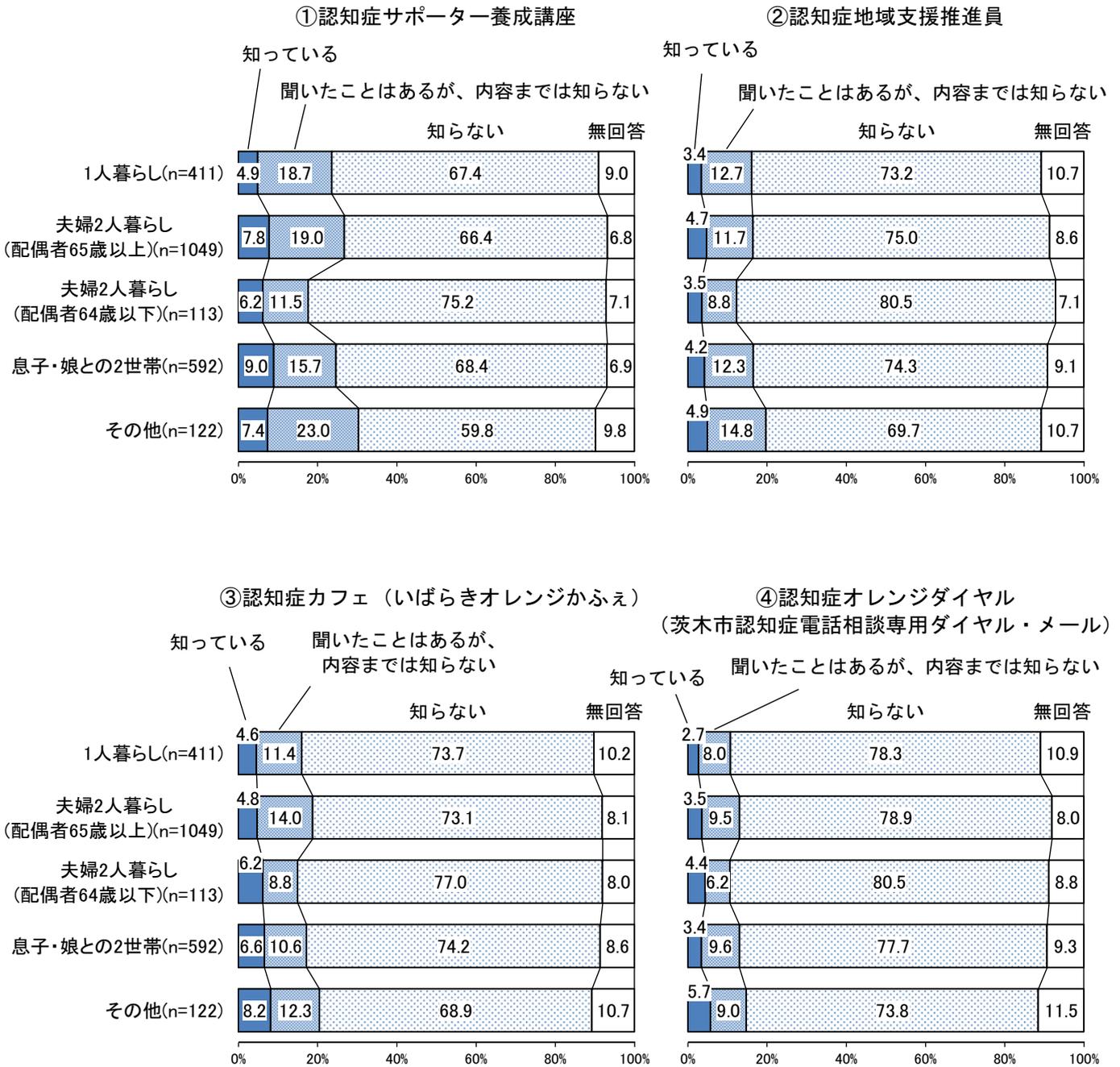
⑦ いばらき認知症サポートブック

⑧ 茨木童子見守りシール

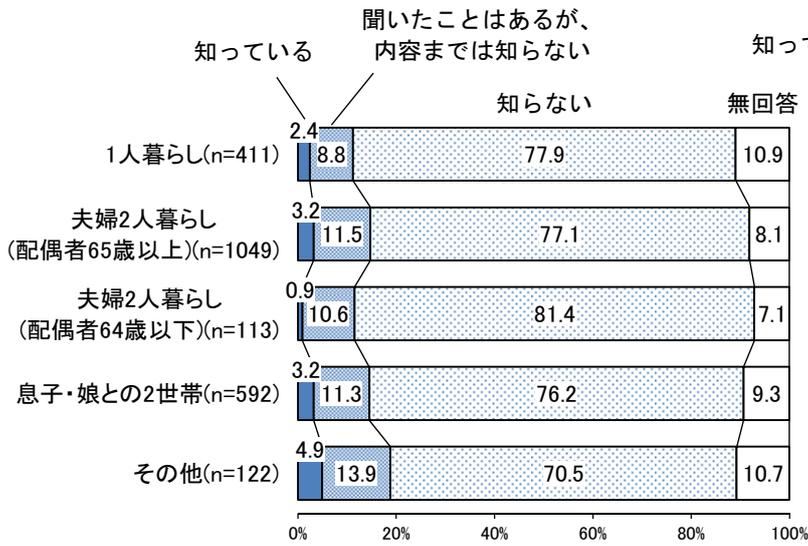


家族構成別でみると、いずれの事業も家族構成にかかわらず「知らない」が過半数を占めている。

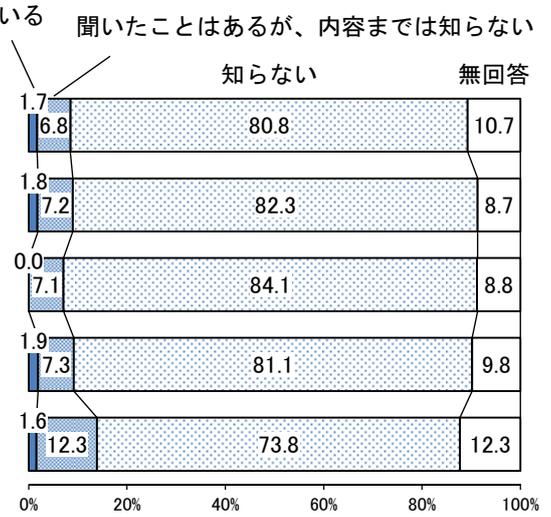
【図 家族構成別 認知症に関する市の事業の認知度】



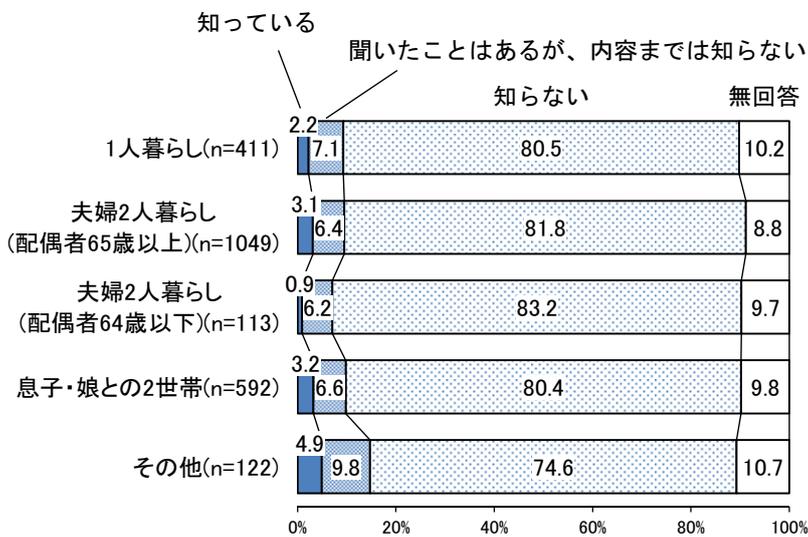
⑤認知症家族介護教室



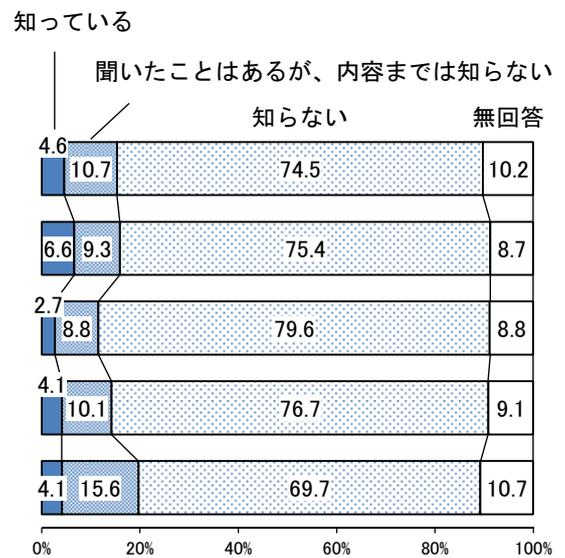
⑥認知症初期集中支援チーム (チーム・オレンジいばらき)



⑦いばらき認知症サポートブック



⑧茨木童子見守りシール



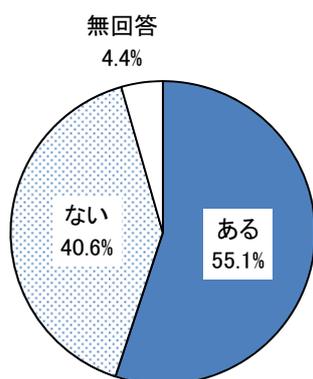
10 人生の最終段階における医療・療養について

(1) 人生の最終段階における医療・療養について考えたことがあるか

問9 Q1 あなたは人生の最終段階における医療・療養についてこれまでに考えたことがありますか。

人生の最終段階における医療・療養について考えたことがあるかについては、「ある」が55.1%に対し、「ない」が40.6%となっている。

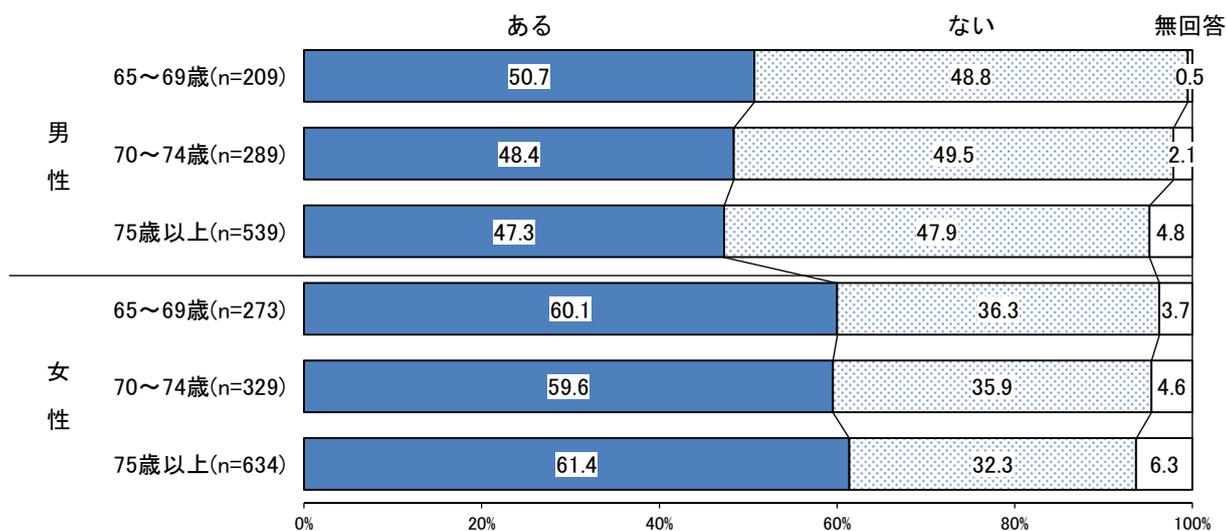
【図 人生の最終段階における医療・療養について考えたことがあるか】



(n=2314)

性・年齢別でみると、「ある」は男性はいずれの年代も約5割に対し、女性はいずれの年代も約6割となっている。

【図 性・年齢別 人生の最終段階における医療・療養について考えたことがあるか】



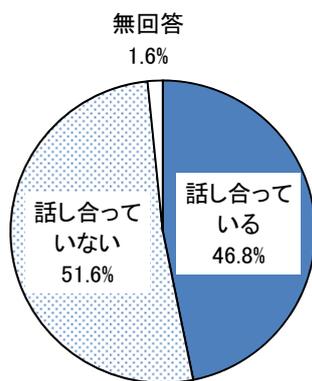
(2) 人生の最終段階における医療・療養について話し合ったことがあるか

問9 Q1-1【Q1で「1. ある」と回答した方のみ】

①今現在、ご家族や友人、医療介護関係者と話し合ったことがありますか。

人生の最終段階における医療・療養について話し合ったことがあるかについては、「話し合っていない」が51.6%に対し、「話し合っている」が46.8%となっている。

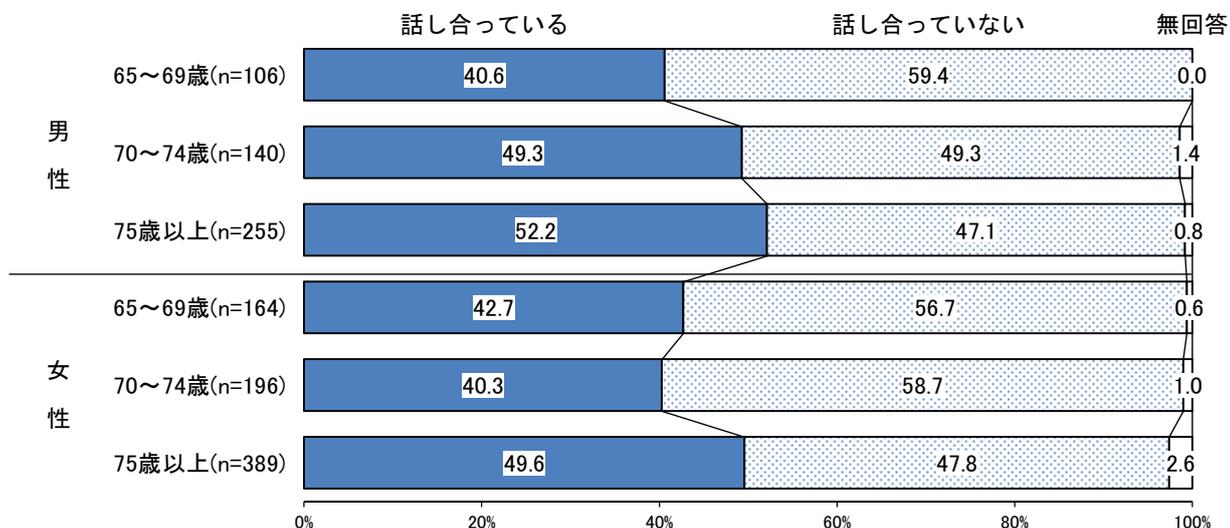
【図 人生の最終段階における医療・療養について話し合ったことがあるか】



(n=1274)

性・年齢別でみると、男女とも75歳以上で「話し合っている」が最も高く、「話し合っていない」を上回っている。

【図 性・年齢別 人生の最終段階における医療・療養について話し合ったことがあるか】

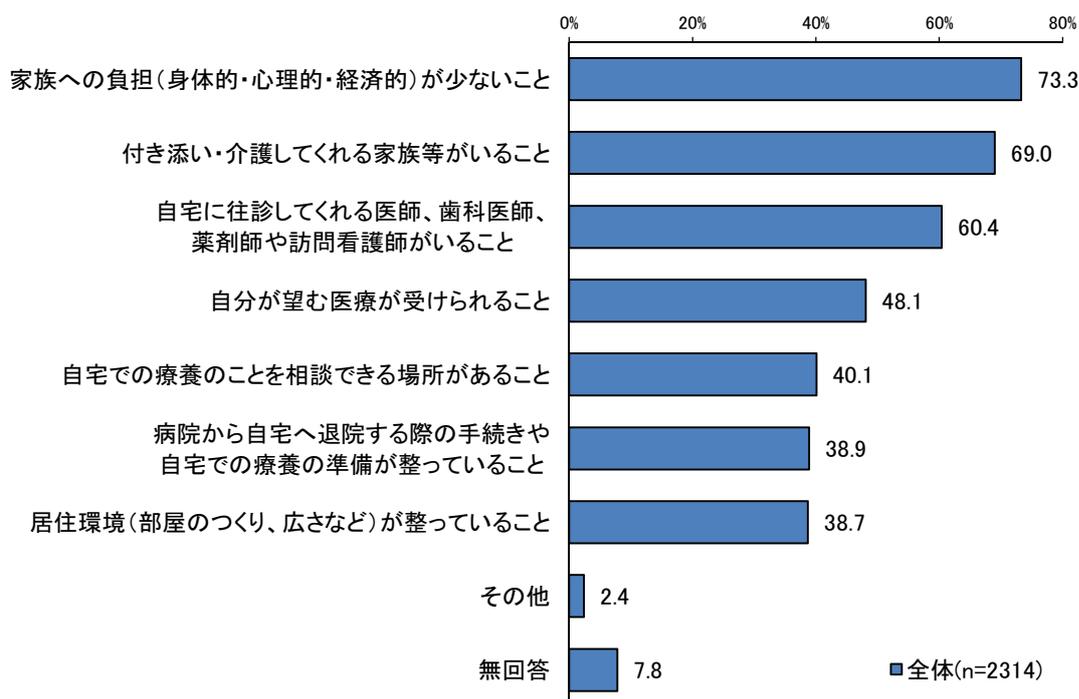


(3) 自宅で療養生活を送るために必要な条件

問9 Q2 自宅で療養生活を送るために必要な条件は何だと思えますか。(いくつでも)

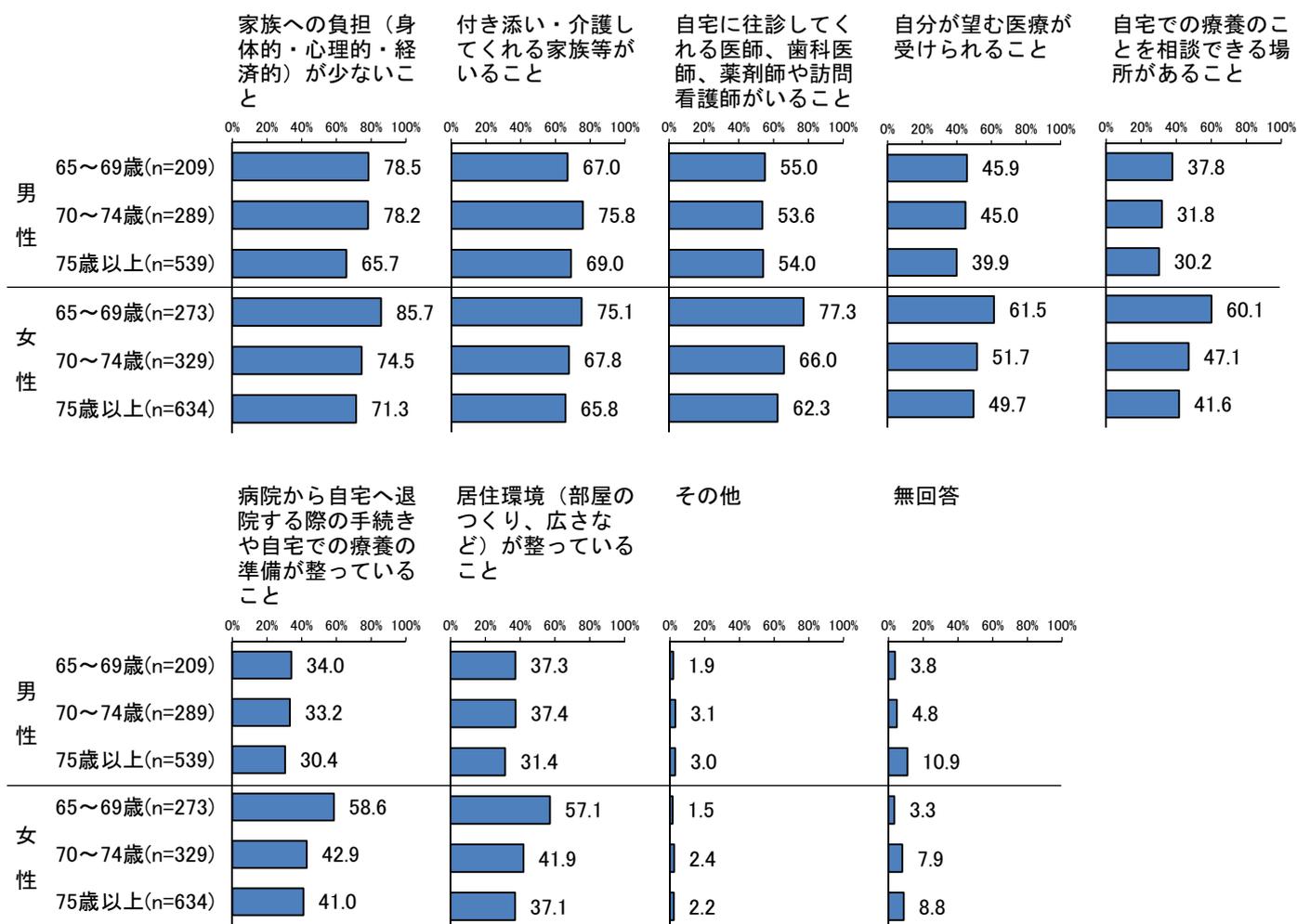
自宅で療養生活を送るために必要な条件については、「家族への負担(身体的・心理的・経済的)が少ないこと」が73.3%で最も高く、次いで「付き添い・介護してくれる家族等がいること」が69.0%、「自宅に往診してくれる医師、歯科医師、薬剤師や訪問看護師がいること」が60.4%となっている。

【図】 自宅で療養生活を送るために必要な条件



性・年齢別でみると、男性は75歳以上では「付き添い・介護してくれる家族等がいること」が最も高くなっている。女性は、いずれの年代も「家族への負担（身体的・心理的・経済的）が少ないこと」が最も高くなっており、次いで65～69歳では「自宅に往診してくれる医師、歯科医師、薬剤師や訪問看護師がいること」が高くなっている。

【図 性・年齢別 自宅で療養生活を送るために必要な条件】



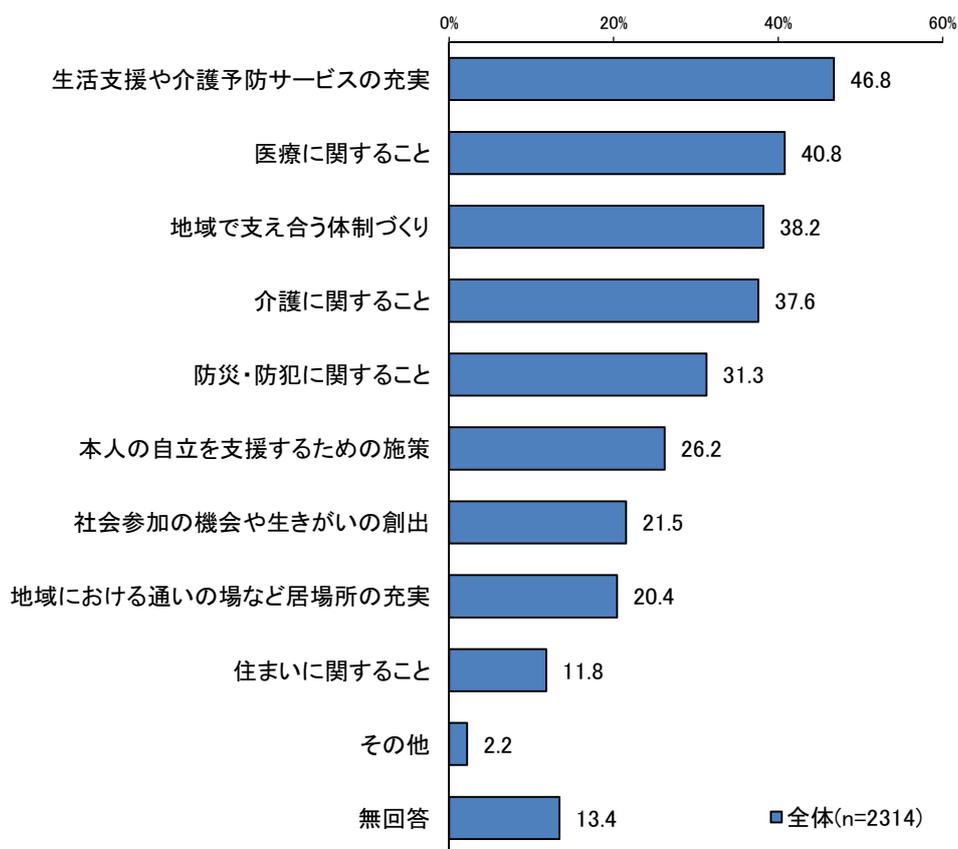
11 高齢者施策全般について

(1) 重点を置くべき施策

問10Q1 今後、茨木市はどのような施策に重点を置くべきだと思いますか。(いくつでも)

高齢者人口の増加に対応するために重点を置くべき施策については、「生活支援や介護予防サービスの充実」が46.8%で最も高く、次いで「医療に関すること」が40.8%、「地域で支え合う体制づくり」が38.2%、「介護に関すること」が37.6%となっている。

【図 重点を置くべき施策】



性・年齢別で見ると、第1位は、男女ともいずれの年代も「生活支援や介護予防サービスの充実」となっており、女性の65～69歳が53.8%で最も高くなっている。第2位は、男性はいずれの年代も「医療に関すること」が続いているが、女性は65～69歳は「介護に関すること」、70～74歳は「医療に関すること」、75歳以上は「地域で支え合う体制づくり」が続いている。

【図 性・年齢別 重点を置くべき施策（上位5項目）】

(%)

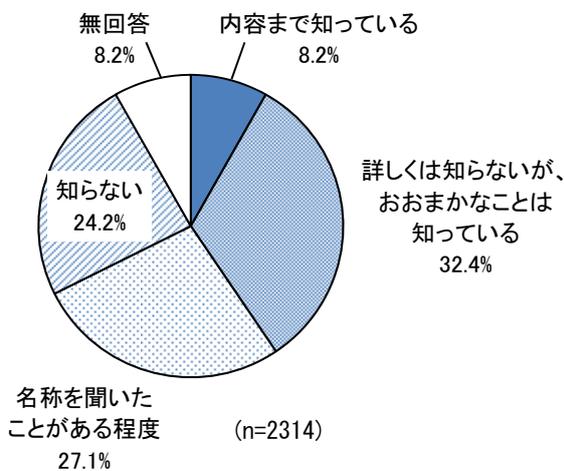
		回答者数 (n)	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体		2314	生活支援や介護予防サービスの充実 46.8	医療に関すること 40.8	地域で支え合う体制づくり 38.2	介護に関すること 37.6	防災・防犯に関すること 31.3
男性	65～69歳	209	生活支援や介護予防サービスの充実 51.7	医療に関すること 48.3	介護に関すること 39.7	防災・防犯に関すること 34.0	地域で支え合う体制づくり 31.6
	70～74歳	289	生活支援や介護予防サービスの充実 45.7	医療に関すること 39.8	介護に関すること 38.8	地域で支え合う体制づくり 37.0	防災・防犯に関すること 33.9
	75歳以上	539	生活支援や介護予防サービスの充実 43.2	医療に関すること 42.5	介護に関すること 40.6	地域で支え合う体制づくり 37.7	防災・防犯に関すること 30.6
女性	65～69歳	273	生活支援や介護予防サービスの充実 53.8	介護に関すること 41.8	医療に関すること 41.4	地域で支え合う体制づくり 40.7	本人の自立を支援するための施策 35.2
	70～74歳	329	生活支援や介護予防サービスの充実 41.6	医療に関すること 40.1	地域で支え合う体制づくり 38.0	防災・防犯に関すること 31.0	本人の自立を支援するための施策 30.7
	75歳以上	634	生活支援や介護予防サービスの充実 48.7	地域で支え合う体制づくり 41.2	医療に関すること 38.8	介護に関すること 36.4	防災・防犯に関すること 29.5

(2) 成年後見制度の認知度

問10Q2 あなたは、「成年後見制度」を知っていますか。

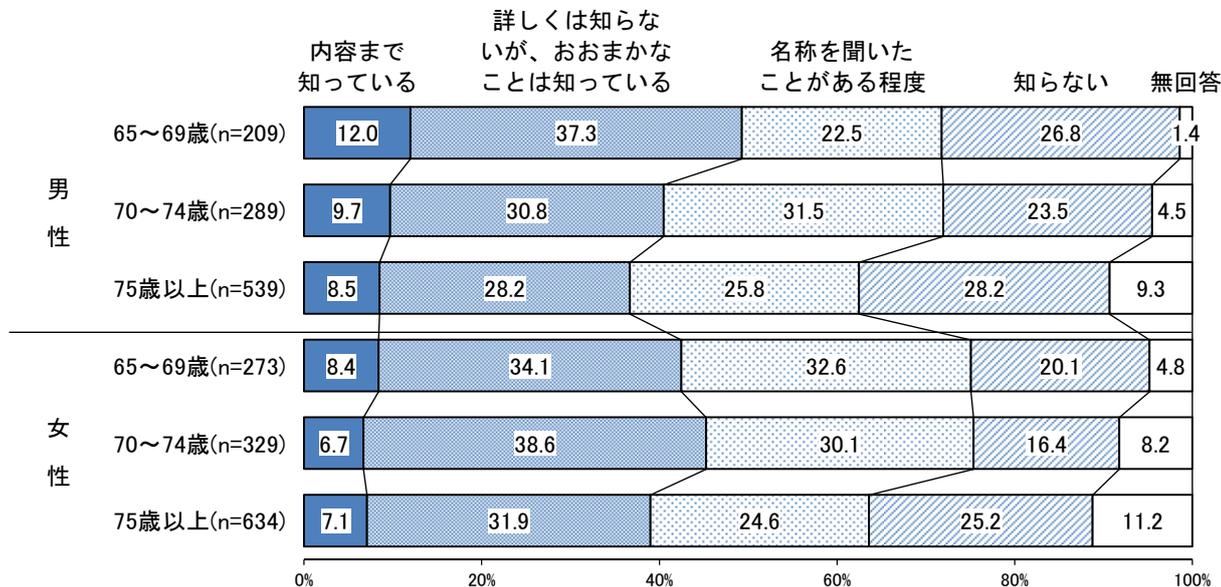
成年後見制度の認知度については、「詳しくは知らないが、おおまかなことは知っている」が32.4%で最も高く、次いで「名称を聞いたことがある程度」が27.1%、「知らない」が24.2%、「内容まで知っている」が8.2%となっており、周知度（「内容まで知っている」と「詳しくは知らないが、おおまかなことは知っている」、「名称を聞いたことがある程度」を合わせた割合）は67.7%となっている。

【図 成年後見制度の認知度】



性・年齢別でみると、男性の70～74歳では「名称を聞いたことがある程度」が最も高く、それ以外の年代は男女とも「詳しくは知らないが、おおまかなことは知っている」が最も高くなっている。周知度は女性の70～74歳（75.4%）で最も高く、男性の75歳以上（62.5%）で最も低くなっている。

【図 性・年齢別 成年後見制度の認知度】



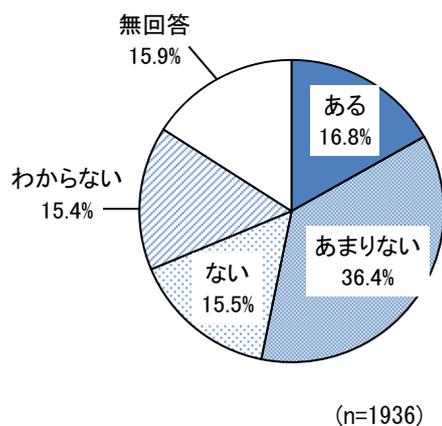
(3) 成年後見制度の関心度

問10Q2-1【Q2で「1. 内容まで知っている」以外を回答した方のみ】

あなたは成年後見制度に関心はありますか。

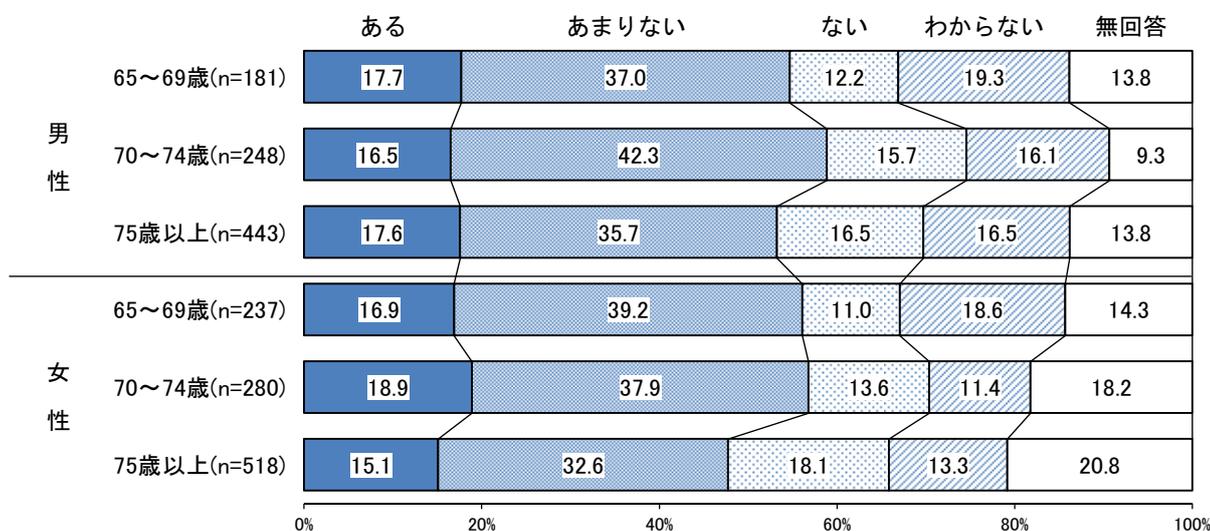
成年後見制度について、内容まで知っていると回答した人以外に、成年後見制度の関心度についてたずねると、「あまりない」が36.4%で最も高く、次いで「ある」が16.8%、「ない」が15.5%、「わからない」が15.4%となっている。

【図 成年後見制度の関心度】



性・年齢別で見ると、いずれの年代も「あまりない」が最も高く、「ある」は女性の70～74歳(18.9%)で最も高くなっている。

【図 性・年齢別 成年後見制度の関心度】

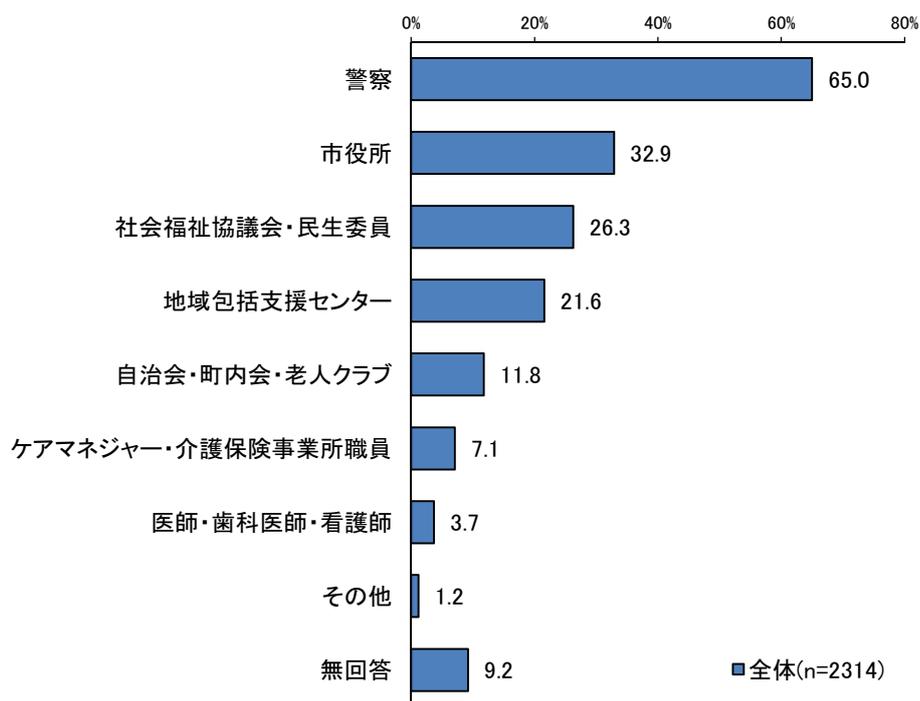


(4) 虐待を受けたと思われる高齢者を発見した場合の相談先

問10Q3 虐待を受けたと思われる高齢者を発見した場合、どこに相談(通報)されますか。(いくつかでも)

虐待を受けたと思われる高齢者を発見した場合の相談先については、「警察」が65.0%で最も高く、次いで「市役所」が32.9%、「社会福祉協議会・民生委員」が26.3%、「地域包括支援センター」が21.6%となっている。

【図 虐待を受けたと思われる高齢者を発見した場合の相談先】

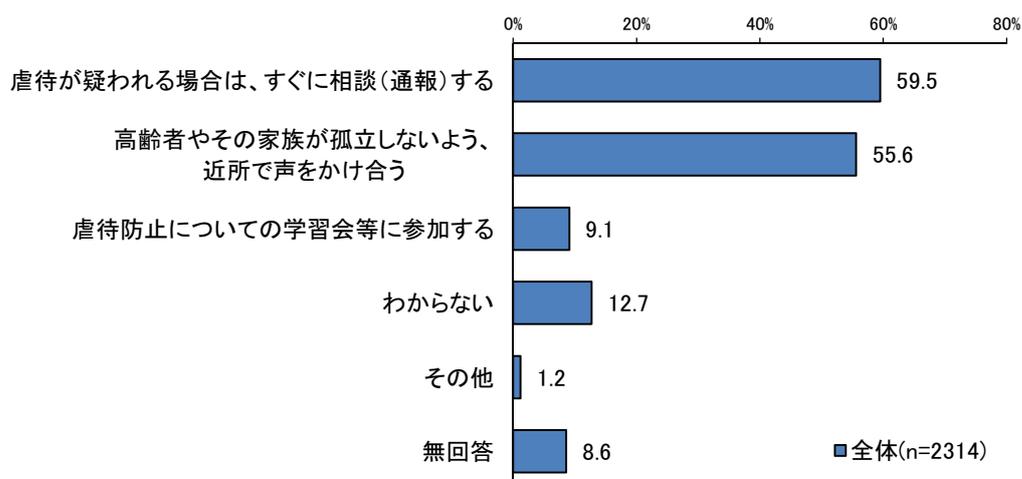


(5) 高齢者虐待を防止するための地域における取組み

問10Q4 高齢者虐待を防止するために、地域ではどのような取組みが必要と思われますか。(いくつかでも)

高齢者虐待を防止するための地域における取組みについては、「虐待が疑われる場合は、すぐに相談(通報)する」が59.5%で最も高く、次いで「高齢者やその家族が孤立しないよう、近所で声をかけ合う」が55.6%、「虐待防止についての学習会等に参加する」が9.1%となっている。

【図 高齢者虐待を防止するための地域における取組み】

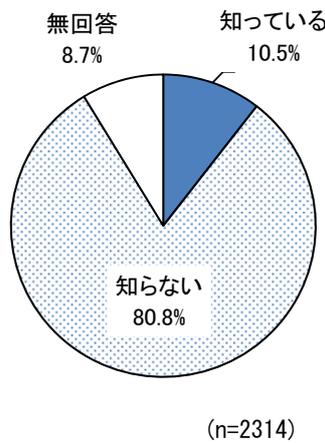


(6) はつらつパスポート（みんなで連携編）の認知度

問10Q5 自宅等で安心して療養生活がおくれるように、市では「はつらつパスポート（みんなで連携編）」を作成し、要介護（要支援）認定等を受けて介護サービス等を利用される人に配布していますが、ご存知ですか。

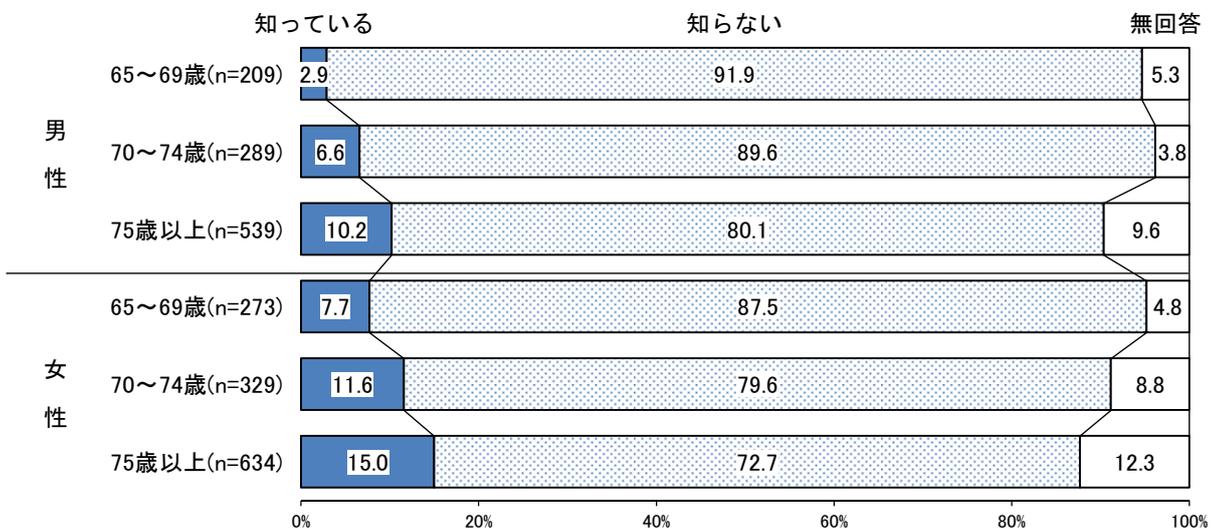
はつらつパスポート（みんなで連携編）の認知度については、「知らない」が80.8%に対し、「知っている」が10.5%となっている。

【図 はつらつパスポート（みんなで連携編）の認知度】



性・年齢別でみると、「知っている」は男女とも高齢になるほど割合が高く、女性の75歳以上が15.0%で最も高くなっている。

【図 性・年齢別 はつらつパスポート（みんなで連携編）の認知度】



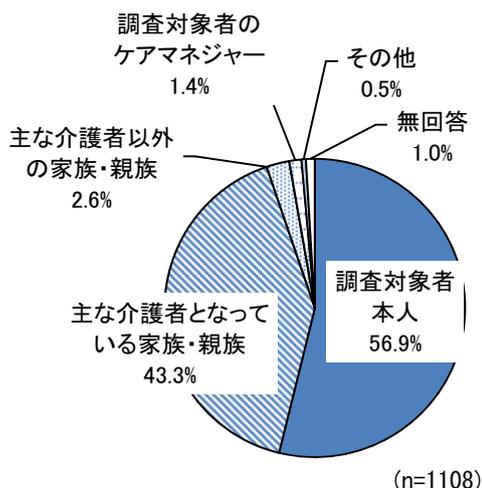
Ⅲ 在宅介護実態調査の結果

1 回答者の属性

(1) アンケートの記入者

アンケートの記入者は、「調査対象者本人」が56.9%で最も高く、次いで「主な介護者となっている家族・親族」が43.3%、「主な介護者以外の家族・親族」が2.6%、「調査対象者のケアマネジャー」が1.4%となっている。

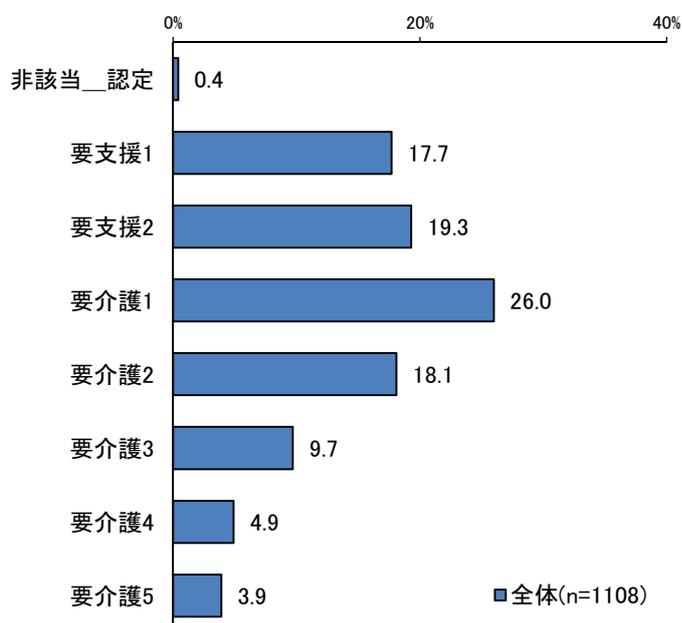
【図 アンケートの記入者】



(2) 主な介護者が介護をしている方の要介護度

主な介護者が介護をしている方の要介護度は、「要介護1」が26.0%で最も高く、次いで「要支援2」が19.3%、「要介護2」が18.1%、「要支援1」が17.7%となっている。

【図 主な介護者が介護をしている方の要介護度】

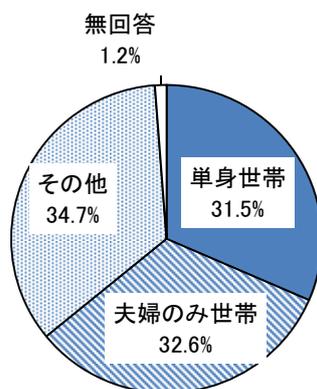


Ⅲ 在宅介護実態調査

(3) 世帯類型

調査対象者の世帯類型は、「その他」(34.7%)、「夫婦のみ世帯」(32.6%)、「単身世帯」(31.5%)となっている。

【図 世帯類型】

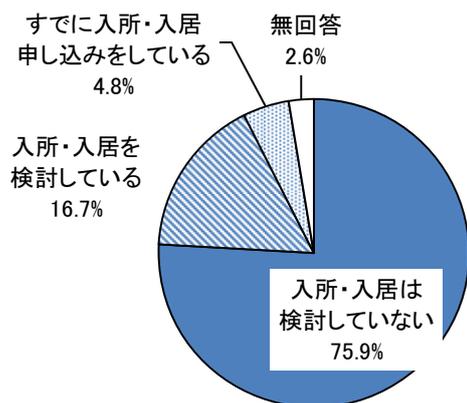


(n=1108)

(4) 施設等への入所・入居の検討状況

施設等への入所・入居の検討状況については、「入所・入居は検討していない」が75.9%で最も高く、次いで「入所・入居を検討している」が16.7%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が4.8%となっている。

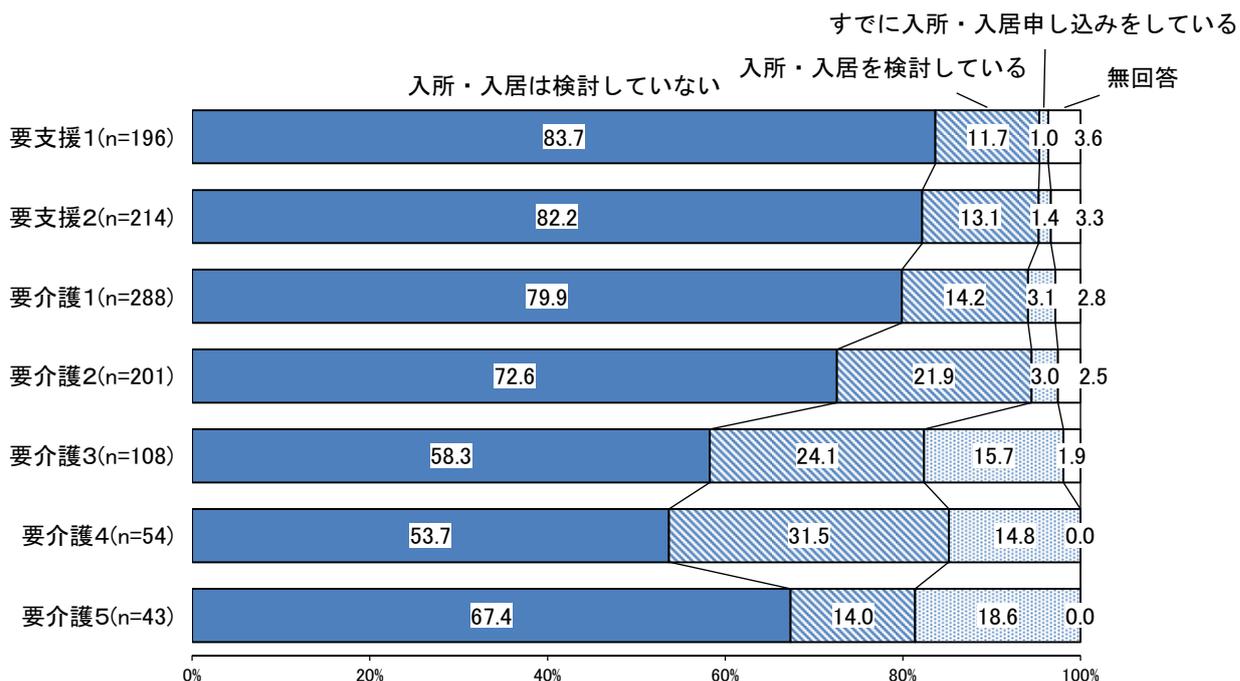
【図 施設等への入所・入居の検討状況】



(n=1108)

要介護度別でみると、「入所・入居は検討していない」は要支援1と要支援2で8割台、要介護1と要介護2で7割台となっている。

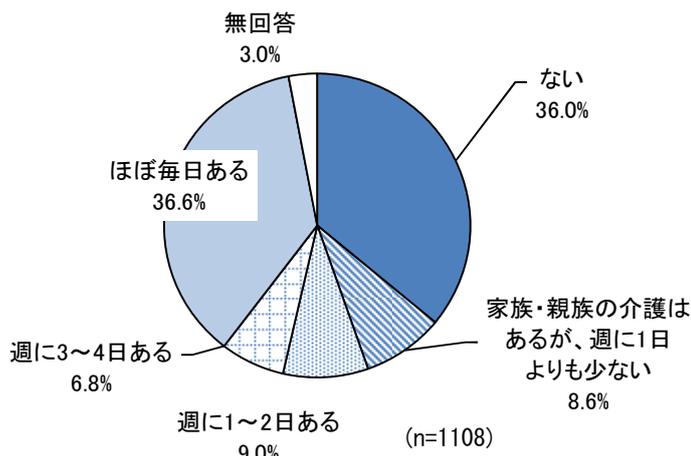
【図 要介護度別 施設等への入所・入居の検討状況】



(5) 家族等による介護の頻度

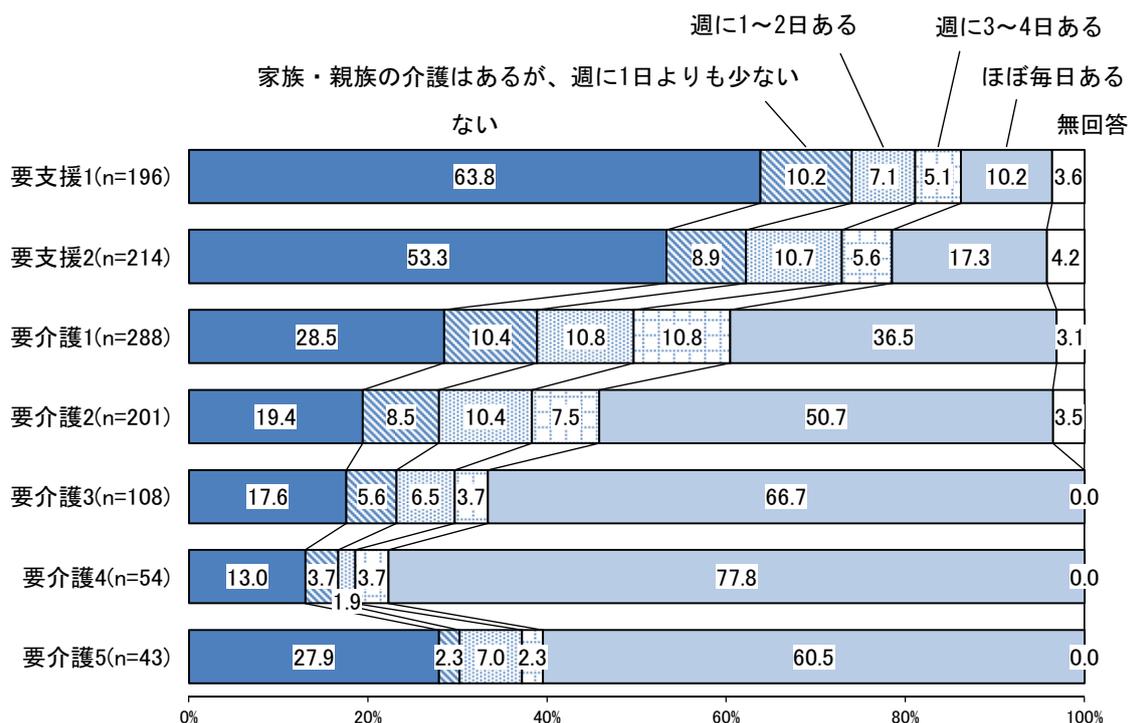
家族等による介護の頻度については、「ほぼ毎日ある」が36.6%で最も高く、次いで「ない」が36.0%となっている。「ほぼ毎日ある」に「週に3～4日ある」(6.8%)、「週に1～2日ある」(9.0%)、「家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない」(8.6%)を合わせた『ある』は61.0%となっている。

【図 家族等による介護の頻度】



要介護度別でみると、要支援1と要支援2では「ない」が5割以上となっている。『ある』は要介護4で約9割、要介護2と要介護3で約8割と高くなっている。

【図 要介護度別 家族等による介護の頻度】



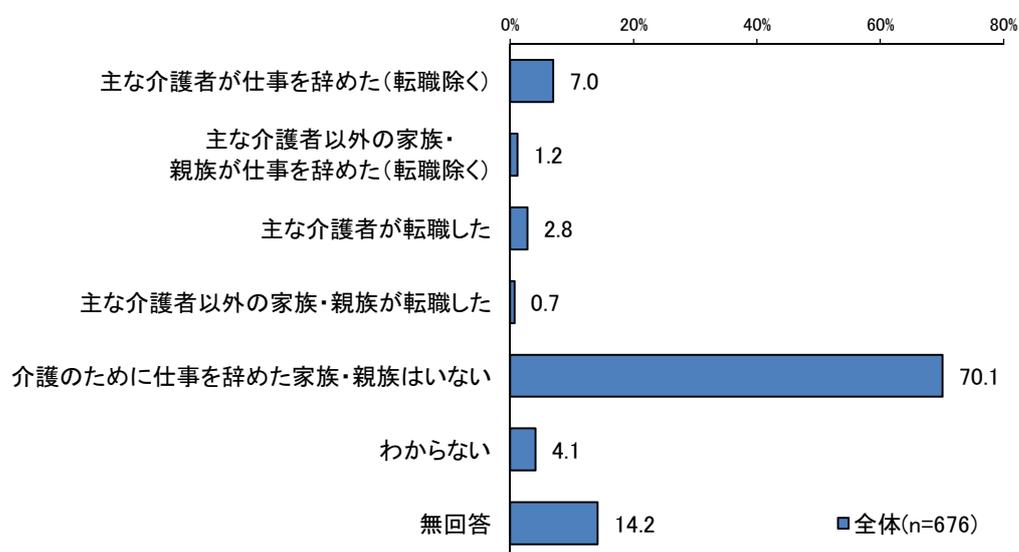
2 主な介護者について

(1) 介護のための離職の有無

問1 ご家族やご親族の中で、ご本人様（認定調査対象者様）の介護を主な理由として、過去1年間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）
（複数選択可）

介護のための離職の有無については「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が70.1%で最も高く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が7.0%、「わからない」が4.1%、「主な介護者が転職した」が2.8%となっている。

【図 介護のための離職の有無】

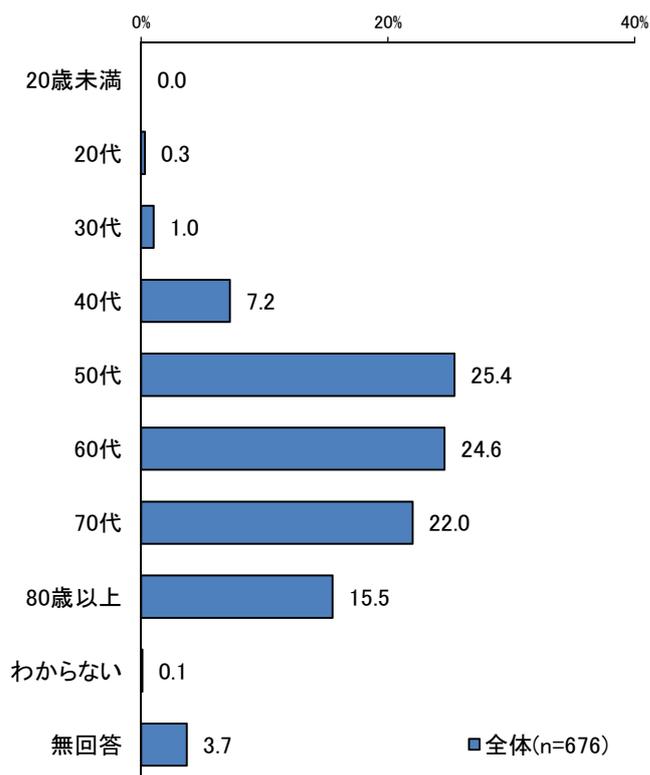


(2) 主な介護者の年齢

問2 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください(1つを選択)

主な介護者の年齢は、「50代」が25.4%で最も高く、次いで「60代」が24.6%、「70代」が22.0%となっている。

【図 主な介護者の年齢】

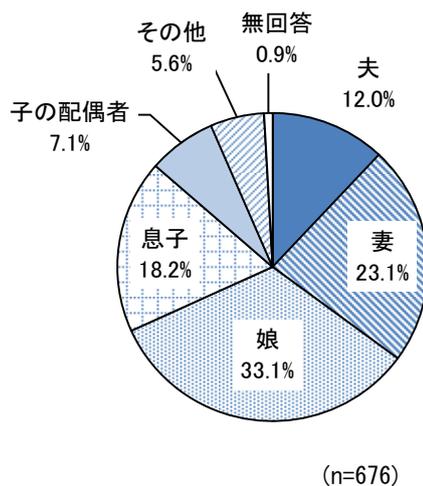


(3) 主な介護者の本人との関係

問3 主な介護者の方の続柄について、ご回答ください（1つを選択）

主な介護者の本人との関係は、「娘」が33.1%で最も高く、次いで「妻」が23.1%、「息子」が18.2%、「夫」が12.0%となっている。

【図 主な介護者の本人との関係】

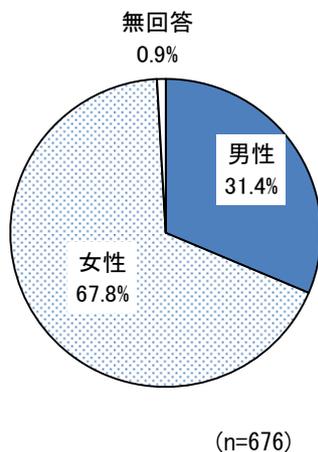


(4) 主な介護者の性別

問4 主な介護者の方の性別について、ご回答ください（1つを選択）

主な介護者の性別は、「女性」が67.8%、「男性」が31.4%となっている。

【図 主な介護者の性別】

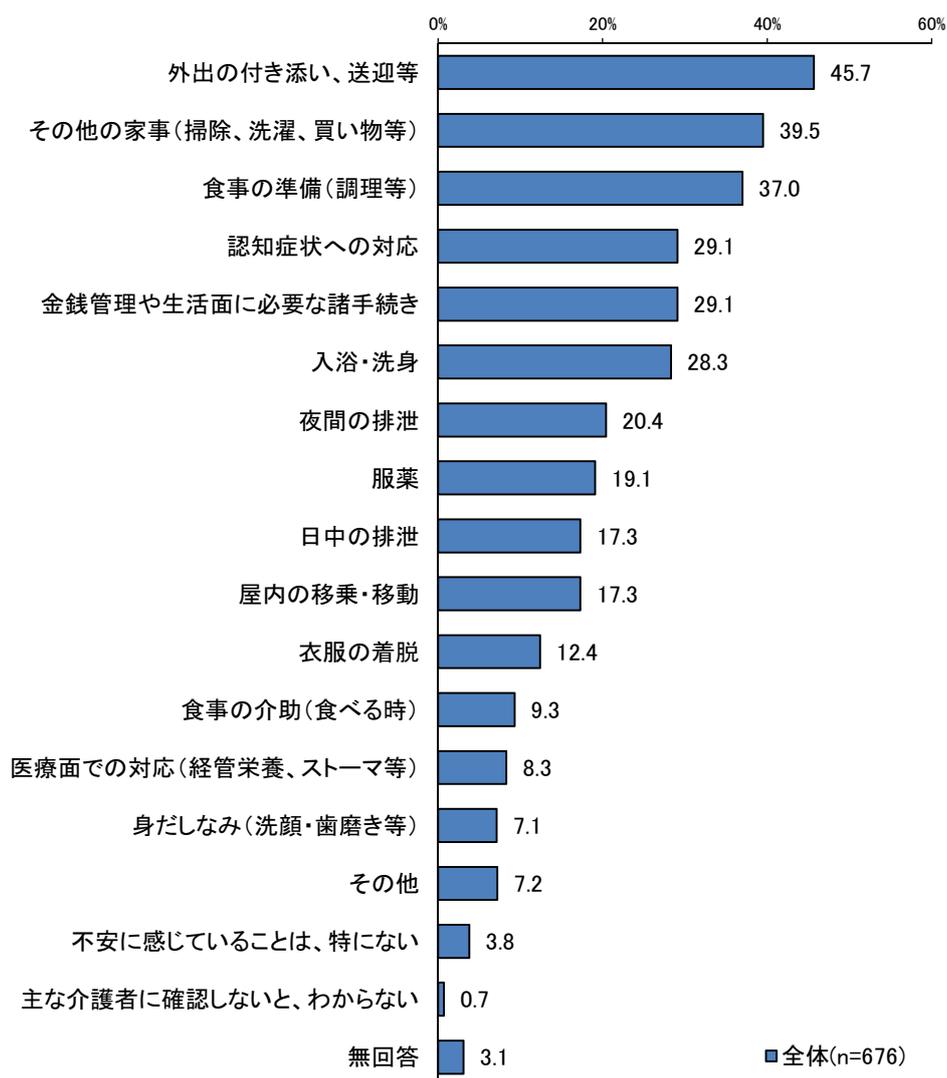


(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

問5 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください（現状で行っているか否かは問いません）（3つまで選択可）

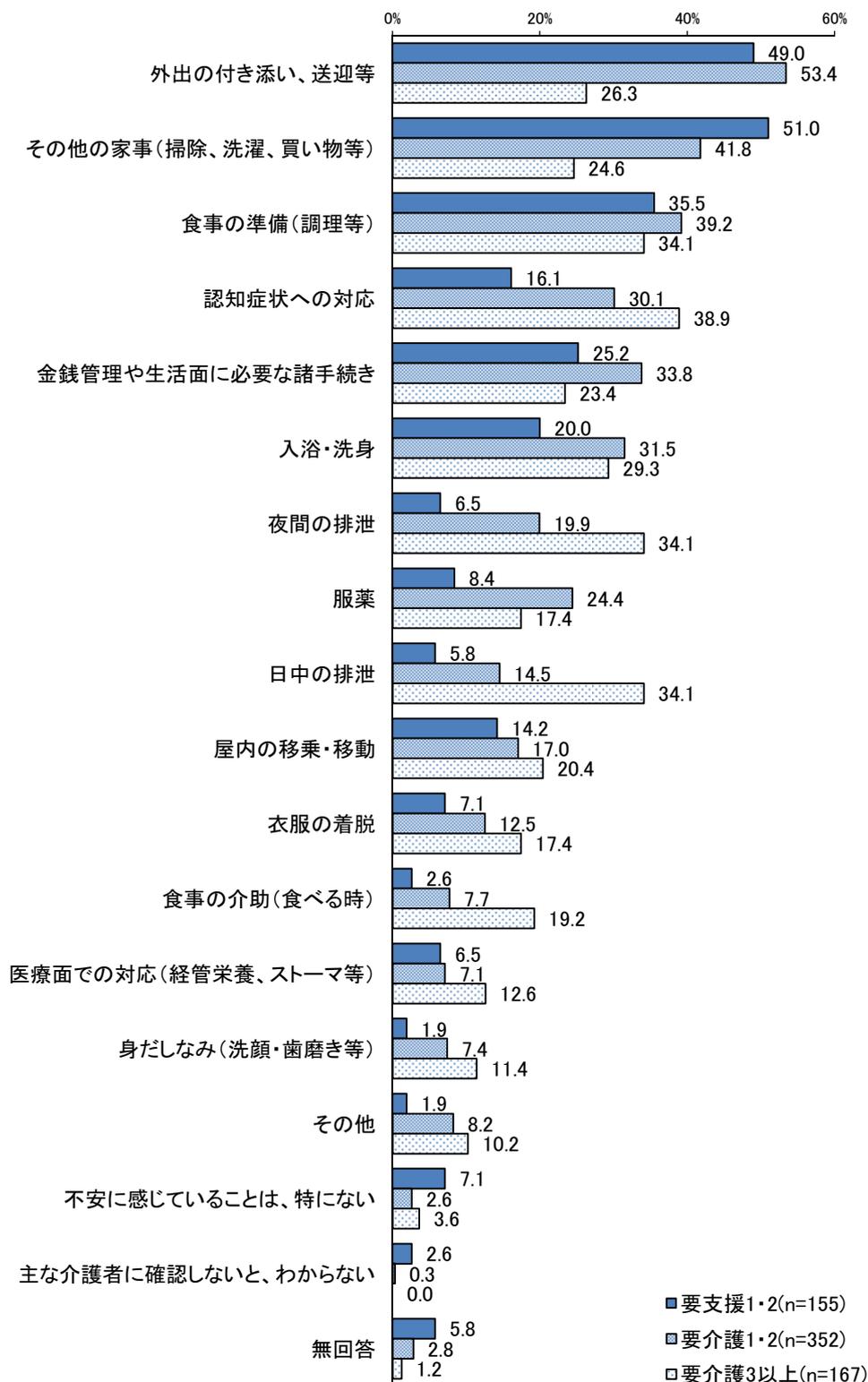
今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護については、「外出の付き添い、送迎等」が45.7%で最も高く、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が39.5%、「食事の準備（調理等）」が37.0%となっている。

【図 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護等】



要介護度別でみると、要介護度3以上では、「認知症状への対応」が38.9%で最も高く、次いで「日中の排泄」「夜間の排泄」「食事の準備（調理等）」がいずれも34.1%となっている。

【図 要介護度別 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安を感じる介護等】



Ⅲ 在宅介護実態調査

主な介護者の年齢別でみると、60代は「外出の付き添い、送迎等」がやや低く、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が最も割合の高い項目となっている。

【図 主な介護者の年齢別

今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護等（上位5項目）

(%)

	回答者数 (n)	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体	676	外出の付き添い、 送迎等 45.7	その他の家事 (掃除、洗濯、買い物等) 39.5	食事の準備 (調理等) 37.0	認知症状への対応／金銭管理や生活 面に必要な諸手続き	29.1
50歳未満	58	外出の付き添い、 送迎等 50.0	その他の家事 (掃除、洗濯、買い物等) 41.4	認知症状への対応 36.2	食事の準備 (調理等) 25.9	入浴・洗身 24.1
50代	172	外出の付き添い、 送迎等 43.0	食事の準備（調理 等） 40.7	認知症状への対応／その他の家事 (掃除、洗濯、買い物等)	36.0	金銭管理や生活面 に必要な諸手続き 30.8
60代	166	その他の家事 (掃除、洗濯、買い物等) 41.0	外出の付き添い、 送迎等 38.0	食事の準備 (調理等) 34.3	認知症状への対応 32.5	金銭管理や生活面 に必要な諸手続き 28.9
70代	149	外出の付き添い、 送迎等 53.7	食事の準備 (調理等) 44.3	その他の家事 (掃除、洗濯、買い物等) 39.6	入浴・洗身／金銭管理や生活面に必 要な諸手続き	32.9
80歳以上	105	外出の付き添い、 送迎等 50.5	その他の家事 (掃除、洗濯、買い物等) 41.9	食事の準備 (調理等) 36.2	認知症状への対応 31.4	入浴・洗身 30.5

就労継続の可否に係る意識別でみると、“問題なく続けていける”人では「外出の付き添い、送迎等」と「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」がともに38.6%で最も高くなっている。

“問題はあるが何とか続けていける”人では「外出の付き添い、送迎等」が53.9%で最も高く、次いで「認知症状への対応」が40.8%となっている。

“続けていくのは難しい”人では、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」と「食事の準備（調理等）」がともに5割弱となっている。

【図 就労継続の可否に係る意識別

今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護等（上位5項目）

(%)

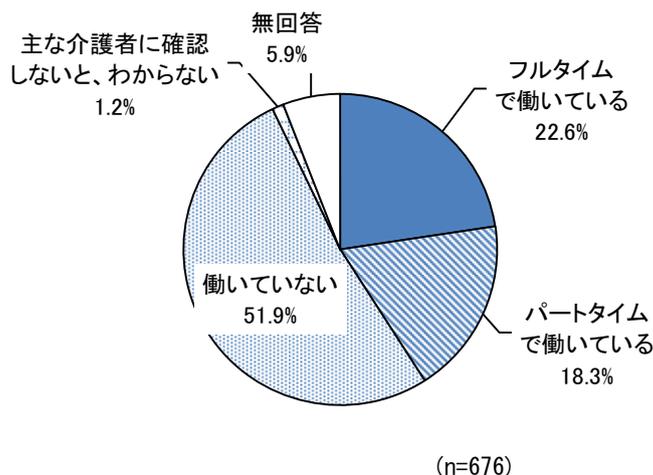
	回答者数 (n)	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体	676	外出の付き添い、 送迎等 45.7	その他の家事 (掃除、洗濯、買い物等) 39.5	食事の準備 (調理等) 37.0	認知症状への対応／金銭管理や生活 面に必要な諸手続き	29.1
問題なく 続けていける	44	外出の付き添い、送迎等／その他の 家事（掃除、洗濯、買い物等） 38.6	食事の準備 (調理等) 29.5	金銭管理や生活面 に必要な諸手続き 25.0	入浴・洗身 20.5	
問題はあるが 何とか続けて いける	152	外出の付き添い、 送迎等 53.9	認知症状への対応 40.8	食事の準備 (調理等) 39.5	その他の家事 (掃除、洗濯、買い物等) 35.5	金銭管理や生活面 に必要な諸手続き 32.2
続けていく のは難しい	51	その他の家事 (掃除、洗濯、買い物等) 49.0	食事の準備 (調理等) 47.1	外出の付き添い、 送迎等 45.1	認知症状への対応 37.3	入浴・洗身／金銭管 理や生活面に必要 な諸手続き 35.3

(6) 主な介護者の勤務形態

問6 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください（1つを選択）

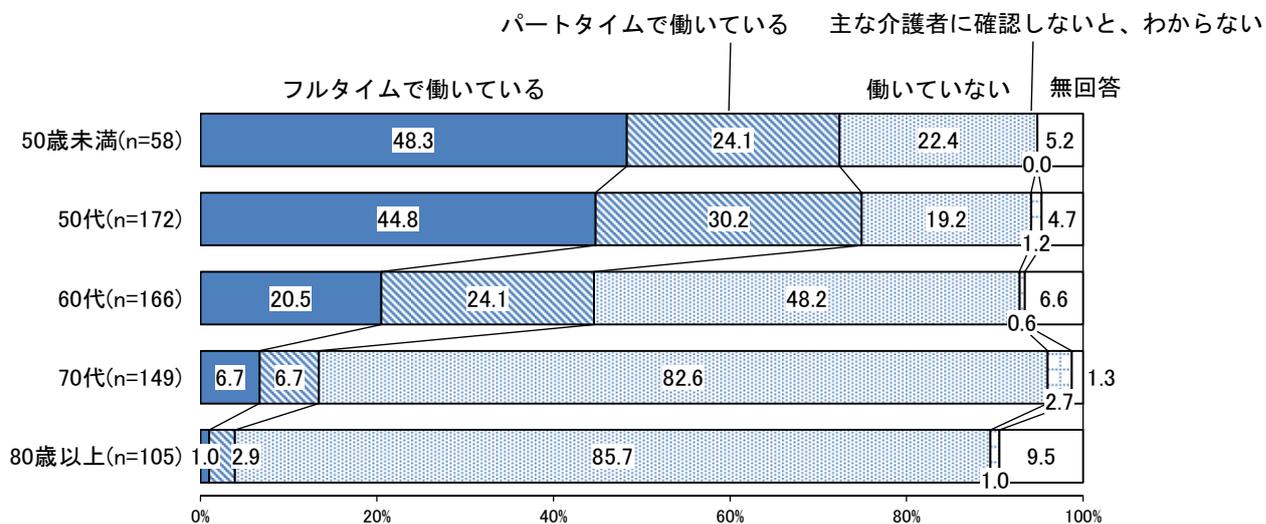
主な介護者の勤務形態は、「働いていない」が51.9%を占め、「フルタイムで働いている」(22.6%)と「パートタイムで働いている」(18.3%)は合わせて40.9%となっている。

【図 主な介護者の勤務形態】



主な介護者の年齢別で見ると、50歳未満と50代では、「フルタイムで働いている」が4割台となっており、「パートタイムで働いている」も合わせ就労中の人々が7割以上を占めている。70代と80歳以上では「働いていない」が8割以上と高くなっている。

【図 主な介護者の年齢別 主な介護者の勤務形態】

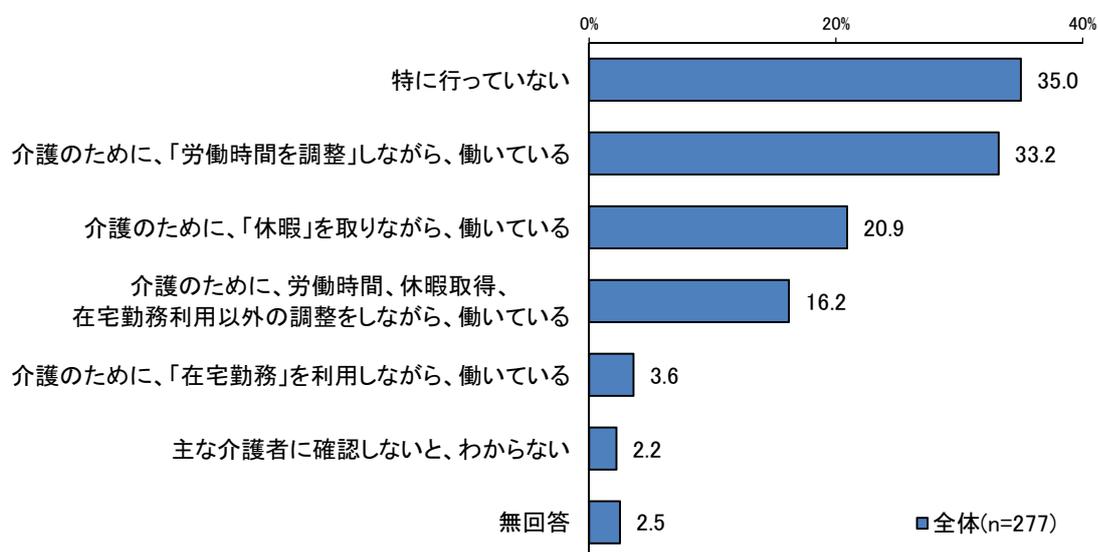


(7) 主な介護者の方の働き方の調整の状況

問7 問6で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか（複数選択可）

主な介護者がフルタイムまたはパートタイムで働いていると回答した人に、介護をするにあたって、調整している働き方についてたずねると、「特に行っていない」が35.0%で最も高く、次いで「介護のために、『労働時間を調整』しながら、働いている」が33.2%、「介護のために、『休暇』を取りながら、働いている」が20.9%、「介護のために、労働時間、休暇取得、在宅勤務利用以外の調整をしながら、働いている」が16.2%となっている。

【図 主な介護者の方の働き方の調整の状況】

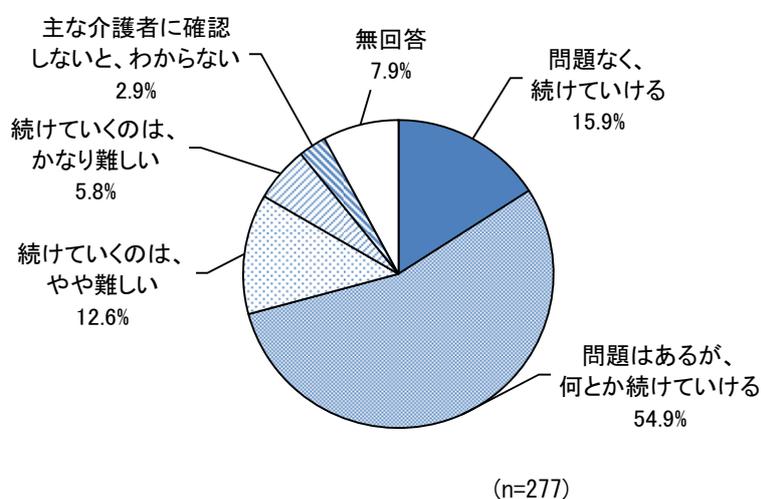


(8) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

問8 問6で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか（1つを選択）

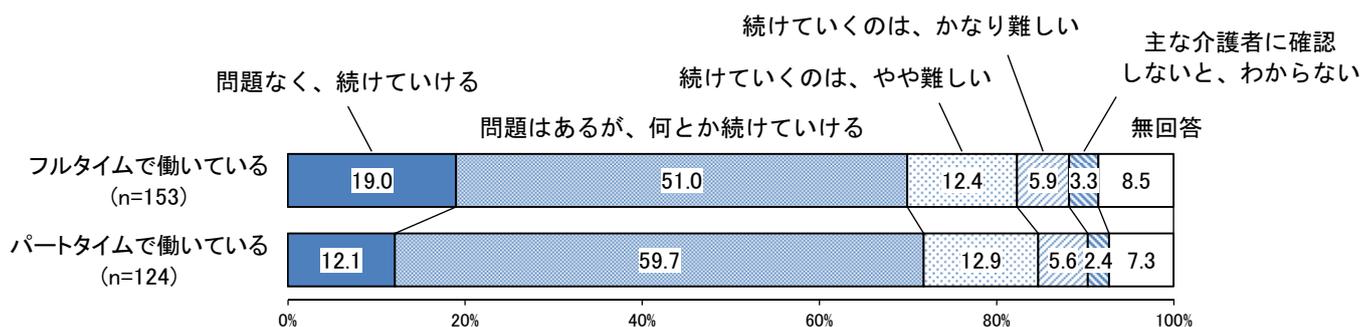
主な介護者がフルタイムまたはパートタイムで働いていると回答した人に、働きながら介護を続けることの意向についてたずねると、「問題はあるが、何とか続けていける」が54.9%で最も高く、次いで「問題なく、続けていける」が15.9%、「続けていくのは、やや難しい」が12.6%となっている。

【図 主な介護者の就労継続の可否に係る意識】



主な介護者の現在の勤務形態別でみると、フルタイム、パートタイムにかかわらず「問題はあるが、何とか続けていける」が最も高く、「問題なく、続けていける」はフルタイムで働いている人(19.0%)のほうがパートタイムで働いている人(12.1%)よりも6.9ポイント高くなっている。

【図 主な介護者の勤務形態別 主な介護者の就労継続の可否に係る意識】



Ⅲ 在宅介護実態調査

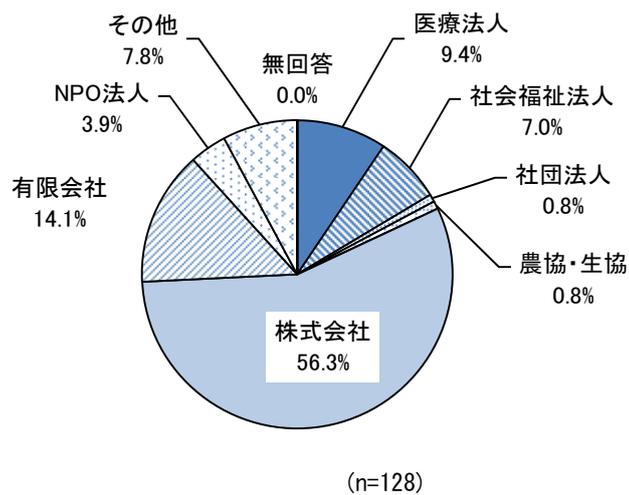
IV 介護保険事業者調査の結果

1 法人の概要

(1) 法人種別

法人種別は、「株式会社」が56.3%で最も高く、次いで「有限会社」が14.1%、「医療法人」が9.4%となっている。

【図 法人種別】



IV 介護保険事業者調査

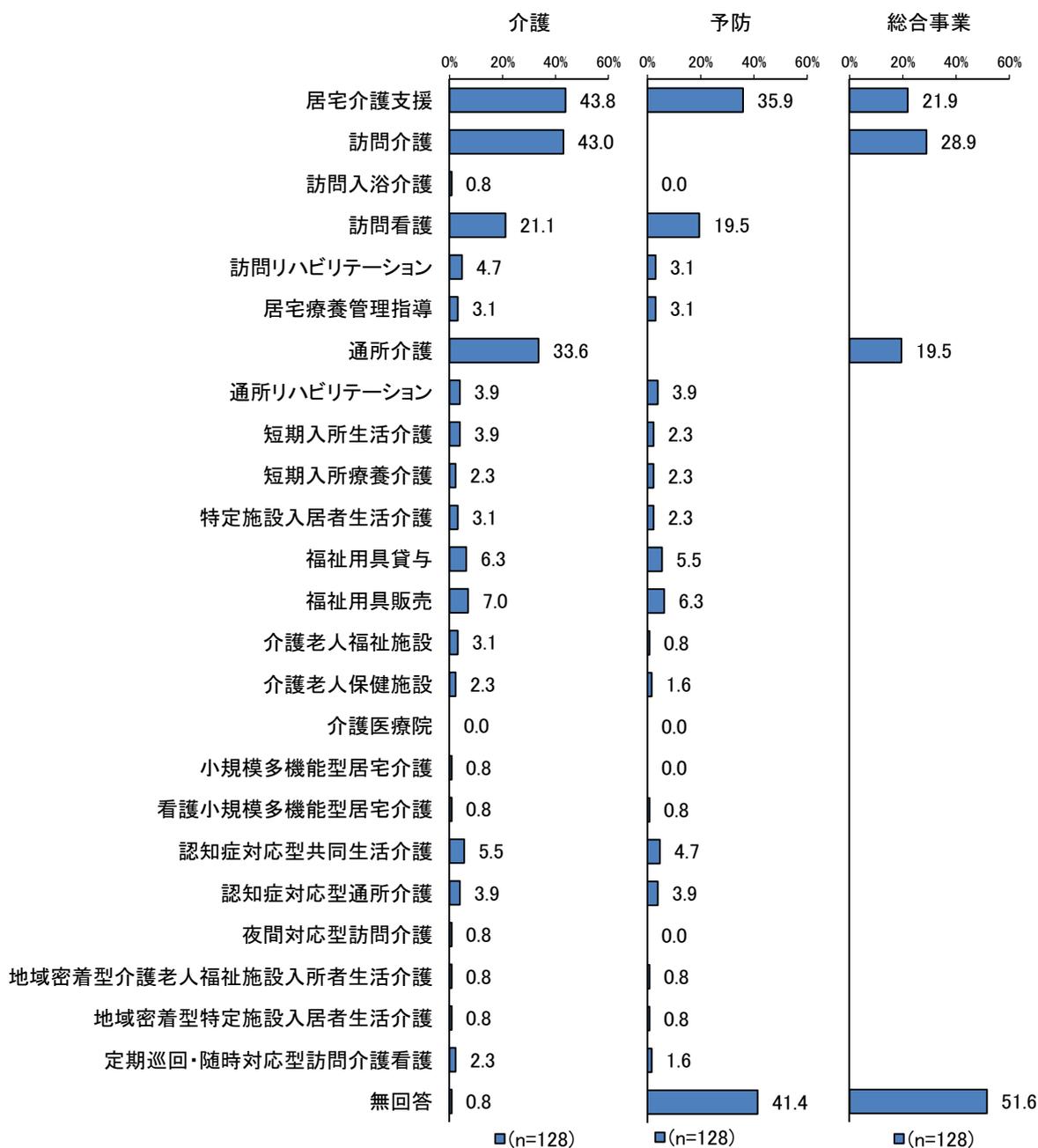
(2) 現在提供しているサービス

現在提供している介護サービスは、「居宅介護支援」が43.8%で最も高く、次いで「訪問介護」が43.0%、「通所介護」が33.6%となっている。

現在提供している予防サービスは、「居宅介護支援」が35.9%で最も高く、次いで「訪問看護」が19.5%となっている。

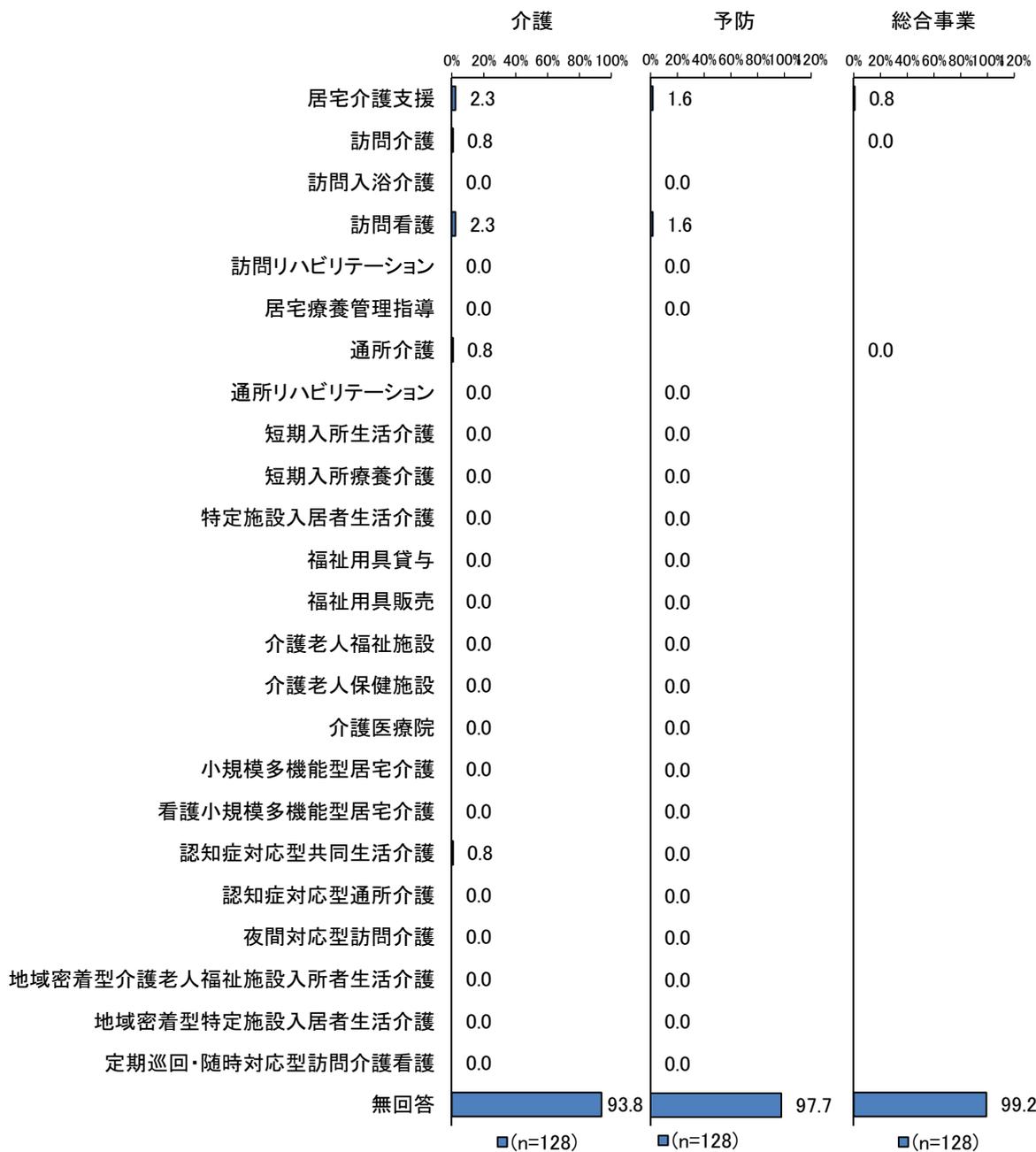
現在提供している総合事業は、「訪問介護」が28.9%で最も高く、次いで「居宅介護支援」が21.9%となっている。

【図 現在提供しているサービス】



3年以内に参入を考えているサービスは、「居宅介護支援」、「訪問看護」が数%程度となっている。

【図 3年以内に参入を考えているサービス】



2 サービス提供に対する自己評価と質向上のための支援について

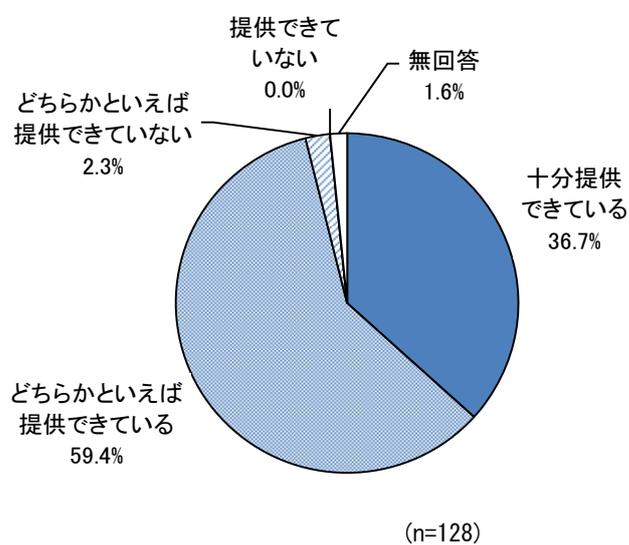
(1) サービス提供に対する自己評価

問3 サービス提供に対する自己評価について

全体的にサービスは利用者のニーズに応じて提供されていると思いますか。(○は1つ)

サービス提供に対する自己評価については、「どちらかといえば提供できている」が59.4%で最も高く、次いで「十分提供できている」が36.7%、「どちらかといえば提供できていない」が2.3%となっている。

【図 サービス提供に対する自己評価】

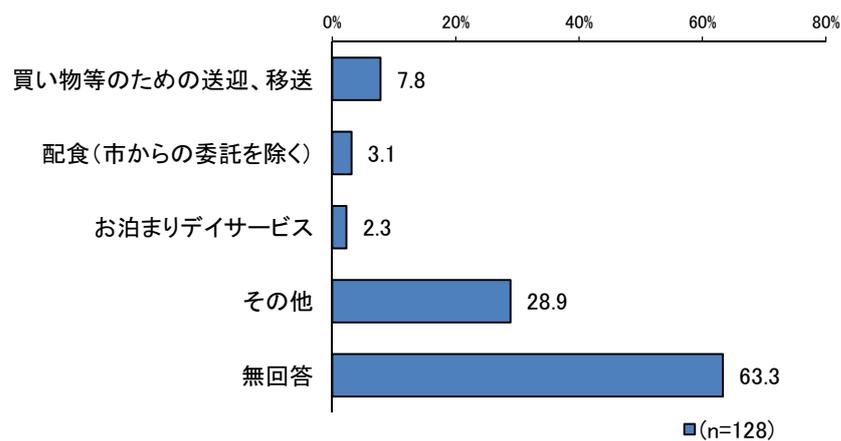


(2) 介護保険サービス外の事業の実施状況

問4 貴法人で独自で介護保険サービス外の事業を実施していますか。

介護保険サービス外の事業の実施状況は、「買い物等のための送迎、移送」が7.8%、「配食（市からの委託を除く）」が3.1%、「お泊まりデイサービス」が2.3%となっている。

【図 介護保険サービス外の事業の実施状況】

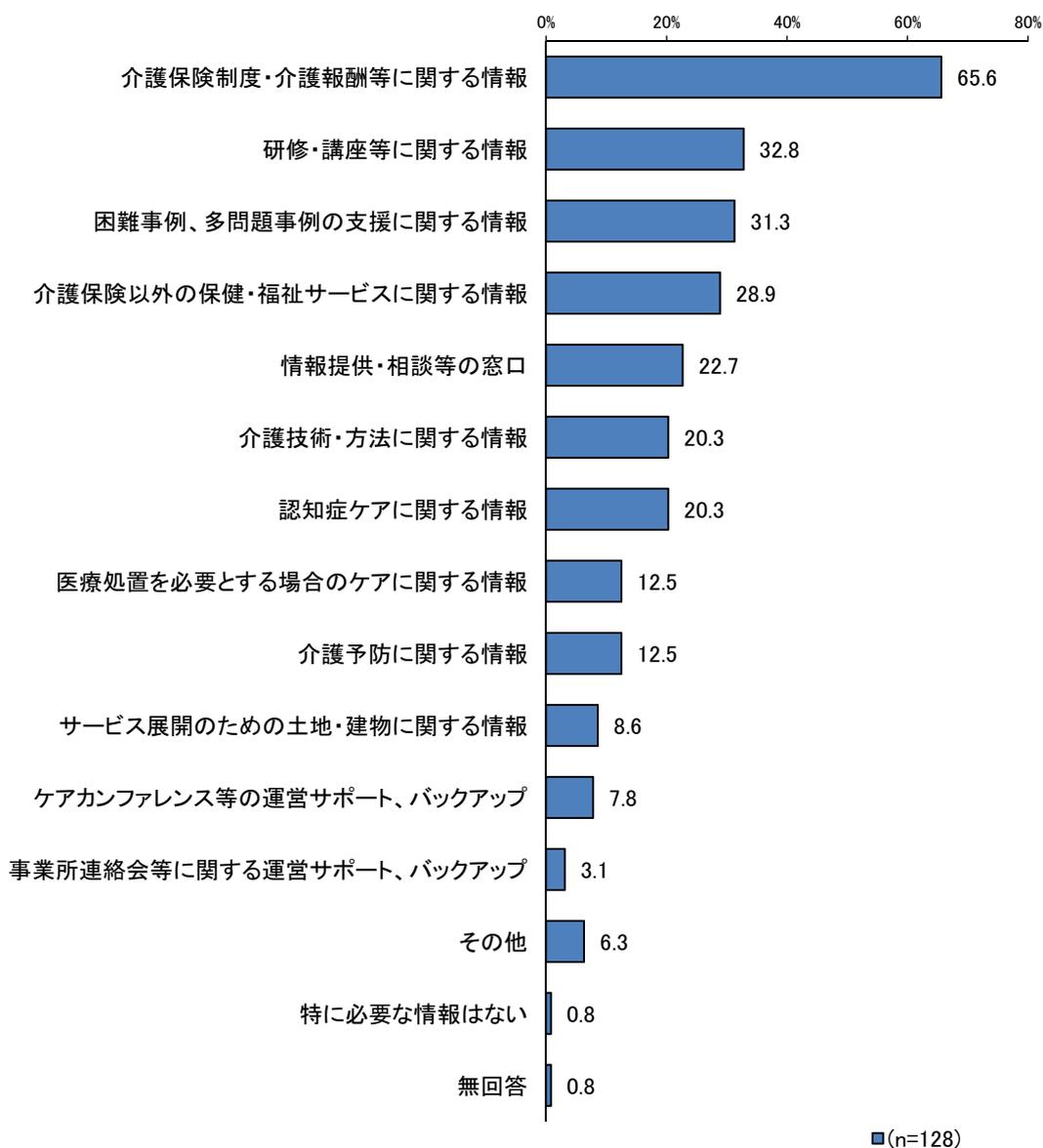


(3) 運営やサービス向上のために必要な情報や支援

問5 貴法人の運営やサービスの向上のために、どのような情報や支援が必要ですか。以下から最も必要と考えられる情報・支援を選択してください。(〇は3つまで)

運営やサービス向上のために必要な情報や支援については、「介護保険制度・介護報酬等に関する情報」が65.6%で最も高く、次いで「研修・講座等に関する情報」が32.8%、「困難事例、多問題事例の支援に関する情報」が31.3%、「介護保険以外の保険・福祉サービスに関する情報」が28.9%となっている。

【図 運営やサービス向上のために必要な情報や支援】



3 医療との連携について

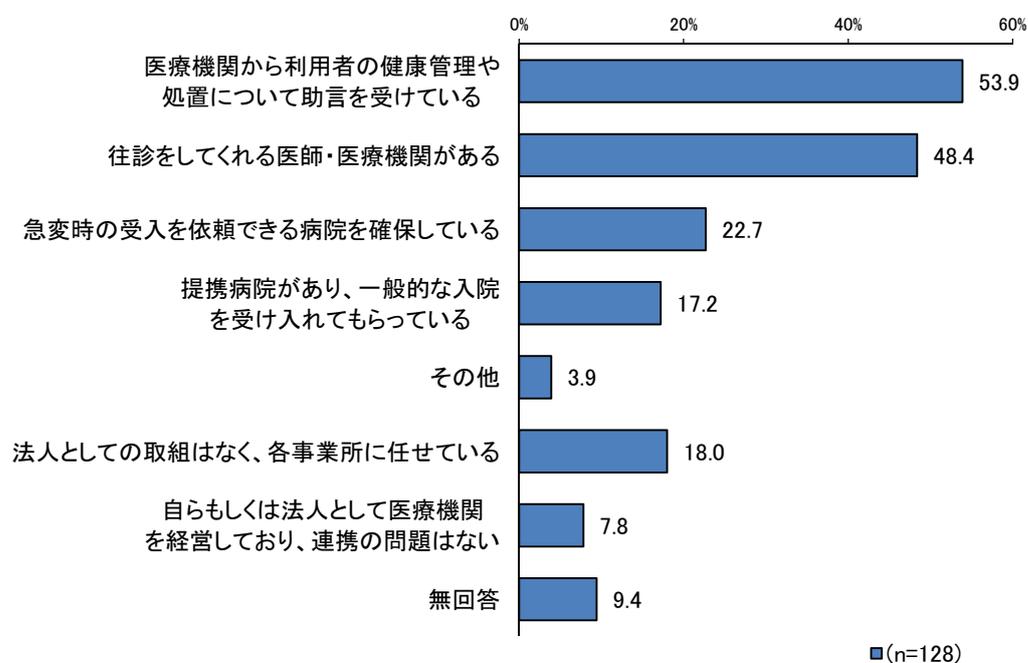
(1) 医療機関との連携について取り組んでいること

問6 医療との連携について

(1) 医療機関との連携について、法人として取り組んでいることがありますか。(〇はいくつでも)

医療機関との連携について取り組んでいることは、「医療機関から利用者の健康管理や処置について助言を受けている」が53.9%で最も高く、次いで「往診をしてくれる医師・医療機関がある」が48.4%、「急変時の受入を依頼できる病院を確保している」が22.7%、「法人としての取組はなく、各事業所に任せている」が18.0%、「提携病院があり、一般的な入院を受け入れてもらっている」が17.2%となっている。

【図 医療機関との連携について取り組んでいること】

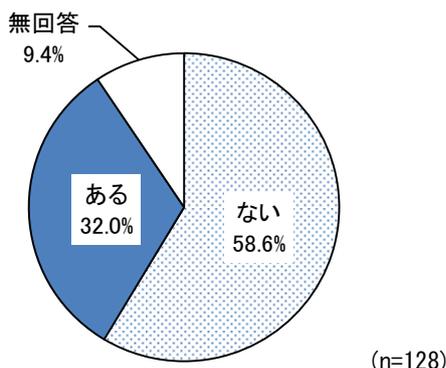


(2) 医療機関との連携について困難に感じること

(2) 医療機関との連携について、困難に感じることはありますか。(〇は1つ)

医療機関との連携について困難に感じることは、「ない」が58.6%に対し、「ある」が32.0%となっている。

【図 医療機関との連携について困難に感じること】



【表 医療機関との連携について困難に感じること】

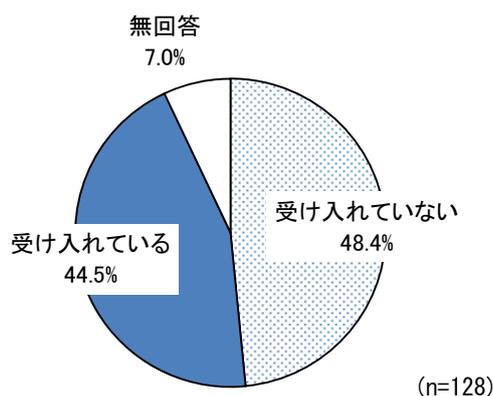
分野	件数	抜粋
タイムラグの発生について	10件	<ul style="list-style-type: none"> ○主治医の診断書がいつまでも提出されないこと。(数ヶ月待ち) その為に認定が数ヶ月保留になっていること ○退院時に依頼しておいたことが伝わっておらず、退院後に病院へ連絡するなどの手間が発生することが多い ○電話・FAX等を介することによるタイムラグ ○医師が忙しくて返事が遅い
医療職との温度差について	6件	<ul style="list-style-type: none"> ○医師に介護保険制度の理解がなく、相談に応じてもらえないことがある ○病院が退院可能とする状態と施設で受け入れできる状態の乖離がある
緊急時の対応について	5件	<ul style="list-style-type: none"> ○各病院(医師)によって救急時の必要情報や家族付添の必要性等が不明瞭である ○担当医(又は専門医)が不在の時に受け入れ困難で受診が出来ない
連携窓口について	3件	<ul style="list-style-type: none"> ○連携の取り方が分からない。窓口がどこなのか? ○連携出来る仕組みがない
医師との連携について	3件	<ul style="list-style-type: none"> ○直接主治医との連携は難しい事がある ○退院退所の際、在宅医のカンファレンス参加が難しく、算定を行うにくい
往診について	2件	<ul style="list-style-type: none"> ○往診していただける耳鼻科がなく、外出が難しい入居者の方の対応に苦慮している
病院への同行について	2件	<ul style="list-style-type: none"> ○治療方針や病状の把握等は通院時の同行が有効と考えますが、大病院、遠方等の時に時間を要する
認知症について	2件	<ul style="list-style-type: none"> ○認知症患者に対する受け入れに難色を示されるケースが多い
その他	6件	<ul style="list-style-type: none"> ○各病院で薬の(お薬手帳)管理等をしっかりしてほしい。数件の病院に通院される利用者に対して重複した薬が多くみられる ○診察時間までの間が長く、利用者が行くことに困って疲れ、医療中断になるリスクあり ○感染症の取り扱い対応等が医療機関によって異なる事がある

(3) 医療ニーズの高い利用者の受入状況

(3) 医療ニーズの高い利用者を受け入れていますか。(〇は1つ)

医療ニーズの高い利用者の受入状況については、「受け入れていない」が48.4%に対し、「受け入れている」が44.5%となっている。

【図 医療ニーズの高い利用者の受入状況】



【表 医療ニーズの高い利用者受入の上での配慮】

分野	件数	抜粋
研修の実施	21件	<ul style="list-style-type: none"> ○喀痰吸引等研修修了や医療的知識の研修などを予定している ○勉強会等の参加により各自でスキルアップを図っている ○症状に合わせ、その後対応等の研修を行っている
情報共有	12件	<ul style="list-style-type: none"> ○職員が行うケア内容などの統一のため定期的に話し合いを行ったり、新人指導では同行訪問をしている ○当該利用者の疾患情報、介護手順の言語化 ○法人事業所全体での申し送りを行う
医療職等からの指導	9件	<ul style="list-style-type: none"> ○専門知識を持った看護師から職員へ指導をしてもらったり、同席してもらった上で慣れるまで処置にあたる等 ○医療機器を使用する場合、必ずメーカーに事業所に来てもらい、説明を受けている
医療機関との連携	8件	<ul style="list-style-type: none"> ○医療機関と連携を取り緊急時の対応等細かく取り決めを事前に行う ○在宅医療、病院等（医療機関）、訪問看護との連携を密にしている
医療職の配置	6件	<ul style="list-style-type: none"> ○看護師が24時間体制で勤務している ○介護老人保健施設を運営しているため、ある一定の医療ニーズのある方を受け入れられるよう医療従事者が勤務している
法人としての連携	5件	<ul style="list-style-type: none"> ○同法人に訪問看護があるため、適宜相談している ○診療所が同法人にあるので医療の相談がやりやすい
その他	4件	<ul style="list-style-type: none"> ○看護の技術や知識についてスキルの高い職員を医療ニーズの高い利用者宅へ訪問させている ○介護での範囲の注意説明

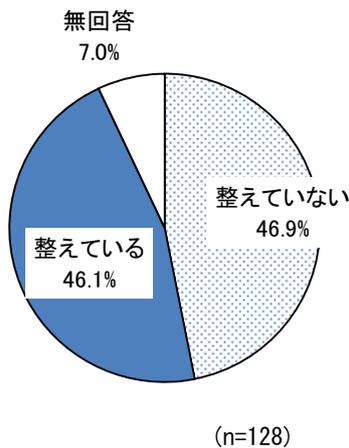
(4) 看取りの体制の整備状況

(4) 看取り^{*}の体制を整備していますか。(○は1つ)

(※ここでいう看取りとは、看取り加算の算定にかかわらず、終末期のケアに係わることを指します。)

看取りの体制の整備状況については、「整えていない」が46.9%に対し、「整えている」が46.1%となっている。

【図 看取りの体制の整備状況】

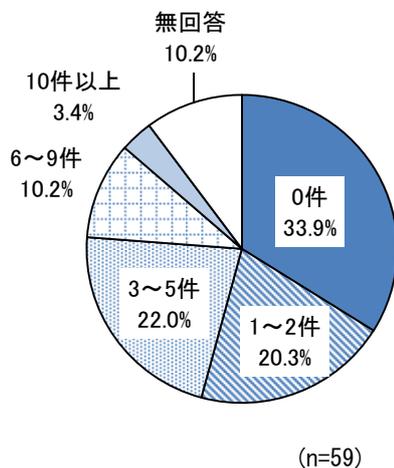


(5) 施設（事業所）での看取りに係わった実人数

(5) 平成30年4月から平成31年3月末までの施設（事業所）での看取りに係わった実人数

施設（事業所）での看取りに係わった実人数は、「0件」が33.9%で最も高く、次いで「3～5件」が22.0%、「1～2件」が20.3%、「6～9件」が10.2%となっている。

【図 施設（事業所）での看取りに係わった実人数】



4 職員の処遇改善に向けた取り組みについて

(1) 平成30年度における介護職員の採用人数

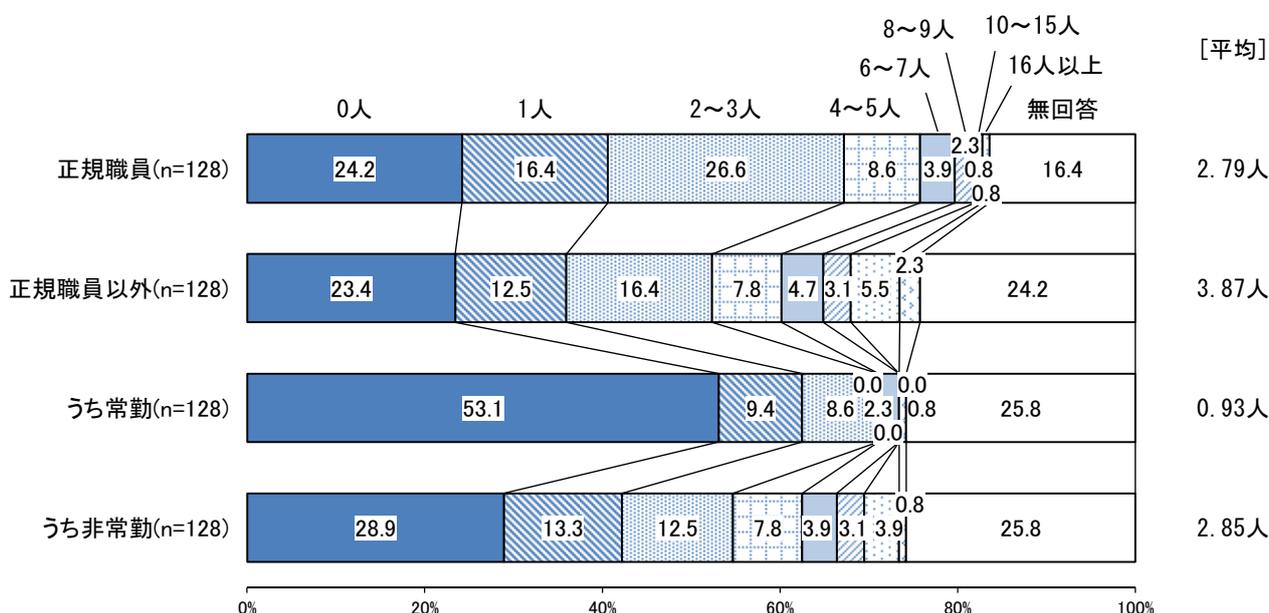
問7 職員の採用等の状況について（平成30年4月1日～平成31年3月31日、茨木市内での事業状況）

(1) 平成30年度における介護職員の採用状況について

平成30年度における介護職員の採用人数については、正規職員では「2～3人」が26.6%で最も高く、次いで「0人」が24.2%となっている。

正規職員以外では、「0人」が23.4%で最も高く、次いで「2～3人」が16.4%、「1人」が12.5%となっている。正規職員以外のうち、常勤は「0人」が53.1%で最も高くなっており、非常勤は「0人」が28.9%で最も高く、次いで「1人」が13.3%、「2～3人」が12.5%となっている。

【図 平成30年度における介護職員の採用人数】



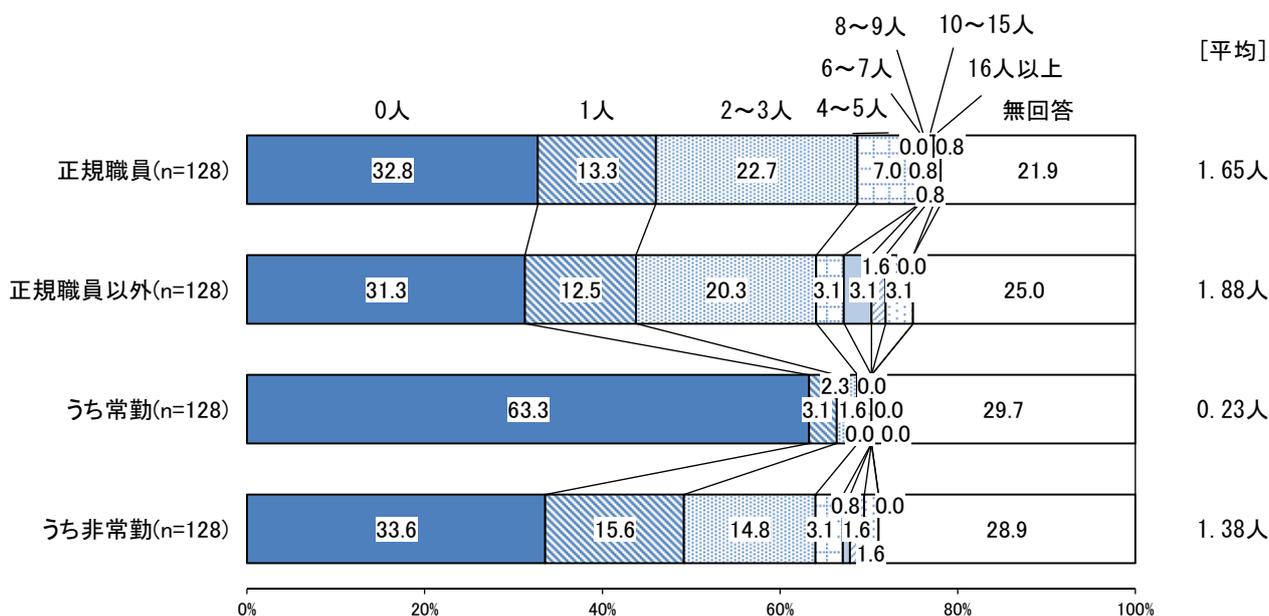
(2) 平成30年度における介護職員の離職人数

(2) 平成30年度における介護職員の離職状況について

平成30年度における介護職員の離職人数については、正規職員では「0人」が32.8%で最も高く、次いで「2～3人」が22.7%となっている。

正規職員以外では、「0人」が31.3%で最も高く、次いで「2～3人」が20.3%、「1人」が12.5%となっている。正規職員以外のうち、常勤は「0人」が63.3%で最も高くなっており、非常勤は「0人」が33.6%で最も高く、次いで「1人」が15.6%、「2～3人」が14.8%となっている。

【図 平成30年度における介護職員の離職人数】

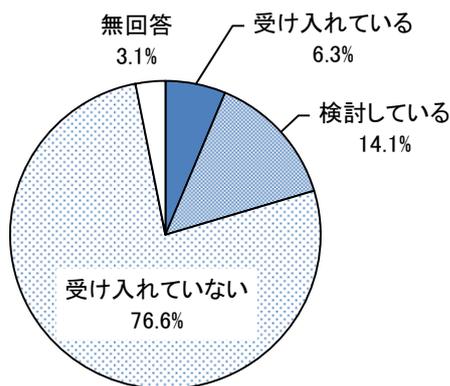


(3) 外国人介護職員の採用状況

(3) 調査時点（令和元年10月1日時点）における外国人介護職員の採用状況について

外国人介護職員の採用状況については、「受け入れていない」が76.6%で最も高く、次いで「検討している」が14.1%、「受け入れている」が6.3%となっている。

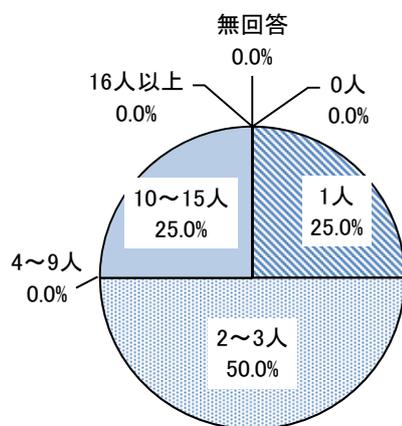
【図 外国人介護職員の採用状況】



(n=128)

外国人介護職員の採用人数については、「2～3人」が50.0%で最も高く、次いで「1人」と「10～15人」がともに25.0%ずつが続いている。

【図 外国人介護職員の採用人数】



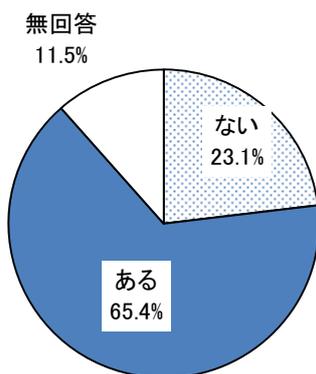
(n=8)

(4) 外国人介護職員の採用にあたって困難に感じていること

(3)で、1または2に回答された方は以下にお答えください。
受け入れにあたり困難に感じていることがありますか。

外国人介護職員の採用にあたって困難に感じていることについては、「ある」が65.4%に対し、「ない」が23.1%となっている。

【図 外国人介護職員の採用にあたって困難に感じていること】



(n=26)

【表 外国人介護職員の採用にあたって困難に感じていること】

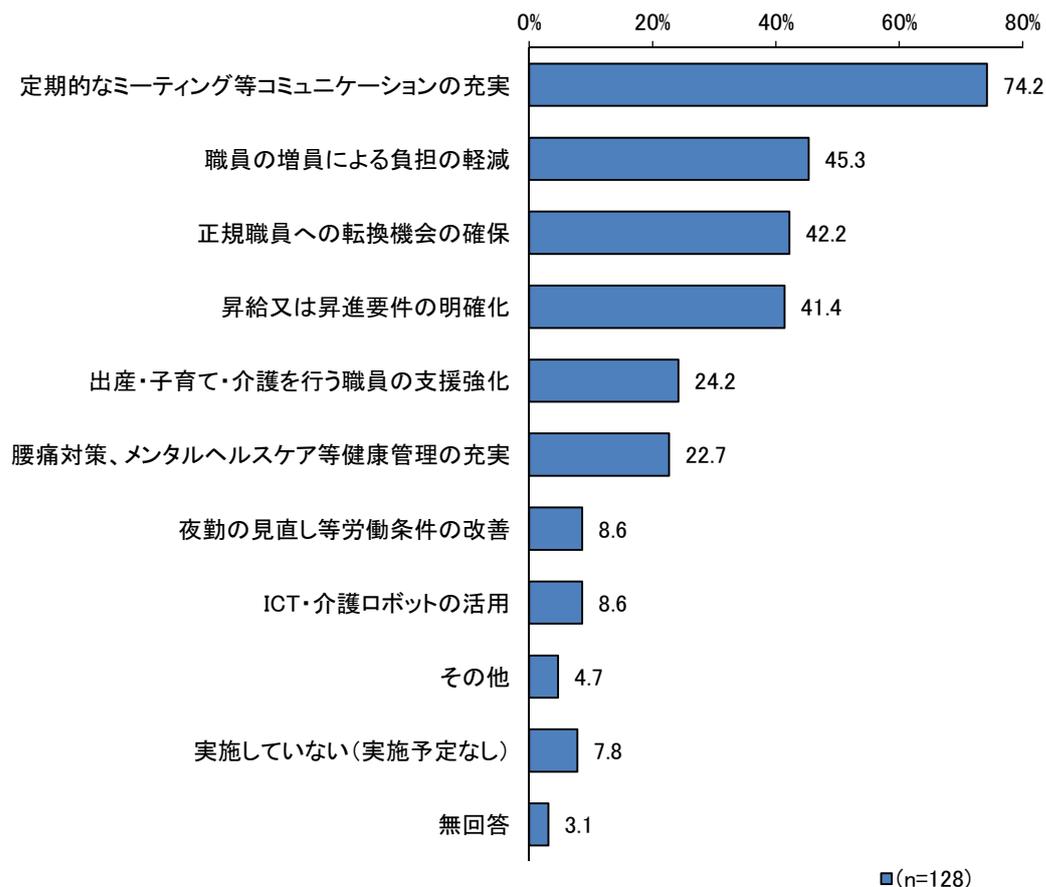
分野	件数	抜粋
コミュニケーションについて	14件	○日本語能力、介護技術の指導方法 ○面接時の TAL テストを受けることができなかった。敬語が使えなかった ○言語、職員によって言い回しが違うと伝わらない
文化・習慣について	4件	○文化の違い、接遇、生活習慣、言語など
記録について	2件	○介護記録が適切にできるかどうか不安である
手続きについて	1件	○実際に調べてはいないが、住居や他の登録等しなければならぬことが多いとか…

(5) 職員の処遇向上のために取り組んでいること

問8 職員の処遇向上のために取り組んでいることはありますか。(〇はいくつでも)

職員の処遇向上のために取り組んでいることについては、「定期的なミーティング等コミュニケーションの充実」が74.2%で最も高く、次いで「職員の増員による負担の軽減」が45.3%、「正規職員への転換機会の確保」が42.2%、「昇給又は昇進要件の明確化」が41.4%となっている。

【図 職員の処遇向上のために取り組んでいること】

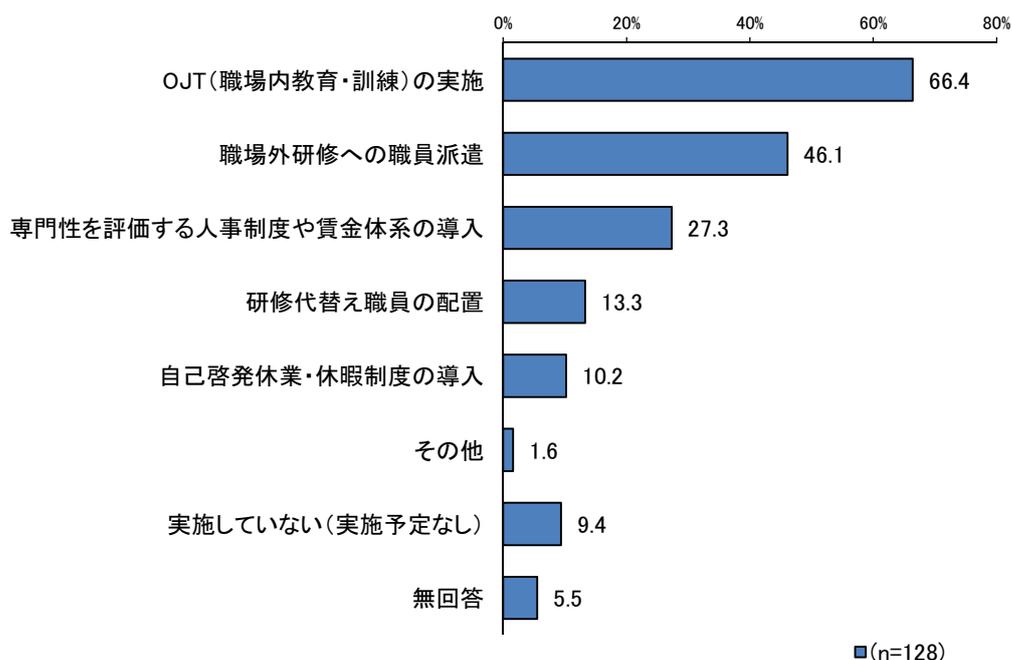


(6) 職員のキャリアアップを促すために取り組んでいること

問9 職員のキャリアアップを促すために取り組んでいることはありますか。(〇はいくつでも)

職員のキャリアアップを促すために取り組んでいることについては、「OJT(職場内教育・訓練)の実施」が66.4%で最も高く、次いで「職場外研修への職員派遣」が46.1%、「専門性を評価する人事制度や賃金体系の導入」が27.3%となっている。

【図 職員のキャリアアップを促すために取り組んでいること】



(7) 自由意見

問10 その他、ご意見やご要望などお気づきのことがありましたらご記入ください。

自由意見
介護度を上げない。個々の利用者様への個別対応、自宅のできる限り暮らせるを基本に取り組んでいますが、他事業所の取り組みの情報が知りたい。
ヘルパー年齢が上がって来ている。60～70代が活躍している。最高80才～最低47才。体力的にも厳しくなっている。若いヘルパーさんがなかなか集まらない状況です。
いつもありがとうございます
お世話になっております。今後ともよろしく願いいたします
近年、利用者の家族等の介護保険に対する知識の向上もみられる反面、要求の内容もヒートアップする時が見受けられる様になりました。スタッフを守るためにも、利用者や家族の自立のための要望や目標達成のための支援は積極的に関わっていきたいですが、お手伝いさん、女中さんの様な「何でもやってくれる人」との勘違いな要求もみられる事があり、利用者、そして家族にも介護保険を使う事の詳しい内容や目的などを、居宅介護支援員からも説明して頂きたいと思う事があります。
職員の高齢化も進んでおり、優秀な人材確保・育成が難しいのが現状です。待遇改善も現行法下では十分できず、今後の運営上の重要課題と考えています。
当事業所は小学校グラウンド前にあることで徒歩1分で送迎（子供の）ができますので小学校に通う児童の親が半分勤務しています。開設当初からの方が体の続く限り勤めたいということで現在77歳で調理、掃除、買物を担当していただいています。介護は人のお世話が心から好きでないといけない仕事ですが命に関わる仕事をしていて賃金が安すぎです。ケアプラン料の自費負担分の発生でスタッフの時給upができませんように。宜しくお願いします。
過去に独居加算と認知症加算があったが、復活していただけないものかと思う。実際頻回な訪問となることが多く、独居の認知症利用者だと電話対応や訪問でかなり時間が取られる。よろしく願いします
職員に給料のベースアップを考えていますが、収入と支出のバランスが合わず、利用者のニーズに応じて収入に見合った給料を出せるよう取り組んでいます
外国人受け入れに際し、居住場所や食費の負担等の条件が多く負担も大きい
このアンケートにより意識していなかった運営方針を具体的に考える動機になりました。

Ⅳ 介護保険事業者調査

資料(調査票)

茨木市の保健福祉に関するアンケート調査 (高齢者の方へ)

■ ご協力をお願い

皆様には、日頃から市政の推進に温かいご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、本市では、市民の皆様が高齢期を豊かに充実して送ることができるように、保健福祉サービス・介護保険サービスをはじめ、高齢者の健康増進や生きがい施策など、さまざまな取組みを進めています。

このアンケート調査は、このような高齢者施策の充実を目的に実施するもので、65歳以上の市民から無作為に抽出した3,000人の方を対象に実施しています。

ご記入いただいた内容につきましては、個人情報保護の保護に十分な注意を払い、本調査の目的以外には使用しませんので、率直なご意見をお聞かせください。

ご多用のところ、お手数をおかけいたしますが、調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力いただきますようお願いいたします。

令和元年11月

茨木市長 福岡 洋一

<ご回答にあたってのお願い>

- ◎ 回答は、あてはまる番号に○印をつけていただくものと、数字などをご記入いただくものがあります。「いくつでも」など回答方法を指定していますので、ご注意のうえ、ご回答ください。
- ◎ 質問には、令和元年11月1日現在でお答えください。
- ◎ ご本人が、調査票をご記入できない場合は、ご家族の方による代筆記入でも構いません。
- ◎ 質問の回答が、「その他」にあてはまる場合は、その内容を()内になるべく具体的に記入してください。
- ◎ ご記入いただいた調査票は、12月13日(金)までに、同封の返信用封筒によりご返送ください。なお、封筒には差出人の氏名の記入や切手の貼付は不要ですので、そのままご投函ください。

ちようきひよう きにゆう きにゆう きちか かた よ あ だいひつきにゆう
 調査票の記入にあたって、身近な方の読み上げや代筆記入
 ができない場合、また、記入にあたってわからないことがありましたら、
 ちようじゆかいごか せいんちく
 長寿介護課までご連絡ください。

ちようさき とあ さき
 【この調査についてのお問い合わせ先】

いはらきし けんこうふくしが ちようじゆかいごか でんわ
 茨木市 健康福祉部 長寿介護課 電話：072-620-1639

1 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

【ご回答にあたって】

調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。

1. あて名のご本人が記入
2. ご家族が記入 (あて名のご本人からみた続柄)
3. その他 ()

問1 あなたのご家族や生活状況について

Q1 性別をおたずねします。

1. 男性
2. 女性

Q2 年齢は、次のどれにあてはまりますか。

1. 65～69歳
2. 70～74歳
3. 75～79歳
4. 80～84歳
5. 85～89歳
6. 90歳以上

Q3 家族構成をお教えください。

1. 1人暮らし
2. 夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)
3. 夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)
4. 息子・娘との2世帯
5. その他 ()

Q4 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。

1. 介護・介助は必要ない (→Q5へ)
2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない (→Q5へ)
3. 現在、何らかの介護を受けている (介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む) (→Q4-1へ)

Q4-1 【Q4で「3. 現在、何らかの介護を受けている」の方のみ】

①主にどなたの介護・介助を受けていますか。(いくつでも)

1. 配偶者(夫・妻)
2. 息子
3. 娘
4. 子の配偶者
5. 孫
6. 兄弟・姉妹
7. 介護サービスのヘルパー
8. その他 ()

Q5 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。

1. 大変苦しい
2. やや苦しい
3. ぶつう
4. ややゆとりがある
5. 大変ゆとりがある

Q6 お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。

- 1. 持家 (一戸建て)
- 2. 持家 (集合住宅)
- 3. 公営賃貸住宅
- 4. 民間賃貸住宅 (一戸建て)
- 5. 民間賃貸住宅 (集合住宅)
- 6. 借家
- 7. その他 ()

問2 からだを動かすことについて

Q1 階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか。

- 1. できるし、している
- 2. できるけどしていない
- 3. できない

Q2 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。

- 1. できるし、している
- 2. できるけどしていない
- 3. できない

Q3 15分位続けて歩いて歩いていますか。

- 1. できるし、している
- 2. できるけどしていない
- 3. できない

Q4 過去1年間に転んだ経験がありますか。

- 1. 何度もある
- 2. 1度ある
- 3. ない

Q5 転倒に対する不安は大きいですか。

- 1. とても不安である
- 2. やや不安である
- 3. あまり不安でない
- 4. 不安でない

Q6 週に1回以上は外出していますか。

- 1. ほとんど外出しない
- 2. 週1回
- 3. 週2～4回
- 4. 週5回以上

Q7 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。

- 1. とても減っている
- 2. 減っている
- 3. あまり減っていない
- 4. 減っていない

Q8 外出を控えていますか。

- 1. はい (→Q8-1へ)
- 2. いいえ

Q8-1 【Q8で「1. はい」(外出を控えている)の方のみ】

①外出を控えている理由は、次のどれですか。(いくつでも)

- 1. 病気のため
- 2. 障害のため
- 3. 足腰などの痛みの不安
- 4. トイレの心配 (失禁など)
- 5. 外での楽しみがない
- 6. 経済的に出られない
- 7. 交通手段がない
- 8. 階段等、段差が多く移動しにくい
- 9. 外出するための移動手段がない
- 10. 車や自転車の通行が多く移動しにくい
- 11. 近くに買い物等ができる場所がない
- 12. 趣味や娯楽を楽しめる場所がない
- 13. その他 ()

Q9 外出する際の移動手段は何ですか。(いくつでも)

- 1. 徒歩
- 2. 自転車
- 3. バイク
- 4. 自動車 (自分で運転)
- 5. 自動車 (人に乗せてもらう)
- 6. 電車
- 7. 路線バス
- 8. 病院や施設のバス
- 9. 車いす
- 10. 電動車いす (カート)
- 11. 歩行器・シルバーカー
- 12. タクシー
- 13. その他 ()

Q10 外出する際の目的は何ですか。(いくつでも)

- 1. 買い物
- 2. 通院
- 3. 趣味・娯楽
- 4. 仕事
- 5. 友人・知人との交流
- 6. その他 ()

問3 食べることについて

Q1 身長・体重

身長 cm 体重 kg

Q2 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。

- 1. はい
- 2. いいえ

Q3 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。

(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です。)

- 1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用
- 2. 自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし
- 3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用
- 4. 自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし

Q 4 どなたかと食事をともにする機会がありますか。

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 1. 毎日ある | 2. 週に何度かある | 3. 月に何度かある |
| 4. 年に何度かある | 5. ほとんどない | |

問 4 毎日の生活について

Q 1 物忘れが多いと感じますか。

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

Q 2 バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）。

- | | | |
|--------------|---------------|---------|
| 1. できるし、している | 2. できるけどしていない | 3. できない |
|--------------|---------------|---------|

Q 3 自分で食品・日用品の買物をしていますか。

- | | | |
|--------------|---------------|---------|
| 1. できるし、している | 2. できるけどしていない | 3. できない |
|--------------|---------------|---------|

Q 4 自分で食事の用意をしていますか。

- | | | |
|--------------|---------------|---------|
| 1. できるし、している | 2. できるけどしていない | 3. できない |
|--------------|---------------|---------|

Q 4-1 【Q 4で「2. できるけどしていない」「3. できない」の方のみ】

①食事の確保はどのようにしていますか。（いくつでも）

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| 1. 家族が買い物や調理をしている | 2. ヘルパーが買い物や調理をしている |
| 3. デイサービス利用時に食事が提供されている | 4. 配食サービスを利用している |
| 5. その他（ ） | |

Q 5 自分で請求書の支払いをしていますか。

- | | | |
|--------------|---------------|---------|
| 1. できるし、している | 2. できるけどしていない | 3. できない |
|--------------|---------------|---------|

Q 6 自分で預貯金の出し入れをしていますか。

- | | | |
|--------------|---------------|---------|
| 1. できるし、している | 2. できるけどしていない | 3. できない |
|--------------|---------------|---------|

Q 7 新聞、本、雑誌を読んでいますか。

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

Q 8 趣味・生きがいはありますか。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 趣味・生きがいあり | → 具体的に記入ください |
| 2. 思いつかない | |

Q 9 次の情報通信機器のうち日常生活でよく使用しているものはありますか。（いくつでも）

- | | | |
|------------|---------|-----------|
| 1. 固定電話 | 2. 携帯電話 | 3. スマートホン |
| 4. タブレット端末 | 5. パソコン | 6. その他（ ） |
| 7. 使用していない | | |

問 5 地域での活動について

Q 1 以下のような会・グループ等にとのくらの頻度で参加していますか。

※①～⑧それぞれに回答してください。

	週 4 回 以 上	週 2 〜 3 回	週 1 回	月 1 〜 3 回	年 に 数 回	参 加 し て い な い
① ボランティアのグループ	1	2	3	4	5	6
② スポーツ関係のグループ やクラブ	1	2	3	4	5	6
③ 趣味関係のグループ	1	2	3	4	5	6
④ 学習・教養サークル	1	2	3	4	5	6
⑤ (コミュニティデイハウ スなど) 介護予防のため の通いの場	1	2	3	4	5	6
⑥ 老人クラブ	1	2	3	4	5	6
⑦ 町内会・自治会	1	2	3	4	5	6
⑧ 収入のある仕事	1	2	3	4	5	6

Q 2 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。

- | | | | |
|------------|------------|------------|-------------|
| 1. 是非参加したい | 2. 参加してもよい | 3. 参加したくない | 4. 既に参加している |
|------------|------------|------------|-------------|

Q3 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営 (お世話役)として参加してみたいと思いますか。

1. 是非参加したい	2. 参加してもよい	3. 参加したくない	4. 既に参加している
------------	------------	------------	-------------

Q3-1 【Q3で「1. 是非参加したい」「2. 参加してもよい」の方のみ】
①地域づくりの活動に参加した際、報酬は必要だと思いますか。

1. はい	2. いいえ
-------	--------

Q4 自宅以外に落ち着ける・安心できる場所はありますか。(いくつでも)

1. 友人・知人宅	2. 近所の公園	3. 図書館
4. 公民館・コミュニティセンター	5. ショッピングセンター	6. 商店街
7. 飲食店	8. 遊技場	9. 病院
10. デイサービス	11. 仕事場	12. いきいき交流広場
13. コミュニティデイハウス・街かどデイハウス	14. 仲間との趣味活動の場	
15. 地区福祉委員会によるサロンやコミュニティカフェ (ぶらっとホーム含む)		
16. シニアプラザがいばらき・多世代交流センターでの諸活動		
17. その他 ()		

Q5 どのような居場所があれば利用しようと思いますか。(いくつでも)

1. 家から近い	2. 料金が安い・無料
3. 趣味やスポーツが楽しい	4. 学習の場
5. ボランティア活動の場	6. 仕事のできる場
7. 知り合いがいる	7. その他 ()

問6 たすけあいについて

あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします

Q1 あなたの心配事や愚痴 (ぐち) を聞いてくれる人 (いくつでも)

1. 配偶者	2. 同居の子ども
3. 別居の子ども	4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫
5. 近隣	6. 友人
7. その他 ()	8. そのような人はいない

Q2 反対に、あなたが心配事や愚痴 (ぐち) を聞いてあげる人 (いくつでも)

1. 配偶者	2. 同居の子ども
3. 別居の子ども	4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫
5. 近隣	6. 友人
7. その他 ()	8. そのような人はいない

Q3 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人 (いくつでも)

1. 配偶者	2. 同居の子ども	3. 別居の子ども
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	5. 近隣	6. 友人
7. その他 ()	8. そのような人はいない	

Q4 反対に、看病や世話をしてあげる人 (いくつでも)

1. 配偶者	2. 同居の子ども
3. 別居の子ども	4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫
5. 近隣	6. 友人
7. その他 ()	8. そのような人はいない

Q5 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。(いくつでも)

1. 自治会・町内会・老人クラブ	2. 社会福祉協議会・民生委員
3. ケアマネジャー	4. 医師・歯科医師・薬剤師・看護師
5. 地域包括支援センター	6. 市役所
7. その他 ()	8. そのような人はいない

Q6 近隣者との付き合いは、どの程度ありますか。

1. 互いの家を行き来する	2. 家を訪ねてくれる人がいる
3. 立ち話をする程度	4. あいさつを交わす程度
5. 交流はほとんどない	

Q7 近所や地域の人に、手伝ってもらいたいことやほしいことは何ですか。(いくつでも)

1. 買い物
2. 通院の付き添い
3. 外出先への同行
4. 最寄駅までの送迎
5. 洗濯物を干す・取り込む
6. ゴミ出し
7. 電球の取替え
8. 家具などの重い物の移動
9. 調理補助
10. 何も頼みたくない
11. その他 ()

問7 健康について

Q1 現在のあなたの健康状態はいかがですか。

1. とてもよい
2. まあよい
3. あまりよくない
4. よくない

Q2 あなたは、現在のどの程度幸せですか。

(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください。)

- | | | | | | | | | | | |
|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-------|
| とても不幸 | ← | | | | | | | | → | とても幸せ |
| 0点 | 1点 | 2点 | 3点 | 4点 | 5点 | 6点 | 7点 | 8点 | 9点 | 10点 |

Q3 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。

1. はい
2. いいえ

Q4 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめる感じがよくありましたか。

1. はい
2. いいえ

Q5 お酒は飲みますか。

1. ほぼ毎日飲む
2. 時々飲む
3. ほとんど飲まない
4. もともと飲まない

Q6 タバコは吸っていますか。

1. ほぼ毎日吸っている
2. 時々吸っている
3. 吸っていたがやめた
4. もともと吸っていない

Q7 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(いくつでも)

1. ない
2. 高血圧
3. 脳卒中 (脳出血・脳梗塞等)
4. 心臓病
5. 糖尿病
6. 高脂血症 (脂質異常)
7. 呼吸器の病気 (肺炎や気管支炎等)
8. 胃腸・肝臓・胆のうの病気
9. 腎臓・前立腺の病気
10. 筋骨格の病気 (骨粗しょう症、関節症等)
11. 外傷 (転倒・骨折等)
12. がん (悪性新生物)
13. 血液・免疫の病気
14. うつ病
15. 認知症(アルツハイマー病等)
16. パーキンソン病
17. 目の病気
18. 耳の病気
19. その他 ()

Q8 健康や病気のことで、気軽にご相談できる「かかりつけの医療提供者」をお持ちですか。(いくつでも)

1. 医師
2. 歯科医師
3. 薬剤師

問8 認知症について

Q1 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか。

1. はい
2. いいえ (→Q1-1へ)

Q1-1 【Q1で「2. いいえ」の方のみ】

①あなたやあなたの家族が認知症になったら不安なことは何ですか。(いくつでも)

1. 相談窓口がわからないこと
2. 周りの人に迷惑をかけること
3. 家族が介護をできるかどうかということ
4. 詐欺などの犯罪に巻き込まれること
5. 社会参加ができなくなること
6. 特に不安なことはない
7. その他 ()

Q2 認知症に関する相談窓口を知っていますか

1. はい
2. いいえ

Q3 認知症の予防についてどのように考えていますか。(いくつでも)

1. 認知症を予防するための生活習慣に取り組んでいる
2. 自宅でもできる簡単な予防方法があれば取り組みたい
3. 認知症を早期に発見できるようにナースト等があれば受け受けてみたい
4. 認知症の予防教室があれば参加したい
5. 予防に取り組む必要を感じない
6. その他 ()

Q4 認知症についてあなたの知っていることを次の中から選んでください。(いくつでも)

1. 早めに受診すれば治る (又は症状を軽くできる) 認知症もある。
2. 周囲の適切な対応によって認知症の症状を軽くできる。
3. 認知症になっても自宅で生活を続けることができる。
4. 運動 (身体活動) や食事などの生活習慣を改善することで認知症を予防できる。
5. 認知症になっても感情 (喜怒哀楽) は残る。
6. 認知症になっても社会参加することができる。
7. 高齢者 (65 歳以上) でなくとも認知症になる可能性はある。

Q5 認知症についての次の意見に対して、あなたの考えに近いものを選んでください。(いくつでも)

1. 認知症の人と関わるには、特別な知識が必要である。
2. 認知症の人が困っていたら、迷わず手を貸せる。
3. 認知症の人にどのようなように接したらよいか分からない。
4. 認知症の人も地域活動に参加した方がよい。
5. 家族が認知症になったら、世間体や周囲の目が気になる。
6. 認知症の人は、できる限り関わりたくない。

Q6 市では認知症に関する以下の事業を実施していますが、ご存知ですか。 ※①～⑧それぞれに回答してください。(○はひとつ)

	1. 知っている	2. 聞いたことがあるが、内容までは知らない	3. 知らない
① 認知症サポーター養成講座 認知症に関する正しい知識や対応方法について学ぶ無料の講座	1	2	3
② 認知症地域支援推進員	1	2	3
③ 認知症カフェ (いばらきオレンジカフェ)	1	2	3
④ 認知症オレンジダイヤル (茨木市認知症電話相談専用ダイヤル・メール)	1	2	3
⑤ 認知症介護家族教室 認知症の人の家族向けに講話や交流の時間をもつ場	1	2	3
⑥ 認知症初期集中支援チーム (チーム・オレンジいばらき)	1	2	3
⑦ いばらき認知症サポートブック	1	2	3
⑧ 茨木童子見守りシール	1	2	3

※いばらきオレンジカフェ：認知症の人の介護者や地域住民等、誰もが集う憩える場(認知症カフェ)
 ※チーム・オレンジいばらき：専門職が家庭訪問を行い、認知症の人(疑いのある人)とその家族の支援を行うチーム
 ※いばらき認知症サポートブック：認知症の状態に応じた適時・適切な医療・介護サービス利用の流れを示した冊子(認知症ケアパス)
 ※茨木童子見守りシール：行方不明になる心配のある高齢者の見守りや早期発見・事故防止を図るために衣類等に貼るシール



問9 人生の最終段階における医療・療養について

Q1 あなたは人生の最終段階における医療・療養についてこれまでに考えたことがありますか。

1. ある (→Q1-1へ)	2. ない
----------------	-------

Q1-1 【Q1で「1. ある」と回答した方のみ】

①今現在、ご家族や友人、医療介護関係者と話し合ったことがありますか。

1. 話し合っている	2. 話し合っていない
------------	-------------

Q2 自宅で療養生活を送るために必要な条件は何だと思いますか。(いくつでも)

1. 付き添い・介護してくれる家族等がいること
2. 家族への負担(身体的・心理的・経済的)が少ないこと
3. 自宅に往診してくれる医師、歯科医師、薬剤師や訪問看護師がいること
4. 自分が望む医療が受けられること
5. 病院から自宅へ退院する際の手続きや自宅での療養の準備が整っていること
6. 居住環境(部屋のつくり、広さなど)が整っていること
7. 自宅での療養のことを相談できる場所があること
8. その他()

問10 高齢者施策全般について

Q1 今後、茨木市はどのような施策に重点を置くべきだと思いますか。(いくつでも)

1. 地域で支え合う体制づくり
2. 社会参加の機会や生きがいの創出
3. 防災・防犯に関すること
4. 住まいに関すること
5. 医療に関すること
6. 介護に関すること
7. 生活支援や介護予防サービスの充実
8. 本人の自立を支援するための施策
9. 地域における通いの場など居場所の充実
10. その他

Q1-1 Q1で選択した項目について具体的なお意見・ご要望はありますか。

Q2 あなたは、「成年後見制度」を知っていますか。

1. 内容まで知っている (→Q3へ)
2. 詳しくは知らないが、おおまかなことは知っている (→Q2-1へ)
3. 名称を聞いたことがある程度 (→Q2-1へ)
4. 知らない (→Q2-1へ)

■成年後見制度とは

認知症などの理由で判断能力が不十分な方の権利を守るため、不動産や預貯金などの財産管理や介護サービスに関する契約などを、本人に代わって行う代理人を法的に定め、本人を保護する制度です。
この制度は、通常、本人が家族が申し立てを行いますが、状況に応じて、市が申し立てを支援することがあります。

Q2-1 【Q2で「1.内容まで知っている」以外を回答した方のみ】

あなたは成年後見制度に関心がありますか。

1. ある
2. あまりない
3. ない
4. わからない

Q3 虐待を受けたと思われる高齢者を発見した場合、どこに相談(通報)されますか。(いくつでも)

1. 地域包括支援センター
2. 市役所
3. 警察
4. ケアマネジャー・介護保険事業所職員
5. 社会福祉協議会・民生委員
6. 医師・歯科医師・看護師
7. 自治会・町内会・老人クラブ
8. その他()

Q4 高齢者虐待を防止するために、地域ではどのような取組みが必要だと思いますか。(いくつでも)

1. 高齢者やその家族が孤立しないよう、近所で声をかけ合う。
2. 虐待が疑われる場合は、すぐに相談(通報)する。
3. 虐待防止についての学習会等に参加する。
4. わからない。
5. その他()

Q5 自宅等で安心して療養生活がおくれるように、市では「はつらつパスポート(みんなで連携編)」を作成し、要介護(要支援)認定等を受けて介護サービス等を利用される人に配布していますが、ご存知ですか。

1. 知っている
2. 知らない

みんな連携編



○対象：要支援、要介護認定を受けている市民

○特徴：医療と介護に関する情報や手帳
本人や医療・介護スタッフ等が記入し、関係者の円滑な連携、連絡に活用

質問は以上であらうです。ご協力ありがとうございます。

2 在宅介護実態調査

在宅介護実態調査 調査票

A票 調査対象者様ご本人について、お伺いします

問1 現在、この調査票にご回答を頂いているのは、どなたですか(複数回答可)

1. 調査対象者本人
2. 主な介護者となっている家族・親族
3. 主な介護者以外の家族・親族
4. 調査対象者のケアマネジャー
5. その他

問2 世帯類型について、ご回答ください(1つを選択)

1. 単身世帯
2. 夫婦のみ世帯
3. その他

問3 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください(1つを選択)

1. 入所・入居は検討していない
2. 入所・入居を検討している
3. すでに入所・入居申し込みをしている

※「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院、特定施設(有料老人ホーム等)、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します。

問4 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか(同居していない子どもや親族等からの介護を含む)(1つを選択)

1. ない
2. 家族・親族の介護はあるが、週に1日より少ない
3. 週に1~2日ある
4. 週に3~4日ある
5. ほぼ毎日ある

調査は終了です
B票へ進んでください

- A票の間4で「2.」「5.」を選択された場合は、「主な介護者」の方にB票へのご回答・ご記入をお願いいたします。
- 「主な介護者」の方のご回答・ご記入が難しい場合は、ご本人様(調査対象者様)にご回答・ご記入をお願いします(ご本人様のご回答・ご記入が難しい場合は、無回答で結構です)。

茨木市の保健福祉に関するアンケート調査

(在宅介護実態調査)

- ご協力をお願い

皆様には、日頃から市政の推進に温かいご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

このアンケート調査は、介護に取り組む家族が介護による難職をなくしていくために介護サービスの在り方を検討することを目的として、要介護認定を受けている人の一部を対象に実施するものです。

ご記入いただいた内容につきましては、個人情報保護に十分な注意を払い、本調査の目的以外には使用いたしませんので、率直なご意見をお聞かせください。なお、このアンケート調査へのご協力は任意です。ご協力いただけない場合でも、何ら不利益になることはありません。

ご多用のところ、お手数をかけいたしますが、調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

令和元年 11月

茨木市長 福岡 洋一

＜ご回答にあたってのお願い＞

- ◎ 回答は、あてはまる番号に○印をつけてください。「1つを選択」「複数選択可」など回答方法を指定していますので、ご注意のうえ、ご回答ください。
- ◎ ご記入いただいた調査票は、12月13日(金)までに、同封の返信用封筒によりご返送ください。なお、封筒には差出人の氏名記入や切手の貼付は不要ですので、そのままご投函ください。
- ◎ 要介護認定データの活用にご同意していただいた場合は、「在宅介護実態調査」に係る要介護認定データの活用に係る同意書にご署名をお願いいたします。

[この調査についてのお問い合わせ先]

茨木市 健康福祉部 長寿介護課 電話：072-620-1639

B票

主な介護者の方について、お伺いします

問1 ご家族やご親族の中で、ご本人様(認定調査対象者様)の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか(現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません)(複数選択可)

1. 主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)
2. 主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた(転職除く)
3. 主な介護者が転職した
4. 主な介護者以外の家族・親族が転職した
5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいる
6. わからない

※ 自営業や農林水産業のお仕事を辞めた方を含みます。

問2 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください(1つを選択)

1. 20歳未満
2. 20代
3. 30代
4. 40代
5. 50代
6. 60代
7. 70代
8. 80歳以上
9. わからない

問3 主な介護者の方の続柄について、ご回答ください(1つを選択)

1. 夫
2. 妻
3. 娘
4. 息子
5. 子の配偶者
6. その他

問4 主な介護者の方の性別について、ご回答ください(1つを選択)

1. 男性
2. 女性

問5 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください(現状で行っているか否かは問いません)(3つまで選択可)

[身体介護]

1. 日中の排泄
2. 夜間の排泄
3. 食事の介助(食べる時)
4. 入浴・洗身
5. 身だしなみ(洗顔・歯磨き等)
6. 衣服の着脱
7. 屋内の移乗・移動
8. 外出の付き添い、送迎等
9. 服薬
10. 認知症状への対応

[生活援助]

11. 医療面での対応(経管栄養、ストーマ等)
13. その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)

[その他]

12. 食事の準備(調理等)
14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き
15. その他
16. 不安に感じていることは、特になし
17. 主な介護者に確認しないと、わからない

3

裏面に続く

問6 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください(1つを選択)

1. フルタイムで働いている
2. パートタイムで働いている
3. 働いていない
4. 主な介護者に確認しないと、わからない

調査は終了です

※「パートタイム」とは、「1週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方が該当します。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等の方を含みます。自営業・フリーランス等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」、「パートタイム」のいずれかを選択してください。

問7 問6で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか(複数選択可)

1. 特に行っていません
2. 介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている
3. 介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている
4. 介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている
5. 介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている
6. 主な介護者に確認しないと、わからない

問8 問6で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていくそうですか(1つを選択)

1. 問題なく、続けていける
2. 問題はあるが、何とか続けていける
3. 続けていくのは、やや難しい
4. 続けていくのは、かなり難しい
5. 主な介護者に確認しないと、わからない

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

3 介護保険事業者調査

問1 貴法人の概要

法人名	
代表所在地	
法人種別	1. 医療法人 2. 社会福祉法人 3. 社団法人 4. 農協・生協 5. 株式会社 6. 有限会社 7. NPO法人 8. その他 ()
記入者	氏名 (役職) 連絡先 (TEL) (FAX)

問2 現在提供しているサービス (該当するものすべてに○)

サービス名	現在提供しているサービス		3年以内に参入を考慮しているサービス	
	介護	予防	介護	予防
1 居宅介護支援				
2 訪問介護				
3 訪問入浴介護				
4 訪問看護				
5 訪問リハビリテーション				
6 居宅療養管理指導				
7 通所介護				
8 通所リハビリテーション				
9 短期入所生活介護				
10 短期入所療養介護				
11 特定施設入居者生活介護				
12 福祉用具貸与				
13 福祉用具販売				
14 介護老人福祉施設				
15 介護老人保健施設				
16 介護医療院				
17 小規模多機能型居宅介護				
18 看護小規模多機能型居宅介護				
19 認知症対応型共同生活介護				
20 認知症対応型通所介護				
21 夜間対応型訪問介護				
22 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護				
23 地域密着型特定施設入居者生活介護				
24 定期巡回・随時対応型訪問介護看護				

問3 サービス提供に対する自己評価について

- 全体的にサービスは利用者のニーズに応じて提供されていると思いますか (○は1つ)
- 1 十分提供できている
 - 2 どちらかといえば提供できている
 - 3 どちらかといえば提供できていない
 - 4 提供できていない

問4 貴法人で独自で介護保険サービス外の事業を実施していますか (○は1つ)

- 1 お泊まり型サービス
- 2 買い物等のための送迎、移送
- 3 配食
- 4 その他 (具体的に裏面に続く)

茨木市の保健福祉に関するアンケート調査 (介護保険事業者の皆様へ)

■ ご協力をお願い

皆様には、日頃から市政の推進に温かいご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本市では、すべての市民が、住み慣れた地域で共に支え合いながら、自立した生活を送ることができるよう、さまざまな取組みを進めています。

このアンケート調査は、保健福祉に関する施策の充実を目的として、茨木市内で介護保険事業を営む事業者を対象に、実施するものです。

ご記入いただいた内容につきましては、すべて統計的に処理し、個別の事業者の情報を外部に出すことはありませんので、率直なご意見をお聞かせください。

ご多用のところ、お手数をおかけいたしますが、調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力いただきますようお願いいたします。

令和元年10月

茨木市長 福岡 洋一

＜ご回答にあたってのお願い＞

- ◎ 回答は、あてはまる番号に○印をつけていただくものと、数値などをご記入いただくものがあります。「○は1つ」「○はいくつでも」など回答方法を指定していますので、ご注意のうえご回答ください。
- ◎ 質問には、茨木市内での事業状況について、令和元年10月1日現在でお答えください。(同一法人であっても、他市町村・他府県で運営するサービスは対象外です。)
- ◎ ご記入いただいた調査票は、11月15日(金)までに、同封の返信用封筒にてご返送ください。なお、封筒には差出人の氏名記入や切手は不要ですので、そのままご投函ください。

[この調査についてのお問い合わせ先]

茨木市 健康福祉部 長寿介護課 電話：072-620-1639
FAX：072-622-5950

問5 貴法人の運営やサービスの向上のために、どのような情報や支援が必要ですか。以下から最も必要と考えられる情報・支援を選択してください (○は3つまで)

- 1 介護保険制度・介護報酬等に関する情報
- 2 介護保険以外の保健・福祉サービスに関する情報
- 3 情報提供・相談等の窓口
- 4 介護技術・方法に関する情報
- 5 認知症ケアに関する情報
- 6 医療処置を必要とする場合のケアに関する情報
- 7 困難事例・多問題事例に関する情報
- 8 介護予防に関する情報
- 9 研修・講座等に関する情報
- 10 事業所連絡会等に関する運営サポート、バックアップ
- 11 ケアカンファレンス等の運営サポート、バックアップ
- 12 サービス展開のための土地・建物に関する情報
- 13 その他 (具体的に)
- 14 特に必要な情報はなし

問6 医療との連携について (1) 医療機関との連携について、法人として取り組んでいることがありますか (○はいくつでも)

- 1 医療機関から利用者の健康管理や処置について助言を受けている
- 2 往診をしてくれる医師・医療機関がある
- 3 急患時の受入を依頼できる病院を確保している
- 4 提携病院があり、一般的な入院を受け入れてもらっている
- 5 その他 (具体的に)
- 6 法人としての取組はなく、各事業所に任せている
- 7 自らもしくは法人として医療機関を経営しており、連携の問題はない

(2) 医療機関との連携について、困難に感じることがありますか。 (○は1つ)

- 1 ない
 - 2 ある
- ↓
- どのようなことですか
- ↓
- (3) 医療ニーズの高い利用者を受け入れていきますか (○は1つ)
- 1 受け入れていない
 - 2 受け入れている
- ↓
- 職員体制や研修等どのような配慮をしていますか

(4) 看取り※の体制を整備していますか (○は1つ)
 ※ここでいう看取りとは、看取り加算の算定にかかわらず、終末期のケアに係わることを指します。

- 1 整えていない
- 2 整えている

(5) 平成30年4月から平成31年3月末までの施設 (事業所) での看取りに係わった実人数 () 人

問7 職員の採用等の状況について (平成30年4月1日～平成31年3月31日、茨本市内での事業状況)

- (1) 平成30年度における介護職員の採用状況について
- 正規模職員 () 人
- 正規模職員以外 () 人 <うちうち常勤 () 人 うちうち非常勤 () 人 >
- (2) 平成30年度における介護職員の離職状況について
- 正規模職員 () 人
- 正規模職員以外 () 人 <うちうち常勤 () 人 うちうち非常勤 () 人 >
- (3) 調査時点 (令和元年10月1日時点) における外国人介護職員の採用状況について
- 1 受け入れている () 人
 - 2 検討している
 - 3 受け入れていない

問8 職員の処遇向上のために取り組んでいることはありますか (○はいくつでも)

- 1 職員の増員による負担の軽減
- 2 夜勤の見直し等労働条件の改善
- 3 昇給又は昇進要件の明確化
- 4 正規模職員への転換機会の確保
- 5 定期的なミーティング等コミュニケーションの充実
- 6 腰痛対策、メンタルヘルスケア等健康管理の充実
- 7 出産・子育て・介護を行う職員の支援強化
- 8 ICT・介護ロボットの活用
- 9 その他 (具体的に)
- 10 実施していない (実施予定なし)

問9 職員のキャリアアップを促すために取り組んでいることはありますか (○はいくつでも)

- 1 OJT (職場内教育・訓練) の実施
- 2 職場外研修への職員派遣
- 3 研修代替え職員の配置
- 4 自己啓業休業・休暇制度の導入
- 5 専門性を評価する人事制度や賃金体系の導入
- 6 その他 (具体的に)
- 7 実施していない (実施予定なし)

問10 その他、ご意見やご要望などお気づきのことがありましたらご記入ください

[]

ご協力ありがとうございます。

茨木市保健福祉に関するアンケート調査

〔高齢者・在宅介護者・介護保険事業者〕

報 告 書

令和2年（2020年）3月

発行 茨木市

茨木市健康福祉部長寿介護課

茨木市駅前三丁目8番13号

電話 072-620-1639 FAX 072-622-5950
